

第1章 生活文化の多様性と国際理解

▼アンデス高地の暮らしを描いた
板画（リトグラフ）



▲アルパカの放牧 ペルー。

多様な生活文化と地理的環境

世界には多様な生活や文化が見られる。文化とは、言語、宗教や価値観、衣食住といった生活習慣など、ある地域や人々の集団にあらわれる生活様式を意味する。人々はそれぞれが属する地域や社会のなかで暮らしながら、地域に固有の生活様式を身につけている。

人々の生活文化は、地理的環境との深いかかわりのなかで生まれる。地理的環境とは、地形、気候、生態系などの自然環境と、歴史的背景、生業、宗教、社会階層などの社会環境が複合したものである。地理的環境は世界の諸地域において多様であり、それを反映して生活文化には地域性が見られる。

世界の多様な生活文化を理解するためには、地域の歴史的背景を踏まえ、どこに（自然環境など）、どんな人々が（民族や宗教など）、何をして（生業や産業など）、どのように（衣食住など）、暮らしているのか、を学ぶことが必要となる。



▲ジャガイモの収穫
ペルー。



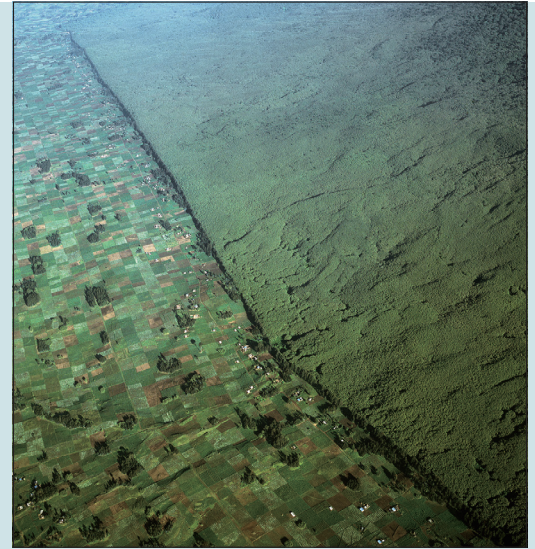
▶とうもろこしの収穫
ペルー。



▲市場のようす エクアドル。オタバロ。



▲乾燥地の暮らし 2006年。イラン。



▲森林の伐採と農地の開拓 ルワンダ。



◀古代エジプト時代の壁画

▶野生のスイカ ナミビア。ナミブ砂漠。



人々の暮らしと自然環境とのかかわり

自然環境は、生活の基盤として人々の活動を制約している。そのため人々は、さまざまな工夫をすることで自然環境に適応しながら暮らしてきた。たとえば、人々は海岸平野や低地など比較的平坦な場所に居住する傾向があり、そのなかでも水が容易に得られる場所に集落を形成したり、水はけなどの地形条件に応じた土地利用をしたりして暮らす。また、寒暖や乾湿などの気候に応じて住居の形態や衣服の素材をかえるなど、人々は厳しい自然環境のもとでも快適に過ごせる工夫をしてきた。

自然環境に適応するだけでなく、人々は、生活する場所の自然環境をかえたり、生態系からの産物をうまく利用したりするなど、自然環境への働きかけもおこなってきた。たとえば、森林伐採などにより土地を改変し、有用植物から品種改良した作物を食料として栽培したり、野生動物を家畜化して飼育したりして、農耕や牧畜といった生業を成立させた。つまり、人々は生活にかかわる技術や社会のしくみなどを発展させ、自然環境による制約を克服してきた。

このように、文化を通じて人々は、自分たちが暮らす場所の自然環境に適応し、また自然環境への働きかけを続けてきた。こうした人々の生活と自然環境との相互作用が、自然環境と対応した衣食住や生業など、地域ごとに特色のある生活文化を生み出している。

グループ 1



まずは自然環境と生活文化のかかわりについて学んでいこう。

テーマ① 地形と生活文化 → p.28 ~

- 1 山地における人々の生活
- 2 平野に展開する人々の生活
- 3 海岸地形と人々の生活

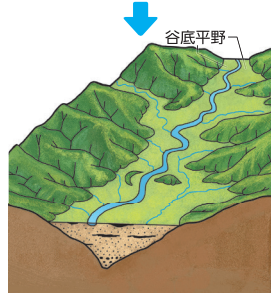
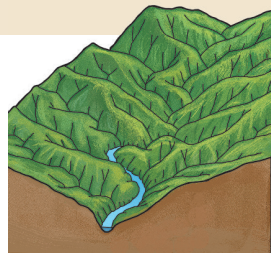


テーマ② 気候と生活文化 → p.34 ~

- 1 熱帯の気候と生活とのかかわり
- 2 乾燥帯の気候と生活とのかかわり
- 3 温帯の気候と生活とのかかわり
- 4 亜寒帯・寒帯の気候と生活とのかかわり

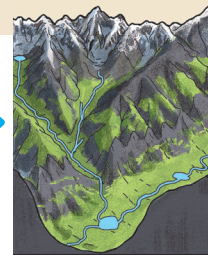


① V字谷 徳島県祖谷渓。



① 谷底平野の形成*1

谷には2種類の形があるんだね



② U字谷の形成*2



② U字谷 スイスのベルン州。ラウターブルンネン。

* 1: 古今書院「建設技術者のための地形図読図入門(第2巻 低地)」 * 2: 古今書院「新版地形学」

1 山地における人々の生活

山地ではどのような工夫をして人々は暮らしているのだろうか。



① 谷の形は大きくV字谷とU字谷に分類され、激しい侵食によって形成されたV字谷は谷壁の傾斜が非常に急であるといった特徴を持っており、氷河の侵食によって形成されたU字谷は谷底の平坦地が広いといった特徴をもっている。

② 盆地や谷底では、秋から冬にかけて冷たい空気が地表付近にたまる冷気湖と呼ばれる現象が発生することがある。冷気が谷底にたまることで、相対的に斜面中腹の方が暖かくなる。

① 限界集落

過疎化や少子高齢化、人口流出が進むなかで、集落単位での経済的・社会的な共同生活の維持が困難になり、存続が危ぶまれている集落のこと。

② 水源涵養能力

大雨が降った時にすぐに河川に流出しないようにしたり、雨が少ない時期にも少しずつ水を河川に供給したりする能力のこと。

山地で見られる地形

山地には地球内部の力(内的営力)によって形成される大地形と、雨や風による侵食などの力(外的営力)によって形成される小地形がある。内的営力は、地球内部のエネルギーによる地殻変動や火山活動をもたらす。ヒマラヤ山脈やアルプス山脈は地殻変動ともなう造山運動により、土地が隆起して形成された山地である。

地殻変動の盛んな地域は変動帯と呼ばれ、土地の隆起や沈降、火山の噴火が激しく発生する地域であり、活断層も多く地震が発生しやすい地域とも一致する。変動帯では、地殻変動や火山活動による美しい自然景観が見られ、観光地や温泉地として利用されている地域も多い。

河川や氷河の侵食によって山地には谷や谷底平野が形成され、山地では数少ない平坦地として貴重な居住地となっている。

山地で暮らす人々の工夫

平坦地が少ない山地では、地滑り地形などの緩斜面や谷底平野を利用し、居住地や農地を開拓することで暮らしを成り立たせている。また、温帯や冷帯地方では比較的温暖な中腹に、熱帯地方では気温の低い標高の高い地域に居住地や農地を作るなど、工夫を凝らした暮らしが見られる。

急斜面や地形の特徴を生かした暮らしの工夫も見られる。たとえば、傾斜の急なV字谷では平地の人口密集地域の人たちの水資源や電力、農業や工業用水を確保するためのダムが建設されることが多い。また、



3 山城(ケリビュス城)

フランス。中世ヨーロッパにおいて、カトリック教会から異端とされたカタリ派が最後に籠城した要塞。



5 高山都市(ラパス) ボリビア。富士山の山頂とほぼ同じ、標高約 3700m に建設された都市。

4 アルプス山脈での放牧のようす スイス。



なぜこんな高い場所に都市ができたんだろう？



急な傾斜や地形を自然の防壁として最大限活用した山城が世界各地で数多く作られてきた。

山地の高低差を生かした工夫も世界各地で見られる。たとえば、ヒマラヤ山脈やアルプス山脈では、夏季に草原となる標高の高い地域で放牧して冬季に山麓の畜舎で飼育するといった、地形と季節を利用した移牧がおこなわれている。赤道に近い南アメリカ大陸のペルーやボリビアでは、同緯度の低地と比べて涼しく過ごしやすい高地において都市が古くから発達してきた。

山地での生活の課題

山地での生活は、自然環境や社会環境の変化による影響を大きく受けやすい。

たとえば、高地を利用した放牧や移牧は、地球温暖化にともなう植生の変化によって、営農が可能な地域がかわったり消滅したりする可能性がある。高齢化や都市部への人口流出によって若年層や農業の担い手が減少している地域では、耕作放棄地の増加や限界集落化の懸念が生じており、地域特有の古くから培われてきた生活様式が消滅しつつある。

日本では林業を取り巻く状況がとりわけ厳しく、今後管理できない森林が増加すると、森林が本来もっている水源涵養能力が低下し、水資源の大幅な減少を招くことが懸念されている。



クローズアップ②

地形を生かした農耕

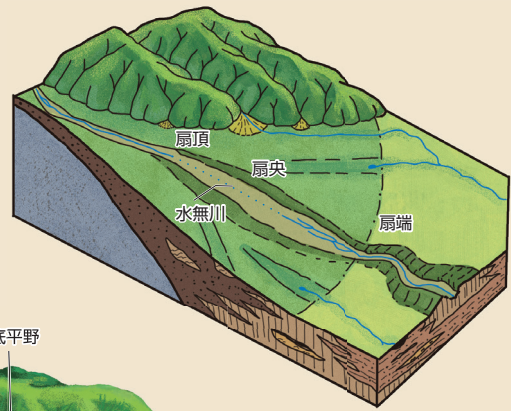
山地では平野が限られるため、斜面を有効に活用した農耕が世界各地で営まれている。たとえば、アンデス山脈では、古くから受け継がれてきた伝統的な農耕方法(→p.136)による自給自足の生活が営まれてきた。平地へのアクセス性が向上し、市場経済の影響が及んできた現代においても、旧来の農耕の形が色濃く残されている。

一方、日本では、傾斜がゆるやかな地形(地滑り地形など)を利用した棚田や段畑が作られ、主に自給自足用の作物栽培が営まれてきた。しかし、こうした農耕の形は、社会環境の変化によって大きく変化しつつある。とりわけ、道路整備によって平地へのアクセス性が急速に向上したことで、自給自足を目的としていた農耕が販売を意識した新しい農耕の形に変化した地域も多い。たとえば、長野県と山梨県にまたがる八ヶ岳山麓では、近隣の大消費地に向けた高原野菜の栽培が拡大した。また、山地の景観や農耕体験、新鮮な材料を用いた加工品の直売などを売りとした農村や牧場の観光地化なども、全国各地で見られるようになった。

Try アンデスと日本における農耕のあり方とその変化を比較し、その共通点や相違点を考え、まとめてみよう。



1 河岸段丘 長野県。駒ヶ根地区大電川支流より駒ヶ岳方面を撮影。



2 扇状地の断面*1 扇状地を構成する堆積物は大きな礫が堆積しており、礫と礫との間に空隙が多いため水が地下に浸透しやすい。河川水は扇頂で河床から地下に浸透してしまうため、扇中央付近では水無川となる。浸透した水は地下水となり、扇端で湧水帯を形成する。



1 河川が作る地形 国土地理院資料による。

* 1 : 古今書院『建設技術者のための地形図読図入門 (第 2 巻 低地)』



いろいろな地形があるけれど、それぞれどのように利用しているのかな？

2 平野に展開する人々の生活

平野ではどのように人々は暮らしているのだろうか。



河川が作る平野の地形

平野は、**侵食平野**と**堆積平野**に大きく分類される。堆積平野が広がる地域では、山地から

河川によって流されてきた土砂が、平野で堆積してさまざまな地形を形成する。河川が山地から流れ出る平野の最上流部では、大雨や土石流によって多量の砂礫が供給され**扇状地**が形成される。また、平野の中流から下流で河川が蛇行する地域は**氾濫原**と呼ばれる。氾濫原では、洪水によって河川の近くに土砂が堆積することで形成された**微高地(自然堤防)**のほか、洪水時にたまった水が、水はけの悪い低地にそのままとどまることで形成された**湿地(後背湿地)**が見られる。河口付近には、砂や泥が堆積して**デルタ(三角州)**が形成される。デルタは非常に低平な土地で水はけが悪いため、洪水や高潮の影響を受けることがある。

平野の地形を生かした人々の暮らし

平野には地域によってさまざまな地形が形成されており、その地形条件に対応した人々の暮らしが展開されている。

1 侵食平野と堆積平野

土地が侵食され、平坦化することで形成された平野は**侵食平野**と呼ばれる。一方、土砂や礫が堆積して形成された平野は**堆積平野**と呼ばれる。堆積平野のうち、河川の力によって形成された扇状地やデルタ(三角州)は**沖積平野**と呼ばれる。

1 氾濫原の利用 東南アジアや日本を含む東アジアでは、微高地である自然堤防に集落が形成され、後背湿地を水田に使う伝統的な土地利用が広く見られる。とりわけ、雨の多い東南アジアでは洪水が多く発生するため、自然堤防に住む人たちの住居は洪水対策として高床式の住居となっている。



2 微高地を活用した集落と後背湿地を利用した水田 ネパール。



なぜオランダでは、干拓によって農地が広げられたんだろうか？



3 農地や放牧地として活用されるポルダー オランダ。



4 広大なデルタを活用したエビの養殖場 中国。山東省。

2 デルタの利用 国土面積が小さく低湿地の多いオランダでは、限られた土地を有効活用するため、古くからデルタ地帯の干拓が進められてきた。そうした干拓によって形成された陸地はポルダーと呼ばれ、牧畜や穀物栽培など、集約的な農業が営まれている。

5 国土面積が大きい中国では長江や黄河の広大なデルタ地帯に多くの都市が成立しているほか、エビなどの養殖場や塩田など、デルタの地形条件をそのまま生かした産業も見られる。

平野での生活の課題

平野は、平坦地であるため開発がしやすい反面、人口や産業の集中にともなう過密化が交通渋滞やそれにともなう物流の停滞などの都市問題を引き起こしている。

10 また、平野部の都市は環境や防災面などの課題も抱えている。たとえば、都市化による緑地の減少と人工構築物の増加は、ヒートアイランドと呼ばれる都市域の気温の上昇を招いている。

第二次世界大戦後、区画整備による市街地化が進んだことで、地盤の低い後背湿地なども開発されるようになり、もともとの地形条件がわかりづらくなっている。下水道などの整備が急激な人口増加に追いつかず、大雨の際に下水道の許容量をこえた雨水が地盤の低い後背湿地だった地域に集まり、内水氾濫による浸水被害が発生している都市もある。このような状況は地方都市にも広がっている。

15

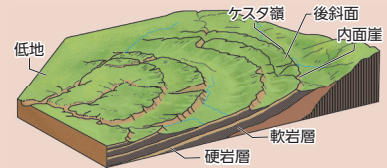


コラム②

ケスタと土地利用

ケスタは、侵食平野で作られる地形である。硬い地層はあまり侵食されず、軟らかい地層が侵食によって削られるため、硬い地層が丘陵地、軟らかい層が谷となる。

ケスタ地形の地層はもともと傾いているため、丘陵地では急斜面とゆるい斜面ができる。緩斜面では水を通しにくい地層が露出して水はけが良いため、日当たりの良いところではブドウの栽培などが盛んにおこなわれている。また、侵食された低地では小麦の栽培や放牧がおこなわれている。



▲ケスタの断面図*2 (上) と緩斜面に広がるブドウ畑 フランス。アルプス地方。

* 2 : 古今書院「新版地形学」

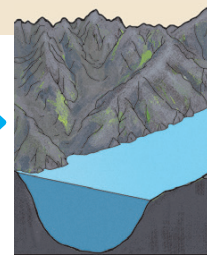
Try 扇状地における地形と対応した土地利用について調べてみよう。



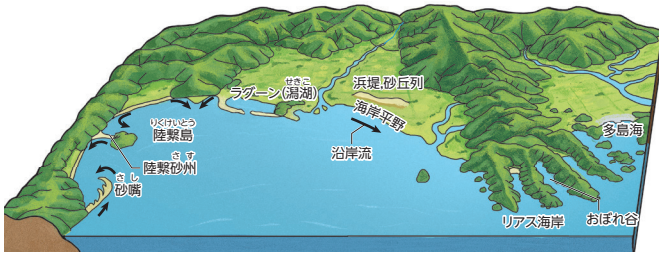
Check いろいろな海岸線を比べてみよう



1 リアス海岸
三重県志摩市賢島周辺。海上には養殖場が並ぶ。



2 U字谷とフィヨルドの形成*2 写真はノルウェーの西部に位置するソグネフィヨルド。



1 海岸で見られる地形*1



* 1 : 古今書院「建設技術者のための地形図読図入門(第2巻 低地)」 * 2 : 古今書院「新版地形学」

3 海岸地形と人々の生活

人々は海岸の地形をどのように利用しているのだろうか。



①土砂が堆積して形成された砂浜海岸と、岩が侵食されて形成された岩石海岸に区別される。

②海岸平野のなかには、縄文海進によって広く海底に没した後に海退によって陸化した平野もあるため、当時の海岸付近には多くの貝塚が残されている地域もある。

③波によって打ち上げられた砂礫が堤状に堆積して形成される。比高は10cm程度から数mのものまでである。過去に形成された浜堤は、内陸に残されていることが多く、数列の浜堤により形成された浜堤列が見られる地域もある。浜堤と浜堤の間は低地となっており、水はけが悪い。

④日本や韓国では、海に潜って貝類や海藻を採集する漁(海女漁)も古くからおこなわれている。

海岸で見られる地形

海と陸が接する陸地の部分を海岸と呼び、主に海的作用によって形成されるさまざまな地形は**海岸地形**と呼ばれている。

海岸平野は、陸地に沿った浅い海岸が海面の低下や地盤の隆起によって海面上にあらわれた低平な土地で、河川によって形成された平野に接して広がっている。海岸平野に見られる**浜堤**や砂丘は、海底の堆積物や河川から供給される土砂が波や沿岸流によって岸へ打ち上げられることで形成される。

高緯度地域では、U字谷が沈み海水が入り込んだ**フィヨルド**が形成されている。ヨーロッパの中南部や東シナ海、日本の沿岸域などにはV字谷の沈水によって形成された**リアス海岸**が見られる。

海岸の地形を生かした人々の暮らし

海岸平野では、古くから貿易などの物流や漁業の拠点として発展した都市が多く立地している。とりわけ、シンガポールやトルコのイスタンブールをはじめとする**海峡都市**は、その地形的な利点を生かして発展することが多く、古くから海上交通の要衝として世界の軍事や通商戦略における重要な役割を担ってきた。

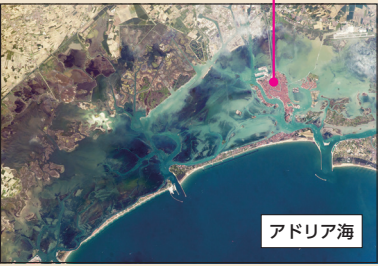
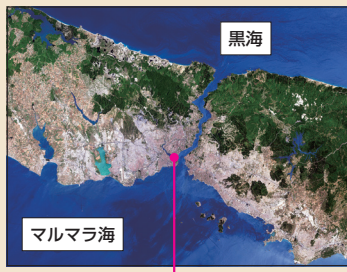
リアス海岸が発達する地域では、海岸線が複雑で入り組んでいるため、その地形特性を生かして**養殖**が盛んにおこなわれている。



なぜこれらの場所に都市ができたんだろう？



3 海峡都市イスタンブルとボスポラス海峡トルコ。この海峡はヨーロッパ（西）とアジア（東）の境界であったため、古くから国防の要衝として歴史の舞台となった。イスタンブルを防衛するため、ビザンツ帝国やオスマン帝国は、海峡の海岸沿いに要塞を構えた。また、18～19世紀にはロシア帝国の南下政策（→ p.106）に対抗しヨーロッパ諸国が海峡を管理しようとした。1936年以降はトルコによって管理されている。



アドリア海

2 潟湖上の都市ヴェネツィア イタリア。5世紀ごろ、外部の侵攻から逃れるため、本来は地形条件としては生活に向いていない低湿地に街が形成されはじめた。その後、7世紀後半に成立したヴェネツィア共和国は、10世紀後半からイスラム諸国との海上交易を拡大させたほか、11世紀にはアドリア海における海上防衛を担うなど、15世紀後半まで海洋国家としての繁栄をきわめることとなった。



また、フィヨルドやリアス海岸は水深が深く波も穏やかであるため、天然の漁港として利用されているところも多い。

日本における海岸平野は河川が作る平野と同様に、開発のしやすい貴重な平地となっている。平野近くに形成される浜堤では集落や畑が分布し、浜堤間の低地では水田などが分布するのが昔の典型的な土地利用であった。現在では、とくに大都市近郊で、水田などは住宅地や商業地に変化している。海岸平野に続く海域は遠浅なことが多く、江戸時代から干潟を干拓して農地として利用されてきたほか、遠浅の海を埋め立てることで工業用地として利用されている。

5 リアス海岸が発達する地域では、複雑に入り組んだ海岸線を生かし、軍事拠点として利用されるケースもあった。

グループ1

10 海岸で起きている問題

河口からの土砂供給が多い地域では海岸平野が発達してきた。しかし、山地におけるダムの建設などの開発により海岸へ流れ着く土砂量が減少して、砂浜が縮小している地域が見られる。こうした砂浜の縮小への対策として消波ブロックや離岸堤、人工リーフなどが建設されている。

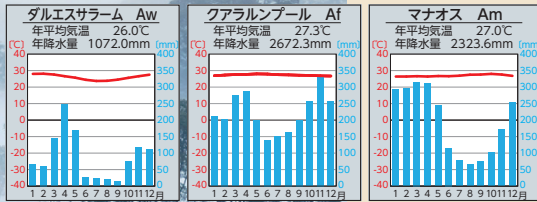
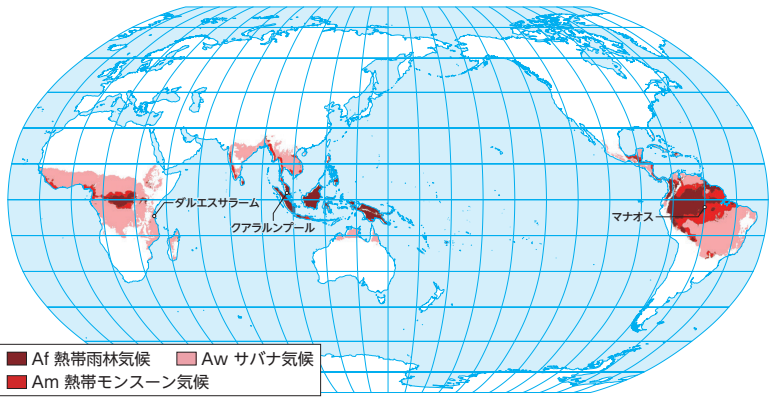
また、物流取扱量の増加などにもない、地形条件を無視した港の大規模化や倉庫などの建設のため、埋め立て地が増え、自然の海岸が減少したことで生態系に大きな影響を及ぼしている。

さらに、海岸平野は高波や津波の被害を受けやすいため、今後、市街地のかさ上げや、居住地の高台移転を考えていく必要がある。



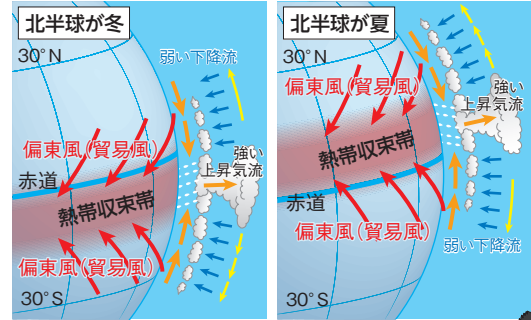
4 巨大な砂袋を利用した侵食防止工事 2013年。宮崎県。ウミガメが産卵する砂浜の侵食が深刻な大炊田海岸では、コンクリートの防波堤や消波ブロックによる護岸ではなく、環境や景観に配慮した護岸工事がおこなわれた。

Try 海岸で起きている課題とその解決策について話しあって考えてみよう。



Q なぜ、熱帯では雨がたくさん降るのでしょうか?

A 赤道付近の熱帯では、年間を通して太陽からのエネルギーをたくさん受け、活発な上昇気流が生じることから、雨が多く降ります。こうした場所は熱帯収束帯(赤道低圧帯)と呼ばれ、季節によって位置が変わります。大気を高さ方向で見ると、熱帯収束帯(赤道低圧帯)での上昇気流を含めて、赤道から南北緯30度あたりまで大規模な大気の循環が見られます。



2 熱帯収束帯の移動*

* 東京大学出版会『気象の教室 6 気象の教え方学び方』

1 熱帯の気候と生活とのかかわり

人々は熱帯の自然環境をどのように利用しているのだろうか。



熱帯の気候と豊かな自然環境

赤道に近い地域には、高さが50m以上にもなる木々が生い茂り、多種多様な動物が生息する熱帯雨林が見られる。熱帯雨林は、高温多湿な気候により支えられており、人々はこの生物多様性が高く、豊かな自然環境からさまざまな恩恵を得てきた。

赤道周辺の地域は熱帯と呼ばれる。太陽から降り注ぐエネルギー量が地球上でも多いため、熱帯では一年を通して気温が高く、年較差は小さい。また、活発な上昇気流により雨雲が絶えず発生し、熱帯収束帯(赤道低圧帯)が形成される。赤道に近い地域は、年間を通して熱帯収束帯の影響を受け、一年中雨が多い熱帯雨林気候(Af)が広がる。熱帯収束帯の位置は季節ごとに南北方向へ移動するため、緯度が少し高くなると降水量に季節変化が見られるようになり、気候は弱い乾季がある熱帯モンスーン気候(Am)や雨季と乾季の区別が明瞭なサバナ気候(Aw)となる。サバナ気候には、乾季に落葉する樹木からなる熱帯乾燥林や樹木がまばらに散在した草原(サバナ)が分布し、大型の野生動物が多く生息している。

高温多湿な場所での人々の暮らし

熱帯雨林気候の高温多湿な場所でも快適に過ごせるように、人々はさまざまな工夫をして生活している。伝統的な住居は木材やヤシの葉などで作られ、高温多湿を避けるため、高床にしたり、壁をなくしたりして、風通しを良く

1 霧に包まれる熱帯雨林 マレーシア。



2 葉で作られた住居
コンゴ共和国。



3 キャッサバの調理風景
インドネシア。スラウェシ島。



4 焼き畑のようす
ブラジル。

5 アブラヤシのプランテーションにおける収穫
マレーシア。



している。また、人々は吸湿性や放熱性に優れた綿や麻を素材とした衣服を着用し、半袖シャツや腰巻布などの服装で暮らしている。

熱帯では、豊富な生物資源を利用する狩猟や採集のほか、キャッサバなどの根菜や雑穀を栽培する焼畑農業がおこなわれてきた。伝統的な焼畑農業では、畑を数年ごとに別の場所に移動させる。作付け期間よりも長い休閑期間を設けて、森林を再生し、雑草の繁茂を抑えたり、地力を回復させたりして、持続的に自給作物を生産してきた。プランテーション農業も盛んで、熱帯雨林気候ではアブラヤシ、天然ゴム、カカオなど、サバナ気候ではコーヒーや綿花など、それぞれの気候に適した輸出用の商品作物が栽培されている。東南アジアや南アジアでは、季節風（モンスーン）の影響により雨季の降水量が多く、豊富な水資源を利用した稲作が盛んである。

20世紀なかば以降、輸出用木材を生産するため熱帯雨林の伐採が進んだ。経済成長をめざし、熱帯雨林を切り開いてプランテーションや牧場などを拡大させている地域も多く、熱帯雨林の減少は国際的な取り組みが必要な地球環境問題となっている。熱帯雨林の減少は、豊富な森林資源を利用して暮らしてきた人々の生活基盤も奪っており、住民を定住化させる政策なども加わって、これまで独自に培われてきた伝統的な生活や文化が失われつつある。

①自給作物

自給作物は主に生産者が自ら消費するために栽培される作物で、比較的小さな規模で生産されている。

②プランテーション

大面積の農地に資本を投入し、単一作物を大量に栽培するモノカルチャーによる大規模農園、もしくはその農業経営のこと。かつては、先進国の企業が熱帯・亜熱帯地域の発展途上国でプランテーションを営むことが多いため、先住民の土地を収用し、労働力を搾取していたとの批判を受けていた。現在でも、問題は多く残されているが、東南アジア各国では、自国に利益を還元できるように、先進国企業によるプランテーションを現地企業と合併して事業をおこなうための法整備を進めている。

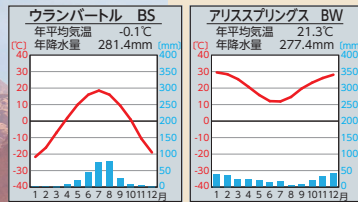
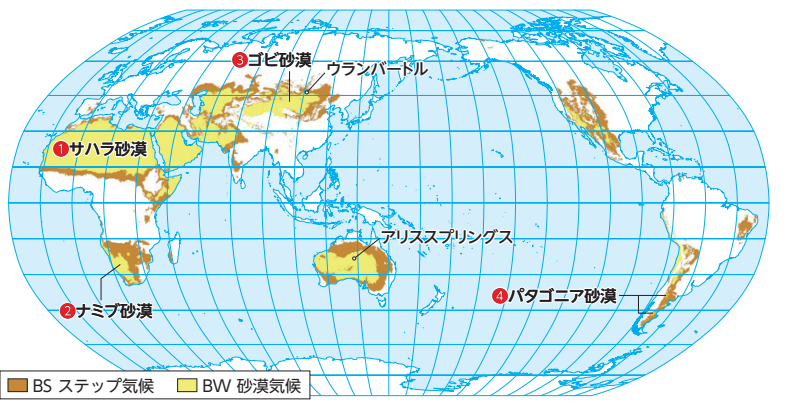
③商品作物

商品作物は、市場で販売し、現金などの対価を得るために栽培される作物で、大きな規模で生産されているものも多い。換金作物と呼ばれることもある。

④季節風（モンスーン）

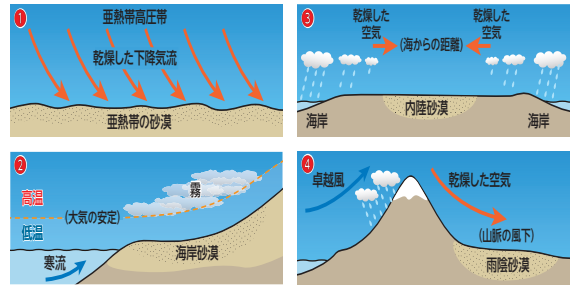
大陸と海洋との間の広い範囲で見られ、季節により風向きが大きくかわる風のこと。夏は海洋から大陸へ、冬は大陸から海洋へ向かって吹く傾向がある。南アジアや東南アジアでは、夏にインド洋から夏季アジアモンスーンが吹き込み、多量の雨がもたらされる。

Try 熱帯雨林が減少すると、熱帯における人々の生活がどのようにかわるのか考えてみよう。



Q なぜ砂漠はできるのでしょうか？

A 砂漠は、雨雲が発生しにくい場所に形成され、下の図のように、雨が少なくなる要因によって4つに分けることができます。たとえば、サハラ砂漠のように亜熱帯高圧帯が支配する場所では、年間を通して乾燥した下降気流があり、雨はほとんど降りません。また、ナミブ砂漠など沿岸が流れている場所では、大気が安定して上昇気流が起きないため雨が少なく、砂漠になる場所が見られます。



2 砂漠の成因

2 乾燥帯の気候と生活とのかかわり

水資源が限られる地域でどのような工夫をして人々は暮らしているのだろうか。

乾燥帯の気候と限られた水資源

世界の陸地面積のおよそ4分の1は、雨が少なく、植物が生育しにくい乾燥した地域で占められている。こうした地域で人々は、厳しい自然環境のなか、限られた水を家畜や作物と分かちあい、有効に利用しながら暮らす。

雨が少なく、年間の降水量よりも蒸発量が多い地域は**乾燥帯**と呼ばれる。乾燥帯は、雲が発生しにくい緯度20～30°付近の亜熱帯高圧帯や、海からの水蒸気が届きにくい大陸の内陸部などに分布する。降水量がきわめて少ない**砂漠気候 (BW)**には、砂や岩石による**砂漠**が広がる。砂漠には植物はほとんど生育しておらず、河川は流水のながれ川(ワジ)となる。砂漠気候の周辺には湿潤な地域との移行帯にあたる**ステップ気候 (BS)**が分布する。ステップ気候における年降水量は250～500mm程度で、短い雨季に少量の雨が降るため、草の短い草原(ステップ)が広がる。

水が少ない場所での人々の暮らし

乾燥帯では人が利用できる水資源は少ない。そのため、砂漠ではオアシス周辺や**外来河川**沿いなどの水が得られる限られた場所に人々は暮らしている。ステップでは、人々は井戸を掘って地下水を利用するほか、雨季に雨どいから集めた水をためて、乾季に利用する地域もある。人口が多いアラビア半島の都市などでは、地下深くの**帯水層**からくみ上げたり、海水を淡水化したりして、大きな水の需要をまかなっている。

1 涸れ川 (ワジ) ヨルダン。



2 オアシス都市 イエメン。峡谷を流れる川沿いに集落が形成されている。また、限られた水源を活用して乾燥に強いナツメヤシが栽培されている（写真下部）。

3 干ばつの影響で、^{さんばし} 棧橋一帯が干上がった湖。2008年。オーストラリア。アレクサンドリナ湖。



4 点滴灌漑での野菜栽培 イラク。バグダード北部。

低緯度の乾燥帯では、日中の暑さや強い日差しを避けることも人々の生活にとって重要である。そのため、伝統的な住居は断熱効果のある日干しれんがで作られ、高温の外気や砂ぼこりなどを防ぐために窓は小さい。また、人々は通気性に優れたゆったりとした衣服で過ごし、
5 丈を長くして肌の露出を抑えている。

砂漠のオアシスでは、貴重な水資源を分配して、ナツメヤシなどを栽培する^{かんがい} 灌漑農業^①やラクダなど家畜の飼育がおこなわれている。また、ステップ気候の地域では、雨季の降水を利用した穀物栽培のほか、水や牧草を求めて移動しながらヤギや牛を飼育する遊牧が見られる。ステップ気候のなかでも降水量がやや多くなる地域では、腐食に富む肥沃な黒色土を生かした農業が盛んで、灌漑施設が整備され世界的な穀倉地帯になっている場所もある。
10

ステップ気候の地域ではしばしば干ばつがおり、人々の生活に大きな被害が生じてきた。こうした気候変動に加え、近年では、人口増加にともなう過度な耕作や過放牧などにより土地の劣化が進み、砂漠化が深刻になりつつある。また、灌漑農業の拡大により、人々の生活が豊かになる一方で、土壌の塩性化や過剰な取水による水資源の枯渇などの問題も生じている。限りある水資源を有効に活用するため、多量の水を消費するセンターピボットにかわり、点滴灌漑などの節水灌漑の利用が各地で進んでいる。
15
20

① 灌漑農業

河川、湖沼、地下水などから農地へ人工的に水を引き、農業をおこなうこと。自然の雨水のみでおこなう農業よりも安定して作物の栽培ができ、生産量は増加する。砂漠気候の地域で農業をおこなうためには、灌漑が必要不可欠となる。



クローズアップ③

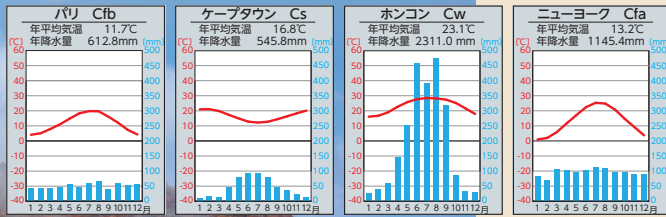
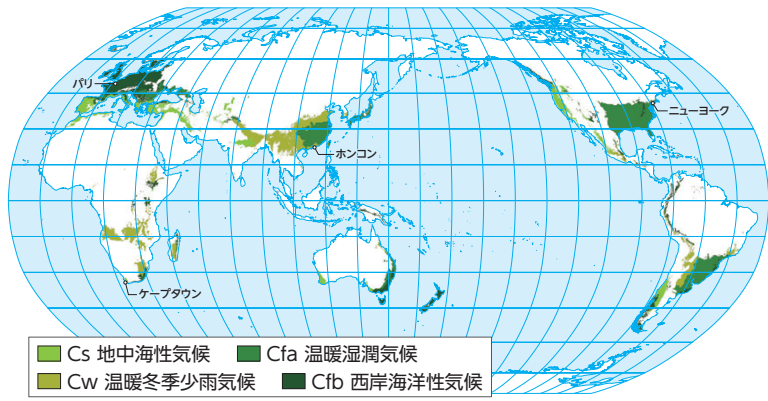
水資源の管理と利用

水は人々の暮らしや生業と深くかかわることから、水資源の適正な管理と公平な水利用は重要な生活文化の一部となっている。乾燥帯のオアシスでは、水源となる井戸や地下水路が宗教指導者や住民共同体により管理され、水は公平に分配されてきた。水資源が豊かな日本でも、水をめぐるとの対立を避けるため人々は、分水路の幅や堰の開放時間などにより分配する水の量を調節し、昔から適切に水資源を管理してきた。設備などの近代化により、水利用にかかわる人々の生活には地域ごとに異なる課題が生じている。乾燥帯では、大量使用により水源が枯渇したり、水利設備の有無により人々の貧富の格差が拡大したりする地域が見られた。日本では、近年の農村における過疎化や高齢化により、用水路などの施設を保全・管理する担い手の不足が課題となっている。

Try

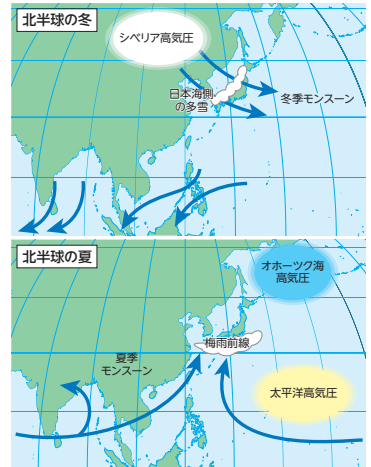
乾燥地と日本における水資源の管理のあり方や水利用にかかわる課題を比較し、その共通点や相違点を考え、まとめてみよう。

1 温帯の気候区分 (→巻頭6)



Q なぜ日本では季節変化が明瞭なのでしょう？

A 日本は、ユーラシア大陸と太平洋との間にあって、季節風(モンスーン)の影響を強く受けるためです。冬にはユーラシア大陸のシベリア高気圧から吹き出す北西の季節風の影響を受け、日本海側で多量の降雪が見られます。夏にはインド洋から流入する夏季アジアモンスーンや太平洋高気圧の影響を受けて南風が吹き、梅雨前線などによって多量の降水がもたらされます。



2 アジアモンスーンの季節変化*

*ベレ出版「学んでみると気候学はおもしろい」

3 温帯の気候と生活とのかかわり

なぜ同じ温帯でも人々の生活文化には地域によって違いがあるのだろうか。



温帯の気候と多様な季節変化

温暖で適度に降水のある温帯の地域には多くの人々が住み、人間活動が盛んである。

温帯では四季の変化が明瞭で、森林が広がるのが共通するが、気候は地域ごとの変化に富んでおり、人々の暮らしも多様である。大陸の東岸を中心とした地域には、一年を通じて湿潤で、気温や降水量の季節変化が大きい温暖湿潤気候(Cfa)が広がる。夏は海からの季節風(モンスーン)や熱帯低気圧などの影響を受けて高温多雨となる一方で、冬は大陸に発達した寒冷で乾燥した空気の影響を受けて寒さが厳しい。温暖湿潤気候のなかで、比較的温暖な地域に常緑広葉樹林が、冬の寒さが厳しくなる地域に落葉(夏緑)広葉樹林が分布する。大陸東岸の一部や赤道に近く標高の高い場所には、冬に雨があまり降らない温暖冬季少雨気候(Cw)の地域が見られる。

ヨーロッパのような大陸の西岸には、緯度30~40度に地中海性気候(Cs)が、その高緯度側に西岸海洋性気候(Cfb)が分布する。地中海性気候は低緯度側の乾燥帯と隣接しており、夏には北上した亜熱帯高気圧帯に覆われるため、雨の少ない乾季となる。そのため、乾燥に耐性のある硬葉樹による低木林が分布する。西岸海洋性気候は、沿岸の暖流と偏西風の影響を受けて、高緯度のわりに温暖な気候となる。気温の年較差が小さく、一年中降水があるのが特徴で、ブナやナラなどの落葉広葉樹やモミなどの針葉樹が分布する。

1 紅葉 青森県。八甲田・地獄沼付近。



2 夕立景 歌川国貞 (1786 ~ 1865 年)。夕立とは夏の午後以降に降る雨のこと。この浮世絵からは江戸時代の住居のあり方や暮らしぶり、人々の夏の服装などを読み取ることができる。

温帯での多様な人々の暮らし

温暖で過ごしやすい温帯のなかでも、人々の生活には地域ごとの気候に応じて違いが見られる。

夏に高温多湿になる温暖湿潤気候の地域では、日本の浴衣などのように、薄手で風通しの良い衣服が親しまれている。一方、地中海性気候の地域では夏の日差しが強いため、外出時に帽子やサングラスを着用する人が多い。日本の伝統的住居は湿気に強い木造であり、ふすまなどを取り外すと風通しの良い間取りとなる。地中海沿岸では、乾燥した夏の暑さを避けるため、窓が小さく、石づくりの住居が多い。

温帯では温暖な気候を利用した農業が盛んである。温暖湿潤気候の東アジアでは夏に多雨となることを生かした**集約的な稲作**が広くおこなわれており、米を主食とする共通の食文化が見られる。また、アメリカ合衆国東部やアルゼンチンなどでは小麦やトウモロコシが大規模に栽培される。地中海性気候の地域では、乾燥に強いオリーブやトマトなどの作物、ブドウやオレンジなどの果樹などを栽培する**地中海式農業**がおこなわれ、オリーブオイルやトマトソースなどは食材としてピザやパスタなど、この地域を代表する料理に使われている。西岸海洋性気候のヨーロッパでは、小麦や大麦などの栽培と肉牛や豚などの飼育を組み合わせた**混合農業**や、乳牛を飼育する**酪農**が盛んで、人々はパンと一緒に肉料理やチーズなどの乳製品を食べている。

Try 温帯のなかで、気候と人々の生活文化の特徴を日本と比較し、共通する点と異なる点について話しあってまとめてみよう。

3 シエスタのようす スペイン。地中海沿岸に暮らす人々は、暑い昼間に長時間の休憩をとったり、夏に長期休暇を取りリゾートで過ごしたりしている。



① 偏西風

北緯あるいは南緯 30 ~ 60 度付近で吹く西寄りの卓越風のこと。ヨーロッパなどの大陸の西岸では海洋上で暖められて湿った偏西風が吹き込んで、比較的温暖で一年中降水のある海洋性の気候となる。

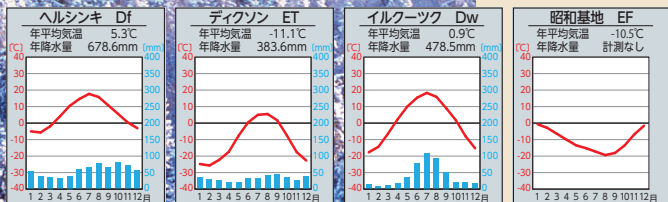
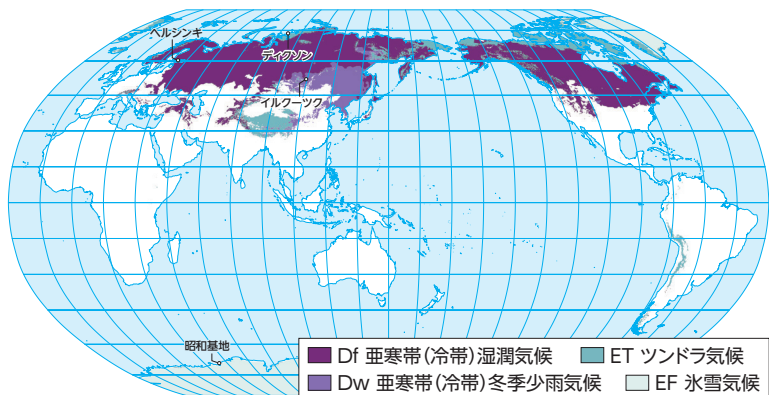
② 集約的な稲作

効率的な灌漑施設などを整備したり、手間をかけて世話をしたことなどで土地の生産性を高めた稲作のこと。日本を含む東アジアでは米の単位面積あたりの収穫量が多く、この地域の食料生産に重要な役割を果たしている。



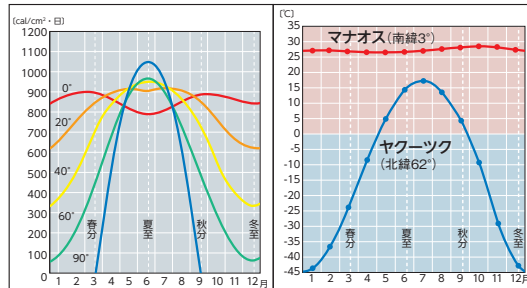
4 オリーブの収穫 パレスチナ。ヨルダン川西岸とガザ地区の農地のおよそ半分を占めるプランテーションで栽培されるオリーブは、多くのパレスチナ人の貴重な収入源となっている。収穫されたオリーブの約 9 割はオイルとなり、残りは石鹸の生産に使用される。

1 亜寒帯・寒帯の気候区分 (→巻頭⑥)



Q なぜ亜寒帯は気温の年較差が大きいのでしょうか？

A 緯度が高いほど、日照時間の季節変化が大きく、太陽からのエネルギー量が夏と冬とで大きく異なるためです。下の図を見てみると、赤道では大気上端での日射量は一年を通してほぼ同じであり、気温の年較差は小さいです。亜寒帯に位置するヤクーツクの北緯60°になると日射量の季節変化は大きく、それと対応して月平均気温の年較差が大きくなっているのがわかります。



2 各緯度での大気上端での日射量(左)と月平均気温の比較(右)*

*古今書院「やさしい気候学」

4 亜寒帯・寒帯の気候と生活とのかかわり

寒冷な地域でどのような工夫をして人々は暮らしているのだろうか。



亜寒帯・寒帯の気候と寒冷な環境

緯度が高いほど、太陽から受けるエネルギー量は少なくなり、気温が低下して、冬の寒さが厳しい。そのため高緯度の地域に暮らす人々は、住居や衣服などを工夫して厳しい寒さを克服し、気温の上がる短い夏をうまく活用して暮らしている。

北半球の高緯度地域には亜寒帯(冷帯)の地域が広がり、一年中降水がある**亜寒帯(冷帯)湿潤気候(Df)**と冬に乾燥する**亜寒帯(冷帯)冬季少雨気候(Dw)**とに区分される。亜寒帯では気温の年較差が大きく、冬は寒さが厳しいが、夏は過ごしやすい温暖な気候となる。気温が低く蒸発量が少ないため、比較的湿潤である。亜寒帯の南部には**針葉樹と落葉広葉樹との混交林**が見られ、北部には**モミやカラマツ**などによる**針葉樹林**が広がる。シベリアに分布する広大な針葉樹林は**タイガ**と呼ばれ、地下には一年中凍結したままの**永久凍土**が見られる。

亜寒帯よりも高緯度の地域は寒帯であり、一年の大半で気温が氷点下となり、樹木は育たない。北極海沿岸の地域は**ツンドラ気候(ET)**で、短い夏に気温が0℃以上となって、雪と氷がなくなり凍っていた地表表面がとけて、草やコケ類などが生育する。南極大陸とグリーンランドの内陸は**氷雪気候(EF)**であり、氷河や大陸氷床が見られるなど、一年中雪や氷に覆われている。

1 冬のタイガ ロシア。シベリア。



2 凍った魚を売る冬の屋外の魚市場 2013年。ロシア。ヤクーツク。



3 トナカイの遊牧をおこなうサーミ人 スウェーデン。



4 イッカク漁を終えたイヌイットの漁師 2006年。グリーンランド。カーナーク。

寒い場所での人々の暮らし

亜寒帯では冬が長く寒さが厳しいため、人々は寒さにうまく対応しながら暮らしている。

住居は寒冷な外気を遮断するため、丸太などの断熱性の高い素材を用いたり、二重窓などの工夫をしたりしている。温水を循環させて部屋を暖めるセントラルヒーティングなどの暖房設備も一般的で、冬でも家のなかでは暖かく快適に過ごせる。冬に外出する際は、毛皮や羽毛などから作った防寒性や保温性の高い厚手のコートを着用し、帽子やフードで頭全体を覆って外気から身を守る。

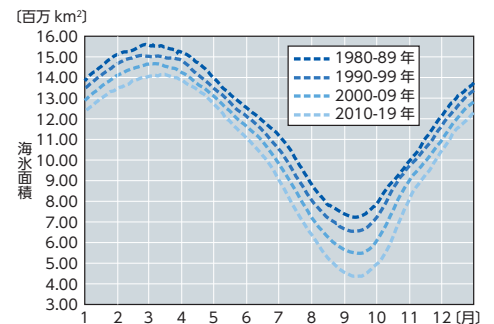
夏に気温が上がる亜寒帯（冷帯）湿潤気候の南部では農業が盛んで、春小麦をはじめ、寒冷地でも栽培できるライ麦やジャガイモなどが作られている。大消費地に近い北アメリカの五大湖周辺は酪農地帯となっている。亜寒帯（冷帯）の北部では、トナカイ（カリブー）の遊牧のほか、豊かな森林資源を生かした林業が盛んである。寒帯では農業ができず、この地域に暮らすイヌイットやイヌピアットの人々は、漁業やアザラシなどの狩猟をして生活している。

地球温暖化による影響は極域ほど大きいと予測されている。すでに、近年の暖かい気候により、夏に地下の深くまで永久凍土が融解し、地面に凹凸ができて、建物や道路などに被害が生じている。北極海の海水面積も縮小しており、氷の上を移動しながら狩猟や漁業を営む先住民の伝統的な生活や文化が失われつつある。

Try 自然環境の変化によって人々の生活文化が変化する理由について話しあって考えてみよう。



5 凍土融解による地盤沈下でゆがんだ家屋 2005年。ロシア。ヤクーツク。



3 北極海における海水面積の変化 北極圏データアーカイブシステム資料による。



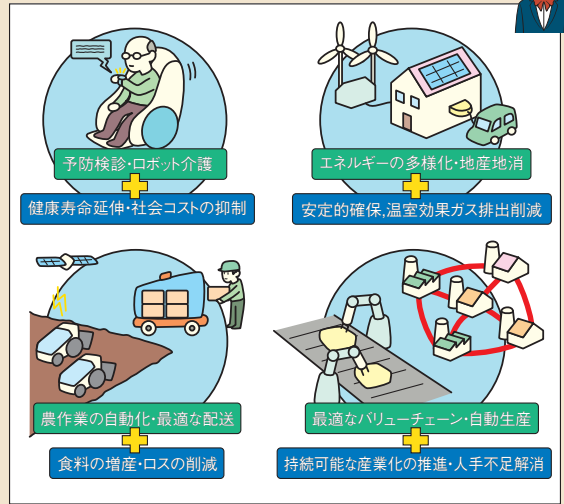
3 家庭用のパーソナルコンピュータ
1980年。

1 立ち並ぶ工場と煙突 産業革命時のイギリス。人々の生活に豊かさをもたらされる一方で、煙塵による多くの健康被害が生み出された。

2 大量生産される乗用車

1914年。アメリカ合衆国。乗用車が一般家庭に広く普及したことで、人々の生活スタイルも大きく変化することとなった。

産業革命以降、産業はいろいろかわってきたんだね



1 超スマート社会のイメージ 内閣府資料による。

introduction

生活を支える産業の発展

人々の生活文化を支える産業はどのように発展してきたのだろうか。



4 無人航空機（ドローン）を活用して医療用輸血袋の空輸をおこなうアメリカ合衆国の企業 2016年。ルワンダ。注文から配達までの平均時間は約30分であり、緊急時の配送などに利用されている。道路交通網が十分に整備されていない途上国では、今後こうしたドローンによる配送サービスが急速に普及する可能性がある。

産業の発展

産業の発展は人々の暮らしをどのようにかえてきたのであろうか。18世紀後半のイギリス都市部でおこった最初の産業革命は、蒸気機関を動力とした「機械化」によって作業能率を大きく改善させた。19世紀後半には、ドイツとアメリカで電力を用いた工場での「大量生産」が開始された。20世紀後半になると、コンピュータが登場し、さらにインターネットに代表される情報通信技術（ICT）を用いた生産の「自動化」が開始された。

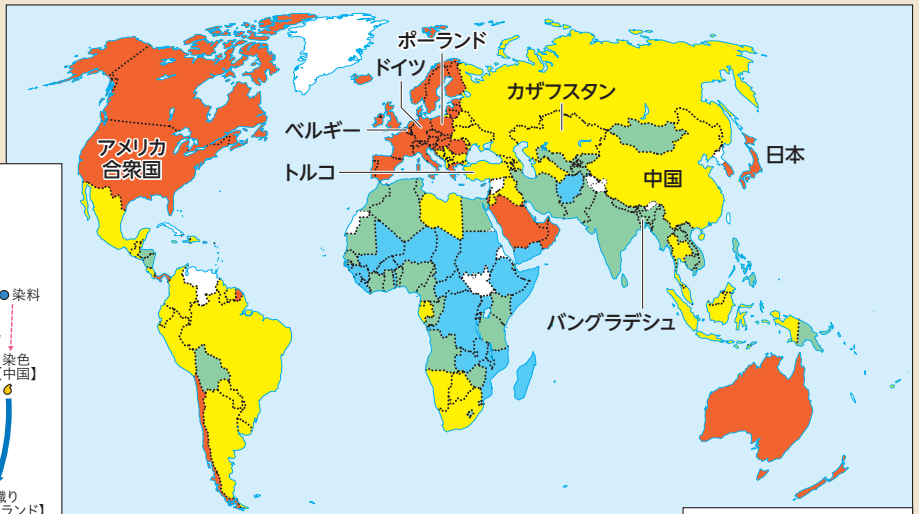
現在は、ビッグデータを解析し、人工知能とロボットなどの技術を融合し、機械が学習して自ら動く「自律化」の先端技術が実用段階を迎えている。少子高齢化による労働力人口減への対策として期待される産業用ロボット、衛星を利用した各種の位置情報サービス、副作用が少なく効果が大きい医薬品の開発など、健康や働き方といったライフスタイル全般をかえる「超スマート社会」の実現をめざしている。

これまで、産業の発展は欧米諸国が主導し、その恩恵が得られるのも先進国の人々であった。現在は、スマートフォンやPCなどが普及したことで、情報端末の価格が下がり、発展途上国の人々もICTを用いて、最新の情報を得られる環境が整いつつある。

産業と経済格差

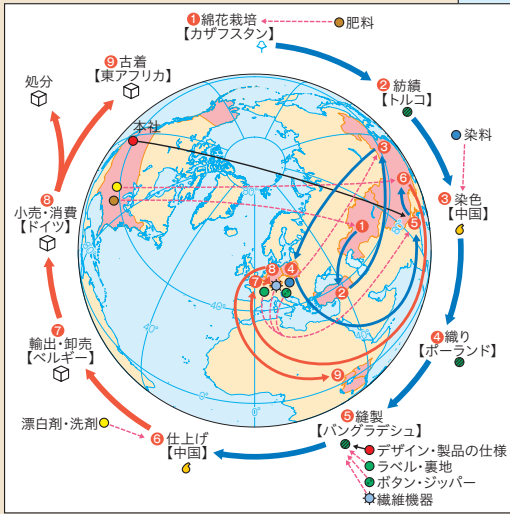
しかし、ICTの普及といった産業の発展と途上国の発展は、結び付いていない。グロー

Check 下の図の①～⑥までの工程をおこなっている国々の所得を、右の地図から読み取ってみよう



3 1人あたり GNI 2021年。世界銀行資料による。

| | |
|--------|------------------|
| 高所得国 | (12,696ドル以上) |
| 上位中所得国 | (4,096～12,695ドル) |
| 下位中所得国 | (1,046～4,095ドル) |
| 低所得国 | (1,045ドル以下) |
| データなし | |



2 国際分業 (ジーンズメーカーの例)

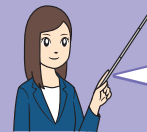
バル化による産業構造の転換によって、先進国と途上国の差は広がるばかりである。たとえば、先進国で自社ブランドを販売するアパレルの製造小売業 (SPA) は、本国内で新技術の研究開発やデザインなどをおこない、途上国で製品を生産して先進国で販売している。先進国の消費者が安く製品を購入できるのは、労働コストの安い途上国の人々が生産を担っているからである。このような複数国に活動拠点を置く多国籍企業による**国際分業**は、資源と労働力を提供する途上国と、それらを消費する先進国との間で**経済格差**を生み出す要因と考えられている。そこで、世界貿易機関 (WTO) は、農産物や工業製品の貿易自由化だけでなく、途上国問題や紛争処理などを幅広く扱う**通商交渉全般**である「新多角的貿易交渉」にも取り組んでいる。

産業の発展と人々の生活文化

産業の発展とそれともなう経済の発展は人々の暮らしに大きな影響を与える。急速な経済成長をとげて生活が大きく変化する地域が顕著に見られる一方、グローバル化の進展によって世界経済の枠組みに取り込まれつつも伝統的で多様な文化・生業が人々の暮らしに深く根付いている地域も見られる。また、産業の発展は必ずしも人々の暮らしの経済的な豊かさにはつながっておらず、先進・途上国間や都市・農村間での**経済格差**は解消されていない。こうした産業・経済の発展と人々の暮らしを題材にして、伝統的な生活文化や生業の変化とその課題を考えながら、伝統と革新が共存する人々の生活文化を学んでいこう。

Try 国、地域、世界のそれぞれのスケールで、産業発展と経済格差について考えてみよう。

グループ2



下のテーマから一つ選んで学習を進めてみよう。

テーマ① 急速な経済発展で揺れ動く人々の暮らし (東アジア)



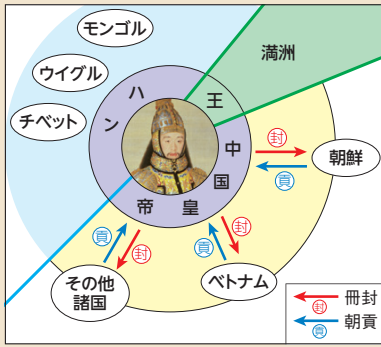
⇒ p.44 ~

テーマ② 多様な文化・生業に彩られた人々の暮らし (東南アジア)



⇒ p.58 ~

※どのテーマを選んでも生活文化の歴史的背景を学習できるように、各テーマの冒頭では「歴史につながる内容」を扱っています。



1 中国最後の王朝 (清) の多民族統治
 清の皇帝は、満洲人の王であるとともに、モンゴルのハン、中国の皇帝といった多面的な性格をもっていた。中央は乾隆帝(位 1735～95)の肖像。



2 清の最大領域と周辺諸地域 17世紀はじめ、ヌルハチ(1559～1626)が満洲を統一し、その後、国号を清(1616～1912)と定めた。1644年に明が滅亡すると、清は南下して中国農耕文化圏に入り、北京に都を定めた。清は、明を継承する中国の正統王朝として、朝貢による国際秩序など中国の伝統を尊重する一方、異民族王朝として反満洲思想の弾圧などをおこなった。

補説 冊封体制と朝貢

冊封体制は、漢代(→p.46)以降、諸地域間の交流が深まるなかで形成され、唐代(→p.46)に完成したもので、中国の皇帝が周辺諸国の君主を形式的に王などに任命すること(冊封)や、皇帝への貢ぎ物(朝貢)と見返りの品のやりとり(朝貢貿易)をその内容とする。冊封体制は19世紀末、清が日清戦争に敗れて、朝鮮が中国の冊封から外れるまで続いた。

1 経済の発展・変容とその歴史

経済や貿易はどのように発展・変容したのだろうか。



経済・文化・社会の中心だった中国

近年急速な経済発展をとげた中国は、古くから東アジアの中心として経済だけでなく、文化や社会でも先進であった。古代の黄河文明以来、中国で高度に発達した文化は**中華文明**とも言われる。それは外部との関係では、自身を文明世界の中心とし、**冊封体制**と**朝貢**という外交関係を通して、他地域を周辺と見なしてきた。周辺諸国は中国とこのような外交関係や経済関係を通して、中国から漢字や慣習、儒教、仏教をはじめとする文化を取り入れつつ自己を確立していった。

このような中国を中心とする東アジア世界は19世紀後半に欧米諸国の進出によって崩壊するまで続いた。

中国諸王朝の貿易と経済発展

14世紀後半以降、明朝は民間商船の往来を禁止する一方で、朝貢貿易を東アジアからインド洋にわたる広い範囲で活発におこない、各地の産物が中国にもたらされた。

16世紀後半になって明朝が民間貿易を認めると、中国

商人が海外貿易に積極的に進出した。この時期は、世界的な銀の大規模な流通とヨーロッパ諸国の参入もあって、世界的に交易がたいへん活発であった。こうして、沿岸部の一部の都市を通じて中国の商品(絹・陶磁器・茶など)の輸出が世界的に拡大し、それと引きかえに大量の銀が中国に流入し、経済を一層活発化させた。こうした中国経済の繁栄とその国際的な存在感は19世紀まで維持された。

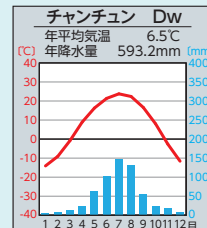
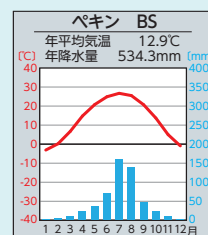
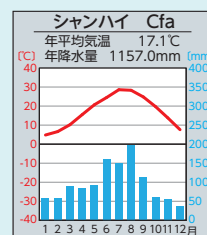
第二次世界大戦後の急速な経済変化

第二次世界大戦後、1949年に成立した**中華人民共和国**では、政府が経済活動に深く関与する計画経済と、資本や土地の公有に基づく社会主義的な国づくりが進められた。しかし、経済の低迷が続いたため、1978年に改革・開放政策に転じ、市場経済への転換と海外から資本と技術の積極的な導入が進められた。この政策転換により、急速な工業化と経済成長が実現し、2010年代にはアメリカ合衆国に次ぐ世界第二位の経済大国に成長した。

一方、戦後の日本と韓国はそれぞれ資本主義国として、アメリカ合衆国と強固な同盟関係を築きながら、高度経済成長を経て世界有数の先進工業国となった。

こうした急速な経済発展は、IT化の進展とあいまって、人々の暮らしが変化する要因となっており、とりわけ都市部ではそうした変化が顕著に見られる。

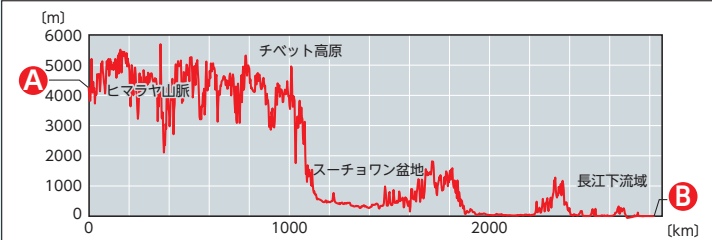
Try 経済の発展や貿易の変容による人々の暮らしの変化をまとめてみよう。



Check 中国国内の
 気温や降水量の
 違いを図から読
 み取ってみよう



①アクティブ
 透過シート3「中国
 の人口分布」を上
 の図に重ねてみよう



ニュースでよく名前を聞く
 都市は海の近くにあるね

人口密度も海に近い沿岸のほうが高そうだね (→ p.48)。暮ら
 の急な変化が起きているのは、こうした沿岸部の都市なのかな？



巻頭⑥を見ると中国の気候は沿岸部と内陸部で違いがあり
 そうだね。生活文化や農業と関係しているのかな (→ p.51)

世界の屋根と大平野

→巻末⑧⑨

東アジアはユーラシア大陸の東方に位置し、地形は西が高く、東が低い西高東低となっている。東部は、黄河(1)や長江などの流域が広がる平野となっており、西部には、カラコルム山脈やヒマラヤ山脈、テンシャン山脈などがそびえ、世界の屋根とも言われるチベット高原(2)が広がる。大陸部の地形は主に安定陸塊であり、チベット高原やヒマラヤ山脈など南アジアとの境となる一帯は変動帯に属する。朝鮮半島は山がちな地形であり、北部にはチャンパイ山脈、南部の日本海側にはテベク山脈が見られる。半島部を東西で見ると東側には山脈や丘陵地が多く、西側には一部で平野が広がっている。変動帯に属する日本と異なり、朝鮮半島では地震や火山活動はほとんど見られない (→ p.176)。

温暖湿潤の沿岸部と乾燥の内陸部

→巻頭⑥⑦

東アジアの気候はおおむね温暖湿潤であるが、北部と南部、沿岸部と内陸部で気候の差が大きい。南部ほど年平均気温が高く、中国の華北地方などの北部は冷涼な気候となる。夏季は南寄りの季節風(モンスーン→ p.38)が吹くため、南東部は湿潤で年降水量は多い。内陸部にはゴビ砂漠やタクラマカン砂漠など乾燥した地域が広がる。朝鮮半島では日本と同じ四季が見られるが、冬季は日本よりも寒冷である。

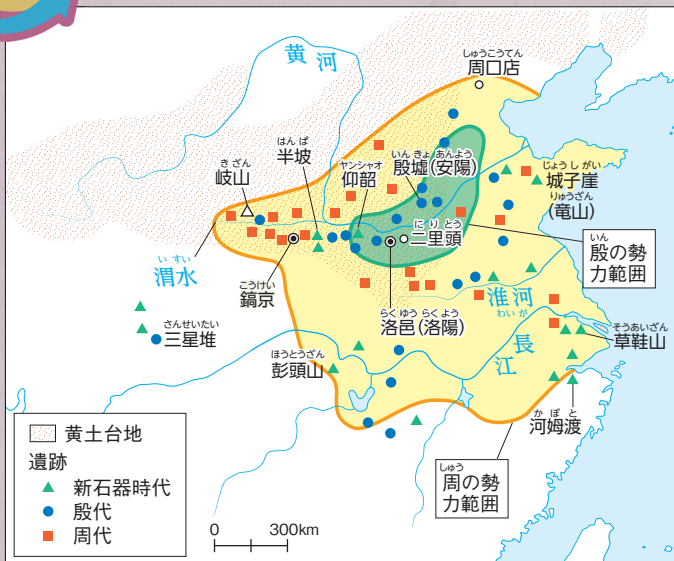


1黄河 陕西省。



2遊牧のようす チベット高原。

グループ2



▲黄土台地と主な遺跡

①文明の発祥

中国の二大河川である黄河と長江の中・下流域は大平原が広がり、古くから農業がおこなわれ、多くの人口を養ってきた。紀元前6000～5000年ごろには、黄河流域の黄土台地ではアワやキビなどの穀物栽培を主とし、長江流域では稲作を主とする新石器文化が見られた。

やがて城壁に囲まれた集落(邑)を中心に王朝が誕生した。その後、有力者が争う春秋・戦国時代に突入した。当時、鉄製農具や牛犁耕の普及による農業生産力の増大が見られ、統一をめざす群雄たちは富国強兵を進めた。前3世紀には秦および漢による統一が実現し、皇帝を中心とする中央集権体制が確立され、中国の影響は朝鮮半島や日本、南方諸国にも及んだ。その後、魏晋南北朝の分裂期を経て、隋・唐帝国による統一と繁栄の時代を迎えた。

また、古代の中国においては、中国の四大発明と言われる羅針盤、火薬、紙、印刷術など、科学技術も発展した。

②交易の広がり

東アジアの特産品である茶、絹、陶磁器などは、東西交易路を通じてヨーロッパなど西方へもたらされた。陸路では、モンゴル高原や南ロシアの草原地帯を通り、遊牧民が利用した「草原の道」や、その南側で、中央アジアのオアシスをつなぐ「オアシスの道」があった。また、海路では東シナ海、南シナ海、インド洋を経てアラビア半島に至る「海の道」が発展し、中国南部の港は南海貿易で栄えた。これらの交易路が古代から発達したのは、西洋と東洋で異なる特産品が分布していたこと、中国で産出される絹が西洋では重宝されたことなどが挙げられる。絹の製法は長らく中国の独占技術であり、古代ローマやペルシアなどでは上流階級の衣服として好まれたこともあって東西交易は中国の繁栄に寄与した。

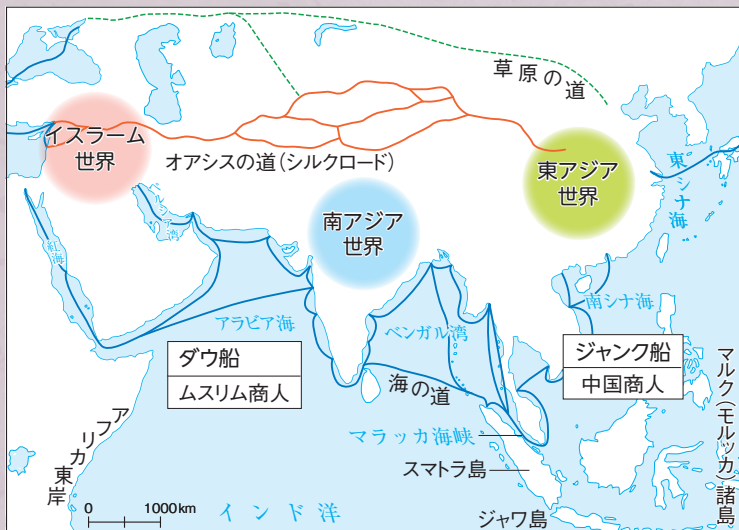
補説 東アジア文化圏

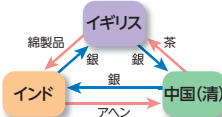
中国においては儒教、仏教、道教は「三教」と言われ、日常の生活に広く浸透してきた。このうち、日本でもよく知られる孔子の思想は、紀元前の中国で儒教としてまとめられ、社会の道徳や倫理として中国で国教とされただけでなく、朝鮮半島や日本にも伝わり、影響を与えた。こうした儒教や中国を経由して広がった仏教の文化(祭祀、道徳観、礼儀作法、生活習慣など)は、東アジア共通の文化として現代でも継承されている。

▼隋唐時代の東アジア



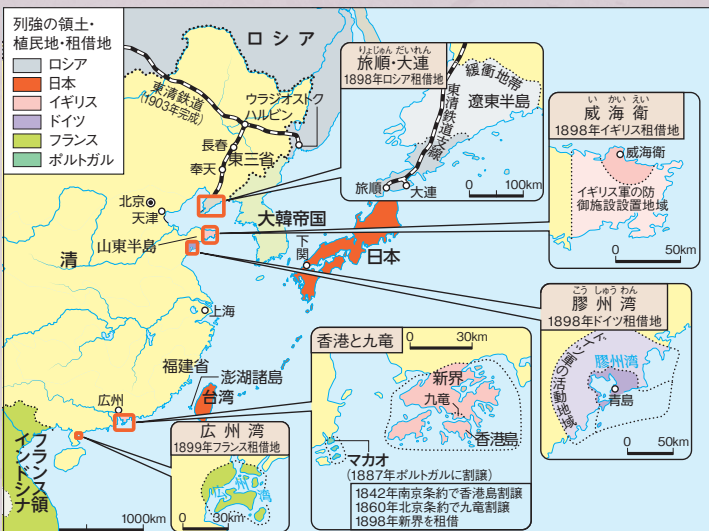
▼ユーラシアを結ぶ3つの交易路



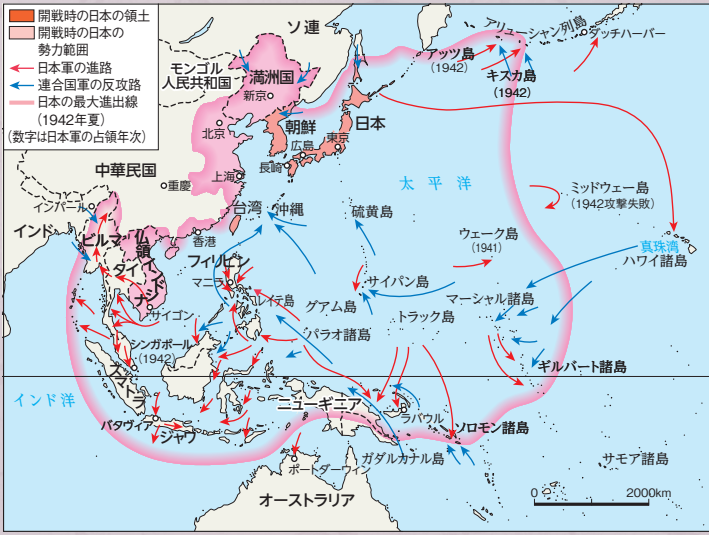


▲ アヘン戦争

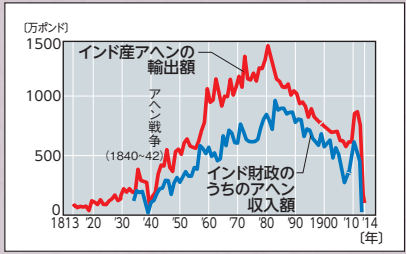
▲ 19世紀前半の三角貿易



▲ 19世紀末の各国の租借地



▲ アジア太平洋戦争 (太平洋戦争)



◀ インド産アヘンの輸出額の推移

③ 激動の近現代

こうした中国の歴史が激動の時代を迎えるのは近代に入ってからである。17世紀以降、イギリスやオランダ、フランスなどは東インド会社を通じてアジアへの影響力を高めており、活発な貿易をおこなっていた。

18世紀末には、清とヨーロッパの貿易の大半はイギリスが占めていた。19世紀に入ると、清とイギリスが対立して、1840年にアヘン戦争が勃発した。近代的な軍事力をもったイギリスに対し清が敗北すると、ヨーロッパの列強は中国に対して、不平等条約を結んだ。これ以降、中国への欧米列強の進出が進むなか、最後の王朝である清が滅亡し、中華民国が成立した。その後、中国では国民党と共産党による対立が先鋭化していく。日本と中国は日清戦争や日中戦争を通じてたびたび対立し、中国は第二次世界大戦が終わるまで苦難の時代を経験した。

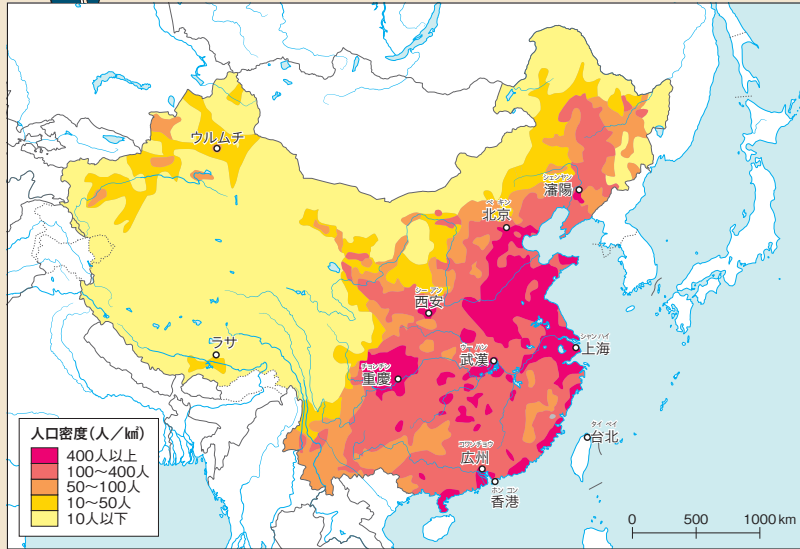
第二次世界大戦後、1949年に建国された中華人民共和国では、農業を軸とした国家づくりが進められたが、1980年代以降は改革・開放路線に転じ、海外との結び付きを強めて輸出志向型の工業化(→p.66)をはかった。1993年以降、中国では社会主義市場経済への移行にともなう高度経済成長が実現し、今ではアメリカ合衆国と並んで世界経済の一翼を担う経済大国となっている。

▼ 中華人民共和国の成立を宣言する毛沢東(1893～1976年)

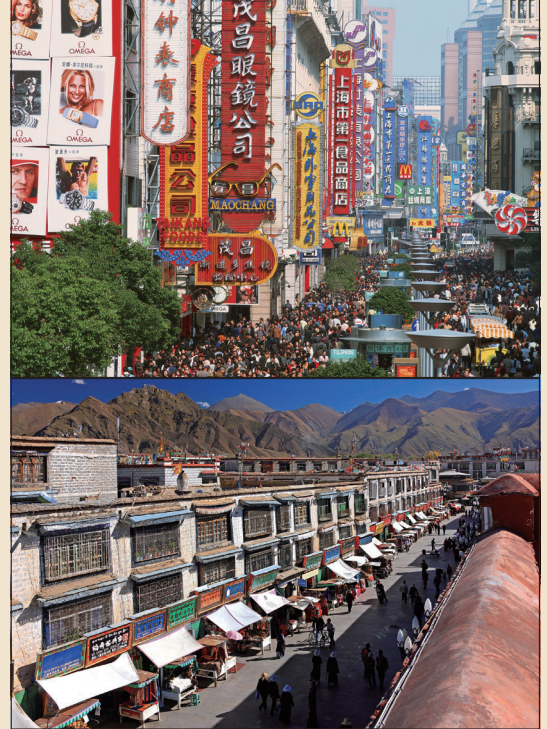




どんなところで人口密度が高くなっているんだろう？



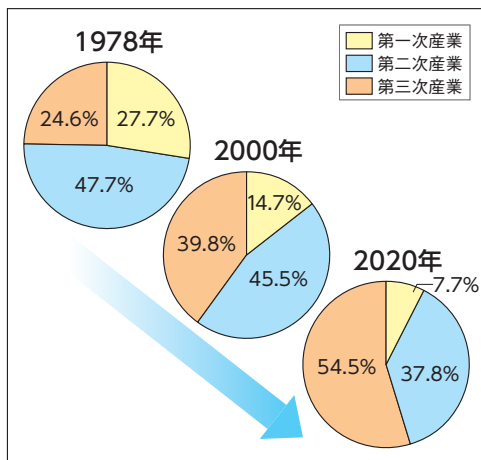
1 中国の人口密度 中華人民共和国地図集 2019年版による。



1 上海(上)とラサ(下)の中心街

2 変化する都市と農村

経済発展により人々の生活文化はどのように変化するのだろうか。



2 GDPに占める産業構成の変化 中国統計年鑑 2021年版による。この40年間で農林水産業(第一次産業)の占める割合は大きく減少した。

中国の人口と社会

中国は14億人をこえる人口大国であり、多くの民族からなる多民族国家である。少数民族は55を数え、その主な居住地は国土の周辺部などに点在している。一方、人口の9割を占める漢民族の居住地は全国に広がっている。

中国ではその人口を支える食料生産のための農業が国の礎とされてきた。農村は農業を主に担う地域であり、中国では農村で展開される社会(農村社会)が、長く国の基盤となってきた。農村では、生まれ育った場所で自給自足的な生活を営むとともに、祭祀や季節ごとの行事を通じて土地と人々が結び付く暮らしが見られた。こうした伝統的な暮らしを支えたのは、大家族制のもとで長子相続を中心とした血縁関係と、戸籍に基づく地縁関係であった。

農村と都市の社会変化

中華人民共和国の建国後は農村を中心とした計画経済が進められ、農村から都市への人口移動には制限が設けられていた。改革・開放後の工業化によって産業構造が転換すると、内陸部の農村から沿岸部の都市部へ出稼ぎに行く農民が増加した。人口が流出した農村では農業の担い手が減少したほか、発展を続ける都市部との所得格差が拡大した。現代の農村では、都市部の拡大とともに都市化の影響を受けて宅地開発が進むなど、その社会は変容しつつある。

農村から都市への人口移動は、沿岸部の都市を中心に都市化を進展

クローズアップ④

中国の少数民族

中国の少数民族のうち、人口が比較的多いモンゴル族、ホイ族、チベット族、ウイグル族、チョワン族が集住する5つの地域は自治区となっている。それぞれの民族で独自の生活文化が見られ、たとえば、チベット族の自治区では主にラマ教（仏教の一派）が信仰され、ウイグル族やホイ族の自治区では主にイスラーム（→ p.84）が信仰されるなど生活に根ざす宗教にも違いが見られる。

少数民族の居住している地域は農村部が多く、開発が遅れている地域が多い。現代では各地で地域開発にともなって生活水準の向上が見られるが、漢民族の移住が進んだことにより民族間の摩擦が一部で生じている。



3 中国の民族分布 中華人民共和国地図集 2019年版による。



1 アクティブ 透過シート3「中国の人口分布」を重ねてみよう

させた。現代では人口100万人以上の大都市が100をこえ、都市人口が中国の全人口の半数以上を占めている。都市化の進展は都市部に暮らす人々の生活も大きく変化させた。たとえば、都市部での人々の働き方は会社勤めが一般的となり、女性の社会進出も進んでいる。大都市では朝と夕方に都心部へ通勤する人の一斉移動によって著しい交通渋滞も生じている。また、都市の住民には富裕層や中間層が増えたことで、先進国の都市部に暮らす人々と同様の消費行動をする人が増えた。

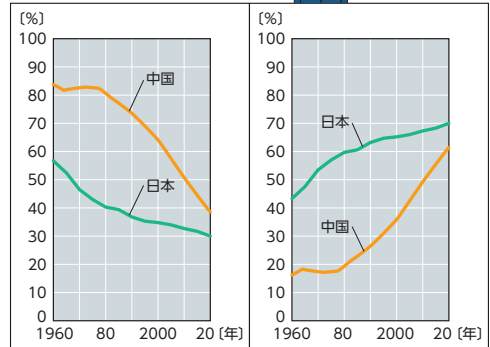
都市における人々の生活は利便性の高い都会的なものへと変化するにつれて、独身世帯が増加して、農村社会で見られた地域やコミュニティのつながりは薄くなっている。しかし、中国の旧正月に当たる春節の時期には家族や親族のいる郷里への帰省ラッシュが見られるなど、新しい生活文化のなかにもかつての農村社会を支えた伝統的な生活習慣や生活文化が色濃く残されている。

中国の人口問題

中華人民共和国の建国以降は、増え続ける人口と食料生産のバランスをとることが国家の最重要目標として掲げられてきた。そうしたなかで、1979年には人口抑制のための政策（一人っ子政策）が開始された。人口の伸びがゆるやかになり、食料不足は解消されたものの、年齢や性別などの人口バランスを大きく崩すこととなった。この政策は2015年に廃止されたものの、長期にわたる人口抑制策の影響で現在の中国はさまざまな人口問題に直面しており、とくに急速に進んでいる少子高齢化への対策は急務となっている。

Try 急速な経済発展によって人々の生活文化が変化する理由について話しあって考えてみよう。

Check 中国の特徴を図から読み取ってみよう



4 総人口に占める農村人口（左）と都市人口（右）の推移 中国は世界銀行資料、日本は総務省資料による。



2 春節で帰省する人々 2018年。中国北西部のホイ（回）族自治区。銀川駅。



1 1959年当時の農業 湖南省。農業機械も普及しつつあったが、豊富な労働力を背景とした人力による耕作も根強く残っていた。



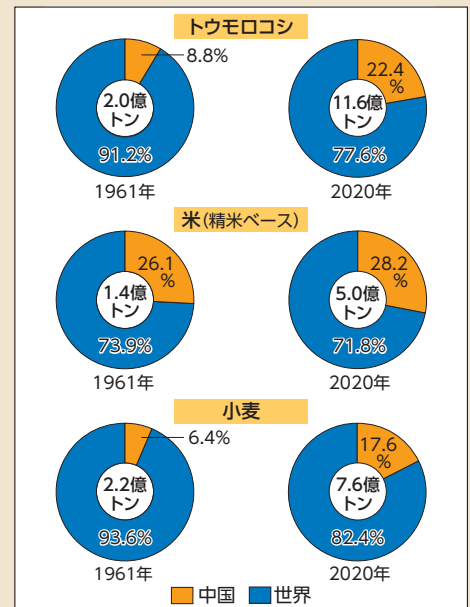
2 トウモロコシの収穫 2016年。山東省。農業機械の普及などにより、農業の大規模化・効率化が進んだ。



中国の農業はかわってきているんだね



3 茶摘みに活用される農業用ドローン 2018年。浙江省。山間部など、収穫した茶葉を運ぶのが大変な地域などで導入が進められている。



1 世界の主要穀物生産量に占める中国の割合の変化 FAO STATによる。

3 農業と食文化

社会の変化により農業と食文化はどのように変化したのだろうか。



1 人民公社

中国の地域組織で、農業だけでなく、工業・商業・教育・軍事・文化・行政などが一体化した農村の共同体。

2 生産責任制

農家が、中国政府との契約で定められた必要量以上の農作物を収穫した場合、その余分な農作物については、各農家が自由に売却できるようにした制度。

3 郷鎮企業

中国の地方行政単位である郷や鎮を基盤とする中小企業を言い、国営企業と対比される。農村の余剰労働力の受け皿として1980年代なかば以降に急増し、工業生産の一翼を担ってきた。

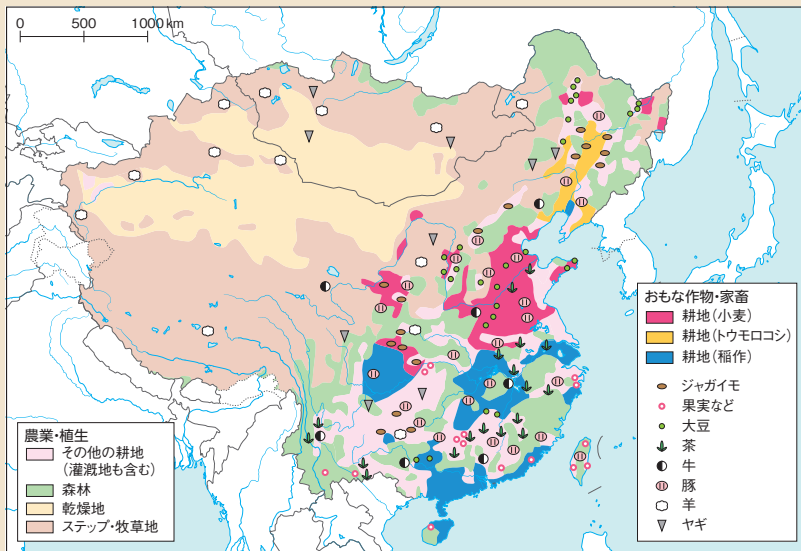
農業の歩み

もともと中国では農業が生活の柱であった。黄河や長江の中・下流域では、**湿潤な気候**のもと各地で特色ある小農家族経営が営まれてきた。

中華人民共和国の建国後、集団農場制が導入されて**人民公社**を軸とする農業へ移行した。しかし、**計画経済**のもとで農業の発展は十分ではなく、人口増に対して農業生産が追い付かない状態が続いたため、人民公社は**改革・開放**後の1980年代に解体され、**生産責任制**が導入された。生産責任制のもとで、農家が農業に積極的に取り組むようになり、農家の生活水準は向上した。農作物の生産量は増加し、小麦や米をはじめ中国はさまざまな品目で世界の生産上位国となった。

変化する農業と新たな課題

農業生産が増加する一方、政府は、農業以外の就業機会を作る政策をとった。工業やサービス業などの**郷鎮企業**が設立され、多くの農民が農業以外の職業に就くようになり、所得に占める農業以外の収入が増大した。生産性の低い農業から農民の離脱が進むと、農家は**企業的な経営**(アグリビジネス)をおこなう一部の**大規模農家**と**農民工**として出稼ぎ労働をおこなう農家とに分化した。企業的な経営では、大量の農薬や化学肥料を用いて、加工食品用や日本などへの輸出向けなどを主とする**効率的な農業**を指向している。近年では**農薬や肥料の過剰使用**による食品の安全性や環境への影響が懸念されている。



2 中国・モンゴルの農業分布図 Diercke Weltatlas 2015 による。



4 北京料理



5 上海料理



6 広東料理



7 四川料理

1 アクティブ 透過シート3「中国の人口分布」を重ねてみよう

1 アクティブ → p.222

農と食の地域性

中国の農業地域は、チンリン（秦嶺）山脈と
 2 ホワイ川（淮河）を結んだ年降水量 1000mm
 の線を境界として、稲作地域と畑作地域に分かれる。

北部は小麦やトウモロコシの畑作が主であり、南部は稲作や茶の栽
 5 培がおこなわれている。主食の範囲も農業地域の境界と一致しており、
 北部では主にめんや蒸しパンなどとして食べる小麦が主食であり、南
 部では米が主食となる。降水量の少ない内陸の乾燥地域では遊牧やオ
 アシスでの農業が主となっている。こうした農業地域のもと、中国の
 食文化は各地の自然や歴史とも結び付いた特色が見られる。中国料理
 10 は大きく四つの地域に代表される。北京料理は味が濃いのが特徴で、
 小麦や鳥肉を用い、宮廷料理など格式のある調理法が見られる。上海
 料理は甘みがあり、淡水魚を食材に用いた料理が多い。広東料理は「食
 5 在広州」と言われるようにさまざまな食材が用いられ、飲茶料理など
 食材本来の味を楽しむ傾向がある。四川料理はとうがらしなどの香辛
 15 料を使う辛い料理が多い。

農村ではこうした食の地域性は残されている一方、都市では外国企
 業の進出や富裕層の増加によって料理の多国籍化が進んでいる。生活
 が豊かになるに従って魚介類や大豆などの輸入が拡大しており、食の
 西洋化や日本料理の影響などが見られるようになっている。

4 農民工

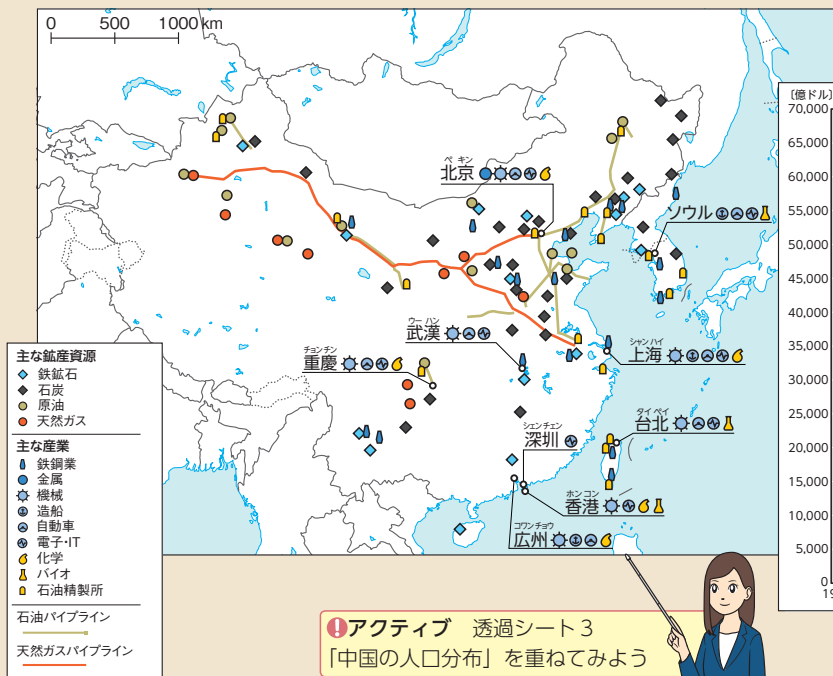
農村に戸籍をもつ農民で、都市部の工業部門
 で出稼ぎ労働をする者をいう。民工とも言わ
 れ、農村部から都市部への農民工の移動は民
 工潮と言われた。

クローズアップ⑤ モンゴルの生活と文化

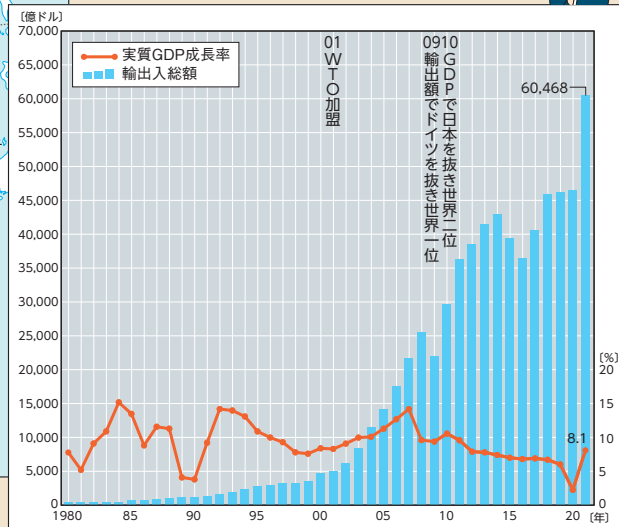
内陸国であるモンゴルはロシア・中国と
 国境を接しており、国土の大半が乾燥気候
 で、大草原が広がっている。古くから移動
 式住居であるゲルをともない、家畜を飼い
 ながら季節ごとで移動する遊牧生活を営ん
 でいる。多くの遊牧世帯は羊、ヤギ、牛、馬、
 ラクダのうち複数の家畜を飼育し、年に4
 ～5回移動することが多い。これら家畜か
 ら生産される肉や乳製品を自家消費するほ
 か、羊毛や皮革などを売って現金収入を得
 ている。

現代でも牧畜は盛んであるが、かつての
 遊牧は定住式の放牧にかわりつつある。ま
 た、家畜追いにはオートバイが用いられ、
 携帯電話が普及することで移動の仕方に変
 化が見られるなど、生活文化がかわりつつ
 ある。とくに、若者は都市生活を志向す
 るようになり、遊牧民は高齢化しつつある。

Try 地域ごとに特徴のある食文化が育まれた理由について考えてみよう。



2000年代以降、急速に拡大しているね



1 アクティブ 透過シート3
「中国の人口分布」を重ねてみよう

2 中国の輸出入総額と実質GDP成長率の推移 ジェット口資料などによる。

4 経済発展によってかわる社会

経済発展により社会はどのように変化するのだろうか。



1 文化大革命

中国全土で生じた政治的・社会的な動乱。古いもの（旧四）や資本主義的と見なされたものを暴力で破壊する行為や権威的と見なされた知識人などの迫害が繰り返されたことで、中国の政治・経済・外交は大混乱に陥った。

2 四つの近代化

文化大革命を否定し、農業・工業・国防・科学技術の四つの分野の近代化を実現することで、経済発展や生産力向上をめざした。

3 社会主義市場経済

1993年以降に進められた経済体制で、それまで経済特区など一部にとどまっていた市場経済の導入を中国全土に進めることで、社会主義的計画経済から自由主義的市場経済へ転換した。

社会主義経済下の工業

経済発展の原動力となるのは工業化である。たとえば、石炭や鉄鉱石などの鉱産資源に恵まれた中国では、こうした豊富な国内資源を活用しながら、計画経済のもとで工業化が進められた。とりわけ、資源の多くが分布する内陸部の産出地を中心に、重化学工業都市が発達した。

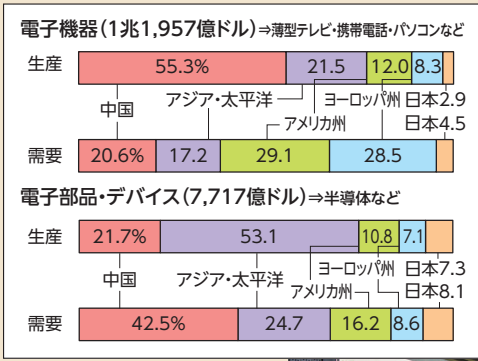
しかし、国営企業中心に推進された工業は、工場設備や生産技術などに限界が見られ、さらに1960年代後半から約10年間続いた文化大革命の混乱によって工業生産は停滞した。

改革・開放政策では四つの近代化を目標として、外国資本の積極的な導入がはかられ、華南の沿海部に経済特区が設立され、内陸部の重工業都市から沿海部の工業地域へと工業の中心が移った。対外開放路線は、その後、経済特区だけでなく、各地に設けられた工業団地や開発地区に継承された。

工業化の進展と経済発展

1993年に社会主義市場経済を導入すると、工業化はさらに加速し、2001年には世界貿易機関（WTO）に加盟し、世界貿易の一翼を担うまでになった。

西部大開発によって内陸部の開発も進展すると中国全土で工業化が進み、高度経済成長を実現した。鉄鋼や造船などの重工業に加え、自動車などの機械工業、パソコンや携帯電話などのハイテク工業、生活にかかわる衣服や食料品などの軽工業など、さまざまな工業分野で中



2 変化する街
並み 上海市。



1987年



2015年

3 中国が主に生産する工業製品と世界全体に占める割合 2020年予測値。電子情報技術産業協会資料による。

1 無人書店 2018年。深圳市。入店時の顔認識システムや過去の購入履歴を踏まえたオススメ書籍の提案など、入店から会計に至るまでのすべてのサービスにデジタル技術が活用されている。



国は世界の生産上位となり、「世界の工場」と言われるまでとなった。近年は、先端技術の開発にも力を入れており、「世界のイノベーションセンター」に向けた動きも見られる。

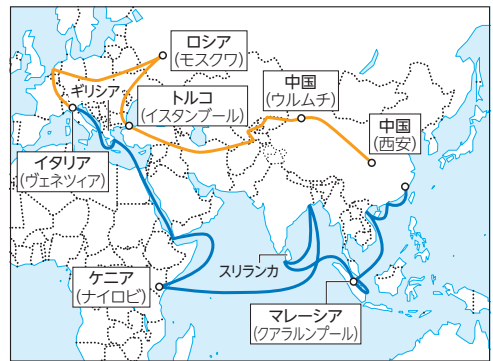
経済発展とともに中国における人々の生活は大きく変化し、とくに都市部で著しい。かつて自転車大国と言われたが、現代では車社会へとかわり、住居も木造家屋から高層の集合団地が中心となっている。古くからの商店街が消えゆく一方、道路や地下鉄が整備され、大型商業施設やオフィスビル、集合住宅を併設する街区ごとの大規模開発によって、新たな都市景観が生まれている。テレビや家電などの耐久消費財も普及して人々の生活は豊かになり、旺盛な需要に支えられた「世界の市場」として外国企業の進出が進むとともに、観光や留学などで海外へ出ていく人も増えている。

グローバル化する中国

貿易大国となった中国では、工業化にともない資源やエネルギー需要が高まり、現在では世界最大の資源輸入国となっている。そのため、中国は安定的な調達をめざして海外へ積極的に進出しており、アジア、アフリカ、ヨーロッパを陸路と海路で結ぶ「一帯一路」政策やアフリカへの資源外交など、独自の国際戦略を進めている。中国の海外進出にともない、中国ビジネスや中国における生活様式を海外に展開していくチャイナ・スタンダードの動きも出てきている。



3 中国人観光客向けの看板が並ぶ日本の電気街 2016年。東京都。秋葉原。



4 「一帯一路」政策における陸路と海路

4 資源外交
資源輸入国が、資源保有国への経済援助と引きかえに、エネルギー資源やレアメタル（希少金属）などの確保をめざす外交。

Try 中国の経済発展が世界に及ぼした影響について考えてみよう。

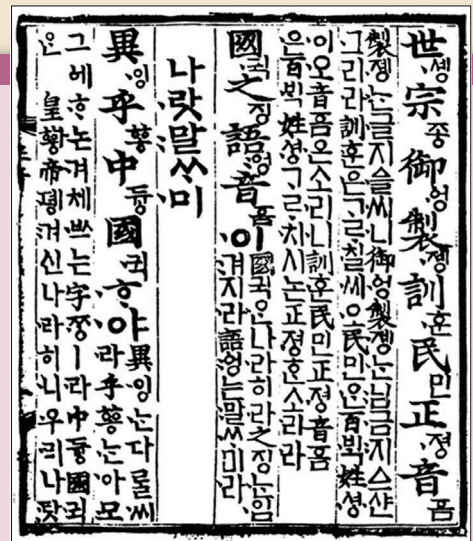


歴史への旅④

朝鮮半島の歩み

朝鮮半島は古くから中国や日本との交流が見られた。古代には製鉄や耕作などの産業技術、仏教や儒教、漢字など、朝鮮半島を経由して中国の文化が日本にもたらされた。14世紀末から19世紀に至る李氏朝鮮時代には儒教文化が栄え、こんにちにつながる朝鮮文化が育まれた。社会の基盤にあるのは儒教的な価値観であり、家族関係を最も重視するとともに、祖先の崇拜、年長者尊重や明確な上下関係にその特徴がある。このような価値観は冠婚葬祭を含めて、人々の倫理や道徳として現代の生活に息づいている。また、同時代にはハングルの起源になる訓民正音が作られた。かつては韓国独自のハングルと中国由来の漢字が併用されてきたが、こんにちではハングルのみに使用している。

1910年、日本が韓国を併合すると、それを皮切りに、朝鮮半島は第二次世界大戦の終結まで日本の支配下に置かれることとなった。第二次世界大戦後は、アメリカ合衆国とソ連によって南北に分割され、南側は資本主義国の大韓民国（韓国）として、北側は社会主義国の朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）として独立した。朝鮮戦争の後には北緯38度線付近に休戦ラインが設けられ、現在に至っている。



▲訓民正音 1443年に作られた表音文字。子音字と母音字の組み合わせで一つの音節となる。ハングル（偉大な文字）という呼称は、20世紀に用いられるようになった。

5 産業の進展によって かわる社会

経済発展と生活文化や社会は
どのように関連するのだろうか。



①アジア NIEs

1970年代にめざましい経済成長が見られたアジアの新興工業地域であり、韓国、台湾、香港、シンガポールをさす。これらの国・地域は「アジア四小龍」とも言われた。

コラム③

北朝鮮の動向

北朝鮮は一党独裁のもと、チュチェ（主体）思想を全面に掲げ、ソ連の援助を受けつつ計画経済を進めてきた。冷戦終結後、国際的に孤立したなかで、自力での経済発展をめざしたが生産が伸びず、韓国との経済的格差はさらに広がった。このような状況の打開をめざして、経済改革とともに対外関係の再構築に取り組んでいるが、核兵器開発や日本人の拉致問題などがその進展を難しくしている。

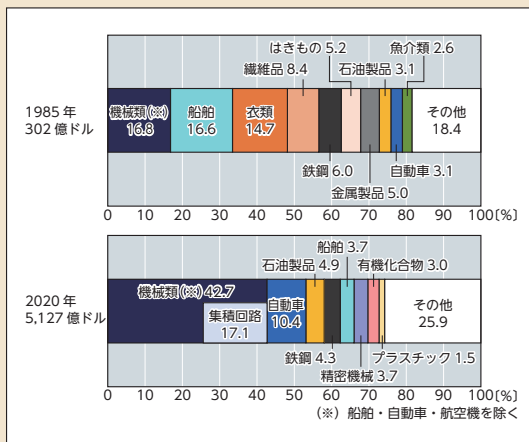
経済の発展

産業の進展や経済発展のあり方は自然環境や政治体制などにも大きく影響を受ける。

たとえば、鉱産資源が豊かな朝鮮半島の北部は、第二次世界大戦以前は工業地域として発達した。しかし、戦後に建国された北朝鮮が閉鎖的な社会主義国として独自の道を歩んだ結果、経済は停滞している。

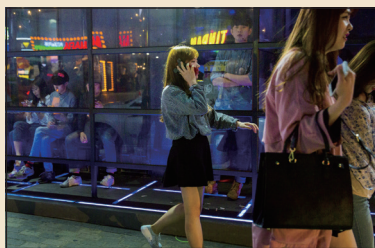
一方、鉱産資源が乏しかった南部は長らく粗放的な農業地域であり、南部に建国された韓国は朝鮮戦争による国土破壊の影響もあって1960年代前半まで世界の最貧国の一つだった。しかし、韓国は1960年代以降、日本とアメリカ合衆国からの資金援助・技術協力をもとにした輸出指向型の工業化政策をおし進めた。その結果、1960年代後半から80年代にかけて鉄鋼業や造船業などの重工業が発達した。こうした急速な高度経済成長は「漢江の奇跡」と呼ばれ、韓国はアジア NIEs の一つとなった。さらに、1996年には経済協力開発機構（OECD）への加盟を果たし、軍事政権からの民主化や国際通貨基金（IMF）による構造改革などを経て、現在では開放的な経済・社会となっている。

韓国経済をけん引してきたのは、財閥（チェボル）と呼ばれる少数の企業グループである。韓国の財閥は同族による家族経営を軸としてきたが、1997年のアジア通貨危機の際には一時、財閥による寡占が問題視されて国際通貨基金（IMF）の管理下で改革が進められた。しかし、現代においても財閥の影響は大きく、サムスンやヒュンダイな



1 韓国の輸出品目 UN Comtrade などによる。

1 伝統衣装を着て「成年の日」を迎える韓国の若者 2012年。ソウル。写真のような儒教式の伝統的儀式は1000年以上前から存在していたとされ（成年礼），韓国の一部の地方自治体では，今でも伝統的な成年礼が実施されている。男子は冠をかぶる行為，女子はまげを結ってかんざしをさす行為を経て，正式に成人と認められる。



韓国では伝統的な文化が受け継がれているんだね



2 スマートフォン片手に歩く若者 2015年。ソウル。



ど四大財閥で韓国のGDPの約6割を占めている。

また，韓国は自由貿易協定（FTA）を積極的に活用し，自動車や情報通信技術（ICT）産業などの分野を中心に，経済のグローバル化を進めている。

5 韓国の生活・文化と社会

韓国の社会は，1960年代後半以降の高度経済成長を通じて大きく変化し，経済発展にもなう都市化によって，総人口の約8割が都市に暮らすようになっている。農村には伝統的な暮らしが一部残っているものの，1970年代のセマウル（新しい村）運動による農村開発は十分な効果が見られず，農村部から都市部への人口流出が進んだ結果，ソウル首都圏への一極集中が進んでいる。そのため，現代の韓国社会は都市生活や都市文化が中心になっていることに加え，インターネットの急速な普及と浸透によって，ネットを介したサービスやコミュニケーションが生活の中心になりつつある。

15 近年，韓国は国際交流を積極的に進めている。韓流と呼ばれるテレビドラマやK-POPなどの音楽を海外に発信しており，日本だけでなく世界での評価を得ている。また，文化産業だけでなく，観光業も国をあげて推進している。こうした取り組みや輸出指向の経済のもとで，ソウルの西側にある仁川国際空港や朝鮮半島南東部の釜山港などはモノや人がグローバルに移動する結節点として大きな役割を担っている。

2 IMFの介入による構造改革

1997年に韓国が通貨危機に陥り，国際通貨基金からの資金援助を受けたときに進められた一連の改革をさす。その内容は財政再建，貿易および投資の自由化，財閥解体など広範囲に及び，韓国のグローバル化が進むきっかけとなった。

3 セマウル運動

1970年代に進められた韓国の農村開発運動であり，セマウルとは「新しい村」という意味である。農民の所得水準の向上や環境改善など，農村の近代化を目的におこなわれた。

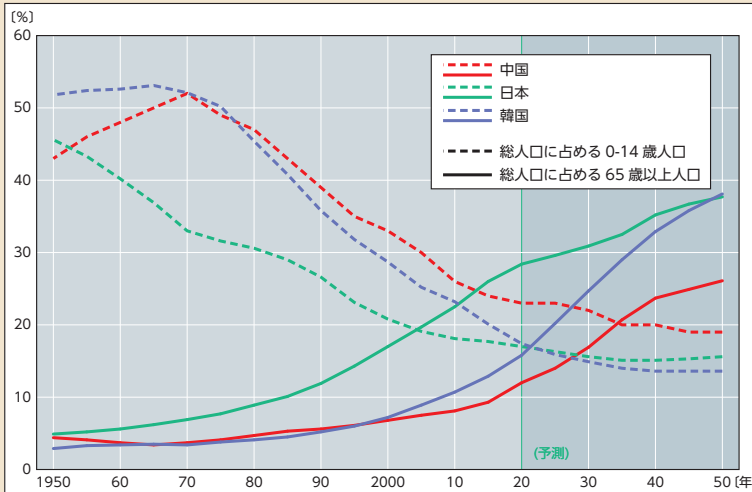


3 韓国文化を扱う商店 東京都。新大久保。

Try 産業の進展によって変化した人々の生活文化について調べてまとめてみよう。



少子高齢化は日本だけじゃなくて、
中国や韓国でも進んでいるんだね



1 総人口に占める0-14歳人口と65歳以上人口の割合の推移
国連資料による。



1 熾烈さを増す韓国の大学統一試験 2011年。ソウル。多くの学生はこの試験のために幼少期から準備をしており、1日10時間をこえる勉強を何年間も継続している。試験会場の前では、下級生による応援が恒例となっている。

6 現代の諸課題

急速な経済発展はどのような
諸課題を生み出すのだろうか。



1 中国の戸籍制度

中国の国民は出生地に基づいて都市戸籍と農村戸籍が付与される。戸籍の種類によって受けられる社会保障が異なり、たとえば、農村戸籍では土地が与えられる権利がある一方、農村から都市への移動には制限がある。都市化や工業化にともない、地域間の人口移動が進むにつれて、戸籍制度の矛盾が問題になってきている。



2 西部大開発で整備された鉄道 2006年。ラサ。各都市部をつなぐ高速鉄道網の整備が急ピッチで進められている。

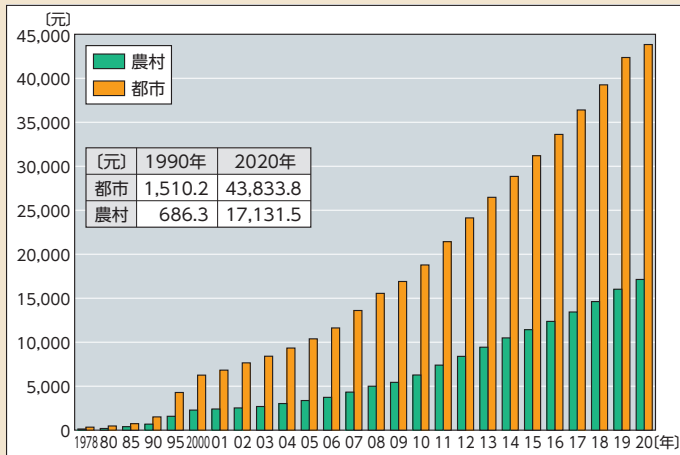
少子高齢化

急速な経済発展と工業化を経験した東アジアでは、少子高齢化が著しく進んでいる。日本、中国、韓国とも合計特殊出生率は2.0を下回っており、すでに人口が自然減少している日本に続き、中国や韓国でも少子化が著しい。また、生活水準の向上により平均寿命が延びており、高齢化も進んでいる。高齢化率の上昇は日本が先行しているが、中国や韓国の高齢化のスピードは速く、社会のなかで高齢者を支えるしくみ作りが急務となっている。また、少子化によって一人あたりの教育投資額が増加しており、その結果として学歴重視の社会になっている点も東アジアで共通している。

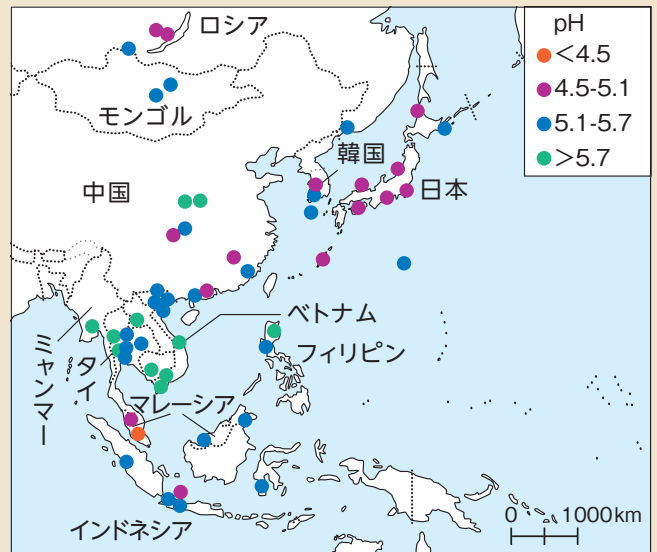
格差の拡大

生活が豊かになった一方、都市部とそれ以外の地域との地域間格差も共通する課題である。都市の発展に比べて、農村などでは若年層の流出や農業からの離脱など持続的な発展の難しい地域が増えている。とくに中国では、都市部と農村部、沿海部と内陸部との地域間格差の拡大が進み、都市住民と農村住民との所得格差や、出生地に基づく戸籍由来する就業機会の制限などが大きな社会問題となっている。拡大する地域間格差への対策として、中国政府は2000年から西部大開発と呼ばれる地域開発を進めている。当初は、鉄道や道路、送電施設などのインフラ整備に重点が置かれ、やがて産業育成にも力が入られるようになった。沿岸部の賃金水準が上昇するなかで、内陸部にも工場を建設する動きも見られる。

Check 30年間で、一人あたりの所得の差は都市と農村でどれくらい拡大したのだろうか、図から読み取ってみよう



2 中国における都市と農村の一人あたり所得額の推移 中国統計年鑑による。



3 東アジアにおける酸性雨の状況（2016～19年の平均値） pH値が低いほど酸性度が高く、一般に5.6以下を酸性雨という。酸性雨や大気汚染などは国や地域をまたいで影響を及ぼすため、東アジアや東南アジアの国々は協力してモニタリング調査などを実施している。環境省資料による。

環境問題

経済発展による環境への影響は現代の課題の一つである。工業化で先行した日本や韓国において1950年代から1980年代に問題となった大気汚染や水質汚濁などは、現代の中国できわめて深刻な事態となっている。中国では、

- 5 経済発展にともない石炭や石油などのエネルギー資源を大量に使用するようになった一方、大気汚染物質への対策が十分進んでいないため、ぜんそくなどの健康被害が増えている。とりわけ、2010年代には、PM2.5（Particulate Matter 粉塵などの微小粒子状物質）による大気汚染と健康への影響が問題視され、日本でもその越境汚染について多くの懸念が生じた。
- 10 現在では、こうした環境問題への意識が高まりつつあり、より安全な食品やより品質のよい海外製の製品を選ぶなど、消費行動もかわってきている。また、東アジアでは環境問題を通じた技術協力や共同研究などが国家間で進められている。

人の移動と交流の拡大

東アジアは古くから相互に交流を続けてきた。たとえば、中国からは、移民や出稼ぎ労働者として多くの人々が世界各地に移動した歴史があり、日本でも中華街や在留華人の社会が見られる。こうした歴史的なつながりに加え、現代では企業の相互進出による経済的交流、留学や文化交流イベント、観光などを通じて人的交流が盛んで、クロスカルチャー化が進みつつ

- 20 あり、相互理解が深まっている。

Try 急速な経済発展によって生じる課題とその解決策について話しあって考えてみよう。



コラム④

資源・エネルギーの確保

中国は経済成長にともない、水や電力の不足が深刻である。政府は西部大開発の一環として、南部の水を北部に送る「南水北調」、西部の天然ガスや電気を東部に送る「西気東輸」「西電東送」を進めている。

たとえば、長江中流域に大規模なサンシア（三峡）ダムを建設したが、多数の住民の移転や環境問題を引き起こしている。一方で、中国は原子力発電や自然エネルギーの推進にも取り組んでいる。内モンゴル自治区などでは、風力発電設備の設置が急速に進められている。しかし、国内発電量に占める風力発電の割合はまだ小さい。



▲サンシア（三峡）ダム



1インドネシアの港 2007年。フローレス島。ラブハンバジョ湾。船によって人・モノ・情報がゆきかう海の道には、航路網とその結び目である港がおりなす独自の世界があった。写真に見るような、船体からつきたアウトリiggerをそなえた船は、島嶼部を中心にインド洋・太平洋に広く分布する。



2アンコール=ワットの寺院 カンボジア。仏教寺院ではあるが、その壁面にはヒンドゥー神話などの彫刻を見ることができる。

Check どここの国の植民地だったのだろうか、地図から確認してみよう



1 東南アジアの植民地化

1 重層的な文化と多様な生業

新しい文化の流入と産業の発展によりどのように国や社会が形成されてきたのだろうか。



基層的な文化の形成

東南アジアは、自然環境、文化、宗教、歴史の違いから、インドシナ半島を中心とした大陸部、そしてマレー半島と多くの島々からなる島嶼部の2地域に大きく分けられる。

東南アジアの主要民族は、台湾、中国南部、インド東部を起源とし、人々の信仰体系の基層には古くから精霊、靈魂などのアニミズム、それらとかわるための儀礼などを通じて宗教的世界観が形成されていた。そして、はやくからヤムイモ、タロイモ、バナナなどの根菜農耕文化が生まれた。紀元前2千年紀には中国から稲が伝わり、各地に広まると、稲作が人々の生業の中心に位置づけられた。

インドシナ半島のホン川（紅河）流域に中国文化の影響が見られるが、その他の地域では、インド文化の影響を受け、それぞれの民族の基層文化と融合し、独自の文化を形成してきた。そこに、周辺から新たな文化が入り、アニミズムの世界観と融合した重層的な文化が形成された。

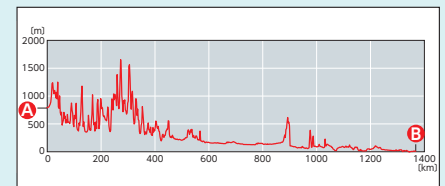
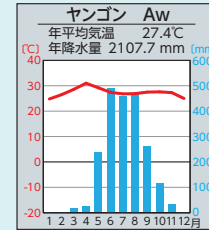
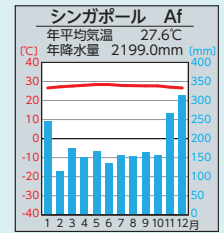
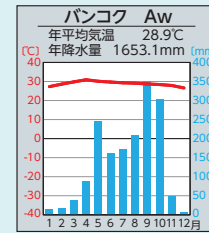
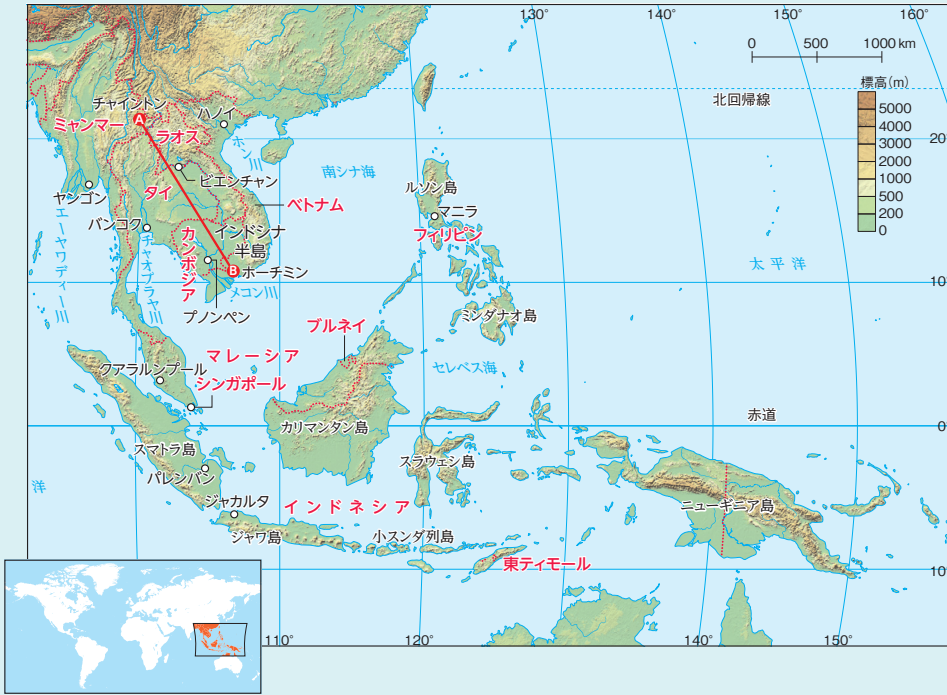
新しい文化の流入

大陸部では、インド商人による海上交易が1世紀ごろより盛んになり、メコン川下流に港市国家が栄えた。4世紀以降は、ヒンドゥー教、そして大乘仏教が伝来したが、13世紀ごろには衰退し、その後、上座仏教が信仰された。またインドからは、ため池による灌漑技術が伝播し、稲作がさらに広まった。

島嶼部では、7世紀に大乘仏教を導入した王国が成立し、13世紀以降はムスリム商人の活動が活発となり、15世紀以降にイスラームが広まった。大航海時代になるとヨーロッパの宣教師らが布教に訪れ、島嶼部の一部はキリスト教（カトリック）を受容した。

東南アジアは、19世紀末までに大部分が植民地化され、宗主国によって天然資源開発とプランテーション農業が導入された。戦後、東南アジアの国々はあいついで独立を果たしたが、独立後は、工業化の推進によって経済発展をとげたマレーシアのような国が存在する一方で、戦争によって発展が阻害されたインドシナの国々も見られ、現在に至るまでの発展経路は様々ではない。東南アジアの各地域では、民族ごとに独自の文化が継承され、自然環境に応じた伝統的な生業が営まれているが、歴史、政治、宗教、民族、文化の違いをこえて、東南アジアはASEAN（東南アジア諸国連合）として地域一体で発展するための連携を強化している。

Try 外から流入した文化が融合して形成された重層的な文化の特徴をまとめてみよう。



巻頭⑥を見ると、この地域は共通して雨が多そうだね。生業に影響しているのかな (→ p.68-69)

マレーシアは大陸部と島嶼部を結ぶ位置にあるね。人が行き来して、さまざまな文化が流入していそうだから、とくに多様な文化が見られそうだね (→ p.70-71)



季節風 (モンスーン) と大河川の大陸部

→巻末⑧⑨

大陸部は、夏は海洋からの南西モンスーン (→ p.35) によって降雨が多く、冬は大陸からの北東モンスーンによって乾燥する。ベトナム南部やカンボジア、タイのチャオプラヤ川流域などでは雨季と乾季が明瞭に分かれるサバナ気候となる。大陸部北部の険しい山地からは、エーヤワディー川、チャオプラヤ川 (1)、メコン川、ホン川 (紅河) といった大河川が流れ出し、河口部にはデルタ (→ p.30) が形成されている。モンスーンがもたらす雨によって、大陸部の沖積平野は、世界屈指の稲作地帯になっているが、同時に、洪水の被害 (→ p.60) にも悩まされてきた地域である。

湿潤な火山島の島嶼部

→巻頭⑥⑦

島嶼部のうち、赤道付近に位置するマレー半島からスマトラ島、ジャワ島西部、そしてフィリピン諸島南部の島々は、一年中降雨の多い熱帯雨林気候である (→ p.34)。ジャワ島東部から小スンダ列島、フィリピン諸島北部の島々は、モンスーンの影響を受けるサバナ気候となっている。熱帯雨林気候の地域では、熱帯雨林が広がり、豊富な林産資源が存在する (2)。スマトラ島とカリマンタン島は、原油や天然ガスなどの鉱産資源にも恵まれている (→ p.66)。しかし、火山が島嶼部の外縁を取り囲んでおり (→ p.176)、火山噴火、地震・津波などによる自然災害に苦しめられてきた。



1 都市を流れるチャオプラヤ川 タイ。バンコク。



2 熱帯雨林が生い茂る島々 インドネシア。スマトラ島。



1 トウモロコシの収穫
チェンマイ県。

2つの写真を比べると、農村と都市では人々の生活が違いそうだね



2 漁業のようす アユタヤ県。

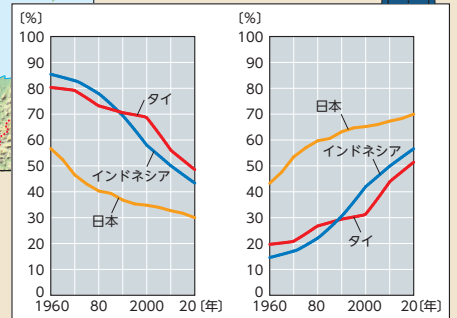
Check タイとインドネシアの特徴を図から読み取ってみよう



3 タイの首都バンコクの街並み



1 主な国の総人口に占める農村人口（左）と都市人口（右）の推移 日本は総務省資料、その他の国は世界銀行資料による。



2 自然と人々の生業

人々は自然環境をどのように利用して生活しているのだろうか。



1 焼畑農業

既存の樹木を伐採・焼却などの方法で整地し、作物を短期間栽培した後に、雑草防除や地力回復をはかるために作物の栽培期間よりも長い休閑期間を設け、再度利用する循環的な農法である。

1 コラート高原もしくはコラート台地と呼ばれ、タイでイーサーンと呼ばれる地域とほぼ一致する。降水量が少なく、かつ砂質土壌で肥沃度も低いいため、農業生産性は低い。

2 プライメート・シティ

地域のなかで人口規模が最大かつ第2位の人口をもつ都市を大きく引き離している都市で、首位都市とも呼ばれる。政治・経済・文化の機能が一極集中し、大きな影響力をもつ。東南アジアでは、タイのバンコク、インドネシアのジャカルタがその例として挙げられる。

大陸部タイでの生活

大陸部に位置するタイは、北部から南部にかけて、隆起運動で形成された北部山地、中央平原、デルタといった地形の違いによって異なる生業が見られる。

北部山地には、大小の河川によって刻まれたV字谷と盆地が形成され、そこには、中国南部を起源とする山地民族が居住する。かつては、自給的な焼畑農業を営み、日常的に民族衣装をまとって生活していたが、現在ではトウモロコシなどの商品作物（換金作物）の栽培を営み、観光客が訪れる地域でしか民族衣装は見られなくなっている。人口密度の高い北部の盆地では、かつて小国家が築かれ、アヘン、生糸、茶などの山地産物の交易で栄え、現在も中国から入ってきた灌漑技術を用いた水田稲作がおこなわれている。

中央平原では、インドからの稲作技術であるため池による灌漑農業が一部でおこなわれているが、ほとんどが雨水だけに依存する水田（天水田）である。沼沢地や氾濫原、河川での漁業も盛んである。東北部の台地は、タイで最も貧しい地域とされており、多くの出稼ぎ労働者をバンコクに送り出す地域となっている。

タイの首都バンコクが位置するデルタは、雨季に冠水するため、かつては人が住めない土地であったが、運河や水路の開発によって、農業と住居の適地となった。現在は、世界有数の稲作地帯となり、かつバンコクは、東南アジア屈指の大都市に成長した。タイにおけるバン

2 12世紀ごろの海域世界 島嶼部では、マルク（モルッカ）諸島のナツメグやクローヴといった森林産物がヨーロッパと交易された。多島海の島々は、緑豊かな熱帯雨林やマングローブ林に覆われ、そこに産する珍品をめぐって人々が集まり、世界各地とつながって、歴史が作られてきた。



▲ダウ船



▲ジャンク船



4 東南アジアの「香薬」 コショウ（左）はインド原産だが、12世紀にはジャワが主要産地となり、その後スマトラにも栽培が拡大した。ナツメグ（中央）とクローヴ（右）は、ともにインドネシア東部のマルク諸島に産地が限られ、高級香料としての需要が大きかった。これらの森林産物は現在「香辛料」と呼ばれることが多いが、当時は調味料としてではなく、治療薬や防腐剤としての需要が大きかった。そのため、これらの海の道の主要商品は薬剤としての用途を強調し、「香薬」と呼ぶのが適切である。

コクの都市規模は、**プライメート・シティ**として卓越しており、政治・経済・行政のすべての国家機能が集中している。

島嶼部インドネシアでの生活

島嶼部のインドネシアでは、火山山麓、島、多島海で異なった生業の形態が見られる。

5 ジャワ島からバリ島にかけての3000m級の火山山麓は、古くから農業が栄えてきた地域であり、熱帯雨林気候では、特殊な地域と言える。気候条件に加えて、肥沃な火山灰土壌、豊富な湧水によって、灌漑された水田や畑作地が広がり、多くの人口を支えている。ジャワ島の人口は世界の島のなかで最も多く、西ジャワに首都のジャカルタが発達した。ジャカルタは、17世紀はじめからオランダの植民都市となり貿易港として栄えた。ジャカルタ住民の多くはオランダ領東インド各地からの移住者により構成される。インドネシアにおけるプライメート・シティであり、増加する人口と拡大する都市圏に、インフラ整備が追いつかず、洪水被害や交通渋滞などの問題を抱えている。

15 カリマンタン（ボルネオ）島は、海岸域は農業に適さない泥炭湿地である。内陸部は熱帯雨林で覆われており、かつては狩猟採集と焼畑農業が生業の中心となっていたが、現在は、天然ゴムやアブラヤシなどの商品作物を導入したプランテーション農業が見られる。多島海の海域世界では、真珠、ナマコ、ベッコウなどの海産物が特産品として中国と交易され、それらは現在でも重要な収入源となっている。

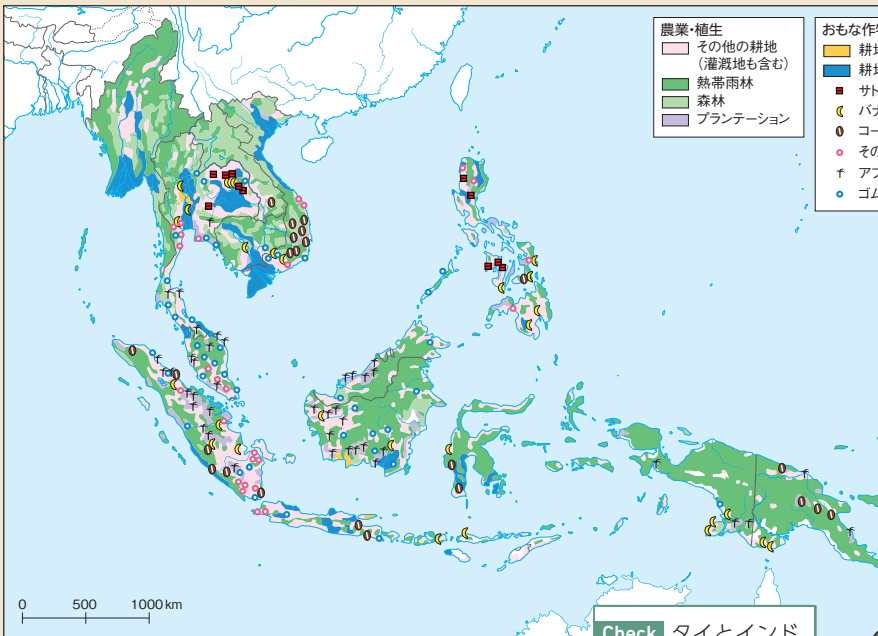


5 稲作のようす ジャワ島。火山のすそ野に水田が広がる。



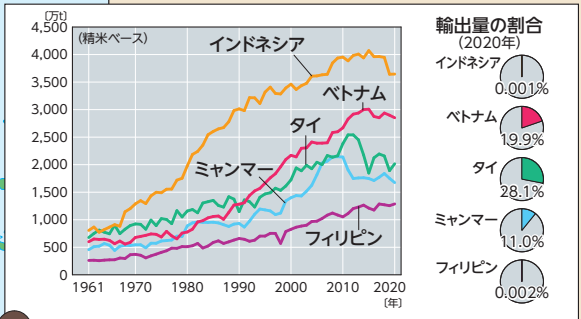
6 インドネシア初の地下鉄 2019年。日本の支援で完成した地下鉄が首都ジャカルタで本格営業を開始した。

Try 都市化の進展による人々の暮らしの変化について考えてみよう。



どうして斜面にも水田が作れるのかな

1 棚田
インドネシア。バリ島。



1 農業分布

Diercke Weltatlas 2015 による。

Check タイとインドネシアの違いを図から読み取ってみよう

2 主な国の米の生産量の推移と生産量に占める輸出量の割合

FAO STAT による。

3 グローバル化時代の農業と環境

グローバル化により農業はどのように変化してきたのだろうか。

1 二期作

同じ農作物を同じ農地に年間二回栽培すること。東南アジアの灌漑水田では水稻の二期作が広く見られ、ベトナムのメコンデルタやインドネシアのジャワ島では年間三回水稻を栽培する三期作をおこなう地域もある。

2 緑の革命

食料を増産するために、穀物の高収量品種の栽培を灌漑、肥料、農薬、農業機械などの技術とともに普及させる取り組み。東南アジアでは、フィリピンに設立された国際稲研究所が開発した IR 品種と呼ばれる高収品種によって米の増産をなしとげた。ただし、資金と資本をもたない小規模農家や小作農などは、緑の革命の恩恵を享受できず、貧富の差が広がったという批判もある。

稲作

雨季に豊かな雨をもたらす季節風（モンスーン）の恵みによって、東南アジアでは多くの地域で稲作が営まれている。山地部では陸稲が焼畑で栽培され、低地部では水稻が水田で栽培されている。島嶼部のルソン島北部、ジャワ島、バリ島などの山地では、棚田が作られ、灌漑用水を管理する社会組織が発達している。大陸部のチャオプラヤ川やメコン川のデルタでは、雨季に土地が水没してしまうため、以前は水位にあわせて生長する浮き稲が栽培されていた。しかし、19 世紀後半から、運河と水路を整備して水田を開発し、水稻の二期作をおこなう大穀倉地帯となった。タイとベトナムは世界有数の米の輸出国となっている。米の生産量が飛躍的に増加した背景には、1960 年代後半以降の緑の革命が東南アジア各地に普及したことも影響している。

プランテーション

東南アジアを代表する農業形態が島嶼部のプランテーションである。植民地時代に宗主国の政策でさまざまな作物が導入された。インドネシアでは、19 世紀にオランダがサトウキビ、コーヒー、藍などの商品作物の強制栽培制度を導入した。フィリピンでは、アメリカ合衆国の植民地になった 20 世紀以降、サトウキビが導入され、各地で大規模農園が作られた。インドネシアでもフィリピンでも、プランテーションで得られた利益は、宗主国へと流れた。マレーシアとインドネシアでは、ブラジルか



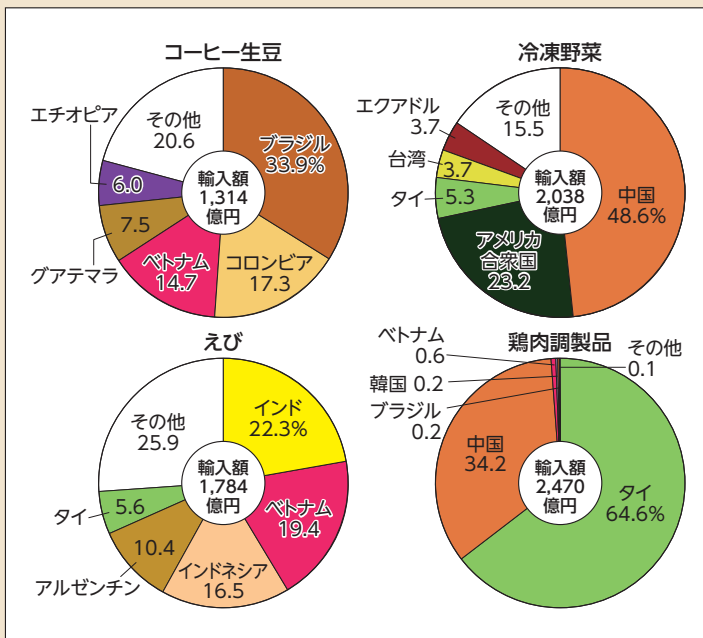
クローズアップ⑥

マングローブとエビの養殖

熱帯・亜熱帯の沿岸や河口に広く分布するマングローブは多様な生物を育む場としてだけでなく、高潮や強風を軽減する防災的機能を有している。しかし、東南アジアの沿岸域のマングローブは、エビの養殖池を作るために伐採され、その面積は縮小している。近年はマングローブ生態系の再生とエビ養殖の両立をはかる事業も進められている。自然環境に配慮して養殖されたエビには国際NGOの水産養殖管理協議会(ASC)が認証を与えて、消費者に対して、環境的・社会的に健全なエビであることをアピールしている。



▲マングローブを切り拓いて作られたエビの養殖池 ベトナム。



③日本の主な輸入品目における国・地域別の割合 2021年。農林水産省資料による。

ら導入された天然ゴムが世界的な需要増大にともなって、急速に拡大した。しかし、合成ゴムが普及しはじめた1970年代以降は、天然ゴム価格が下落し、かつ天然ゴムの老木化もともなってゴム園の多くがアブラヤシに転換された。アブラヤシは、熱帯雨林の原生林や伝統的な焼畑を営んできた土地にも植えられ、急速に面積を拡大し、森林減少や伝統的農業の衰退を招く要因になっている。1990年代以降、アブラヤシ、天然ゴム、サトウキビなどの商品作物は、これまで自給的な稲作を営んでいた大陸部の小規模農家にも広がっている。

農林水産業を通じた海外と日本のつながり 東南アジアの農林水産業は、日本市場の動向にも影響を受けている。熱帯雨林が広がるカリマンタン島などの木材は安価なため、日本を含む先進国の木材需要のために乱伐された。現在は、環境や資源の保護を目的として、マレーシア、インドネシア、フィリピンなどでは、丸太の輸出規制などの貿易措置がとられている。また、沿岸部ではエビの養殖池とするためにマングローブ林を伐採するところが数多く見られる。

東南アジアからは、私たちが日ごろ食べているエビや鶏肉などの一次製品の多くが輸入されている。近年は、焼鳥、枝豆、カット野菜、そして牛丼屋や回転寿司の生姜などの調理加工食品のタイからの輸入が増加している。人間が食べるものだけでなく、日本で売られているペットフードの缶詰の多くもタイで作られている。

④アブラヤシ

東南アジアで栽培されているアブラヤシは西アフリカ原産である。その果肉からは調理用のパーム油、種子からは加工食品用のパーム核油が得られる。



つながる世界③

パーム油と日本

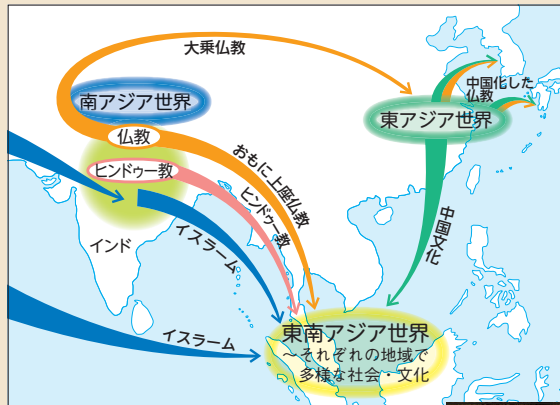
アブラヤシから生産されるパーム油は、植物油の総生産量のうち約30%を占め、世界で最も多く消費されている植物油である。日本では、菜種油に次いで2番目に多く利用され、パーム油の約80%が食品、約20%が非食品で利用されている。パーム油の約85%がインドネシアとマレーシアのアブラヤシ農園で生産されており、その生産のために広大な熱帯林や泥炭林が消失していることが問題視されている。そして、環境保護団体が中心となり、環境や社会に配慮した農園で生産されたアブラヤシから作られたパーム油を普及させるための認証制度が整えられた。ただし、日本の食品表示法では植物油の内訳を記載することが義務付けられていないため、消費者は気づかぬうちに、認証されていないパーム油を利用している。

Try プランテーションの拡大とその変化について調べてまとめてみよう。

1 カオダイ教の総本山 ベトナム。五教（儒教、道教、仏教、キリスト教、イスラーム）の教えを土台とした新興宗教であり、土台となった宗教の影響が礼拝のあり方や服装、彫刻などから見て取れる。



1 宗教の流入



宗教によって祈りの仕方が違うんだね



3 お経をあげる仏僧
タイ。バンコク。



2 ミサのようす
フィリピン。セブ島。



4 文化と民族

重層的で多様な生活文化はどのように形成されたのだろうか。



1 インドネシアでは、イスラーム以外に、キリスト教（プロテスタント、カトリック）、仏教、ヒンドゥー教、儒教も法令により国教として公認されている。



4 バングラデシュに逃れるロヒンギャ難民

1 華人

中国から国外に移住した中国人を総称して華僑という。「僑」には仮住まいという意味があり、現地の国籍を取得した中国系住民を華人と称するようになった。

文化の重層性

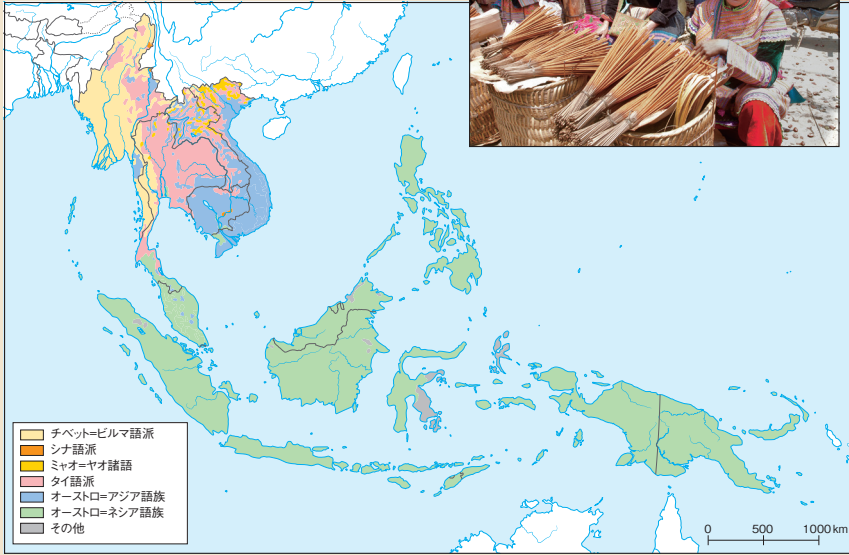
古くからインドと中国の影響を受け、さまざまな宗教と文化を受け入れてきた東南アジアであるが、大陸部には**上座仏教**、そして島嶼部には**イスラーム**が広がり、現在に至る。ただし、中国の影響を強く受けたベトナムは、**大乗仏教**のほか、各種の宗教が混在している。タイを除いた東南アジア 10 国は、欧米諸国の植民地支配を受け、スペインの植民地になったフィリピン、ポルトガルの植民地になった東ティモールでは、旧宗主国の宗教である**カトリック**が広まっている。

人々の日々の行動規範や食習慣などは、信仰する宗教に大きく影響され、地域や民族によって多様な文化が形成される。多民族国家の場合、国で優勢となっていない宗教を信仰する民族が不利益をこうむり、独立運動が起こったり、また迫害を受けたりすることで、国内多数派と衝突して**難民**が発生することがある。たとえば、2002 年にカトリックが多数を占める東ティモールが、国民の約 90% がイスラームである多民族国家のインドネシアから独立した。そして、仏教徒が多数のタイでは、南部における少数派のイスラーム教徒が独立運動を展開している。また、同じく仏教徒が多数のミャンマーでは、イスラームのロヒンギャが難民化した。

民族の多様性

東南アジアでは、さまざまな言語を母語とする民族が、長期にわたり移動を繰り返してき

ぎょうしょう
▶行商をおこなうモン族の人々
2010年。ベトナム。



2 言語分布 弘文堂『世界民族事典』による。

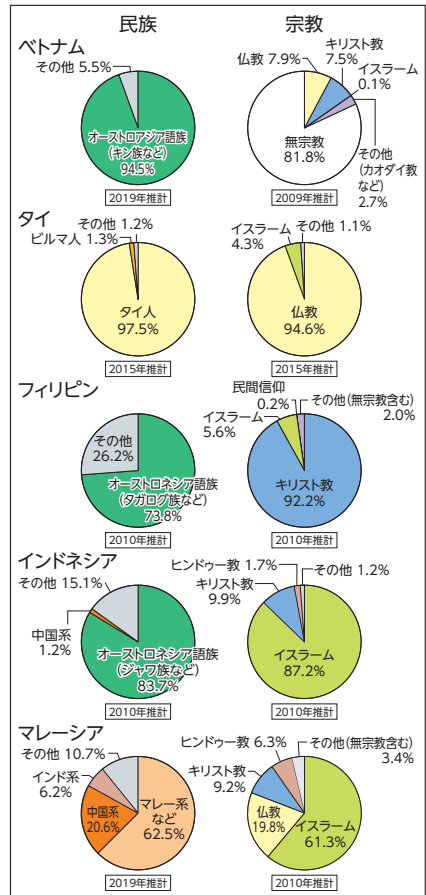
クローズアップ①
大陸部の少数民族「モン族」

タイ、ラオス、ベトナムの中国国境付近には、中国南部を出自とするモン族が国境をまたいで広く分布している。インドシナ戦争のときには、ラオスのモン族の多くは難民として海外に出て、現在は東南アジアだけでなく世界各地に散らばっている。モン族にとって人為的に引かれた国境線は、それほど大きな意味をもたない。彼らは公用語や国語とは別にモン語を子孫に伝承し、ハレの日には民族衣装を着て行事を祝う。正月になると国境をこえて知人や親類を訪問しあい、国籍を問わず婚姻関係を結ぶ。タイ、ラオス、ベトナム、中国という国民国家の枠組みのなかでは、少数民族に位置づけられるモン族だが、離散しながらも独自の文化を継承し、国境をこえたモン族のコミュニティを形成している。

た結果、**民族のモザイク**が形成された。同じ国に住んでいても民族ごとに母語が異なるため、東南アジアの国家では公用語を定めている。たとえば、多民族国家のフィリピンでは、100以上の言語が話されているが、公用語は、英語とフィリピン語（フィリピノ）の2言語である。シンガポールの場合は、英語、マレー語、中国語、タミル語の四つの公用語を制定している。

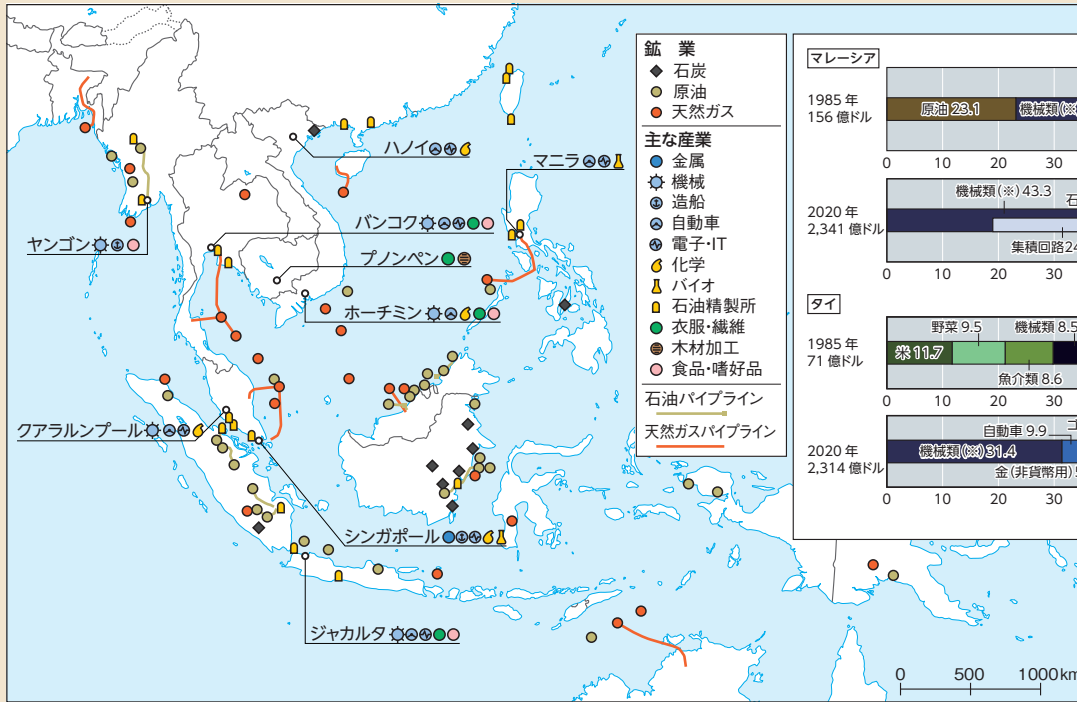
また東南アジアでは、古くから中国文化とインド文化の影響を受けていたため、中国系住民とインド系住民が多いのが特徴である。彼らのなかには、ヨーロッパ諸国がアジアを植民地支配する過程で、鉱山やプランテーションの労働者として移住したが、その後に事業をおこした移民も多かった。そして、中国人やインドのタミル人などは、出身地の言語や文化を守り、移住先で同郷・同族組織を作り、新しい移住者の受け皿となった。ただし、経済的に成功した中国系住民の華人と古くから住む民族との間で対立が起こることもあった。近年では、中国の改革・開放以降に東南アジアに移住した新華僑の進出がめざましく、新たな中華街が各地で形成されている。

マレーシアでは、都市に住む華人と農村部のマレー系住民との間で大規模な衝突が起きたことを契機に、1971年からマレー系住民を優遇する**ブミプトラ政策**がとられ、多民族国家として民族共存のバランスを取る政策を実施している。

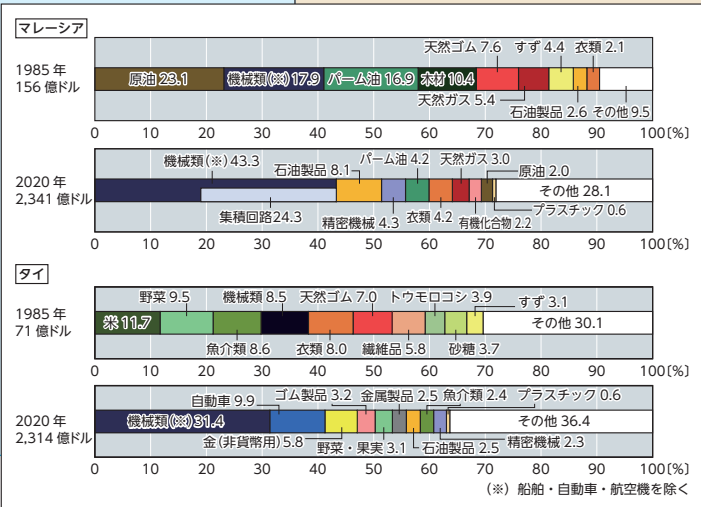


3 主な国の民族と宗教の割合 world fact book などによる。

Try 多民族国家で起きている課題とその解決策について話しあって考えてみよう。

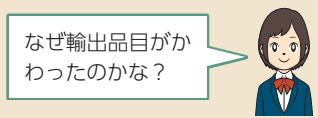


- 鉱業**
- 石炭
 - 原油
 - 天然ガス
- 主な産業**
- 金属
 - 機械
 - 造船
 - 自動車
 - 電子・IT
 - 化学
 - バイオ
 - 石油精製所
 - 衣服・繊維
 - 木材加工
 - 食品・嗜好品
- 石油パイプライン**
- 天然ガスパイプライン**



1 鉱工業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。

2 マレーシアおよびタイの輸出品目 UN Comtrade などによる。



5 経済発展と地域内の連携

地域内の連携による経済の発展はどのようになしとげられたのだろうか。

① 植民地時代のマレーシアは、宗主国イギリスのために開発されたゴムやすずなどの特定の一次産品に頼るモノカルチャー経済であった。

① 輸入代替型工業
これまで輸入していた外国製品を国内製品に代替させること。輸入関税などを設け、国内企業を保護して育成をはかる工業政策。

② 輸出指向型工業
輸出により市場を国外にも広げ、国際競争を通して技術力の向上をはかる工業政策。ただし、海外市場の景気に大きく左右される。

② AFTA を活用して、ASEAN 内で需要がある製品を現地で生産することで関税がかからなくなったことに加えて、日本と自由貿易協定 (FTA / → p.19) を締結していない韓国や中国にも低い関税率で輸出できるメリットがある。

工業化と経済発展

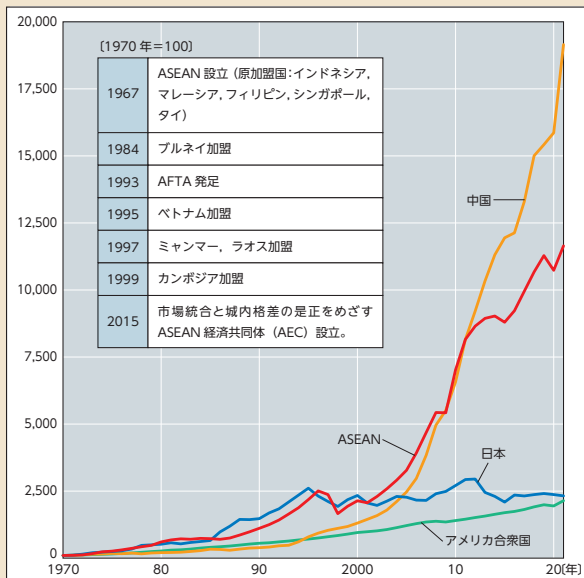
多様な生業や文化に彩られた人々の暮らしが工業化や経済発展によって大きく変容した国もあった。たとえば、マレーシアは、独立後の 1970 年代に**ブミプトラ政策**をとり、マレー系住民の商工業への進出を促し、さらに、1981 年に**ルックイースト政策**を掲げ、欧米ではなく日本や韓国の成功を見習って工業化を進めた。その結果、日本からの工場誘致に成功し、東南アジア有数の工業国へと成長した。そして、かつては農村部で農林漁業に従事していたマレー系住民が製造業に従事するなど、就業構造にも変化が見られた。

独立を果たした東南アジア各国は、経済的な自立をはかるために工業化を推進した。**輸入代替型工業**からはじまり、その後には外資導入をはかる**輸出指向型工業**へと転換することで工業化をなしとげた。当初は、欧米と日本の企業による投資が多かったが、1980 年代以降は**アジア NIEs** (韓国, 台湾, 香港, シンガポール) の企業による投資が増加している。

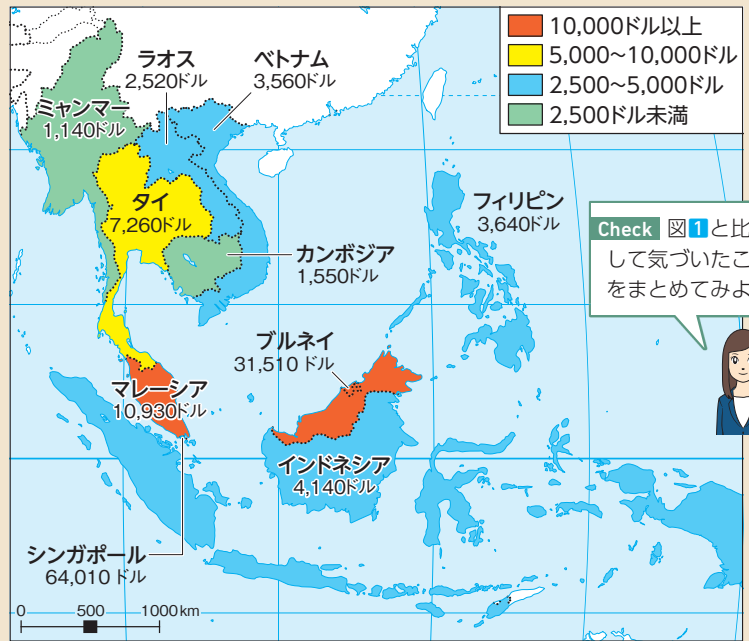
東南アジアでいち早く工業化をとげたシンガポールには、多国籍企業の統括拠点が置かれ、1990 年代以降は、金融センターとしての機能が付加され、資源をもたない都市国家として独特の発展が見られる。

連携を強化する ASEAN

1967 年に異なる文化的背景をもつ五つの原加盟国によって設立された**東南アジア諸国連**



3 ASEAN および主要国の国内総生産 (GDP) の推移 1970年の数値を100として算出している。世界銀行資料などによる。



4 ASEAN 諸国における1人あたりGN I 2021年。世界銀行資料による。

Check 図1と比較して気づいたことをまとめてみよう



合 (ASEAN) は、1993年に国際競争力を高めるために、域内貿易の関税を引き下げる ASEAN 自由貿易地域 (AFTA) の発足に合意した。その後、ASEAN は、日本、中国、韓国、インド、オーストラリアと経済連携協定を結び、域外との経済連携も強化した。日本は、2008年に ASEAN と包括的経済連携協定を締結し、日本企業の ASEAN 進出を促した。しかし現状では、高所得のタイ、マレーシア、シンガポールなどに、低所得の近隣国であるミャンマー、カンボジア、ラオス、インドネシアの人々が低技能労働者として働いており、受け入れ国と送り出し国の両方で、経済的・文化的なさまざまな問題が生じている。そこで、2015年に ASEAN がひとつの経済圏となることをめざし、ASEAN 経済共同体 (AEC) を発足させた。域内で生産された製品の関税の撤廃、短期滞在ビザの撤廃などを実施し、域内の経済格差を解消して ASEAN 全体の経済的成長をめざしている。

とくに戦後から内戦が繰り返されてきたインドシナ三国 (ベトナム、ラオス、カンボジア) と軍事政権が長期に及んだミャンマーは、工業化が遅れ、他の ASEAN 諸国との経済的格差が大きくなっていった。しかし、2000年代後半から、中国南部と大陸部各地を結ぶ国境をこえた大規模な輸送インフラ整備が進んでいる。その結果、これらの国々にはアジア NIEs と中国からの投資が増加し、急ピッチでこれまでの遅れを取り戻しつつある。

Try 経済成長や国家間の経済連携が人々の生活文化に及ぼした影響について考えてみよう。



コラム⑤

シンガポールの奇跡

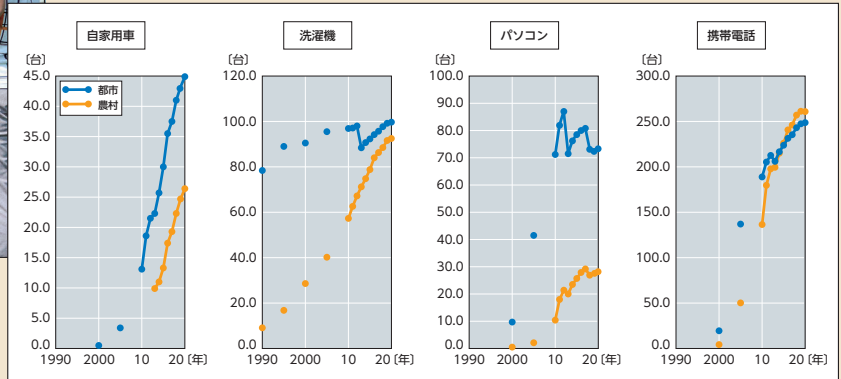
1965年にマレーシアから分離独立した都市国家のシンガポールの驚異的な経済発展は、「シンガポールの奇跡」と呼ばれる。人口約550万人の国内市場だけでは、経済成長に限りがあるため、税を優遇して外資系企業を誘致し、知的労働者の移民を受け入れ、最高水準の研究者を好待遇で招き入れるなど、世界中の卓越した人とモノを集める政策を実施した。外国人居住者が生活しやすいように、安全で衛生的な街づくり、病院・学校・商業施設の整備、渋滞を防ぐための自家用車保有台数の制限なども実施している。その結果、アジア太平洋地域の統括拠点をシンガポールに置く多国籍企業が増え、東南アジア第1位の豊かさを手に入れた。

③ 2022年、ASEANを含む15か国による RCEP 協定 (→ p.19) が発効し、多くの農林水産品や工業製品にかけられていた関税の撤廃や引き下げが実現したため、協定域内における輸出入の活発化が期待される。

④ 社会主義国ベトナムは、1986年に経済の改革・開放をめざすドイモイ (刷新) 政策を開始し、その後、安定した経済成長を続けている。



1 無人航空機（ドローン）を活用した農薬散布 中国。



1 中国における都市と農村の耐久消費財保有台数の推移 (100戸あたり) 中国情報ハンドブック 2021年版。



2 朝食を売る都市部の屋台 2017年。中国。青島。

農村もかわりつつあるんだね



世界の生活文化

都市と農村の生活

経済成長により人々の生活文化はどのようにかわるのだろうか。



1 インフォーマルセクター

行政の管理下に置かれず、統計的にも公式に記録されない経済活動のこと。東南アジアの都市部では、農村居住者が職を求めて移住してきたときに、生活に必要な収入を得るために露天商、行商、資源・ごみ収集などの活動に従事するものが多い。



3 春節の帰省から戻る農民工 中国。2009年。

伝統と革新が共存する暮らし

アジアの大都市では、多くの農村出身者がインフォーマルセクター^①で働いている。一方、農村では、農業に最先端技術を導入する試みも見られる。都市の生活は先進的で、農村の生活は遅れているとはいえないのが現在のアジアである。

かつてアジアの農民は、自給作物の余剰分を販売に回すことで最低限の生活を営んでいた。しかし現在では、企業と契約して作物の生産をおこなう契約栽培が広くおこなわれている。なかには、日本人向け農産物を生産するために、日本企業が種子と技術を提供して、そのすべてを日本で販売する開発輸入と呼ばれる形態の農業も見られる。こうした契約栽培では、企業が必要となる資材や技術を提供するのが一般的であるが、農民も受け身ではなく、市場情報を入手し、より利益が得られる生産を自ら追求するようになっている。そのため、農民は携帯電話やスマートフォンのような情報端末を使いこなし、さまざまな情報にアクセスしている。2000年代まで電話がなかった農村でも、携帯電話のアンテナが立つと、一気にモバイル情報端末が普及した。農村の情報化は人々の働き方にも影響を与え、都市に住む同郷の知人や親戚から出稼ぎ情報を SNS 経由で得ることも珍しくない。

都市部では、経済発展にともなう中産階級の台頭が著しい一方で、貧しい農村から賃金収入を求めて大量の人々が流入している。中国では、農民工と呼ばれる労働者が都市へ移動する現象が顕著に見られる

都市部では、経済発展にともなう中産階級の台頭が著しい一方で、貧しい農村から賃金収入を求めて大量の人々が流入している。中国では、農民工と呼ばれる労働者が都市へ移動する現象が顕著に見られる



アクティブ②

経済発展と都市問題について考えてみよう



経済が急速に発展すると、人々の暮らしは良くも悪くも変化します。後者の例としては、人口集中にともなう都市問題の発生があげられます



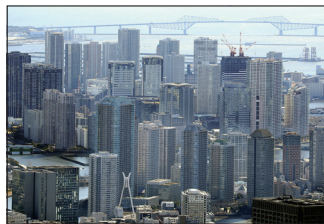
中国とインドネシアは日本と比べて都市化が急速に進んでいるね



東京は都心部と周辺部で異なる問題が生じていそうだね

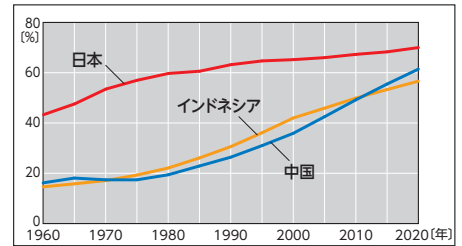


都市化のスピードや経済状況、国内における地域間の差などによって、さまざまな都市問題がありそうだね



▲臨海部に林立するタワーマンション 2019年。東京都心。

◀空き店舗が目立つ商店街 2007年。東京都。多摩市。



▲各国の総人口に占める都市人口率の変化 日本は総務省資料、その他の国は世界銀行資料による。

Try 各国ではどのような都市問題が生じており、どのような取り組みがなされているのだろうか。調べ、まとめてみよう。

が、彼らは職を得て都市に定住しても、^{こせき}戸籍は出身地の農村に置かれたままで、ほとんどの場合、子供を故郷に^{→p.56}残して都市部で働いている。農村で祖父母や親戚と暮らす留守児童は、数千万人にもものぼり、旧正月(春節)には「^{しゅんせつ}春運」と呼ばれる約2.8億人以上の農民工の大規模な^{いくど}里帰りが発生する。幾度となく社会的変化を経験した中国は、伝統的な価値観が崩れかかっている今でも、血縁関係をあらゆる人間関係の中心に置いている。血縁関係で結ばれた絆が強固に保たれている農民工は、都市と農村の両方を股にかけて生きているのである。

消費活動の変化

経済発展による暮らしの変化が最も顕著にあらわれるのが消費活動である。近年、アジア各地には大型ショッピングモールの進出が相次ぎ、またコンビニエンスストアの店舗数も急増している。小売業や外食産業で新しい業態が広がりを見せるなか、アジアでは、庶民の生活に屋台や露店がいまだに強く根付いている。夫婦共働きが多く、外食が一般的に親しまれている東アジアや東南アジアでは、都市の至るところに屋台・露店街が形成され、中産階級の人々も含め、都市住民の食を提供する場として機能している。タイの首都バンコクでは、東北部出身者が多いタクシー運転手に故郷の味を提供する屋台が都市中心部の路地裏に多く見られ、屋台を出している人も地方出身者である。消費活動の側面から見ても、^{とくちよう}伝統と革新が共存しているのが、アジアの発展の特徴と言えるだろう。

Try 経済成長による人々の生活文化の変化についてまとめ、伝統と革新が共存する理由について話しあって考えてみよう。



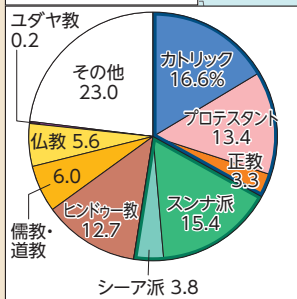
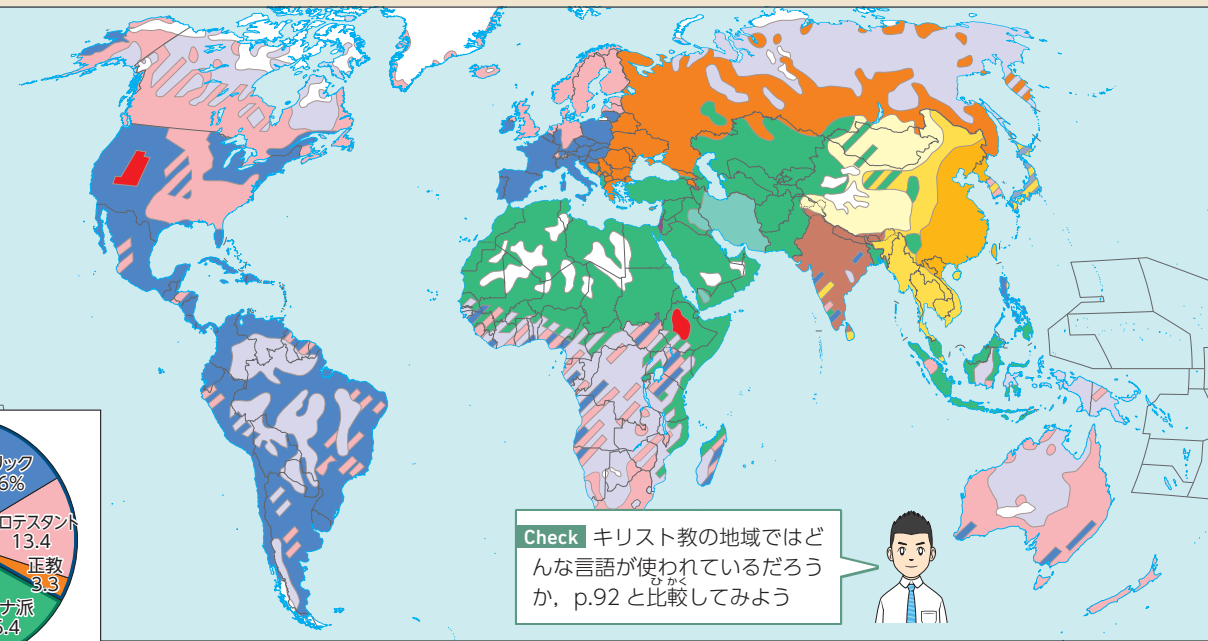
コラム⑥

北アメリカの都市化

北アメリカでは、19世紀中盤以降、とくに北東部と中西部で工業都市が誕生し、移民や農民を労働者として受け入れることで都市人口が増加した。さらに、都市内部への通勤が容易で環境が良い郊外へと中産階級が移住し都市が広域化した。このように、北アメリカの都市化は、工業化による人口増加と交通技術の発達による都市圏の拡大が特徴である。しかし現在、新興国の台頭による工業の衰退によって、かつて労働者階級の居住地であった都市内部の衰退が著しいという問題に直面している。

アジアでは、産業とインフラが整備されていない状態で農民が流入して人口過密になる都市化が特徴で、環境汚染や交通渋滞が深刻な問題となっている。

- キリスト教
 - カトリック
 - プロテスタント
 - 正教(東方正教, キリシヤ正教など)
 - その他
- イスラーム
 - スンナ派
 - シア派
- 仏教
 - 大乗仏教+上座仏教
 - チベット仏教
- その他の宗教
 - ユダヤ教
 - ヒンドゥー教
 - 道教など
 - 神道
 - 自然崇拜など
 - 非居住地



Check キリスト教の地域ではどんな言語が使われているだろうか、p.92 と比較してみよう



1 世界の宗教分布 (上) と世界人口に占める主な宗教人口の割合 (左) Diercke Weltatlas 2015 ほか。

introduction

世界の多様な宗教

世界にはどのような宗教が見られるのだろうか。



世界の宗教

世界にはさまざまな宗教が見られ、キリスト教、イスラーム、仏教のように広い地域で信仰される世界宗教と、ユダヤ教やヒンドゥー教のように特定の民族のなかで信仰される民族宗教がある。宗教の分布は複雑になっており、発祥や伝播などそれぞれの宗教の歴史的背景が影響している。信仰する人の数に違いはあるものの、ほとんどの地域では複数の宗教が共存しており、民間信仰が残る地域もある。キリスト教、イスラーム、仏教の宗教人口は世界全体の約6割を占め、ヒンドゥー教は信仰する民族の人口が多いため、仏教よりも宗教人口が多い。

キリスト教はヨーロッパを中心に信仰され、大航海時代にヨーロッパ世界が拡大して、南北アメリカやオセアニアに伝播した。キリスト教はカトリック、プロテスタント、正教に分かれ、スペインやポルトガルの植民地であったラテンアメリカでは、カトリックが主要な宗教となった。イスラームは西アジアを中心に信仰されており、イスラーム国家の領土拡大や交易などによって、北アフリカや東南アジアへと拡大した。イスラームは、イランを中心としたシーア派と、それ以外の地域に広く見られるスンナ派に大別される。仏教は東アジアや東南アジアに広がっており、中国や日本へと伝わった大乗仏教と、スリランカや東南アジアの国々へと伝わった上座仏教に分かれている。また、チベットでは民間信仰と結び付いたチベット仏教が信仰されている。



1 多宗教礼拝室を示す看板 2010年。EU加盟国の空港で設置数が増加している。

| 宗教 | キリスト教 | イスラーム | 仏教 | ユダヤ教 | ヒンドゥー教 |
|--------|--|---|---|---|--|
| 開祖・創始者 | イエス | ムハンマド | ガウタマ＝シッダールタ(ブッダ) | モーセ | なし |
| 成立時期 | 1世紀はじめ | 7世紀前半 | 紀元前5世紀ごろ | 紀元前6世紀ごろ | 紀元前後 |
| 経典 | 『旧約聖書』『新約聖書』 | 『クルアーン』 | 法華経など | 『旧約聖書』 | 『リグ＝ヴェーダ』など |
| 概要・特色 | <ul style="list-style-type: none"> ・イエスは救世主(メシア) ・神の人間への愛(アガペー)、神への愛と隣人愛 | <ul style="list-style-type: none"> ・唯一神アッラーへの絶対的服従(イスラーム) ・富の独占や偶像崇拜の禁止 ・六信五行(→p.85) | <ul style="list-style-type: none"> ・四諦(四つの真理)を知り、八正道を実践して解脱をめざす ・ヴァルナ制度(カースト制度)を否定し慈悲(生命あるすべてに対する思いやりの心)をもつ | <ul style="list-style-type: none"> ・唯一神ヤハウェの信仰 ・十戒などの律法、選民思想、救世主(メシア) | <ul style="list-style-type: none"> ・バラモン教(→p.72)と民間信仰が融合して成立 ・ヴァルナ制(→p.72)を含めてインドの信仰、社会制度、文化、風習など全体をさす |
| おもな宗派 | カトリック(→p.97) 正教会(→p.97) プロテスタント(→p.97) | スンナ派:多数派 シーア派:少数派 | 上座仏教:悟りをめざし、戒律を厳格に守ろうとする保守的立場 大乘仏教:生命あるすべての救済をめざす | 律法を厳格に守るパリサイ派や富裕者層に広く支持されるサドカイ派など多数 | 多数の神々をそれぞれに信仰する宗派があり、ヴィシュヌ系とシヴァ系の二つに大別できる |

2 世界の主な宗教

日本における宗教

日本では、**神道**と**仏教**を信仰する人が多く、神社や仏閣などの宗教施設が多数存在する。

そのため、私たちの日常生活のなかには、初詣や冠婚葬祭など、これらの宗教とかかわりの深い慣習が見られる。現在の日本では、神道や仏教以外の宗教を信仰する人も増えており、都市部を中心に教会やモスク(マَسジド)などの宗教施設が見られるようになった。

日本における神道や仏教と世界の他の宗教にはいくつかの共通点が見られる。たとえば、大きな神社や仏閣の門前町は、世界各地にある宗教施設を中心とした都市・村落ととらえることができる。また、伊勢参りや四国遍路は、イスラーム教徒がメッカを訪れるのと類似した巡礼にあたる。日本のものは、イスラームやキリスト教とは異なり、途中で多くの場所を訪れるなど、観光の要素を含むことも多い。

宗教に基づいた生活文化

精神文化である宗教は、衣食住などの物質文化とともに人々の生活文化を構成しており、宗教ごとに独自の生活習慣や社会規範が形成される。とくに、ヒンドゥー教やイスラームは人々の暮らしのなかに深く根ざしており、これらの宗教を信仰する人々が多い地域では、それぞれの宗教と強く関連した特徴的な生活文化が見られる。こうした宗教とかかわりの深い人々の暮らしや社会を題材にして、宗教どうしや日本との違いを考えながら、宗教に基づく生活文化を学んでいこう。

Try 異なる宗教間で、宗教に基づいた生活文化の共通点と相違点を調べてまとめてみよう。

グループ3



下のテーマから一つ選んで学習を進めてみよう。

テーマ①

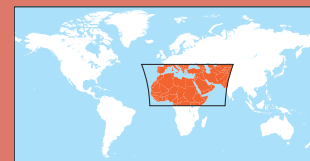
ヒンドゥー教と結び付く生活文化(南アジア)



→ p.72 ~

テーマ②

イスラームと結び付く生活文化(西アジア・北アフリカ)



→ p.80 ~

※どのテーマを選んでも生活文化の歴史的背景を学習できるように、各テーマの冒頭では「歴史につながる内容」を扱っています。

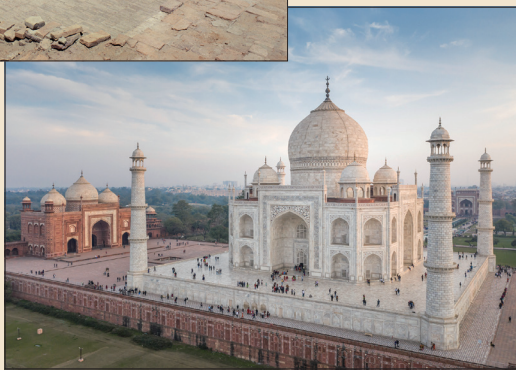


1モヘンジョ＝ダロの大沐浴場跡 パキスタン。長方形で階段のある沐浴場は、のちのインドやスリランカ、東南アジアの遺跡にもしばしば見られる。

なぜインドにイスラームの建物が？



2タージ＝マハル インド。イスラーム様式の特徴であるアーチとドームが多用されている。



1 第二次世界大戦後の南アジア

1 宗教と結び付いた社会の成立過程

南アジアの国々の成り立ちに、宗教はどのようにかかわってきたのだろうか。



紀元前の社会と宗教の発祥

インダス文明の衰退後、インド＝ヨーロッパ系のアーリヤ人が前1500年ごろインダス川流域へ侵入し、前1000年ごろガンジス川流域にまで進出した。

アーリヤ人は自然現象を神として崇拝する**バラモン教**中心の社会を発展させ、現代のインドまで連なる身分制度（**ヴァルナ制**）を作り上げた。前5世紀ごろには、ヴァルナ制を否定する仏教やジャイナ教などの新しい宗教が生まれたものの、バラモン教と民間信仰が融合した**ヒンドゥー教**が次第に勢力を増し、現在に至っている。また、ヴァルナが職業集団と結び付いて成立したカースト制度は、現在もヒンドゥー教の身分制度となっている。

イスラーム勢力の侵入

インドにイスラームが伝わったのは7世紀ごろとされており、インド西部の海岸へやって来たアラブ人の貿易商がその役割を担ったとされる。その後、北西からイスラーム勢力の侵攻が本

格化し、インドでは13世紀以降、インドを本拠地とするイスラーム政権が成立することとなった。

イスラーム諸政権は、インド社会に深く根付いていたヒンドゥー教徒との共存をはかる形で融和的な統治政策を進めた。そのため、インド＝イスラーム文化が繁栄をきわめたほか、ヒンドゥー教とイスラームが融合した宗教（シク教）も成立した。

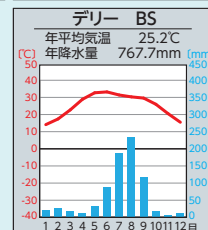
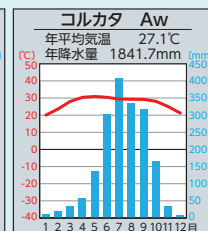
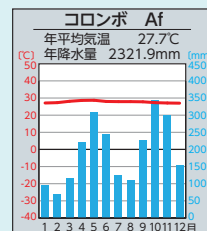
しかし、17世紀後半にこの融和策が転換されると、地方勢力の離反が進んだため、インドにおけるイスラーム政権の統治力は次第に弱体化していった。

植民地支配と独立

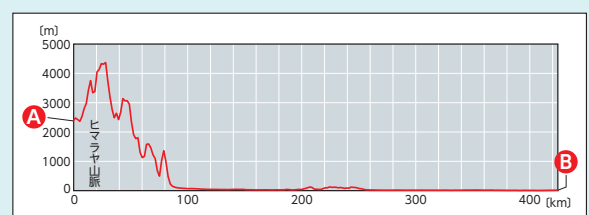
16世紀以降、ヨーロッパ勢力による植民地支配が各地域で進展した。とりわけ、イギリスは東インド会社を通じてインドへの進出をおし進め、19世紀なかばにはインドを直接の統治下に置いた。イギリスは、ヒンドゥー教徒とイスラーム教徒、またカーストなどの集団間の対立を利用する分割統治をおこなった。

第一次世界大戦後、独立運動が本格化すると、イギリスは宗教対立を利用しつつ弾圧したが、独立運動は継続された。第二次世界大戦後の1947年にはヒンドゥー教徒主体のインドとイスラーム教徒主体のパキスタンがそれぞれ独立を果たすこととなった。

Try 宗教と結び付きが深い国々の特徴について、宗教ごとに表にまとめてみよう。



Check 雨温図を参考に、降水量の季節変化と季節風（モンスーン）との関係について考えてみよう



ガンジス川とヒンドゥー教の組み合わせはよく聞くけど、具体的にどう関連しているのだろう (→ p.75)

ガンジス川の流域は湿潤な気候が広がっているし (→ 巻頭⑥)、土壌が肥沃な場所も多いだろうから、いろいろな作物が生産されていそうだね (→ p.76)



この地域の農業には、モンスーンも強く影響しているそうだね。



① ヒマラヤ山脈の都市カトマンズ ネパール。

北部の山脈と東部の低地

→巻末⑧⑨

北部には変動帯に属するヒマラヤ山脈 (1)、チベット高原、パミール高原などが分布し、中部ではヒマラヤ山脈からもたらされた土砂によって形成されたヒンドスタン平原が分布する。東部ではガンジス川がベンガル湾に注ぐ。その下流ではベンガルデルタ (2) が形成され、世界有数の稲作地域が形成されている。南部のインド半島は、安定陸塊であり、広大なデカン高原が広がっている。

湿潤の東部と乾燥の北西部

→巻頭⑥⑦

南アジアは全体的に季節風（モンスーン→ p.35）の影響を受ける。熱帯のスリランカ南部は1年中高温多雨であるが、インド東部とスリランカ北部は雨季と乾季が明瞭である。夏（5月～10月）は南西からのモンスーンが、インド南西岸やインド北東部のアッサム地方に大量の降雨をもたらす。温帯のガンジス川中・上流域もモンスーンの影響で夏に多雨、冬に少雨となる。乾燥帯はデカン高原やインド北西部からパキスタンにかけての地域に分布する。サイクロン（インド洋で発生する熱帯低気圧→ p.177）が、沿岸部に大量の雨をもたらすことがある。

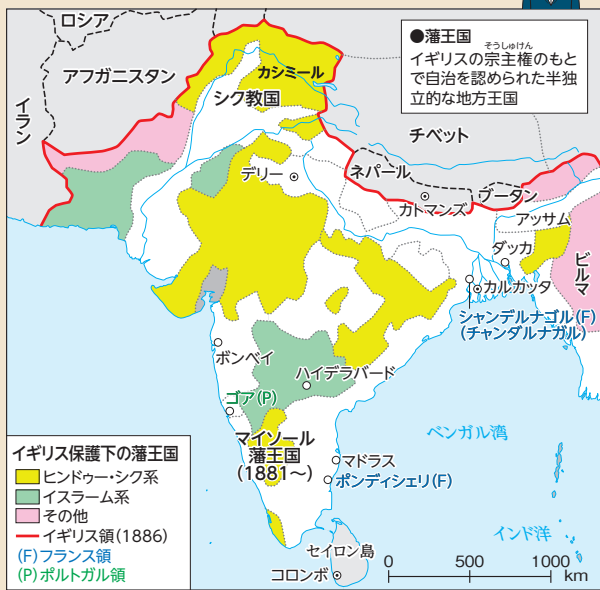


② 洪水被害を受ける都市ダッカ バングラデシュ。

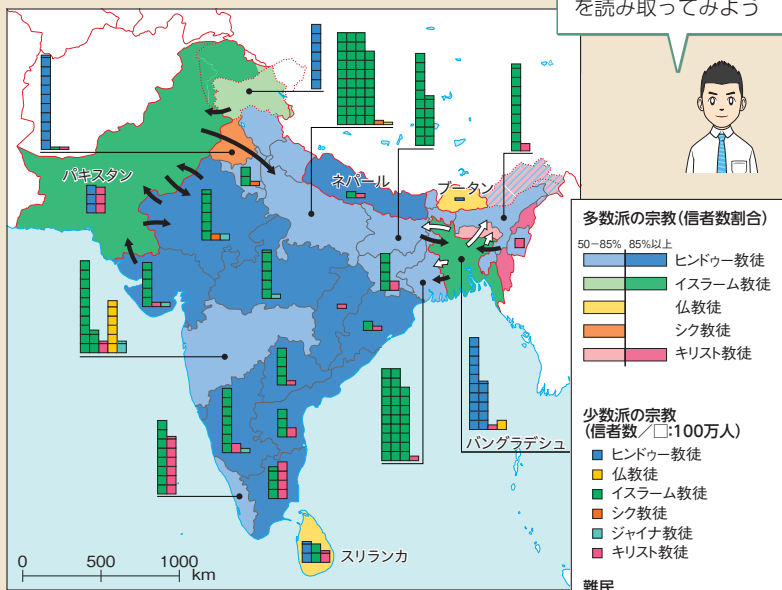
南アジアでは、人々の生活文化が植民地支配の影響を受けていそうだね



Check 図1と比較しながら、宗教分布の特徴を読み取ってみよう



1 19世紀なかばの南アジア



2 宗教分布 Diercke Weltatlas 2015 による。

2 ヒンドゥー教と深くかかわる生活文化

人々の生活文化にヒンドゥー教はどのようにかかわっているのだろうか。



南アジアの特色

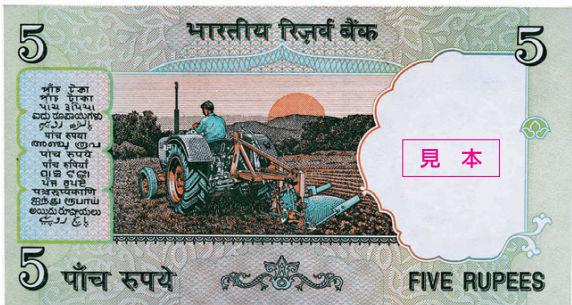
インド半島は、北部は三方を山々に囲まれて、南部はインド洋に面しており、他地域との交流が、古代より陸路や海路によって盛んにおこなわれてきた。その結果、南アジアでは多くの民族が暮らし、多様な言語が話されている。また、ヒンドゥー教、仏教、シク教などの宗教が生まれ、外からもイスラームやキリスト教などが入り宗教的にも多様性に富む地域となっている。

インドの言語と宗教

南アジアで最大の面積と人口を誇るインドでは、さまざまな面で多様性を見出すことができる。たとえば、言語では、連邦公用語であるヒンディー語のほか、各州に21種の憲法公認語がある。多数派であるヒンディー語の話者であっても、その数は総人口の約4割に過ぎない。そのため、イギリス統治下で広がった英語が共通の言語として重要な役割を果たすようになり、近年では学校教育で英語教育を受ける人々が増加している。

また、インドは多宗教国家としての側面ももっている。ヒンドゥー教徒が多数を占めるものの、イスラーム教徒やキリスト教徒も多く、各宗教に根ざした多様な生活文化が営まれている。その一方で、インドは過去に宗教間紛争を経験しており、とりわけパキスタンとの分離独立は宗教と深くかかわったものであった。

1 さまざまな言語が印字されたインドの紙幣





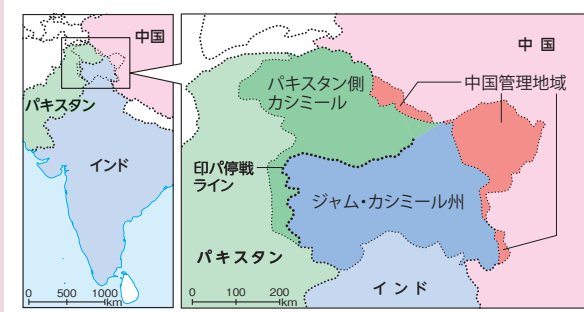
歴史への旅⑤

インド・パキスタンの分離独立と領土問題

第二次世界大戦後、イギリスの植民地支配下にあった南アジア地域は、1947年、ヒンドゥー教徒が多数を占めるインドとイスラーム教徒が多数を占めるパキスタンに分離して独立した。

独立後もインド、パキスタン両国の対立が続き、カシミール地方の帰属をめぐる衝突が繰り返された。また、パキスタンはインドを挟んで東西に分かれていたが、1971年にインドの支援のもとで、東パキスタンが西パキスタンから独立してバングラデシュとなった。

さらに、インドは1974年に最初の核実験を、パキスタンは1998年におこなっており、両国とも核兵器の保有を宣言し、現在もインドとパキスタンの対立関係は継続している。



▲インドとパキスタンの分離独立 1947年。インドからパキスタンに向かう列車に押し寄せるイスラーム教徒の難民。

◀カシミール地方における領土問題

ヒンドゥー教と人々の生活

インドで多数派を占めるヒンドゥー教徒の生活は古くからその教義に強い影響を受けたものが多い。経済発展が進む現代においても、年中行事のなかで宗教行事を欠かさない家庭は多い。

- たとえば、ヒンドゥー教では河川の水を用いた儀式が重視される。とくにガンジス川はそのものが崇拝の対象になっており（河川崇拝）、沐浴場（ガート）で体を清めるなどの光景が見られる。また、不殺生の戒律を守って肉を食べない人が多く、ヒンドゥー社会では菜食主義が広く浸透している。ヒンドゥー社会で神の乗り物として崇拝されている牛は、労働力として輸送や農耕に用いられるほか、たんぱく源として重要な生乳（ミルク）や肥料としての糞尿などの供給源として、人々の生活になくなくてはならない存在となっている。

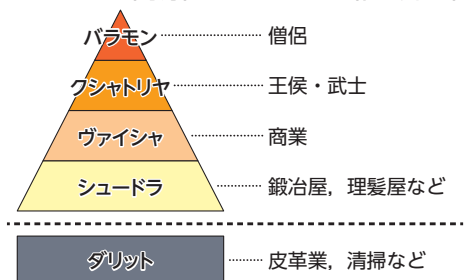
- このように、教義に基づく伝統が人々の生活の支柱となっている一方で、人々の生活を制約するものとして機能している事例もある。たとえば、ヒンドゥー教徒はカースト制度によって、身分の社会的な上下関係が生まれながらにして決められる。この制度はジャーティと呼ばれる世襲的職業集団と組み合わさって成立してきた差別的な制度となっている。現在ではインドの憲法がカースト制度による差別を禁じ、下層カーストへの優遇策を講じているが、ヒンドゥー教とカースト制度は密接な関係にあるため、差別は根強く残っている。

Try カースト制度が人々の生活文化に及ぼす影響について考えてみよう。

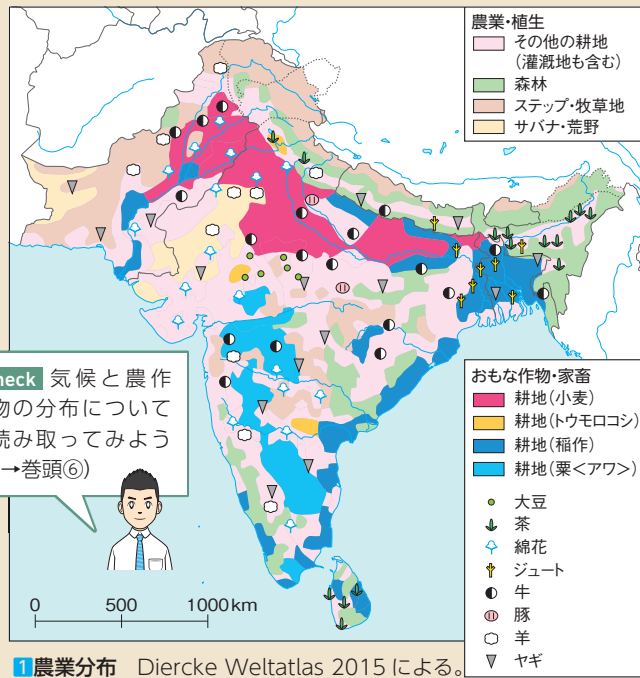


2 ガンジス川の沐浴 インド。ヴァラナシ。今も多くのヒンドゥー教徒が、罪や汚れを清める沐浴のため聖なるガンジス川を訪れる。

ヴァルナ(身分) ジャーティ(社会集団)



3 カースト制度



1 収穫された綿花(左)と綿織物の輸出変化(下)



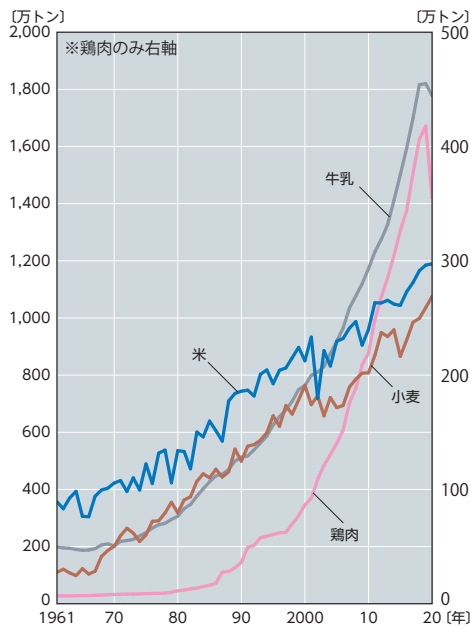
歴史への旅⑥

植民地化と綿花栽培

イギリスの植民地であったインドでは、綿花が綿織物の原料として栽培され、家内工業製品として生産された綿織物はイギリスに輸出されていた。しかし、産業革命によって機械で大量に綿織物がイギリス国内で製造されるようになり、インドの綿織物業は衰退した。こうしてインドは、イギリスへ原料の綿花を輸出するための綿花栽培地域となった。

3 産業の発展と宗教とのかかわり

産業の発展に宗教はどのようにかかわってきたのだろうか。



2 インドにおける主な農作物の生産量の推移 FAO STAT による。

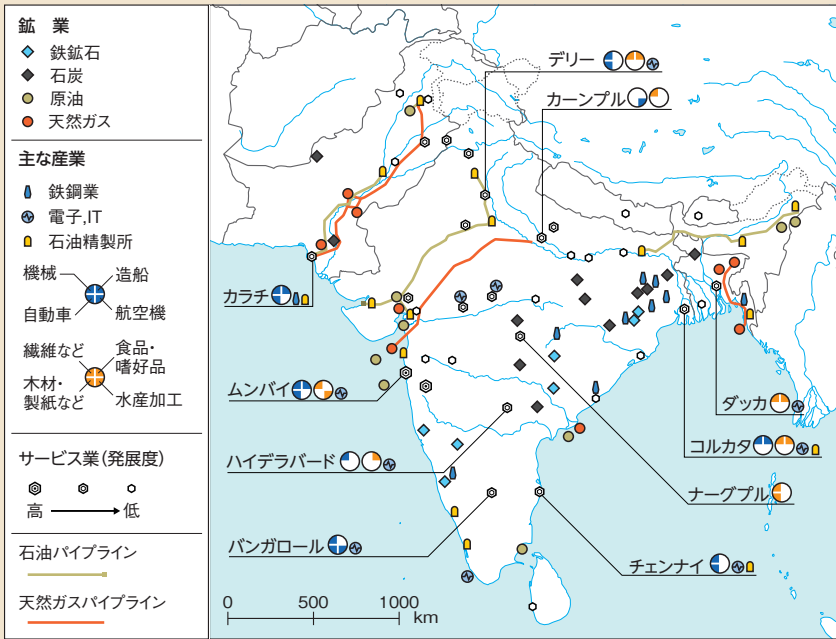
インドにおける農業の多様性

インドの各地域では気候に適した作物が栽培されている。夏の季節風(モンスーン)の影響で年間降水量の多い東部や南部では米の栽培が盛んである。また、冷涼な北西部では灌漑の整備が進んでおり、小麦が栽培されている。綿花は乾燥に比較的強く、年間降水量が少ない乾燥した条件で栽培が可能のため、乾燥地帯である西部地域での栽培が多い。

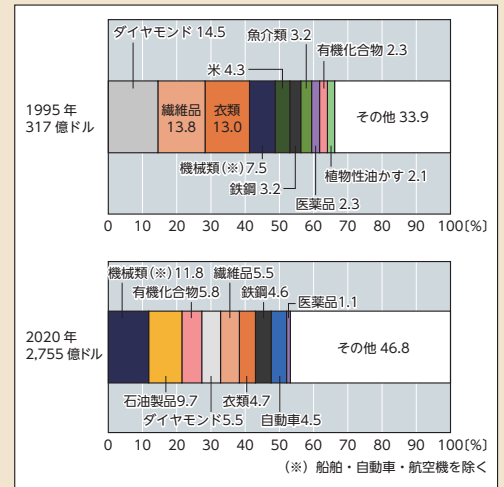
インドにおける農業の発展と課題

1966年、インドの首相に就任したインディラ・ガンディーは、当時の食料不足に対応するため、農業の近代化を推進し、農作物の増産をめざした。この緑の革命の実現により、インドの農業生産量は飛躍的に増加した。さらに、1970年代後半には、穀物などを乳牛の飼料として用いる余裕が生じたことで、生乳が飛躍的に増産された(「白い革命」)。また、近年では都市部を中心に食肉需要が高まりを見せている。とりわけ、宗教上の理由から鶏肉や鶏卵が好まれ、その生産量が増加している。

その一方で、灌漑設備の整備によって地下水利用率が高くなり、地下水位の低下など、水不足問題が発生している。また、農業の近代化は高収量品種や化学肥料などの費用を増加させ、それを負担できる富裕な農民と負担できない貧しい農民との所得格差を広げた。こうした格差に基づく農村の貧困問題は、農村部で根強く残るカースト制の差別や偏見とも結び付き、今も課題となっている。



3 鉱工業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。



4 インドの輸出品目 UN Comtrade などによる。

インドの工業と ICT産業の発展

イギリスから独立したインドは、政府主導の工業化政策のもと、鉄鉱石や石炭などの豊かな鉱山資源を用いて工業の発展をめざしていった。当時は外国からの輸入を制限して、自動車、航空機などほとんどの製品を国内で生産していた。しかし、社会主義的な経済政策に基づいていたため生産効率は悪く、その状況はなかなか改善されなかった。

1980年代からは経済の規制緩和を進め、1991年に新経済政策を導入して本格的な経済自由化を進めた。その結果、工業生産は急速な成長を見せ、二輪車の生産台数が世界第1位にまで成長したほか、自動車の生産台数も増加しており、インドの国際競争力は伸びつつある。また、インドの**情報通信技術（ICT）産業**は1991年以降、急速に発展した。とくに、コンピュータソフトウェア産業の伸びが著しく、カーストにとらわれない優秀な人材が多く雇用されている。

現在も経済成長を続けるインドは、豊富な資源と労働力、大きな市場をもち、**BRICS**の一国として注目されている。

インドにおける ICT産業の発展と要因

①イギリス植民地時代の影響で英語を使える人が多かったこと、②理数教育が充実しており優れた ICT技術者を生み出す土壌があったこと、③ソフトウェアはインターネット回線を使って製品を輸出できるため、大規模なインフラ整備が不要だったこと、④欧米との時差（→p.9）があるため、24時間体制でのソフトウェア開発が可能であること、などがあげられる。

Try 産業の発展によるヒンドゥー教徒の人々の暮らしの変化について考えてみよう。



2 インドの工場生産される国産メーカーの自動車 2018年。アフマダーバード郊外。

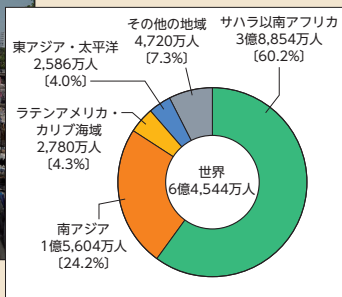


3 インドのソフトウェア開発会社 2011年。ムンバイ。

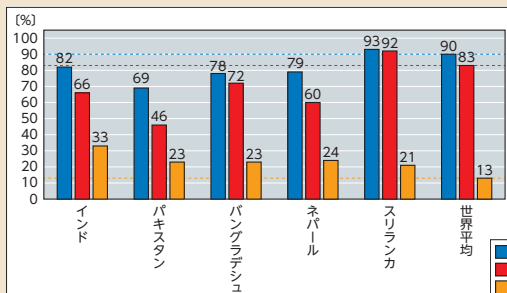
人々の経済的な格差が大きそうだね



1 1日2.15ドル未満で生活する人々 2019年。世界銀行資料による。



2 高層ビルとスラムの共存 インド。ムンバイ。



Check 南アジアの国々と世界平均との数値の差を図から確認してみよう



2 主な南アジアの国における教育や健康に関する指標 各国の最新統計年。世界銀行資料による。



3 グラミン銀行から融資を受ける女性たち バングラデシュ。グラミン銀行(グラミンとは「村」の意味)に代表されるマイクロクレジットは、貧困層に無担保・低金利の少額資金を融資している。これは、貧困からの脱却には、物資を贈与するよりも、生産活動に参加して生活基盤を確立できるようにするほうが有効だ、とする考え方に基いている。とりわけ、女性への融資は「女性が経済力をつければ、子どもにきちんとした食事や教育が行き届く」といった考えに基づくものである。

4 宗教・社会の課題と変化

宗教と結び付きが強い社会はどのような解決すべき課題があるのだろうか。



1 インドでは、人口の過半数を占める被抑圧階級(ダリットなど/→ p.75)への各種優遇政策が打ち出されている。たとえば、公務員採用数や高等教育機関への入学定員などについては、被抑圧階級層に対する「定数枠」が設けられている。



1 同時多発テロ 2008年。インド。ムンバイ。

宗教と課題

ヒンドゥー教徒とイスラーム教徒が多い南アジア地域では、教義が社会的な課題に結び付いていたり、信者数の違いが多数派と少数派を生み出し、それが政治的な課題につながっていたりするケースも見られる。

たとえば、インドでは、カーストを主な背景とする貧困や所得格差の固定化といった問題が今なお根深く残っているほか、カーストを基準とした政治的・経済的な優遇政策が、国民の分断や対立を生み出している側面がある。また、イスラーム教徒も生活するインドでは、イギリス植民地時代から続くヒンドゥー教徒との集団的な対立(コミュニナリズム)が今なお解消されておらず、近年でも宗教対立を背景としたテロ事件がしばしば発生している。一方、イスラーム教徒が大半を占める隣国のバングラデシュでは、国内のヒンドゥー教徒への大規模な迫害が時折発生し、インドとの外交問題にまで発展している。

南アジアの諸課題

近年の急速な経済成長の進展にともない、地域全体は発展しつつあるものの、その恩恵は地域全体に平等に配分されているとはいえない。たとえば、初等教育の普及率が多くの国でいまだに低く、保健、医療、福祉サービスも十分に整備されていないため、そうした社会生活に直結するインフラ整備も課題となっている。

また、経済成長にともなう都市域の発展は都市域への人口集中を促



グローバル化とネパール

ヒマラヤの小国として知られるネパールは、山間地域の内陸国で地下資源に乏しく、外貨獲得の手段が観光業に限定されていた。

そのような状況下で経済のグローバル化が進み、移民送金を見込んだ国の外貨獲得政策が実施された結果、中東地域の豊かな産油国などへ出稼ぎに行く若者が増加した。現在では、ネパールの移民送金額はGDPの約3割に達するまでになっている。

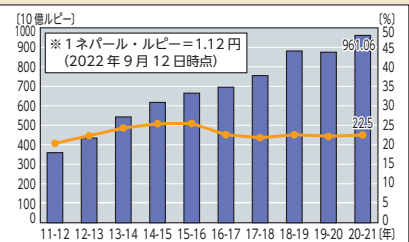
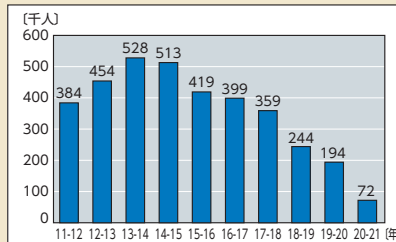
その一方で、もともと首都カトマンズや近隣の南アジア地域へ出稼ぎにいく住民の多かった農村部では、さらなる人口減少と過疎化が進み、農業の担い手不足から廃村となる村もある。また、若者の外国へへの出稼ぎが増えたことで、カトマンズでも少子高齢化問題が生じてきており、政府も対策を講じはじめている。

| 順位 | 出稼ぎ先 | 人数 |
|----|----------|------------|
| 1 | マレーシア | 167万2,023人 |
| 2 | カタール | 160万7,241人 |
| 3 | サウジアラビア | 118万6,152人 |
| 4 | アラブ首長国連邦 | 83万9,382人 |
| 5 | クウェート | 19万2,659人 |
| 6 | バーレーン | 7万3,376人 |
| 7 | 韓国 | 5万6,881人 |
| 8 | オマーン | 4万5,091人 |
| 9 | 日本 | 2万1,824人 |
| 10 | アフガニスタン | 1万8,125人 |
| | その他 | 17万1,698人 |
| | 計 | 588万4,452人 |



▶ 出稼ぎ労働者専用の窓口
ネパール。カトマンズ空港。

▲ 出稼ぎ労働者数の累計（～2021年）
ネパール大使館資料による。



▲ 出稼ぎ労働者数の推移(左)と移民送金額の推移およびGDP比(右) ネパール大使館資料による。

し、住環境の悪化や交通渋滞などの都市問題を深刻化させる一因となっている。一方、都市域への人口流出で人口減少が進む農村域では、過疎化が進行し、農業の担い手不足などが大きな課題となっている。

グローバル化にともなう変化

2000年代から進んだ世界経済のグローバル化は、南アジアの産業立地に新しい動きをもたらしている。

とりわけ、欧米の多国籍企業が安価で豊富な労働力を求めて、労働集約型工業の製造拠点を立地させており、南アジアの社会変化の要因の一つとなっている。

たとえば、バングラデシュでは衣料品の製造をおこなう繊維工業の工場が数多く立地しており、所得水準の向上、中間層の増加やそれにとともなう消費の拡大に貢献している。その一方で、低賃金や長時間労働など、労働環境の劣悪さが大きな問題となっている。先進国で消費される安価な衣料品の背景には、こうした課題が存在している。

2000年代以降は、グローバル化の進展によって、経済的に豊かでイスラム教徒も多い中東地域の産油国への出稼ぎが急増している。

また、インドで急速に発展したICT産業は、カーストにとらわれることなく優秀な人材が雇用される傾向が強いため、社会的な格差解消にも大きく役立っている。一方で、優秀なICT技術者が多いインドでは、海外在住のインド人(印僑)ネットワークを背景に、待遇のよいアメリカ合衆国などの先進国に移動する動き(頭脳流出)も見られる。

② 1日2.15ドル未満の収入で生活している絶対的貧困層は世界で約6.5億人おり(2019年時点)、そのうちの約4人に1人が南アジア地域で暮らしている(1)。

①労働集約型工業

生産コストのなかで、労働力に依存する業務の割合が大きい工業のこと。医薬品やソフトウェア開発など、知的労働力に依存する知識集約型工業も、労働集約型に分類されることがある。一方で、鉄鋼業や石油化学工業など、労働力ではなく資本(お金や生産設備など)への依存度が高い工業は資本集約型工業と呼ばれる。繊維工業は労働集約型工業に分類されてきたが、近年の自動生産技術の普及などによって、徐々に資本集約型へシフトしているとする指摘もある。



④ 縫製工場働く労働者 2012年。バングラデシュ。

Try 宗教的な慣習から生じる課題の解決策について話しあって考えてみよう。

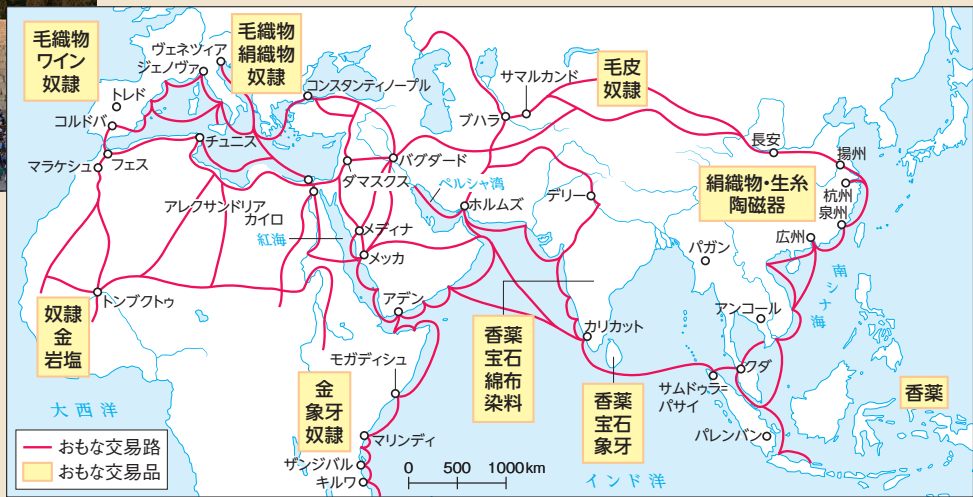


1 エルサレムの旧市街
岩のドーム（左手奥）
と嘆きの壁（右）。

西アジアは昔から人やモノが
行き交っていたんだね



2 隊商 アルジェリア。



1 ムスリム商人の主な交易路と交易品

1 イスラームの誕生と文化の伝播

なぜイスラームは西アジアを中心に拡大したのだろうか。



一神教の発祥地

西アジア・北アフリカ地域は、一神教の発祥地である。紀元前 11 世紀に現在のパレスチナに王国を建てたヘブライ人は、その後の苦難のなかで唯一神ヤハウェへの信仰を深め、民族宗教であるユダヤ教を成立させた。1 世紀はじめには、ローマ帝国支配下のパレスチナで、ユダヤ教の考え方や戒律主義を批判してイエス・キリストの弟子たちを中心にキリスト教が成立した。そして 7 世紀には、隊商貿易で繁栄したオアシス都市メッカとメディーナを中心に、神の啓示を受けた預言者ムハンマドがイスラームを広めた。いずれの宗教も唯一神を信仰している。

文明の十字路

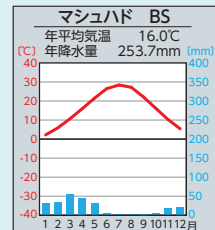
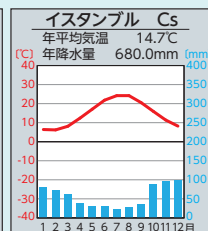
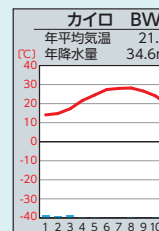
一神教が誕生した西アジア・北アフリカ地域は、文明の十字路でもあった。歴史をさかのぼると、ティグリス・ユーフラテス川周辺に栄えたメソポタミア文明や、ナイル川周辺のエジプト文明などの古代文明の中心になったのも、この地域である。

これらの古代文明を引き継いだ諸王朝やその後におこった大国に挟まれたこの地域では、人・モノ・情報が交差した。この地域を中心に、東は中国、西はヨーロッパを結ぶ陸の交易路がいくつも作られたのである。なかでも有名なものが、中国の絹を西方にもたらしたオアシスの道（シルクロード）である。乾燥した地域が広がっているため、これらの交易路はオアシスを結ぶように作られた。隊商は、ラクダやロバなどに交易品や食料を載せた人と動物の集団であるキャラバンを組んで移動した。この交易路を通じて、中国からは絹織物や製紙法、火薬などが中央アジアや西アジア、そしてヨーロッパに伝わった。反対に、ローマからは貴金属などがもたらされた。

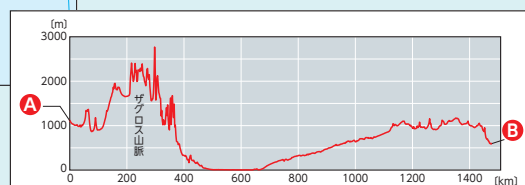
同時に、海の道と呼ばれる中国からインド洋、紅海を経てヨーロッパに至る海の交易路も開拓された。地中海ではフェニキア人が紀元前 12 世紀ごろから沿岸に大小さまざまな都市国家を作り、そこを拠点に地中海に交易網を張り巡らした。フェニキア人はアルファベットのもととなる文字をはじめ、さまざまな文化を東方からヨーロッパに伝えた。

そして、イスラームが広まった地域では、人々は、こんにちに至るまで宗教と深く結び付いた生活や政治・社会活動を営んでいる。

Try 現在のイスラームの分布を交易路との重ね合わせから説明してみよう。



Check 気温や降水量を、東南アジア(→p.59)と比較してみよう



イスラームは乾燥地で信仰されている宗教、というイメージが強いな

でも、イスラームは世界宗教(→p.70)だから、他の場所でも信仰されているんじゃないかな



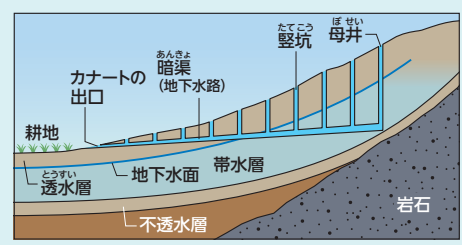
イスラーム教徒が最も多いのはインドネシアだったよな…(→p.84)。イスラームの拡大には海を通じた交易も大きな影響を与えていそうだね(→p.61,64)

広大な乾燥地

→巻頭⑥⑦, 巻末⑧⑨

西アジアと北アフリカには、乾燥帯が広がっている。アラビア半島にある「空白の地域」を意味するルブアルハリ砂漠、それに連なるネフド砂漠が、その代表である。ヒンドークシュ山脈(アフガニスタン)やザグロス山脈(イラン)、イエメン、レバノンに見られる山岳地帯、そして北アフリカのアトラス山脈と地中海を除くと、大半が砂漠気候やステップ気候に属する。人口が集中するのは、乾燥地域を流れる外来河川流域および地下水が豊富なオアシス地帯に限られている。水に恵まれない地域では、ベドウィンと呼ばれる人々が、古くからオアシスを拠点に遊牧をおこなってきた。人口集中地域では、外来河川から水を引いて作った運河や地下水を引く**カナート**(北アフリカではフォガラと呼ばれる)などを基軸とした灌漑システムが整備され、灌漑農業の中心を担ってきた(1)。

トルコ南部、シリア、レバノン、イスラエル/パレスチナ、そして北アフリカなどの地中海沿岸は、冬に一定の降雨がある一方で、夏は日差しが強く乾燥する地中海性気候に属する。そのため、乾燥に強いオリーブやブドウ(1)、柑橘類などが栽培されている。また、ビーチリゾートなどの保養地として開発が進んでいるところもある。



1 地下水路(カナート) 地下水路には砂や泥がたまるため、点々と掘り、専門の職人が地下水路の維持をしている。この技術は前8世紀のペルシアにはじまり、やがて中央アジア、北アフリカ、イベリア半島まで伝えられた。写真はオマーン。



1ブドウの収穫 チュニジア。

歴史への旅⑦ イスラームの成立と拡大



▲カーバ神殿 メッカ。



▲ 6世紀のアラビア半島

①イスラームの成立

アラビア半島の南西に位置する紅海沿岸部のヒジャーズ地域は、イエメンを經由してシリアへと続くインド洋交易上の重要な拠点であった。紅海を通る貿易ルートが栄えるようになると、ヒジャーズ地域の商業都市メッカの機能も増大した。メッカには多神教のカーバ神殿があり、こうした交易で巨額の富を蓄積したアラブ人の一部族（クライシュ族）が支配していた。

クライシュ族の一員として生まれた預言者ムハンマドは、7世紀に唯一神アッラーの啓示を受けてイスラームを広めた。だが、多神教や偶像崇拜を禁止し、富の独占や差別を否定し、社会公正や貧者の救済を主張するイスラームの教えをクライシュ族が否定し、ムハンマドへの迫害を繰り返した。

そこで、ムハンマドはメッカから北部のメディナに拠点をうつし（これを聖遷＝ヒジュラと呼ぶ）、イスラーム共同体を樹立した。ムハンマドはメディナを拠点にジハード（聖戦）を進め、メッカを征服してアラビア半島の統一を達成した。



▲ムハンマド 570?～632

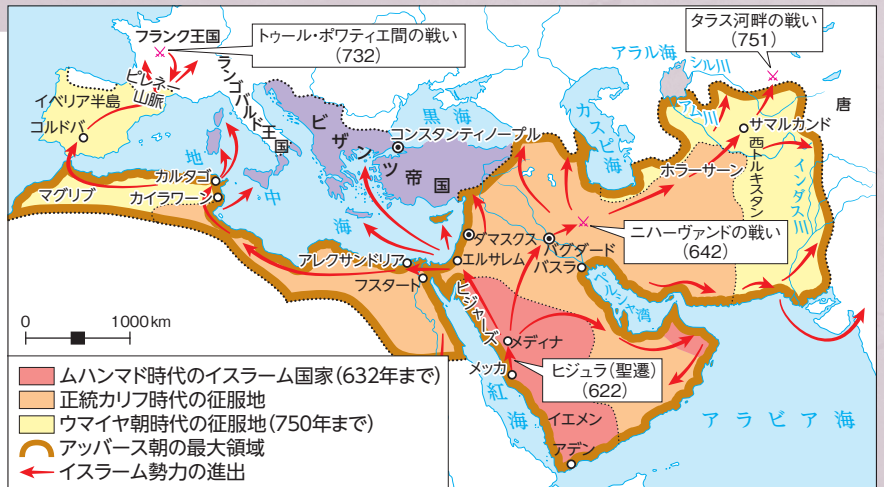
補説 イスラーム共同体とジハード

イスラーム共同体（ウンマ）とは、イスラームの教えに従う者の共同体をさし、それは人種や民族をこえて信者の間に広がっている。ジハードとは、聖戦と訳され、神のために自己を犠牲にして戦うことを意味する。ジハードは、信仰とイスラーム共同体の防衛・拡大のために共同体全体に課せられた連帯的義務とされている。とはいえ、もともとは自己の心の悪と戦い、社会的公正を樹立するために奮闘努力することを意味し、必ずしも戦争の論理ではない。

②イスラームの拡大

ムハンマド没後に、イスラームを布教するための聖戦が社会建設の原理となり、その結果、大征服が進んだ。東方のササン朝ペルシアを滅ぼし、西方はエルサレムやシリア、エジプトをビザンツ帝国から奪い、それらの地にアラビア半島から多くのアラブ人が移住した。シリアを拠点にしたウマイヤ朝は、北西インドや北アフリカ、イベリア半島まで征服した。ウマイヤ朝では、アラブ人が特権を持っており、他民族はイスラームに改宗しても納税の義務を負ったため、アラブ人を優遇するアラブ帝国と呼ばれている。

だが、750年にウマイヤ朝を倒してイラクに成立したアッバース朝では、アラブ人の特権は失われ、ムスリム（イスラーム教徒）の平等原則が確立された。政治はイスラーム法（→P.84）に基づいて実施されるようになり、アラブ帝国からイスラーム帝国へと性格をかえていった。首都が置かれたバグダードは、イスラーム帝国の政治・経済・文化的中心として大いに繁栄した。

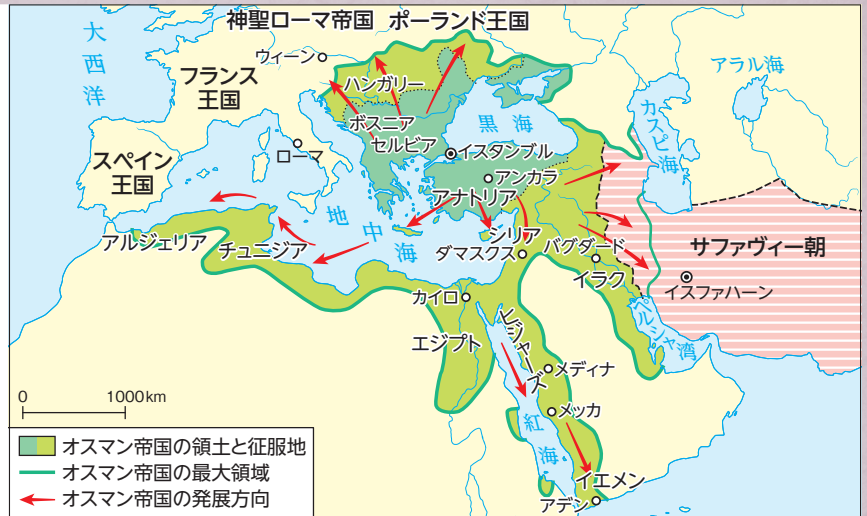


▲イスラーム帝国の発展

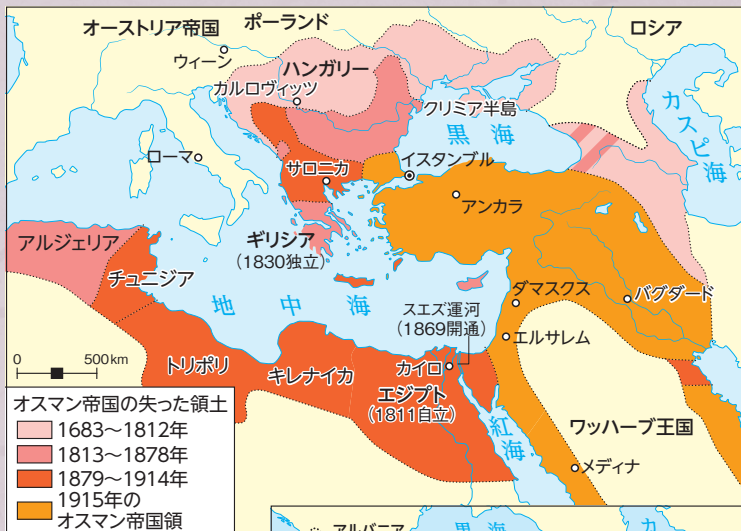
③オスマン帝国の発展

9世紀なかばから地方に独立王朝が生まれ、アッバース朝は最終的にモンゴルの侵入によって崩壊した。その後、再びイスラームの大帝国をつくったのは、ビザンツ帝国を滅ぼしたオスマン帝国である。イスタンブルを首都とするこの帝国は、13世紀末に成立して以降、強力な軍力でバルカン半島を支配し、ヨーロッパに攻め込んでウィーンを包囲するなど（第一次ウィーン包囲）、キリスト教世界に大きな脅威を与えた。帝国の周辺には、イランのサファヴィー朝、インドのムガル帝国などのイスラーム世界が広がった。

オスマン帝国は、他宗教の信者に対して改宗を強制せず、租税を納める限りその信仰を認めるという寛容政策をとった。このように、宗教的集団を統治の基本単位とし、一定の自治を認めるミレット制というやわらかな専制体制が敷かれた。



▲オスマン帝国の発展（16～17世紀）

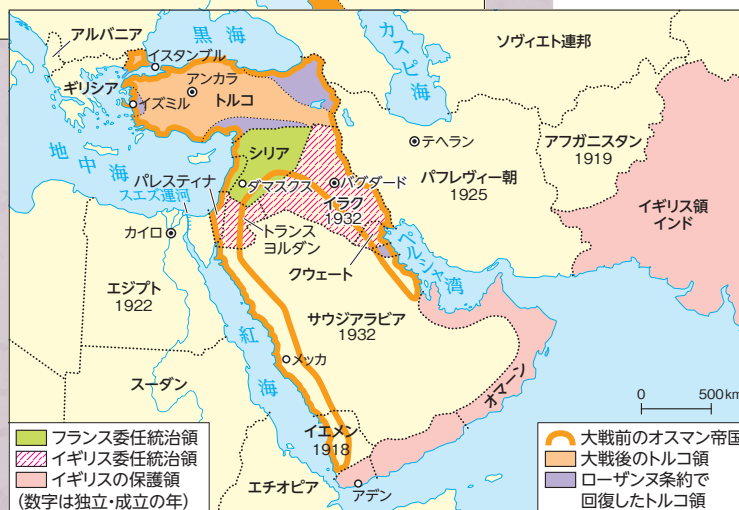


▲オスマン帝国の解体

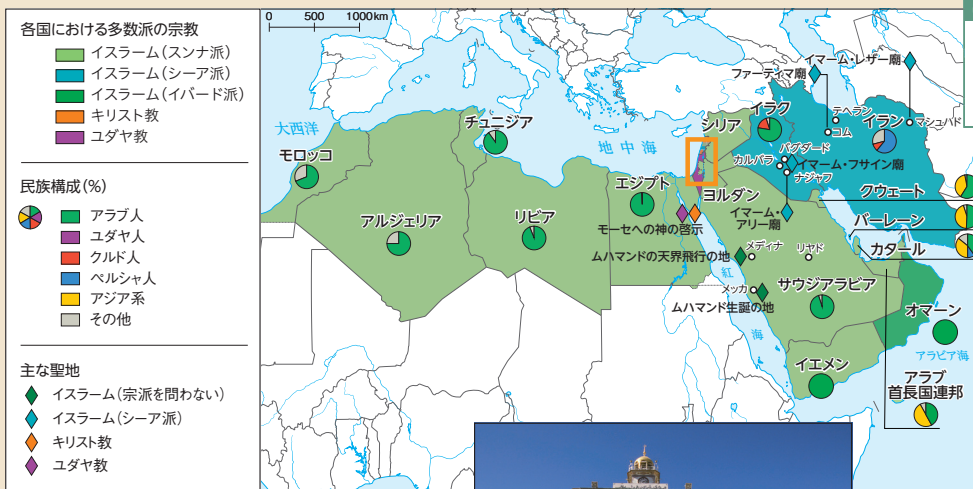
④西洋列強の進出と新たな時代

こうして繁栄をきわめたオスマン帝国だが、17世紀後半に第二次ウィーン包囲に失敗して以降、近代化に先行するヨーロッパ列強に対する劣勢が明らかになった。19世紀には、支配下の諸民族に独立の動きが強まり、これに、バルカン半島への南下政策（→ p.106）をとるロシアや、エジプトを確保したいイギリスなど、ヨーロッパ列強の進出がからんで、オスマン帝国をめぐって複雑な国際関係が展開された。これを「東方問題」という。

オスマン帝国は、第一次世界大戦ではロシア・イギリス・フランスと対立するドイツ側に立って参戦して敗れ、領土の分割が決定した。オスマン帝国はトルコ革命の勃発で1922年に滅亡し、トルコ共和国が成立するが、イラク・パレスチナ・シリアなどはイギリスとフランスによる委任統治という名の植民地主義支配を経験した。宗教集団を統治の基本単位としたそれまでのイスラーム的な支配構造が崩壊した西アジア・北アフリカは、やがてパレスチナ問題（→ p.89）やさまざまな民族紛争の時代に入るようになった。



▶ 第一次世界大戦後の西アジア



Check 西アジア・北アフリカ以外でイスラームを信仰している地域はどのように広がっているだろうか、確認してみよう(→p.70)



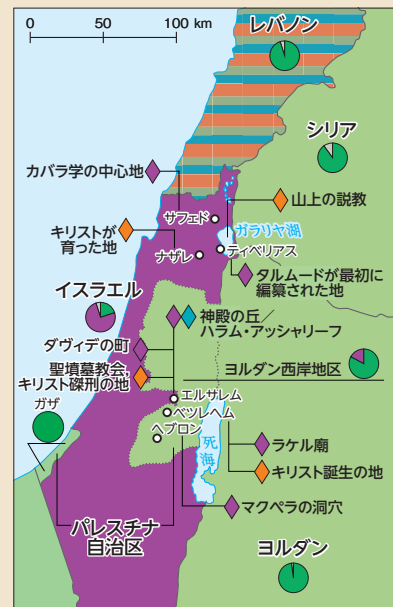
1 西アジア・北アフリカの宗教と民族
原書房『中東世界データ地図』による。



イスラームはいろんな民族に信仰されているんだね



1 イマーム・アリー廟 イラク。



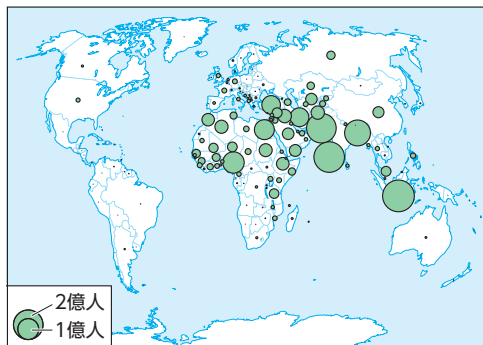
2 イスラームと深くかかわる生活文化

人々の生活文化にイスラームはどのようにかかわっているのだろうか。



①ムスリム

ムスリムは、多数派のスンナ派と少数派のシーア派に分けられる。また、女性はムスリマと呼ばれる。



2 世界のムスリム人口 2020年。Pew Research Center 資料による。

宗教の重要性

こんきょう

乾燥帯が広がる厳しい自然環境のなかで、遊牧や交易を主な生業としてきた人々にとっては、困窮した他者を助け、客人をもてなす習慣がきわめて重要だった。そのため、この地域で生まれたイスラームには厳しい戒律が見られる一方で、「お互いに助け合う精神」を奨励する強い規範も存在する。その規範が現在もなお人々の日常生活に加えて、政治・社会・経済のさまざまな分野で重要な役割を果たしている。

イスラーム

きび

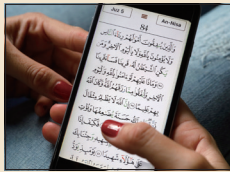
イスラームとは、唯一絶対の神であるアッラーとその使徒ムハンマドを信仰し、啓典クルアーン

の教えに従って生きることをさしている。イスラーム教徒(ムスリム)の生活は、クルアーンやムハンマドの言行録(スンナ)などに基づくイスラーム法(シャリーア)によって定められている。

イスラームは、ムスリム商人の活動の拡大などによってアラビア語を母語とするアラブ人のみならず、トルコ人やイラン人など、多様な民族の間にも広がった。歴史的にはさまざまなイスラーム王朝のもとで領土拡張が進められ、西アジア・北アフリカのほぼ全域にいきわたった。それに加え、地中海周辺の南ヨーロッパ、南アジアや東南アジアにもイスラームが広がった。また、オスマン帝国下では、他の宗教を信仰する人々とのゆるやかな共存が見られた。

ろくしんごぎょう
補説 六信五行

ムスリムには六信五行といって、六つの実在を信じることで、五つのおこなうべき義務がある。六信とは、唯一神アッラー、天使、諸啓典、諸預言者、終末と来世、定命（運命）である。五行とは、信仰告白（「アッラーのほかには神はなし、ムハンマドはアッラーの使徒なり」と唱えること）、礼拝（1日5回）、喜捨（貧者への施し）、断食（ヒジュラ暦第9月の間、毎日、日の出から日の入りまで食をたつ）、巡礼（メッカへ巡礼）をさす。



3 スマートフォンとムスリム 近年はスマートフォンで電子化されたクルアーンが読めるほか、正確な礼拝時間を伝えるアプリも広く普及している。



2 ムスリムの礼拝 エジプト。カイロ。

補説 ヒジュラ暦

西暦622年を元年とする太陰暦をヒジュラ暦と呼ぶ。太陽暦より1年が11日短く、第9番目が断食月、第12番目が巡礼月となっている。ムスリムの宗教的行事はこのヒジュラ暦に従っている。

| | |
|------|-----------------|
| 第1月 | ムハッラム月 |
| 第2月 | サファル月 |
| 第3月 | ラビー・アル=アウワル月 |
| 第4月 | ラビー・アル=アーヒル月 |
| 第5月 | ジュマダー=アル=アウワル月 |
| 第6月 | ジュマダー=アル=アーヒラ月 |
| 第7月 | ラジャブ月 |
| 第8月 | シャアブ月 |
| 第9月 | ラマダーン月(断食月) |
| 第10月 | シャウワール月 |
| 第11月 | ズー=アル=カアダ月 |
| 第12月 | ズー=アル=ヒジャ月(巡礼月) |

ムスリムの生活と変化

ムスリムが多数派の地域では、イスラームの規範が生活のさまざまな側面を規定している。

1 礼拝・巡礼

1日に5回、メッカにあるカーバ神殿の方向を向いて礼拝をおこなうことはムスリムの義務となっており（シーア派は1日3回）、金曜日には集団礼拝がおこなわれる。また、宗派や居住地域にかかわらず、ムスリムならば人生に一度は三大聖地のうちのメッカとメディナへ巡礼するべきだとされている。

2 食事

イスラーム法では、酩酊作用をもたらすアルコール類や豚肉、死肉の飲食の禁止、さらにイスラーム法に則って処理された肉（ハラール肉）以外は食してはならないという食事規定が存在する。

3 断食

1年のうちの約1か月間（ラマダーン月）は、日の出から日没までの間の飲食を絶つ断食が義務付けられている。子どもや妊娠中の女性、高齢者や病人、旅の途中の人々を除いて、太陽が出ている間は一切の飲食ができないが、日没と同時に盛大な食事を友人や家族とともにとる、いわばお祭りのような行事である。

イスラーム世界では、おおむね1970年代までは西洋諸国の影響を受けて、女性が髪を覆うスカーフを外すなど、宗教的な生活習慣が希薄化していった。その後、イスラームの価値規範が再び強くなり、スカーフを被る女性が飛躍的に増えた。また、女性の社会進出が進み、価値観や考え方の多様化が見られる。

Try 宗教の影響を受けた考え方や生活習慣についてまとめ、ヒンドゥー教と比較してみよう。

②三大聖地

メッカ、メディナ、エルサレムがイスラームの三大聖地である。これらはスンナ派・シーア派共通の聖地となっている。



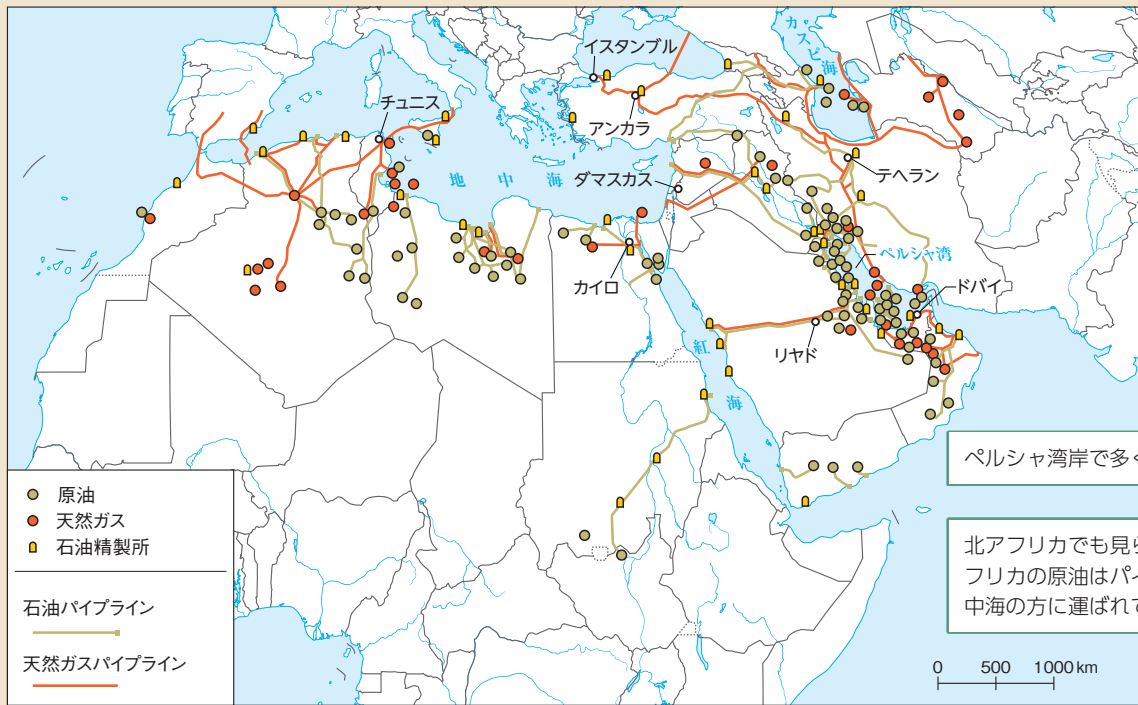
つながる世界⑥

広がるハラール食品

ハラール食品とは、イスラーム法に合法的な食品をさし、とくに神（アッラー）の名によって屠り、血抜きをした肉類および肉製品をさすことが多い。西アジア・北アフリカ地域では、肉屋の大半がムスリムで、ハラール食品であることが前提となっている場合がほとんどである。また、ムスリムが多い南アジアや東南アジアでも、多様なハラール食品が急速に広まっている。

日本でもムスリムの労働者や留学生が増え、ハラール食品の需要が高まっている。それを受けて、大学やスーパーマーケットなどでハラール食品が急速に広がっている（→p.91）。また、ムスリム移民のコミュニティがある西洋諸国では、ハラール食品が容易に入手できることが一般的である。

ハラール食品が広がりを見せるなかで、食品のハラール性（合法性）を認定する統一機関が整っていないという課題もある。



1 西アジア・北アフリカの地下資源
Diercke Weltatlas
2015による。

ペルシヤ湾岸で多く見られるね



北アフリカでも見られるね。北アフリカの原油はパイプラインで地中海の方に運ばれているみたい



3 産業の発展とイスラーム社会の変化

豊富な地下資源はイスラームの社会にどのような影響を与えているのだろうか。



資源を保有する発展途上国

先進国の国際石油資本（石油メジャー）に支配されていた自国の資源に対する主権の確立を求める

- OPECやOAPECでの結束
- 原油価格の大幅引き上げや原油の減産
- 資源の国有化などを推進

先進国

物価が高騰するなど、経済が深刻な打撃を受けた（第1次・第2次石油危機）

2 資源ナショナリズム

- ① このような「労働によらない収入」に依存している国を、レント依存型国家と呼ぶ。レント依存型の国では、多少の政治的自由の侵害も不満の増大にはつながらず、政治体制が比較的安定してきた。

地下資源

イスラーム教徒が多い中東では、私たちの生活に欠かせない石油や天然ガスなどの地下資源が豊富である。これらの地下資源は、量に限りがあり、また産出地域がかたよっているため、世界経済や国際政治の動向に影響を与えてきた。

石油は、油田の発見と掘削のために莫大な初期費用が必要になるため、採掘から販売までメジャー（国際石油資本）と呼ばれる欧米先進国の企業が支配し、その利益を独占してきた。これに対して、産油国は1960年に石油輸出国機構（OPEC）を結成した。1970年代になると、資源ナショナリズムの動きが強まり、二度の石油危機が発生し、先進国の経済成長に大きな影響を与えることとなった。

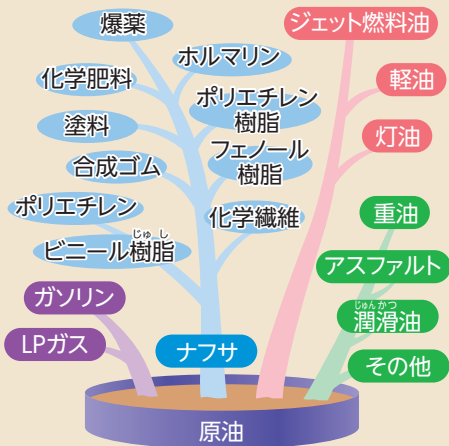
一方、石油は産油国の人々の生活を豊かにすると同時に、イスラームの伝統や社会、政治や社会関係にも大きな影響を及ぼしてきた。とりわけ、ペルシヤ・アラビア湾岸地域の産油国では、石油による豊富な収入（オイルマネー）が流入した結果、先進国を凌駕するほどの急速な経済成長を達成した。こうした産油国では政府が国民から徴税をおこなわず、オイルマネーを用いて手厚い社会福祉を人口の割合では少数派の国民に提供している。

産油国の社会

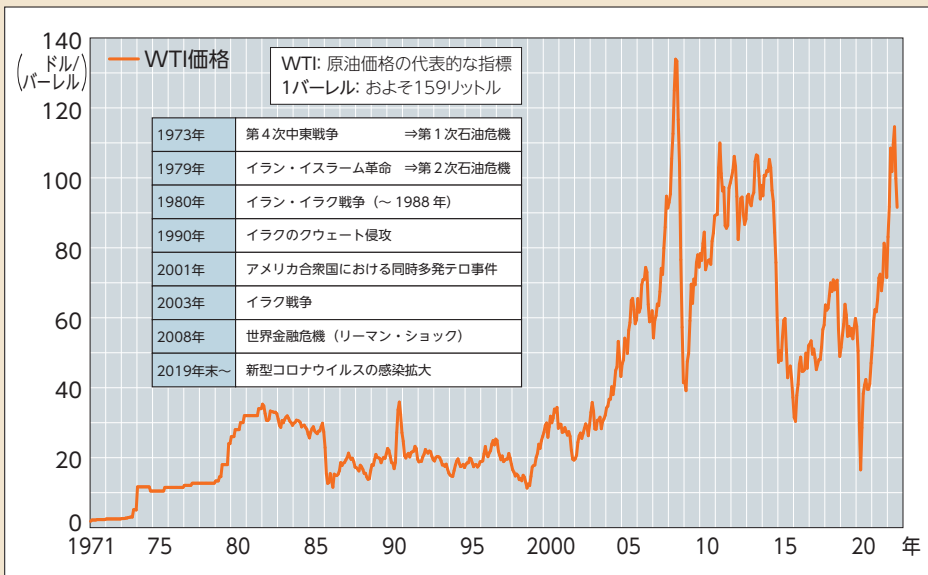
オイルマネーによる急速な経済発展を支えてきたのは、世界中から集まった出稼ぎ労働者



原油からは多くの製品
が作られるんだね



3 原油の木 石油連盟資料による。



4 原油価格の推移 近年は投機的資金の流入など原油の需要によらない要因のほか、シェールガスやシェールオイルの採掘 (→ p.130) による供給増によって、乱高下が続いている。一般社団法人エネルギー情報センター資料による。

Check 原油価格と社会や経済の関係について、図から読み取ってみよう



であった。主として南アジアや東南アジアから流入した単身の出稼ぎ労働者は、建設業やサービス業の担い手となり、経済が発展するにつれてその数は飛躍的に増加した。その結果、数のうえで出稼ぎ労働者が国民を上回る場合もある。出稼ぎ労働者は低賃金かつ過酷な条件での労働を強いられ、国民との間に圧倒的な格差が生まれている。世界中から出稼ぎ労働者が集まる産油国のグローバル都市では、グローバルな格差の縮図が見られる。

急速なグローバル化と経済の発展とともなって、イスラームを重視する生活も変化し、西洋的な生活スタイルの流入も見られるようになってきた。これに対して、イスラームの歴史や文化をクローズアップした博物館の建設など、イスラームの伝統を再評価する動きも積極的に進められるようになった。

地下資源依存からの脱却をめざして

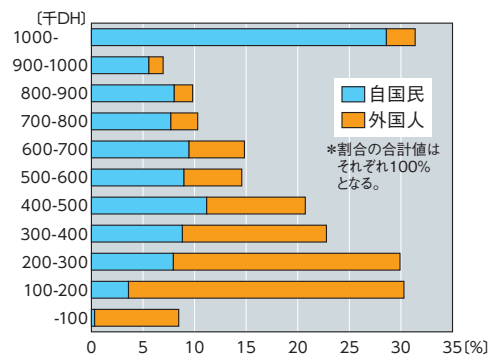
有限な地下資源のみに依存した経済活動を克服しようとする試みも、近年見られるようになってきている。

アラブ首長国連邦で石油埋蔵量が少ないドバイでは、早い段階から金融に力を入れたり、関税を免除するフリーゾーンを設置したりする試みがなされてきた。また、豪華なサービスを売りにした航空会社を軸に、世界のハブ空港になることをめざしたり、世界のブランド品が並ぶ巨大デパートの誘致や豪華なホテルに隣接したビーチリゾートを建設したりして、観光業にも力を入れている。

Try 異なる宗教を信仰する出稼ぎ労働者 (移民) の増加によって生じる課題について考えてみよう。



1 建設現場で働く出稼ぎ労働者 2007年。ドバイ。



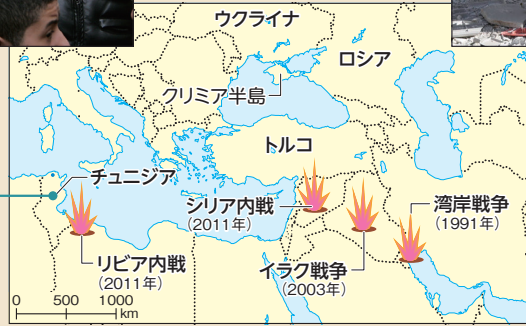
5 ドバイにおける世帯別所得分布 2014-15年。ジェットロ資料による。



なぜ紛争が多く起っ
ているんだろう？



1 チュニアの民主化 2011年。一連の「アラブの春」では、デモ参加者がインターネットや衛星放送などのメディアを利用して連携し、世界中に伝えられたことも特徴である。



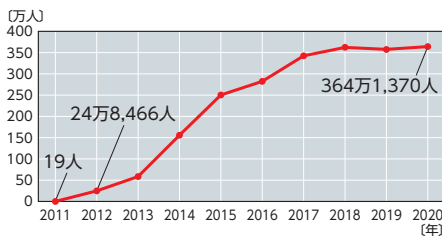
2 シリア内戦 2011年の民主化要求運動をきっかけに、政府軍と反政府組織が衝突した。他国やイスラーム過激派組織などの干渉により戦闘が長期化かつ激化した。多くの難民が発生し、ヨーロッパに押し寄せている。

4 紛争と社会運動

なぜイスラーム諸国では紛争が多く起って来たのだろうか。



3 トルコの国境に押し寄せるシリア難民 2015年。



1 トルコ国内のシリア難民数の推移 JICA資料による。

ジハード主義の広がり

西アジア・北アフリカ地域では、紛争が多発してきた。近年は暴力によって急激なイスラーム化をめざすアルカイダやイスラーム国 (IS) Islamic State といった過激派の活動が活発となり、世界各国に不安を与えている。過激派が拡大した背景には、この地域の不安定化があった。2010年末にチュニアで起こった暴動を契機に周辺諸国に広がった「アラブの春」の結果、多くの国で混乱が生じ、そこに IS などの過激派が力を伸ばした。こうした混乱から逃れるために、多くの人々が難民となって周辺諸国やヨーロッパに流出した。ジハード主義の拡散や政治不安定を背景とした難民流出は、この地域だけでなく、グローバルな問題になっている。

介入と紛争

混乱や紛争が広がる一因は、古来より文明の十字路にあったこの地域が外部から頻繁な介入を受けてきたという点に求められる。オスマン帝国の崩壊を契機に、西洋列強の進出や介入が進み、それ以前に見られた多様な民族や宗教・宗派集団の共存が崩れていった。第一次世界大戦時のイギリスの「三枚舌外交」はパレスチナ問題の起源となり、その後の中東紛争の引き金となった。植民地支配からの独立後にも、軍事政権や一党独裁体制などの権威主義体制が生まれ、長期間の支配が続いた。また、1980～88年のイラン・イラク戦争、1990年のイラクによるクウェート侵攻を発端とする湾岸危機とその後の湾岸戦争、2003年のアメリカ



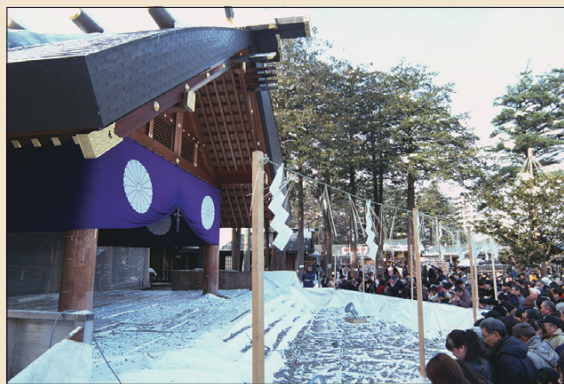
世界の生活文化

世界の多様な宗教と人々の生活

なぜ宗教によって人々の生活文化は異なるのだろうか。



1 新年最初のミサのようす バチカン市国。サン・ピエトロ大聖堂。



2 初詣のようす 北海道。札幌市。北海道神宮。

国や地域、宗教ごとにさまざまな新年の迎え方があるんだね



3 新年への祈りを込めた提灯を空に放つ仏僧たち タイ。バンコク。



宗教で異なる生活文化と社会

同じ宗教を信仰する人々は、価値観や世界観を共有し、その宗教への帰属意識をもつ。また、教え（教義）を通して、宗教は人々の生活や社会に深くかかわっている。そのため、宗教ごとに特徴的な生活文化を見ることができる。

西アジア・北アフリカと南アジアでは、ともに宗教に強く影響を受けた生活文化が見られる。しかし、それぞれの地域で多数を占めるイスラームとヒンドゥー教とは、礼拝などの宗教儀礼や食事などの生活習慣が異なっている。また、これらの地域では宗教が社会のあり方にも深くかかわっている。イスラーム教徒が多数を占める地域では、生活の規範を定めたイスラーム法（シャリーア）が経済や政治などの社会生活に強く影響している。ヒンドゥー教徒が多数を占めるインドでは、カースト制度のため職業選択や婚姻などの社会生活が制約されている。こうした宗教の影響は、近代化やグローバル化により変化しつつあるものの、現在でも人々の暮らしに色濃く残されている。

仏教とキリスト教の生活文化

宗教に影響を受けた生活文化は、他の宗教でも見られる。仏教は、輪廻転生などの教えを通して、人々の生活文化にかかわっており、仏教徒は寺院への参拝などをおこなう。仏教では無駄な殺生を戒めており、菜食を中心とした食生活を送る人々がいる。キリスト教では、聖書の教えを大切にしており、日曜日に教会で礼拝する人が多い。キリスト教徒が多数を占め



アクティブ③

日本におけるイスラーム教徒の暮らしを考えてみよう



近年、イスラーム教徒の多い国から日本へ来る人が増加傾向にあるため、イスラーム教徒に配慮した施設が日本でも増えてきました。右の写真はとあるスーパーの一角を写したのですが、何か気づくことはないでしょうか



あれはハラールマークだね。うちの近所のスーパーにも同じような売り場があるよ



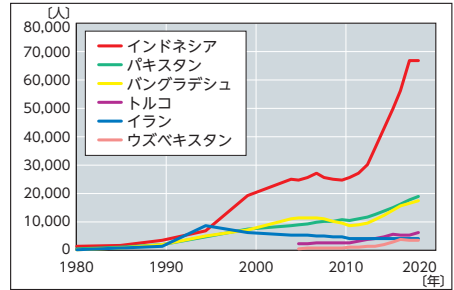
うちの近くのスーパーでは見たことないな。どのスーパーにも必ずあるわけではないんだね



ハラール食品を扱っているお店のない地域で暮らしているイスラーム教徒の方は毎日の食事の用意が大変そうだね



▲スーパーマーケットにおける食品売り場の一角 2020年。東京都台東区。



▲日本における国籍別の在留外国人数の推移 法務省資料などによる。

Try 日本で暮らしているイスラーム教徒の人々はどんなことで困っているのだろうか。調べ、まとめてみよう。

るヨーロッパでは、キリスト教にかかわる建築物が多く見られ、絵画や音楽などの芸術文化にもキリスト教が強く影響してきた。キリスト教にかかわる行事は生活のなかにも見られ、クリスマスやイースターには家族の団らんを楽しむ姿が見られる。

5 **宗教の違いと対立** こうした宗教にかかわる生活習慣や社会規範といった生活文化は、人々の内面に深く根ざしているため、宗教の違いが民族対立の原因となることがある。たとえば、南アジアでは、宗教の違いからインドとパキスタン（バングラディッシュを含む）に分かれてイギリスの植民地から独立し、スリランカでは宗教や言語が異なる民族間での争いがある。西アジアでは、同じイスラームのなかでも**スンナ派**と**シーア派**の宗派間での対立が見られ、2011年から続くシリア内戦の原因の一つになっている。

しかし、宗教の違いは必ずしも対立につながるわけではない。むしろ、世界全体では複数の宗教が対立することなく共存している地域がほとんどである。また、民族が対立する原因には歴史的経緯や経済なども複雑にからみあっており、宗教だけを原因にすることは誤りである場合が多い。世界には多様な宗教があり、自分たちとは異なる宗教やその宗教を信仰する人々の生活文化を正しく理解して、互いに尊重できる社会を構築することが大切である。

20

Try 自分たちと異なる宗教を信仰する人々と共生するために必要なことについて話あって考えてみよう。



コラム①

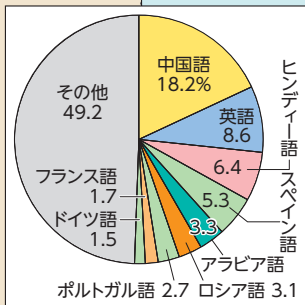
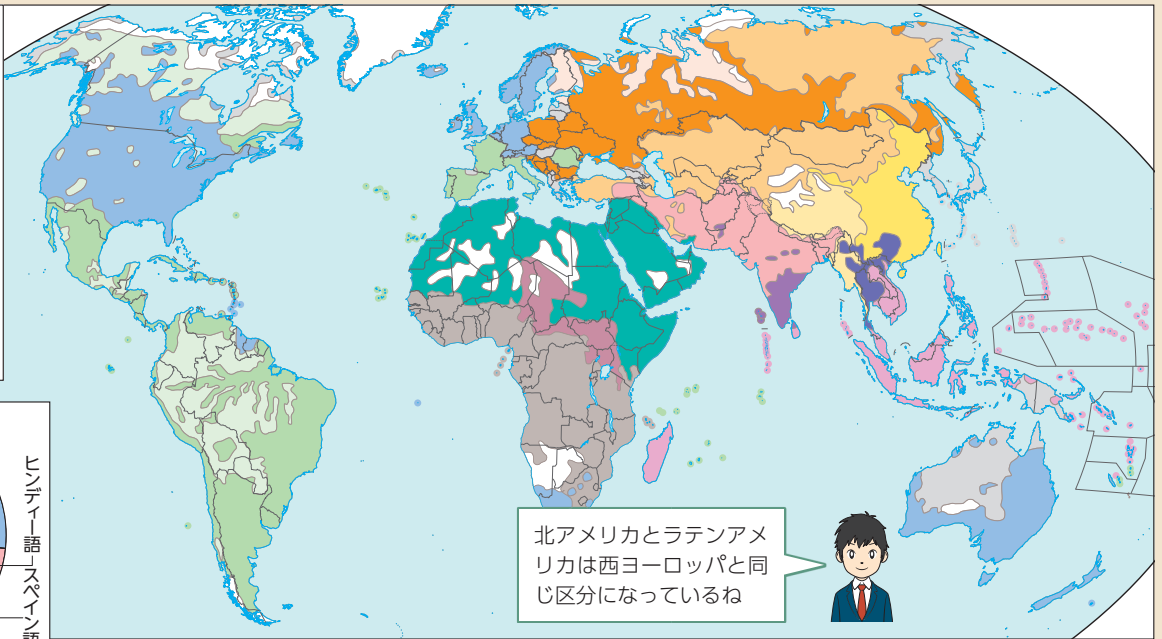
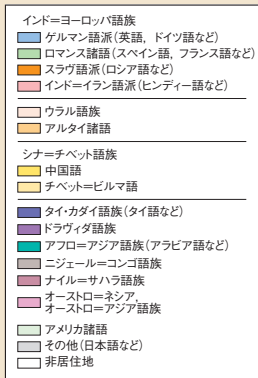
独自に形成された バリ・ヒンドゥー文化

国民の9割がイスラーム教徒であるインドネシアのなかで、バリ島では住民の大半がヒンドゥー教を信仰している。バリ島のヒンドゥー教は、もともとバリ島にあった宗教や仏教などの影響を受けて、インドとは異なる独自性の強いものとなっている。たとえば、バリ島ではカーストによる制約はほとんどなく、また人々は牛肉を食べることもできる。

バリ島の生活文化にはヒンドゥー教が深く根ざしている。日々のお供えや儀礼など、人々は宗教にかかわる慣習を生活の一部としており、有名なバリ舞踊は宗教儀礼としておこなわれてきたものである。世界的な観光地になった現在でも、バリ島にはヒンドゥー教の影響を受けた伝統文化が色濃く残されている。

▼宗教儀式のようす バリ島。





1 世界の言語分布 (上) と世界人口に占める使用言語別の人口割合 (左) Diercke Weltatlas 2015 ほか。

introduction

世界の多様な民族・言語

なぜ世界には人々の多様な生活文化が見られるのだろうか。



1 少数民族によるデモ行進 2012年。タイ。バンコク。複数の少数民族が市民権や土地所有権を政府に求める集会に参加した。

多様な民族と国家

世界ではさまざまな民族がともに暮らしている。民族とは、生活の基盤となる価値観や規範を共有する人々の集団で、集団への帰属意識 (アイデンティティ) によりまとまっている。民族は互いに、言語、宗教、生活習慣などの生活様式が異なり、世界に多様な生活文化を形作っている。

民族の分布はとても複雑で、国の領域とは一致しない。日本を含むほとんどの国が複数の民族からなる**多民族国家**である。近代的な国家では、異なる民族が国民としてまとめられる一方で、民族に固有の生活文化を大切に暮らす人々も多い。経済的な格差や差別などをきっかけに、少数民族や先住民族による独立や権利回復を求める運動が起き、紛争に発展することもある。こうした民族どうしの対立を避けるため、互いの民族性や生活文化の独自性を尊重し、共生を模索する動きが進められている。

文化と結び付く言語

一般に同じ民族の人々は共通の言語を話している。これは、言語によるコミュニケーションが集団生活に必要な不可欠なため、言語は人々の生活文化の基本的な構成要素となっている。世界には多様な言語があり、文法や語順などの類似性からいくつかの語族や諸語に区分されている。また、日本語やバスク語のように他の言語との関係がわからない孤立言語や、他の言語と混成したクレオール言語などもある。

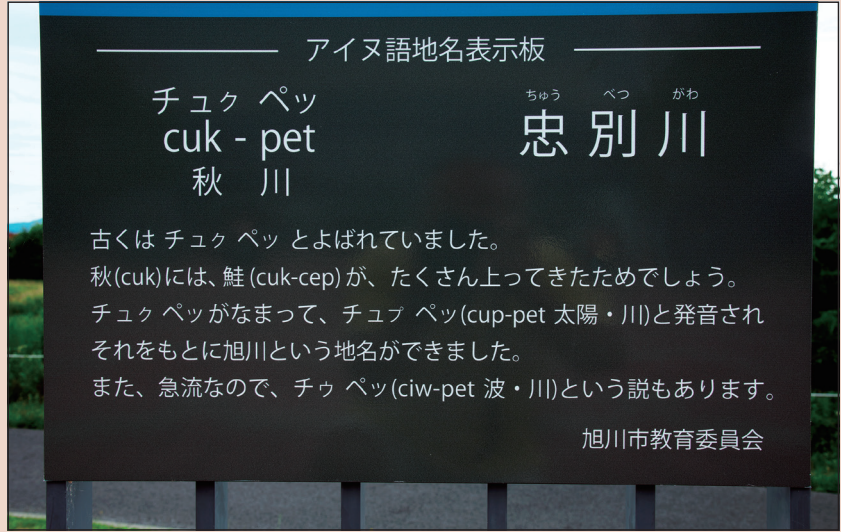


コラム⑧

地名に残るアイヌ語

北海道や東北地方にはアイヌ語がもたらした地名が多い。たとえば、北海道にはアイヌ語で川や沢をあらわす「ペツ」や「ナイ」に関連する「ベツ」や「ナイ」のつく地名があちこちで見られる。アイヌ語はアイヌの人々が使用している言語で、かつては樺太(サハリン)や千島列島にも分布していた。

現在、アイヌ語を母語として話す人は非常に少なく、アイヌ語はユネスコによってきわめて深刻な消滅危機言語としてリストアップされている。そのため、文化庁や国立アイヌ民族博物館といった公的機関をはじめ、公益財団法人などが中心となってアイヌ語を含むアイヌ文化を保全し、継承していくさまざまな取り組みがおこなわれている。



▲アイヌ語地名表示板 2020年。北海道旭川市。

多くの国では**国語**や**公用語**を定めて、教育や公共放送で使用している。多民族国家では複数の言語を公用語とする場合もあり、植民地支配を受けた地域では旧宗主国の言語を公用語とする国が多い。18世紀以降のイギリスの海外進出を背景に、英語を公用語とする国は多く、国際的な共通言語としても使用されている。言語の標準化が進む一方で、話者が少ない少数言語は消滅の危機に瀕している。

観光や出稼ぎなどにより外国から多くの人々が訪れる地域では、言語の違いによる障壁をなくすための取り組みがおこなわれている。たとえば、世界的に有名な観光地では多言語のガイドサービスなどが用意されていることが多い。移民労働者やその家族に対して、無償の言語教育や多言語によるラジオ放送などをおこなっている国も見られる。

国家・民族・言語の結び付きと生活文化

国家や民族・言語によるつながりは人々の暮らしに深くかかわる。国家どうしのつながりが強まると生活が便利になる一方、ヨーロッパの地域統合のように課題も発生する。また、国家体制の転換は人々の暮らしや社会に強く影響し、ロシアのように生活文化は大きく変化する。多様な民族が共存するうえで共通言語は重要であり、サハラ以南のアフリカのように、旧宗主国の言語によるつながりを生かした人々の暮らしや社会も見られる。こうした国家や民族・言語とかかわりのある人々の暮らしとその変化を題材にして、国家・民族・言語の結び付きに特徴づけられた人々の生活文化やその変化を学んでいこう。

Try 言語が異なる民族間で生じているさまざまな問題や課題について調べてみよう。

グループ 4



下のテーマから一つ選んで学習を進めてみよう。

テーマ① 国家の統合と生活文化 (ヨーロッパ)



→ p.94 ~

テーマ② 国家の拡大・変容と生活文化 (ロシアと周辺諸国)



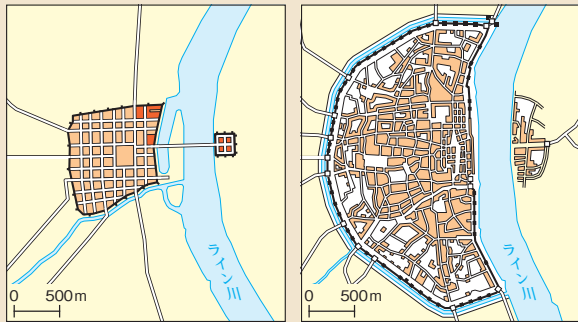
→ p.106 ~

テーマ③ 多民族・多文化の共存と生活文化 (サハラ以南アフリカ)



→ p.112 ~

※どのテーマを選んでも生活文化の歴史的背景を学習できるように、各テーマの冒頭では「歴史につながる内容」を扱っています。



1ケルンの変化 ローマ帝国時代のケルン (→ p.96) は、格子状の街路を有する都市構造であった (左図)。中世になると、ケルンは市壁で囲まれた団郡都市へと変化した。市壁内部は密集しており、街路は狭く複雑である (右図)。



Check ケルン以外で、ヨーロッパにある河川沿いの大きな都市を探してみよう



1現在のケルン



2中世ヨーロッパの都市と交易路

1 地域の統合につながる都市の歴史的な結び付き

地域の統合の背景となる都市の結び付きはどのように形成されてきたのだろうか。



都市の立地

国家の結び付きが強まり地域統合が進んだヨーロッパは、他の地域に先がけて都市が発達してきた地域でもある。地域統合の背景となる都市の歴史的な結び付きを見るために、ドイツのケルンを事例として都市の成り立ちから紐解いていこう。

ヨーロッパでは、中央部には安定陸塊であるフランス平原や北ドイツ平原などの平野部が広がり、河川の勾配は比較的ゆるやかなため、水運が発達し河川や運河沿いに都市が発展してきた。また、防衛上の要因や、交易路との関係から形成され発展してきた都市も多い。国際河川であるライン川の左岸に発展したケルンは、ローマ帝国時代に植民都市 (コロニア) となり、それが地名の由来となっている。

中世都市の構造と機能

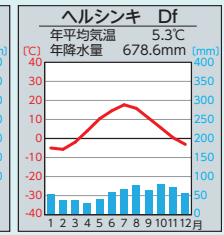
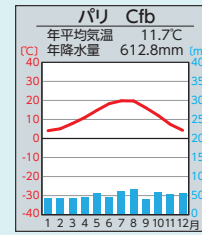
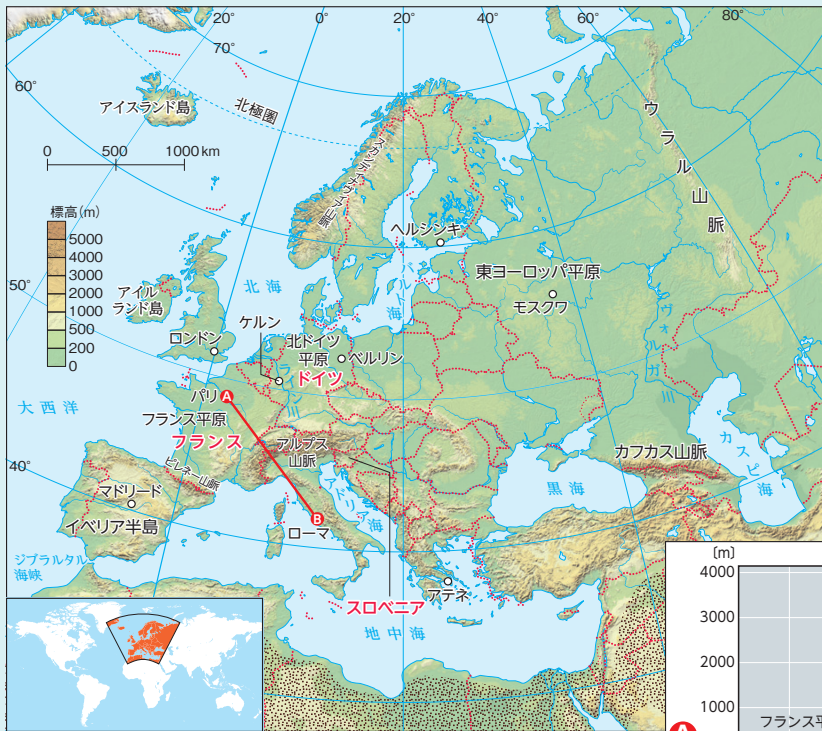
中世になると都市の構造と機能は大きく変化し、人々の生活様式も変容した。中世のゲルマン人による都市は自治権をもち、防衛のために周囲を市壁で囲み、中心部には教会、役場、広場

を有するものが多い。「都市の空気は自由にする」というドイツの諺が示すように、中世にはこうした高い自治性、独立性を有した多様な都市が発達した。市民はそこで都市的な生活文化を発展させた。ケルンはこの時代、ドイツ語圏地域での最大規模の都市の一つとなった。

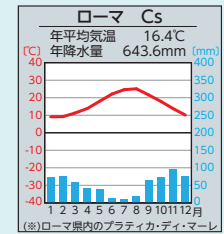
他都市とのつながり - ハンザ同盟 -

多様で独立性の高い都市群は、次第に政治的・経済的に結び付きを強めていった。ケルンは、ライン川下流域の水陸交通の要衝として発達し、ハンザ同盟都市となった。ハンザ同盟は、中世後期に北海・バルト海沿岸地域で貿易を独占する特権を有した都市連合体であり、相互に独立性を保つゆるやかな同盟であった。かつてのハンザ同盟都市の多くは現在のEUの域内にあり、政治的・経済的な関係性を一層強めており、人々の交流も国境をこえて盛んとなった。ケルンは、19世紀後半以降、機械・繊維・化学・食品などの工業が発達したが、近年はICT産業やハイテク産業などの集積も著しい。現在、ケルンはEUの経済的中心地域ブルーバナナの中央部に位置し、EUの機関が立地するなど、ヨーロッパ統合のなかで他都市との関係性がさらに強まっている。このように、第二次世界大戦後のヨーロッパでは、中世からの都市の歴史的なつながりを背景にして国家の結び付きが強まり、地域の統合が進んでいった。

Try 都市の成り立ちを日本と比較し、共通する点と異なる点について話しあってまとめてみよう。



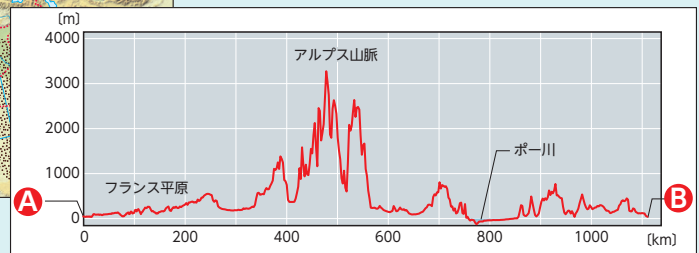
Check ローマとパリの気候の違いについて説明してみよう



巻頭⑥を見ると、ヨーロッパには北海道よりも高緯度に位置する国が多いけど、温帯の気候が広がっているね。国家の多様性だけではなく、農業にも多様性が見られるのかな (→ p.102)



この地域で進められている国家の統合は、農業にも影響しているのかな (→ p.103)



なだらかな北部と急峻な南部

→巻末⑧⑨

ヨーロッパの地形は、アルプス山脈を境に北部と南部に大別できる。北部は安定陸塊に位置し、起伏はなだらかである。構造平野が広がりパリ盆地にはケスタ地形 (→ p.31) が見られる。かつて氷河の影響を受けたため、スカンディナヴィア半島西岸のフィヨルド (→ p.32) などのさまざまな氷河地形が見られる。南部には、変動帯に位置するアルプス山脈、ピレネー山脈などの険しい山脈が連なっている。アルプス山脈には、U字谷などの氷河地形 (→ p.28) が存在する。また、スロベニアではカルスト地形も見られる (1)。

高緯度だが温暖な気候

→巻頭⑥⑦

ヨーロッパは日本と比べて高緯度に位置する。北極圏を含む北部では、夏には白夜となり冬には日照時間がきわめて短くなるところがある (→ p.8)。内陸部から東部にかけての地域では、冬に厳しい寒さとなる。しかし、北西部は暖流の北大西洋海流と偏西風の影響 (→ p.39) によって冬でもそれほど厳しい寒さとはならず、年間を通じて湿潤な西岸海洋性気候である。アルプス以南の地中海沿岸やアドリア海沿岸では、夏の乾燥と高温、冬の降雨を特徴とする地中海性気候が見られる (2)。



1 石灰岩の洞窟を利用して築かれた古城 スロベニア。カルスト地方。



2 サントリーニ島の街並み ギリシア。

グループ4

歴史への旅⑨ ヨーロッパの政治史

ヨーロッパでは、キリスト教を基盤として、民主主義、市民権、人権、主権国家、国民国家といった概念が発展してきた。こうした概念はヨーロッパの外部にも伝播していくとともに、各国の違いをこえてヨーロッパに共通する基本的な考え方や思想として、現在のヨーロッパの統合を支える重要な基盤となっている。ここでは、こうした観点からヨーロッパの政治史を概観しよう。

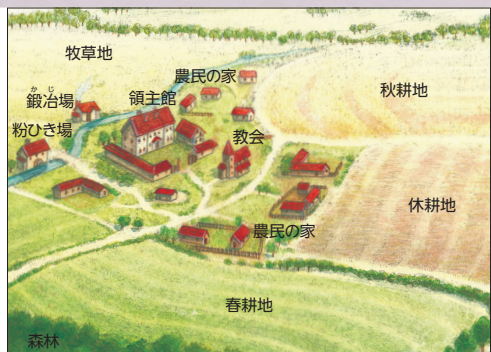


▲ローマ帝国の変化

①地中海世界の一体化

前8世紀ごろにギリシアで成立した都市国家であるポリスでは、平民が重装歩兵としてその防衛の中心となった。アテネではすべての成人男性市民が民会に参加する直接民主政がとられた。都市国家ローマは、前1世紀末までに地中海全域を支配し、前27年に共和政から帝政に移行した。ローマ帝国は2世紀の五賢帝の時代に領土が最大になり、帝国内には多民族、多人種、多宗教が共存し、婚姻権、所有権、裁判権、市民集会における選挙権、被選挙権などの市民権も徐々に拡大していった。

▼**荘園の構造と三圃制** 11世紀ごろから、耕地を春耕地・秋耕地・休耕地にわけて3年で一巡させる三圃制が普及した。



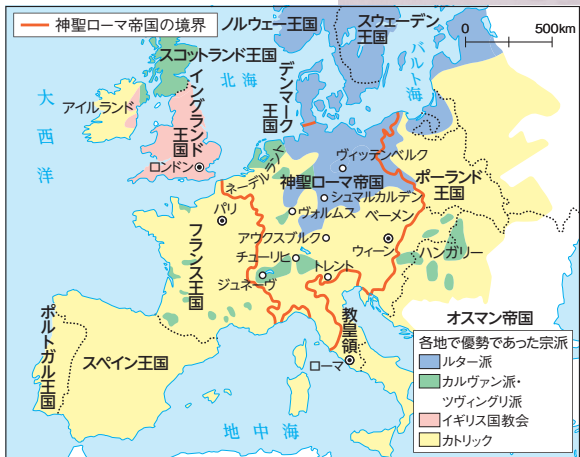
②キリスト教の拡大とヨーロッパの近代化

ローマ帝国で成立したキリスト教は、当初は皇帝や民衆からの迫害を受けたものの徐々に浸透していき、4世紀には国教となった。以後、キリスト教はこんにちに至るまでヨーロッパにおいて文化と社会の基礎をなしている。

西ヨーロッパでは、9世紀から11世紀にかけて封建社会が成立した。これは、主君と臣下の双方の契約により結ばれた主従関係と、領主が農民を農奴として支配する荘園による自給自足的な農業経済を基盤としていた。教会もまた封建領主として人や土地を支配した。各地方の司教や修道院長は領主や信徒から土地を寄進され、強大な封建領主となった。10世紀には神聖ローマ帝国が成立したが、ローマ教会もまた勢力を伸ばし、11世紀に入ると聖職者を任命する権利(叙任権)をめぐる皇帝と教皇の対立が深まった。教皇は皇帝を破門して屈服させ、その後、教皇の権威は高まっていった。

中世都市のなかには、商工業が発達するとともに自治権を獲得するものもあらわれた。都市の自治はギルドと呼ばれる同業組合に担われ、それぞれ独自の規約をもち市場を独占した。これらの都市は商業圏を拡大しハンザ同盟などの都市同盟を結成した。13世紀ごろになると貨幣経済が農村にも浸透し、荘園制が崩壊しはじめた。火器の使用による戦術変化や傭兵制度の普及などによって封建諸侯や騎士の力は弱まった。また、イスラムからのエルサレム奪回を目的とした軍事遠征(十字軍)の失敗は、教皇の権威を低下させた。こうしてそれまでの封建社会が衰退していくなか、商工業の発達により安定した中央権力が必要とされ、国王の権力は拡大していった。フランスやイギリスなどでは聖職者・貴族・都市を代表する市民などの身分別の代表によって構成される身分制議会が設置され、これは近代議会制度の源流となった。

16世紀に入ると宗教改革がはじまり、カトリック教会からプロテスタント勢力が分離した。北欧諸国やイギリスでは国王を頂点とする教会が作られ、教皇と皇帝を象徴とする中世の秩序は崩れていった。宗教改革はルネサンスや大航海時代とも密接に結び付き、ヨーロッパ世界の近代への移行をもたらした。



▲ヨーロッパの宗教分布(16世紀なかば)

補説 三大宗派とその違い

キリスト教は、大きく三つの宗派に分類される。ローマ教皇を最高権威とするカトリックは、ローマ=カトリック教会を中心として古代末期から中世にかけてヨーロッパで広まった。近世以降のヨーロッパ人の海外進出により世界各地にも広がり、現在は南ヨーロッパ、ラテンアメリカ、東ヨーロッパの一部の国々に信徒が多い。

正教会は、聖像崇拝問題などでローマ=カトリック教会と対立して11世紀に分裂し、主に東ローマ帝国(ビザンツ帝国)やロシアに普及した。そのためギリシア正教や東方正教と呼称されることも多い。東ローマ帝国の滅亡後は、ロシア正教、セルビア正教、ルーマニア正教など、各国・各地方の呼称が用いられている。

プロテスタントは、16世紀の宗教改革以降、カトリックに抗議(プロテスト)して分離した宗派の総称である。カトリックの教皇のような、プロテスタント全体を統合する最高位聖職者はいない。北・西ヨーロッパ、北アメリカの国々に信徒が多い。



▲ミサのようす(カトリック)
パチカン市国。



▲礼拝のようす(プロテスタント)
ドイツ。



▲アイコンに祈りを捧げる女性(正教会)
ジョージア。

③近世・近代

教皇や皇帝の権威が衰退し封建制が崩壊していったことを背景に、近世に入ると西ヨーロッパでは主権国家体制が形成されていった。16世紀から18世紀にかけては、国王が主権をもつ絶対王政の形態がとられた。18世紀後半、フランスで絶対王政を打倒し、市民が主権をもつことをめざした市民革命が起こった。そこでうたわれた法の前の平等、国民主権、三権分立、私有権の不可侵などの理念は世界各地に広まっていった。一定の国境のなかに居住する人々を国民としてとらえ、主権、国民、領土をもつ国民国家が次第に形成されていった。

国家の統治は憲法に基づく君主政(立憲君主政)や君主をもたない共和政に移行し、国民の代表によって構成される議会による民主政治がおこなわれるようになっていく。また、民族の分裂と他民族支配を乗り越え国民国家を建設しようとするナショナリズムの運動が起こる一方で、産業革命が広がり資本家と労働者の対立が表面化し社会主義思想も登場するようになった。

19世紀後半になると植民地や領土の拡大を狙う帝国主義が強まり、列強間の競争が激しくなり同盟や対立が進んでゆく。そうしたなか、第一次・第二次世界大戦が勃発し、たび重なる大戦の結果、ヨーロッパは荒廃した。戦後、再びヨーロッパが戦争による被害を受けないために、国民国家の枠を乗り越え、民主主義や人権といった共通する概念を基盤に平和と繁栄を目的とするヨーロッパ統合の動きが実体化していくのである。

▼1886年ごろのイギリス帝国領を示した地図

赤い部分がイギリス領で、19世紀を通じて拡大した。中央下に描かれているのは、イギリス帝国を象徴する女神ブリタニア。帝国内にいる人々や動物たちも活写されている。イギリス帝国を相互に結び付ける船舶の航路、スエズ運河、カナダ太平洋大陸横断鉄道も描き込まれている。

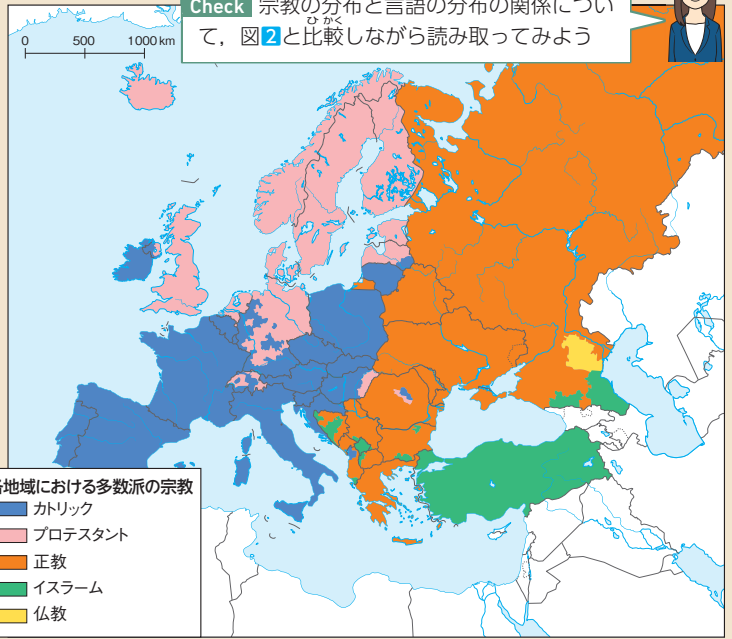


謝肉祭のように、キリスト教の影響を受けた生活文化にはどのようなものがあるのかな？



1キリスト教の謝肉祭（カーニバル）のようす ドイツの西部に位置するケルン(上)とドイツ南西部にあるシュヴァルツヴァルト地方(下)。

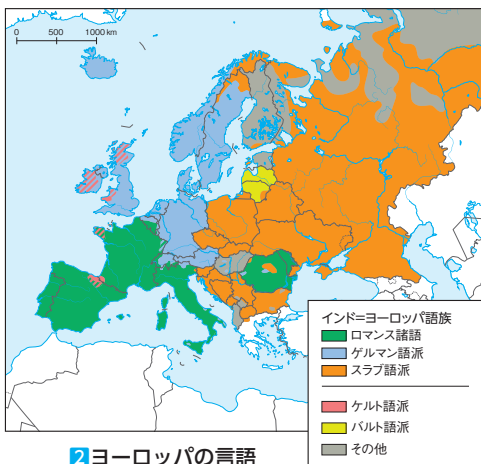
Check 宗教の分布と言語の分布の関係について、図2と比較しながら読み取ってみよう



1ヨーロッパの宗教 Diercke Weltatlas 2015 などによる。

2 地域の統合の深化・拡大

なぜ地域の統合を進めることができたのだろうか。



2ヨーロッパの言語

ヨーロッパで用いられているさまざまな言語は、三つに大きく分けることができる。そのほか、フィンランド語などインド=ヨーロッパ語族に含まれない言語も話されている。Schweizer Weltatlas 2017 などによる。

ヨーロッパの多様性

ヨーロッパは、さまざまな民族や文化が混在した地域である。ヨーロッパで用いられている多様な言語の大部分はインド=ヨーロッパ語族に属しており、それらは英語やドイツ語などのゲルマン語派、フランス語やイタリア語などのロマンス諸語、ポーランド語やチェコ語などのスラブ語派の三つに大きく分けることができる。

ヨーロッパの文化は、古代ギリシャ、ローマの文化やキリスト教の影響を強く受けてきた。キリスト教のなかでも、イギリス、北欧、ドイツ北部などではプロテスタントが主流であり、イタリア、スペイン、フランスなどではカトリックが、ブルガリアなどの東ヨーロッパやバルカン半島では東方正教が主に信仰されている。また、イスラームの流入も見られ、その背景には、バルカン半島周辺では歴史的に西アジアのイスラーム圏との交流が深かったことや、ヨーロッパ西部で移民や難民を受け入れてきたことなどがある。

キリスト教文化の共通性と地域性

キリスト教はヨーロッパの人々の生活や文化に根深く定着しており、ヨーロッパ諸国は宗教・文化の面で共通の基盤をもっている。たとえば、各国が定める祝日のなかには、キリスト教に関連して共通するものも多い。一方で、キリスト教文化のなかにも地域性が見られる。たとえば、謝肉祭（カーニバル）は主にカトリック圏でおこなわれる祝祭であるが、その地域の民俗や風習なども結びついて各地域で独自の形態をもつものが多い(1)。

| | |
|------|--------------------------------|
| 1952 | ECSC 発足 |
| 1958 | EEC, EURATOM (欧州原子力共同体) 発足 |
| 1967 | ECSC・EEC・EURATOM 統合, EC 発足 |
| 1973 | イギリス・アイルランド・デンマーク, EC 加盟 |
| 1979 | 欧州通貨制度発足 |
| 1981 | ギリシア, EC 加盟 |
| 1986 | スペイン・ポルトガル, EC加盟 |
| 1992 | EC, 市場統合達成 |
| 1993 | マーストリヒト条約発効, EU 発足 |
| 1995 | フィンランド・スウェーデン・オーストリア, EU 加盟 |
| 1999 | ユーロ導入 (2002年流通) |
| 2004 | 中東欧・地中海の10か国, EU 加盟 |
| 2007 | ルーマニア・ブルガリア, EU加盟 |
| 2009 | リスボン条約発効 |
| 2013 | クロアチア, EU 加盟 |
| 2016 | イギリスでEU離脱に関する国民投票を実施, 離脱意思が過半数 |
| 2020 | イギリス, EU 離脱 |

3 ヨーロッパ統合の歩み



4 EU加盟国・ユーロ導入国 イギリスは2016年の国民投票で移民問題などへの反発からEU離脱を選択、2017年にEU側との離脱交渉を開始し、2020年の1月に離脱した。



2 欧州議会 フランス。ストラスブール。



3 ユーロの導入 2015年。リトアニア。

ヨーロッパ統合への歩み

20世紀前半に2回の世界大戦を経験した西ヨーロッパ諸国は、戦後、平和の構築と復興・発展をめざして統合への道を進んでいった。1952年に発足したヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC)にはじまり、1958年にはヨーロッパ経済共同体(EEC)が、1967年にはヨーロッパ共同体(EC)が発足した。その後、ECは加盟国を増やしていき、1993年にはマーストリヒト条約の発効によりヨーロッパ連合(EU)へと発展した。EUは拡大の一途をたどり、2004年以降は旧社会主義国家であった東ヨーロッパ諸国も加盟し、2023年1月現在、27か国体制となった。

経済的・政治的統合の推進

EUは域内の関税を撤廃し、共通政策を実施して経済的統合を進めてきた。市場統合をめざして人・モノ・資本・サービスの移動が自由化され、シェンゲン協定域内では出入国管理が廃止された。1999年には単一通貨ユーロ(EURO)が導入され、2002年からはユーロ紙幣・硬貨の流通がはじまった。その結果、国境地域では人々が日常的に国境をこえて買い物をし、通勤する動きがより活発化するなど、人々の生活も変化している。

政治的な統合も進められており、2009年に発効したリスボン条約により、大統領や外務大臣に相当する役職の設置など、EUはさらなる効率的、機能的な運営をはかるために機構改革をおこなっている。

Try 地域が統合されると人々の暮らしにどのような利点があるのか考えてみよう。

1 シェンゲン協定

2023年1月時点で、EU加盟23か国とスイス、アイスランド、ノルウェー、リヒテンシュタインのEFTA(ヨーロッパ自由貿易連合)加盟4か国の計27か国が協定を締結し、シェンゲン圏での域内国境管理を廃止している。EU加盟国でありシェンゲン圏に含まれていない国は、アイルランド、ルーマニア、ブルガリア、キプロスである。

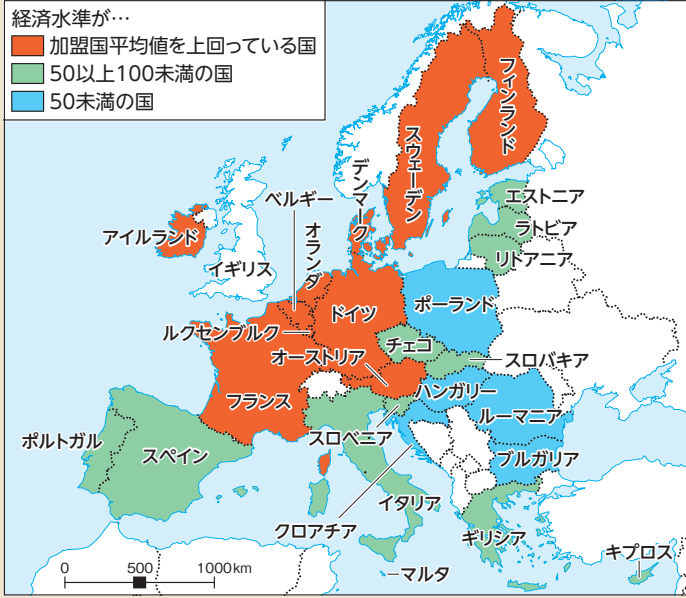


4 小売店内にある国境 ベルギーとオランダの国境。写真の手前側がベルギー。

Check 1人あたり GNI が相対的に低い国に着目し、p.99の図4と比較してみよう



経済水準が…
 ■ 加盟国平均値を上回っている国
 ■ 50以上100未満の国
 ■ 50未満の国



1 ヨーロッパに押し寄せるシリア難民 2015年。ギリシア。

1 EU加盟国における1人あたりGNI 2021年。加盟国平均値を100とした。世界銀行資料による。

3 地域の統合と多文化共生

地域の統合にはどのような解決すべき課題があるのだろうか。



2 カタルーニャ分離独立デモ 2017年。スペイン。バルセロナ。

1 EUは欧州難民・移民危機を踏まえて対外国境管理を強化すると同時に、移民と受け入れ国の国民の双方が互いを尊重しつつ社会の構成員として共有文化を築いていくことができるように、移民の社会統合を支援している。

地域間格差の拡大

旧社会主義国である東ヨーロッパ諸国の多くは2004年以降EUへ加盟したが、経済水準がEU平均を大きく下回る国も多く、EU域内の地域間格差はより顕在化した。一方、安価な労働力や工業用地などを求めて西ヨーロッパの企業が東ヨーロッパに生産拠点を移転し、その結果、西ヨーロッパ諸国の失業率の悪化や産業の空洞化が生じている。また、東ヨーロッパ諸国からはより高い賃金を求めてイギリスなどの西ヨーロッパ諸国へ移動する労働者が増加し、雇用に影響を及ぼした。

EUでは域内の地域間格差の是正のための地域政策が実施されてきたが、地域間格差は依然として大きい。また、東西の格差だけでなく、中心部と縁辺地域、大都市と農村部の格差も大きい。

移民・難民問題

西ヨーロッパ諸国は第二次世界大戦後の高度経済成長期に、労働力の不足を補うため多くの外国人労働者を受け入れてきた。旧西ドイツは主にイタリアやトルコから、フランスは旧植民地の北アフリカ諸国からの移民を多く受け入れた。しかし、移民とともに流入した生活様式、文化、宗教などが受け入れ国のものとは異なっていたため、移民と現地住民との間で摩擦が生じることとなった。この摩擦は現在まで解消されておらず、西ヨーロッパの国々において多文化共生を阻む要因の一つとなっている。



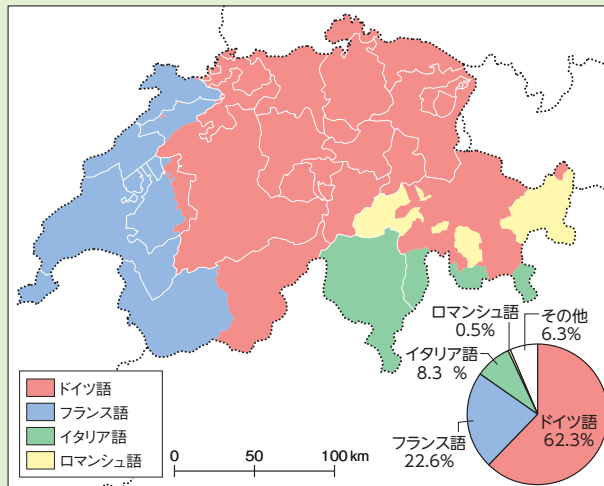
クローズアップ⑨

スイスの社会と文化

スイスはEUに加盟せず、独自の通貨を有する永世中立国である。北海道の約半分の面積に約840万人が暮らしており、国土の7割が山岳地帯で天然資源に乏しい。しかしながらスイスでは、高度な技術力や研究開発力を背景に精密機械工業や化学、製薬産業などの国際競争力は高く、金融や観光といった第三次産業も発達している。

政治的には、連邦制をとり州の権限が強く、国民による発議や国民投票など直接民主主義の制度が認められているほか、国民皆兵制度もとられている。一方、シェンゲン協定の締結国でもあり、EUとは二国間協定を結びさまざまな分野での協力を進めている。

スイスは地域性の豊かな国である。公用語としてドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4言語が認められており、宗教面でもカトリックとプロテスタントがともに主流である。スイスでは歴史的に、文化の異なる各州が集まって同盟し拡大していくことにより連邦国家が形成されてきた。そのため、各地域の文化的特性を尊重する多文化共生の社会システムが構築され、人々は自分たちの地域へのアイデンティティが強く、独自の言語や文化を守り継承しながら生活している。



▲スイスにおける州別の主要言語 2020年。スイス連邦統計局資料による。

一方、アフリカや西アジアでの政情不安によって、ヨーロッパへの難民や移民が2010年以降急増した。この動きは2015年に**欧州難民・移民危機**を引き起こし、EU加盟国の間ではその対応をめぐる足並みが乱れた。さらに、イスラーム過激派組織によって犯行声明が出された2015年にパリで起きた同時多発テロは、移民・難民への排斥感情を一層強めた。こうしたなか、ヨーロッパの多くの国では反移民や反EUなどを掲げた政党が台頭してきており、分裂に向かう動きが高まりつつある。

EUのなかの多様性 - 地域主義

EUの加盟国のなかには、独自の地域言語や地域文化を維持しているところもある。これらの国々のなかには、ヨーロッパ統合の進展のなかで地域意識が高まり、地域の自治・独立をめざす地域主義の動きが活発化している地域が見られる。たとえば、イギリスのスコットランドでは2014年に、スペインのカタルーニャ(2)では2017年に国からの独立を求めた住民投票が実施された。

多文化共生に向けて

このようにヨーロッパの統合が進展するにつれて、域内の多様性が顕在化し、分裂が生まれ、排外主義が生じつつある。一方で、こうした状況に対し、多様な文化や慣習・価値観を包含した新たなヨーロッパの枠組みを模索しようとする多文化共生の試みも進められている。ヨーロッパの統合は、異なる国家や地域が協力して平和と繁栄を築いていく試みであり、今後は統合における多様性の尊重がさらに求められている。

Try 多様性を尊重するためにおこなわれている多文化共生の試みについて調べてまとめてみよう。



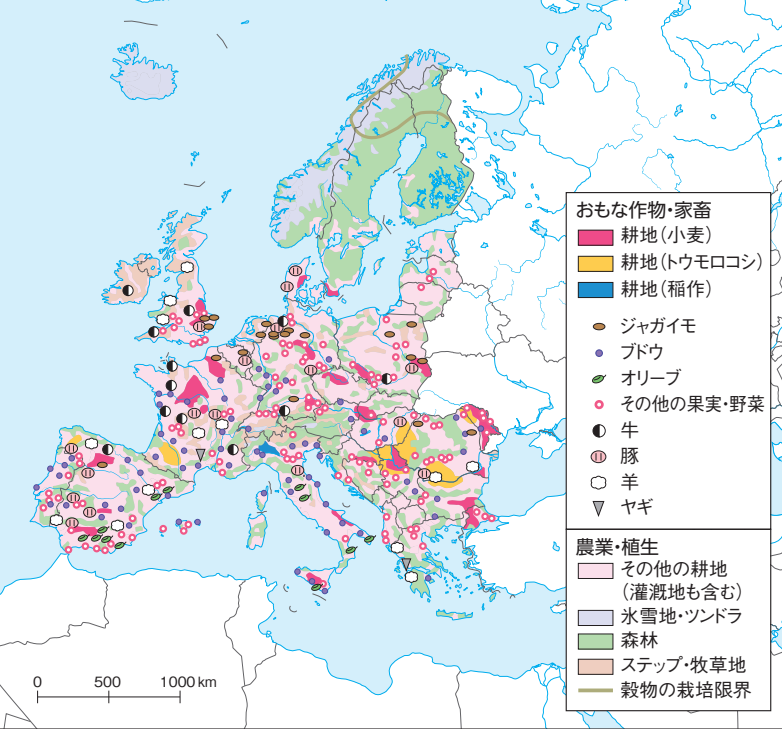
クローズアップ⑩

クロイツベルク

ドイツの首都ベルリンのクロイツベルク地区は、旧西ドイツ時代の高度経済成長期から低家賃の古い家屋に外国人労働者が集まるようになり、とりわけトルコ系移民がコミュニティを作り集住した。その後、多文化で自由な風土にひかれて学生やトルコ系以外の外国人、芸術家などのクリエイティブ層が集まることにより、それまでの治安に問題のある移民地区という場所のイメージが一変し、現在ではベルリンを代表する文化的先進地区となっている。最新のギャラリー、レストラン、カフェなどが立地し、多くの観光客も訪れている。一方で、ジェントリフィケーション(→p.161)が進展し、不動産価格や家賃が高騰した結果、かつての住民層が流出せざるを得ないという状況も生じている。

▼クロイツベルクの街並み





1 農業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。

普段食べているものは地域によって違っているね



1 ドイツ(左)とイタリア(右)の主な料理

4 地域の統合と農業

地域の統合により農業にはどのような影響が見られるのだろうか。

Check 各国の位置と自給率の高い農作物との関係について考えてみよう

| 2019年/% | 小麦 | いも類 | 果実類 | 乳牛乳製品 |
|---------|-----|-----|-----|-------|
| スウェーデン | 140 | 85 | 5 | 83 |
| ドイツ | 125 | 124 | 31 | 106 |
| フランス | 200 | 138 | 64 | 104 |
| スペイン | 54 | 65 | 139 | 89 |
| イタリア | 62 | 55 | 104 | 86 |
| 日本 | 16 | 73 | 38 | 59 |

2 主な国の品目別食料自給率(重量ベース自給率) 農林水産省資料による。

1 園芸農業
都市部での需要が高い観葉植物や鮮度が重視される野菜などを都市近郊で栽培する農業形態。交通・輸送の利便性が向上すると、栽培立地が都市近郊から「より栽培しやすい気候・地形条件」の場所に移る傾向がある。

ヨーロッパ農業の多様性

ヨーロッパは、暖流と偏西風の影響を受けているため、高緯度でありながら農業が盛んであり、各地域で自然環境に適した特徴のある農業が営まれている。

中世以降、地力の保持のために休閑地に家畜を放牧する三圃式農業が広くおこなわれてきたアルプス以北の平野部では、食用作物や飼料作物と家畜を組み合わせた**混合農業**が広く見られる。寒冷なヨーロッパ東部ではライ麦やジャガイモの栽培と豚の飼育、西岸海洋性気候のヨーロッパ北西部では小麦と乳牛や肉牛の飼育という組み合わせが多い。冷涼な気候と氷河の影響を受けたやせた土壌のために穀物栽培に適していないイギリスやデンマークなどでは、**酪農**が発達している。アルプス山脈の山岳地では**移牧**も見られる。また、都市近郊ではオランダの花卉栽培など**園芸農業**もおこなわれている。一方、イタリアやスペインの地中海沿岸地域では、夏にレモンなどの柑橘類やオリーブ、ブドウなどを栽培し、降水量のある温暖な冬に小麦を栽培する**地中海式農業**が発達している。

こうした農業の多様性を反映して、ヨーロッパでは地域性の豊かな食文化が発展してきた。たとえば、イタリアでは小麦を原料とする白パンやパスタ、ブドウから作られるワインが食卓に並ぶ。一方、北ドイツではライ麦から作られる黒パンやジャガイモ、大麦を主原料とするビールの消費量が多い。



クローズアップ⑩

農村社会での生活

ヨーロッパでは、アグリツーリズムなど農業と観光を結び付けて農村振興を促す取り組みが盛んである。オーストリア・チロル地方の山岳地域では、夏は移牧を中心とした農業を営むが、農作業が制限される冬は牧草場を活用して整備したスキー場の運営や農家民宿などの観光業を組み合わせることによって農村経済を維持している。こうした条件が不利な地域への対策はCAPによって農村振興政策として財政的な支援もされている。

フランスでは、伝統的な地域農産物とそれが生産される地域の景観を一体化し高付加価値化することによって、農山村地域の魅力を高めようとする地域振興がはかられてきた。この動きをモデルに、日本でも近年、農林水産省が農山村地域の食文化と景観の保護・ブランド化を促進する事業を展開している。



▲グランド塩田 フランス。ブルターニュ地方。

EUの共通農業政策とその課題

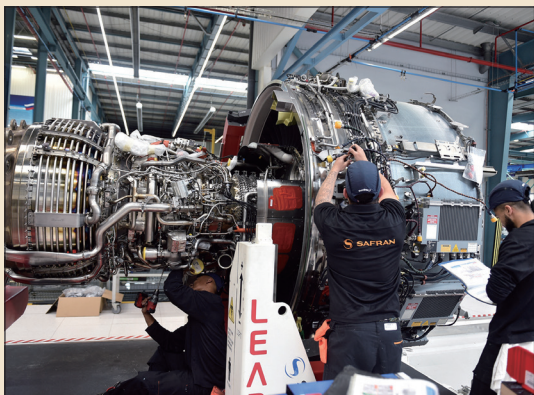
ヨーロッパ内での自然環境や主要農産物の違いは、農業経営規模や生産コストの地域差にもつながる。

EUは域内の農業を保護するために農業市場を統一し、主要農産物に統一価格を設定して買い支え、域外からの輸入農産物には関税をかけるという**共通農業政策 (CAP)** を実施してきた。しかし、こうした保護主義的な政策は過剰生産を招き、EUの財政負担が増大した。1990年代以降EUはCAPの改革をおこない、統一価格や関税を引き下げるとともに、農家には直接的に補助金を支払うようになった。生産調整や休耕、環境に配慮した有機農業などが進められ、集落整備など農村の生活や文化を支える農村振興にも力が入れている。

日本とのかかわりとその課題

EUは世界の他地域との自由貿易も促進している。日本とは2019年に経済連携に関する協定が発効し、農産物の分野ではチーズやワインなどへの関税の削減・撤廃が進められていくこととなった。こうした動きに対し、日本国内の農業への影響の懸念も生じている。

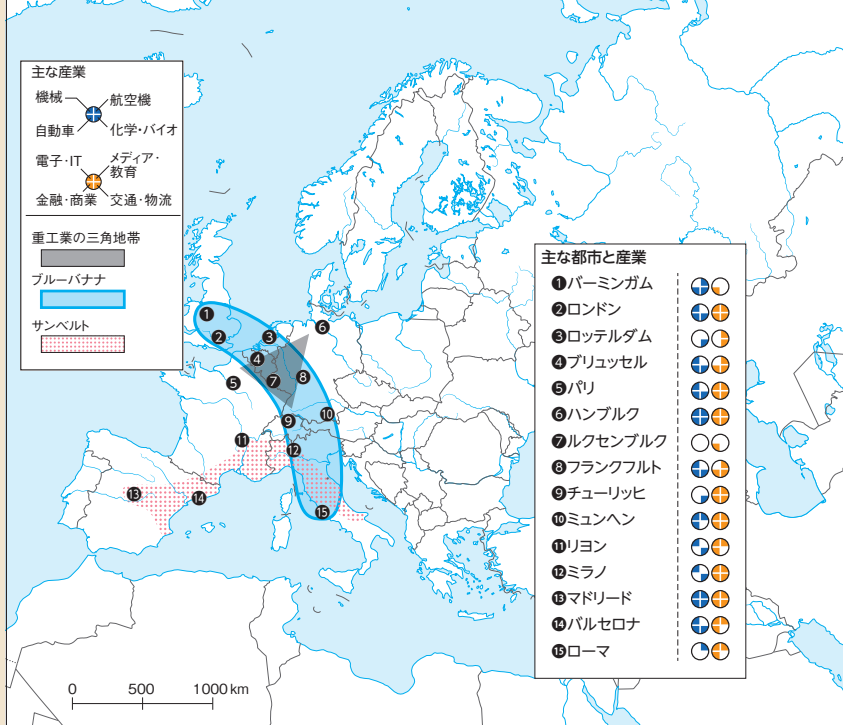
一方で、和食の人気の高まり、ヨーロッパ向けの和牛など、日本の農産物の輸出拡大も期待されている。また、ヨーロッパの国々は特定の地域で生産・加工・製造された農産物を保護し付加価値を高めるため、原産地呼称の制度を強化してきたが、EUと日本の間でも**地理的表示 (GI)** ② ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝



1 航空機のエンジンを製造する技術者
2018年。フランス。トゥールズ郊外。



写真1にあるような最先端の工業製品だけじゃなくて、写真2のような、職人による伝統技術を生かした産業も盛んなんだね



1 工業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。

5 地域の統合と工業

地域の統合により工業はどのように変化したのだろうか。



1 ヨーロッパをはじめとする先進国の産業構造は、1970年代の二度にわたる石油危機（→ p.86）によって、石油資源や石油エネルギーを大量消費する素材型産業（鉄鋼・石油化学など）から加工組立型産業（自動車の組み立てなど）へと大きく変化することとなった。



2 伝統技術を今に伝える職人 イタリア。フィレンツェ。

ヨーロッパ工業の多様性

産業革命以降、ヨーロッパ諸国では工業化が進んだ。内陸部の炭田や鉄鉱石産地には製鉄業が発展し、運搬のための水路網が整備された。ドイツのルール・ザール炭田、フランスの北フランス炭田およびロレーヌ鉱山を結ぶ地域は、

重工業の三角地帯と呼ばれ、第二次世界大戦後のヨーロッパの高度経済成長を支えた。1960年代以降、石炭から石油へのエネルギー転換が進むと臨海部に石油化学工業が立地し、また、自動車産業や先端技術産業などが大都市近郊に集積するようになった。現在のヨーロッパ経済の中心地域は、イギリス南部からライン川流域を経てイタリア北部に至る地帯であり、「ブルーバナナ」と呼ばれる。またイタリア北部からフランス南部、スペインの地中海沿岸にかけての地域は「ヨーロッパのサンベルト」と呼ばれ、航空機やエレクトロニクス産業などの先端技術産業が集積している。

第三のイタリア

ヨーロッパでは工業化の一方で、熟練した職人による伝統的工芸産業も継承されてきた（2）。衣服、革製品、陶磁器、家具などはデザイン性や機能性に優れ、世界的なブランド力を有するものも多い。イタリアでは、北部の工業やサービス業が発達した経済の中心地域、南部の農業が主要な地域に加えて、中部の「第三のイタリア」と呼ばれる地域がある。この地域では、多品種少量生産を可能とする中小企業の柔軟なネットワークが構築され、市場の変化に素早く対応し高品質な製品を生産することで国際競争力が維持されている。



クローズアップ⑫

環境先進都市フライブルクの暮らし

ドイツ南西部、シュヴァルツヴァルト（「黒い森」）の南麓^{なんろく}に位置するフライブルクでは、環境に優しいまちづくりがおこなわれてきた。交通面では、中心市街地への自家用車の乗り入れを禁止する一方で、自転車専用道路やパークアンドライドなどを整備し、バスやトラム（路面電車／LRT）などの近距離公共交通の利用を促進させるために「レジオカルテ」と呼ばれる地域環境定期券を導入している。そのほか、廃棄物・リサイクル対策、再生可能エネルギーの利用促進、景観保全など、環境政策やエネルギー政策、都市計画などが分野横断的につながり、持続可能な発展をめざすまちづくりがおこなわれている。

フライブルクの人々は、地域の自然環境や伝統的景観を大切にしながら、低炭素社会に向けた環境に優しい生活のスタイルを選択するようになった。自転車や近距離公共交通機関の利用者が増加し、また、こうした生活スタイルを求めて他地域からの転入者も多い。さらに、太陽光エネルギー関係の研究所や企業が立地し、環境産業の集積も見られる。

こうした動きに注目して国内外からの視察も相次ぎ、ホテルやレストランの需要も高まり、環境に優しいまちづくりそれ自体が、重要な観光資源としてみなされるようになってきている。



▲街の中心を走る路面電車 フライブルク。

EU域内での国際分業

統合の進展のなかで、域内における国際分業の動きも一層強まっている。フランスやドイツなどのヨーロッパの企業が共同で設立した航空機メーカーは、分担して製造した部品をフランスのトゥールーズやドイツのハンブルクなどの最終組み立て工場

5 での最終組み立て工場²で完成品に仕上げている。一方、東ヨーロッパでは社会主義時代に重工業が発達した地域があったが、冷戦終結後には国際競争力を失う地域が多かった。その後、EUの東方拡大にともな³ない安価な人件費や比較的高い教育水準などを背景に、ドイツをはじめとしたヨーロッパ企業による生産拠点の移転が進んだ。また、アメリカ合衆国や日本などの域外の企業もEUの巨大市場を求めて、主に自動車、機械などの製造業や通信関連分野でポーランド、ハンガリーなどを中心に進出している。

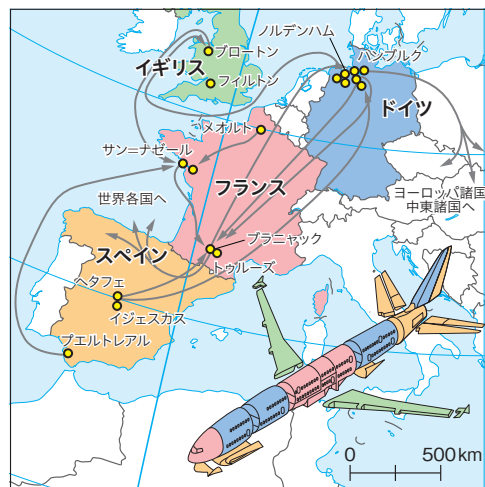
持続可能な社会の構築に向けて

工業化の進んだヨーロッパでは酸性雨などの環境問題が悪化しその対応が課題となってきた。

15 EUは、環境政策を実施するとともに、交通政策、エネルギー政策などでも持続可能性に配慮した分野横断的な取り組みを進めている。そうした取り組みは人々の生活文化にも影響を及ぼし、環境先進国として名高いドイツでは、廃棄物のリサイクル、再生可能エネルギーの推進、パークアンドライドの普及などを通じて、人々の生活習慣も環境への負荷を緩和する方向へ向かっている。

Try

持続可能な社会を構築するために必要な取り組みについて話しあって考えてみよう。



2 ヨーロッパ西部地域における航空機の製造と分業 Diercke Weltatlas 2015 による。

①パークアンドライド

都市中心部や観光地での交通混雑を緩和するために、自動車を郊外の駐車場に駐車し、鉄道やバス、トラム（路面電車）などの公共交通機関に乗り換えて目的地に移動する方法。

ロシアはどのように領土を拡大させたのかな？



1 クリミア半島の不凍港 セバストポリ。



2 グラスノスチを風刺した漫画 1987年。言論や出版などの自由化が進められたことで、社会の問題点を公に批判できるようになった。

1 領土の変遷

1 広大な国家の形成と変容

世界最大の国家はどのように形成され、変容したのだろうか。



ロシアの領土拡大 ヨーロッパから入植してきたスラブ系の民族は、10世紀末にキリスト教（正教）を取り入れ、ロシア国家の基礎を作った。16世紀には、ロシアはウラル山脈をこえてシベリアへ進出し、17世紀にはオホーツク沿岸、19世紀には中央アジア方面までの広大な国土を獲得した。

一方で、広大な国土は冬季に河川が凍結する寒冷地が多く、ロシアにとっては経済的、軍事的な要因から不凍港の獲得が必要だった。そのため、ロシアは18世紀以降、温暖な南方への領土拡大を積極的に推し進めた（南下政策）。ロシアは18世紀初頭に黒海北岸の制海権を獲得すると、18世紀末にはクリミア半島、19世紀には黒海とカスピ海に挟まれたカフカス地方を次々と手中に収め、徐々に政治的な影響力を増していった。

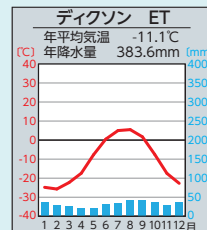
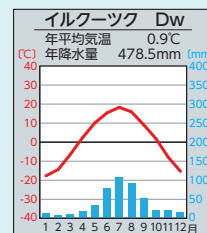
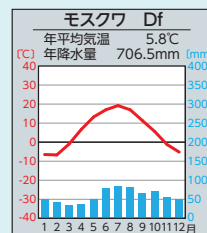
ソ連の成立と解体 20世紀はじめ、ロシア革命により世界初の社会主義国家であるソビエ

ト社会主義共和国連邦（ソ連）が誕生し、最終的に15の共和国からなる連邦国家となった。第二次世界大戦後には戦勝国としてアメリカ合衆国と並ぶ超大国となり、**社会主義体制**のもと国主導の**計画経済**や軍備増強が進められた。

しかし、1970年代には計画経済の弊害や軍事費の増大による経済成長の鈍化が目立ちはじめ、1980年代なかばにソ連共産党書記長のゴルバチョフにより、ペレストロイカによる経済立て直しと政治体制の民主化およびグラスノスチ（情報公開）が進められた。しかし、ソ連共産党の解散、バルト三国などの独立などの混乱のなか1991年末にソ連は解体した。

資本主義経済への移行 ソ連解体後、ロシアは行き詰まった経済を立て直すために、社会主義体制から資本主義体制への急激な転換をはかった。しかし、それはロシア社会に大きな摩擦と混乱を生み、社会と経済は停滞した。その後、1990年代後半に、天然資源の開発が大規模に進み、世界的な原油高を背景にロシア経済は急速に回復した。2000年に就任したプーチン大統領の政策のもとで、「強いロシア」の再建をめざし、中央集権化を推進した。一方、国内における貧富の格差が拡大し、深刻な問題も出てきている。

Try ソ連解体による旧ソ連構成国の人々の暮らしの変化について調べてみよう。



Check モスクワとイルクーツクの違いを図から読み取ってみよう



巻頭⑥を見ると、亜寒帯の気候が東西に広がっているね

南側には一部で温帯の気候も見られるね。領土を拡大させた時には、こうした暖かい南側の地域をめざしたのかな (→ p.108)



広大な国土と多様な自然環境

→巻頭⑥⑦, 巻末⑧⑨

ロシアは、ヨーロッパからアジアまでまたがる東西 11000km の世界一広大な国土をもち、11 の標準時間帯に分けられる (→ p.9)。ウラル山脈の西側には平坦で広大な東ヨーロッパ平原が広がり、東側には西シベリア低地と標高 1000 m 前後の中央シベリア高原が続く。さらに極東では、火山や地震が多く、変動帯となる。

シベリアの南側は安定陸塊の山地が広がり、カフカス地方にも変動帯の急峻な山々が並び、5000m をこえる山もある。シベリア北部には**永久凍土**が見られ (1), ウラル山脈以西のヨーロッパロシアの南部には**黒色土**が広がる (→ p.37)。

ロシアの国土の大半は亜寒帯・寒帯にあり、長く厳しい冬季、内陸部における大きな気温の年較差が特徴である (→ p.40)。南部にはステップや砂漠がある。北極海沿岸には**ツンドラ**が広がり、その南側は**タイガ**と呼ばれる広大な針葉樹林に覆われている。

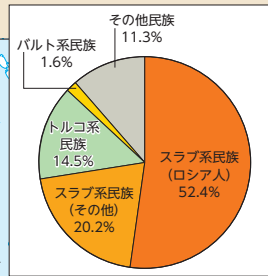
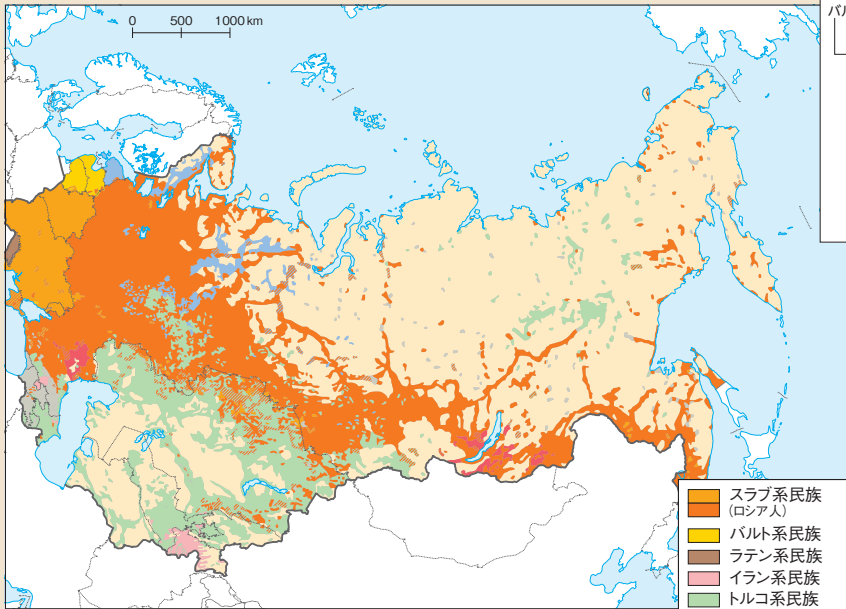
一方、黒海沿岸やカフカス地方には温暖で湿潤な気候も見られる。ロシアの人々にとってはリゾート観光地として人気が高い地域となっている (2)。



1 永久凍土の上に建てられた高床のマンション ヤクーツク。



2 夏のバカンスを楽しむ人々 ソチ。



ロシアにもたくさん
の民族が暮らし
ているんだね



1 ソ連時代の民族分布と構成割合
Atlas SSSR による。



1 民家に飾られたイコン キリストや聖人を描いたイコン(聖画像)はキリル文字と同時期に作られ、信徒の信仰生活の基盤となっていた。



2 国土の拡大と多民族国家の成立

なぜロシアは多民族国家になったのだろうか。



1 キリル文字

キリル文字は、スラブ系の人々への布教を進めるため、東方正教会の宣教師一派によって9世紀ごろに作り出され、正教とともにロシア各地へ伝播した。

国土の拡大と多民族の共生

16世紀以降、ロシアは各地の少数民族を取り込みながら領土を拡大した。その過程で、多くのスラブ系ロシア人が各地への入植・移住を進めたため、ロシアは次第にロシア人を多数派とする**多民族国家**となっていた。

また、ロシア人の入植・移住が進む過程で、正教やロシア語をはじめとする多数派の文化が各地に普及した。そのため、宗教では**正教**の一派であるロシア正教が多数派を占めており、言語では多くの地域でロシア語が公用語となっているほか、**キリル文字**が広く使用されている。

一方、広い国土のなかに大小さまざまな民族が暮らしているロシアでは、民族の規模や居住地などに応じた行政区分が設定されており、それぞれの区分ごとに比較的幅広い**自治権**が認められている。そのため、地域によっては独自の憲法が存在していたり、民族固有の言語が公用語として設定されていたりするなど、多様な社会や文化が息づいている。また、北カフカスやヴォルガ川中流域ではイスラームが、シベリアの南部では仏教を信仰する人々が多い。

ソ連の解体と生活の変容

1991年末にソ連は解体し、ロシアを含む15の独立国が誕生した。バルト三国などを除く旧ソ連構成国によって**独立国家共同体 (CIS)**が結成され、今も政治と経済のゆるやかな協力関係を維持している。



2 CISを構成する国



2 野菜や果物を取り扱う店に殺到する市民 1923年。当時は慢性的な品不足が続いていたため、需要の高い商品が売りに出されるたび、市民は店の前に行列を作った。



4 車のボンネットに本を並べて売る市民 1992年。ウラジオストク。



3 ソ連に初出店した大手ハンバーガーチェーン 1990年。モスクワ。

ソ連が崩壊して人々の生活はどのように変わったのかな？



経済では、計画経済から市場経済への急激な移行にともなう混乱により、ロシアの人々は厳しい生活状況に陥った。1990年代前半には、国営だった企業や農場への国家からの資金が途絶え、賃金の未払いや失業者が増加した。その一方で、富を蓄える人々が出現したため、社会主義時代には見られなかったほどの貧富の格差が拡大することとなった。さらに、無料の教育や医療などの社会保障制度が廃止されたことで、年金生活者の困窮も深刻化した。

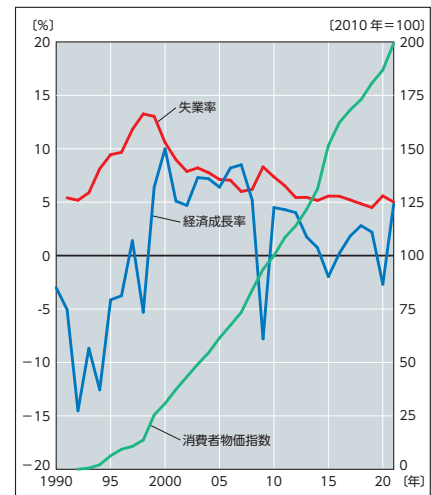
しかし、1990年代後半になると、石油・天然ガスの資源や関連産業が好調になり、安定した経済成長が見られるようになった。こうしてロシア経済は21世紀に入ってから順調な伸びを見せ、BRICSの一国として注目されることとなった。ただし、ロシア経済の根幹をなす資源依存型の経済は資源価格の動向に左右されやすいものとなっている。

現代のロシアと周辺諸国

ロシアにとってエネルギー資源の豊富な北極海沿岸やカスピ海での資源確保は重要であるが、資源の利害関係をめぐっては周辺諸国との摩擦も多く、政治的に不安定な状況も見られる。

一方、中央アジア諸国および中国とは経済や文化の交流だけでなく、安全保障の面での強化をおこなう同盟も結んでいる。近年ではASEANなど他のアジア諸国との連携も提案されている。

Try ロシア以外の多民族国家を一つ取り上げ、そこで見られる多様な生活文化について調べてまとめてみよう。



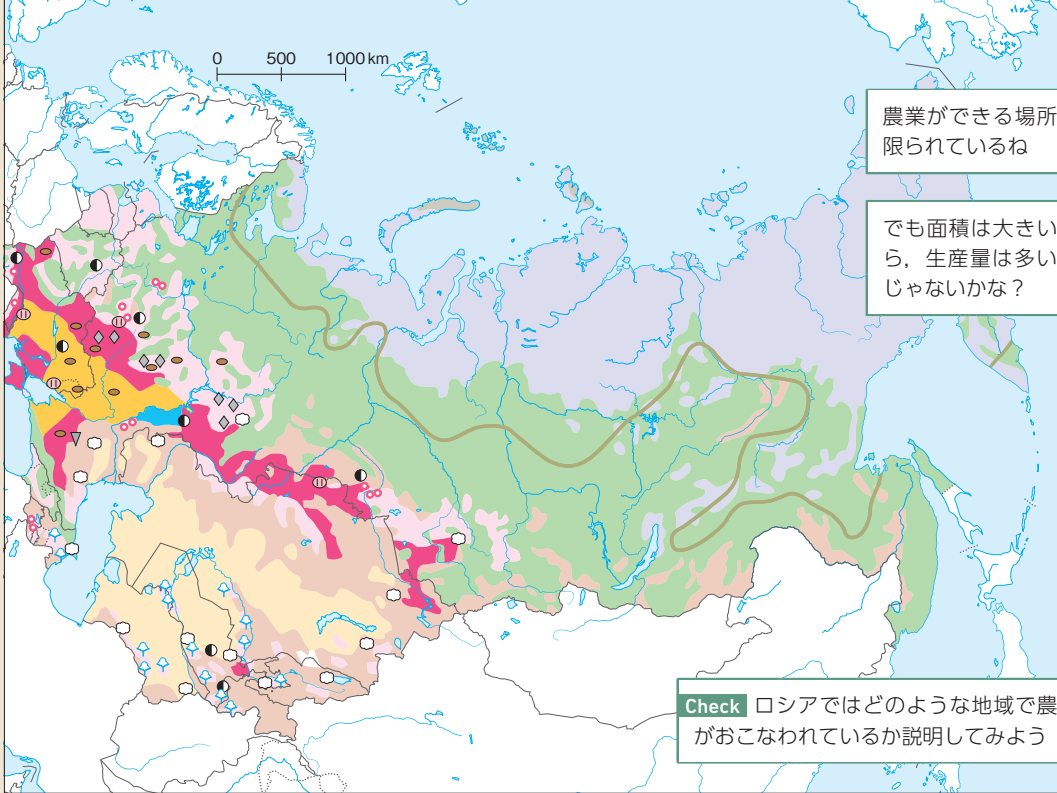
3 ロシアの主な経済指標の推移 世界銀行資料による。

かつてソ連を構成したウクライナでは、親ロシア派であるロシア系住民と親欧米派の政府が対立した。2014年のロシアによる一方的なクリミア半島の領有宣言以後も、ウクライナ東部において内戦は続き、2022年2月、ロシアはウクライナへの侵攻を本格的に開始した。ロシアは、EUやアメリカ合衆国などの国際社会から経済制裁を受けたため、経済的にも打撃を受けた。

- おもな作物・家畜
- 耕地(小麦)
 - 耕地(トウモロコシ)
 - 耕地(粟<アワ>)
 - ◆ ビート
 - ジャガイモ
 - 果実・野菜
 - ◇ 綿花
 - 牛
 - 豚
 - 羊
 - ▽ ヤギ

- 農業・植生
- その他の耕地(灌漑地も含む)
 - 森林
 - ツンドラ
 - ステップ・牧草地
 - 荒野・乾燥地
 - その他
 - 穀物の栽培限界

1 農業分布
Diercke Weltatlas
2015 による。



農業ができる場所は限られているね

でも面積は大きいから、生産量は多いんじゃないかな？

Check ロシアではどのような地域で農業がおこなわれているか説明してみよう

3 国家の変容による産業と生活文化への影響

産業や生活文化が大きく変化したのはなぜだろうか。

①ソ連時代の農業

1928 年以降、ソ連では強制的な農業集団化が推進され、農民の小経営がソフホーズ（国営農場）やコルホーズ（集団農場）へと転換された。これに反対した農民が大量に追放されたため、農村には混乱が生じ、農業生産自体が停滞したほか、過酷な穀物調達による飢饉で多くの犠牲者が生じた。



1 ダーチャで育てたジャガイモを収穫する家族 2017 年。

ロシアと周辺諸国の農業

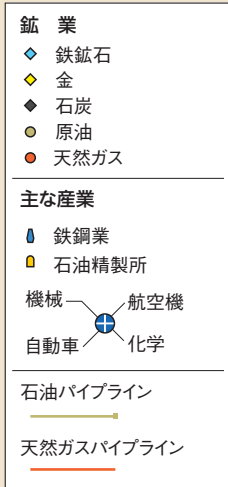
ソ連時代には、**計画経済**のもとで国営企業を配置し、土地と農民を管理して生産量を確保していた。しかし、ソ連解体後、国が管理する農場は民営化され、民間企業による大規模農業が主体となった。さらに、農産物の安定的な生産・流通が実現したことで、食料不足も次第に解消されていった。また、都市部に暮らす人々の大半が所有する別荘（**ダーチャ**）では家庭菜園が営まれ、食生活の一助となっている。

ロシアでは、南部の東西に広がる地域において農業が可能であり、小麦やライ麦、てんさい、ジャガイモなどの寒冷地に適した作物が生産されている。一方、ウクライナからカザフスタン北部にまたがる肥沃な**黒色土地帯**では、小麦、大麦、トウモロコシなどの栽培が盛んである。また、中央アジアでは、ウズベキスタンでソ連時代から続く綿花栽培が盛んであるほか、カザフスタンは小麦輸出国として成長している。

ロシアと周辺諸国の資源と産業

ロシアとその周辺諸国は、ソ連時代から豊富な資源をもとに工業が盛んであった。ロシアにおける原油や天然ガスの産出量と埋蔵量は世界トップレベルであり、金や鉄鉱石などの鉱物資源も世界有数の埋蔵量を誇っている。ウクライナも鉄鉱石・石炭などの埋蔵量が多く、中央アジアやカフカス諸国は石油や天然ガスなどの地下資源が豊富である。

ロシアの収入の多くはこれら豊富な資源の輸出から得ている。石油



パイプラインの多くはヨーロッパに伸びているんだね



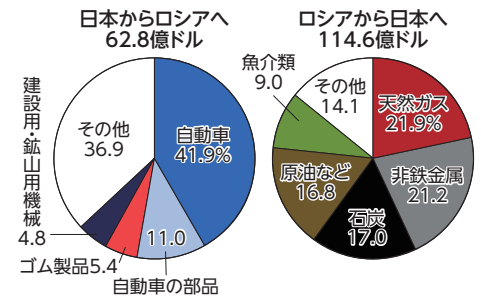
2 鉱工業分布

Diercke Weltatlas 2015 などによる。

資源の主な輸出先は、かつては EU などのヨーロッパ諸国が中心であった。近年では、ヨーロッパ中心の経済政策を見直し、アジアへも目を向けられるようになり、中国など東アジア諸国方面へのパイプラインが稼働して、石油の輸出が増加している。こうした資源輸出によって低調だった国内経済を立て直したロシアでは、大手スーパーマーケットなどの外国資本の流入が進み、さまざまな生活文化も取り入れ、人々の暮らしは豊かで便利になった。近年、ヨーロッパ資本だけでなく、アメリカ合衆国、日本、韓国などからの資本や技術の導入も進めており、自動車や家電メーカーをはじめとする製造業が成長している。

日本との関係

ロシアは日本の隣国である。貿易では、ロシアは日本へ石油資源や魚介類などを輸出し、日本から自動車や機械などを輸入している。とりわけ、ロシアでは冬季の自動車故障が命の危機につながるため、故障が少なく性能のよい日本の中古車は人気が高い。また、資源開発では、サハリンの原油・天然ガス開発に日本企業が参加しており、生産された原油や天然ガスは日本にも運ばれている。しかし、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻は、国際社会にロシアへの非難を引き起こし、日本との関係も不安定な状況になった。ロシアとウクライナの紛争が解決し、日本とロシアの間にも、これまでのような交流活動が再開されることが望まれる。

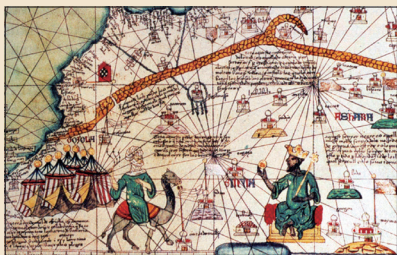


3 日本とロシアの貿易 2020年。自動車輸出は2009年の輸入関税の引き上げで打撃を受け、一時は最盛期の10分の1まで減少したものの、2010年以降はもち直している。財務省資料による。



2 ビザなし交流 2011年。北海道羅臼町。国後島などに住むロシア人が祭りに参加した。

Try 政治や経済の変容が人々の生活文化に及ぼす影響について考えてみよう。

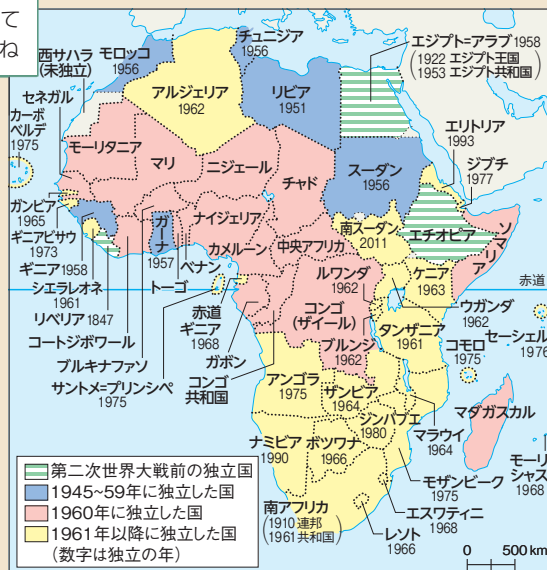
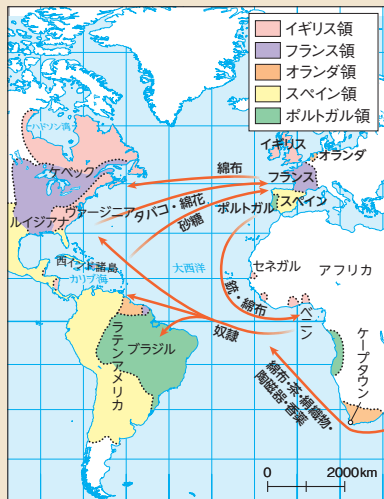
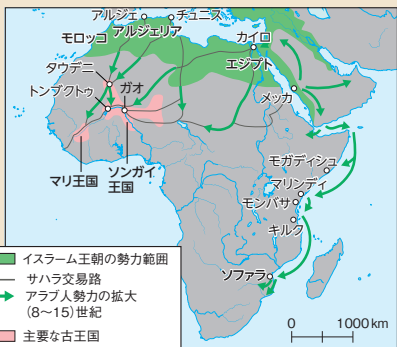


1 黄金を手にしたマリ王国(右)とアラブ商人(左) 1375年に作られた世界地図の一部。パリ。国立博物館蔵。

サハラ砂漠をこえて交易していたんだね



1 アフリカにおける交易 (13～15世紀) Diercke Weltatlas 2015 による。



3 アフリカ諸国の独立

2 大西洋における三角貿易 (18世紀)

Check アフリカの国境線の特徴を地図から読み取ってみよう



1 多民族社会の分断と共存

なぜ地域紛争や民族対立が起こるのだろうか。



多民族社会の成立と文化

アフリカは人類発祥の地であり、長い歴史がある。最古の人類である猿人は、数百万年前にアフリカで類人猿から進化した。私たちの祖先である新人(ホモ=サピエンス)もこの大陸で誕生し、全世界へと拡散した。

ヨーロッパ人と接触する以前のサハラ以南アフリカでは、数千もの民族や言語が分布していた。人々は頻りに居住地を移動することで新しい民族や言語、文化を生み出し、流動的な社会を形成してきた。

西アフリカのニジェール河流域やギニア湾沿岸にはいくつもの古代王国が発達した。当時、西アフリカではサハラ砂漠をはさんだ南北の交易がアラブ商人などによって活発におこなわれた。東アフリカのインド洋沿岸では、アラブ商人による交易が盛んであり、スワヒリと呼ばれる文化と言語が作られた。アフリカの文化や言語は、各民族が生み出すだけでなく、交易などによっても形成されてきた。

奴隷貿易と植民地支配による社会の分断

15世紀末以降、ヨーロッパ人がアフリカに進出すると、多くのアフリカ人が奴隷として連れ去られた。ヨーロッパ人の商人は、武器や雑貨と交換した奴隷を南北アメリカ大陸やカリブ海の島々へと運び、そこでタバコや綿花、砂糖などの商品と交換してヨーロッパへともち帰る三角貿易をおこなった。およそ400年間にわたり膨大な数のアフリカ人が奴隷となり、アフリカの伝統社会の多くが崩壊した。

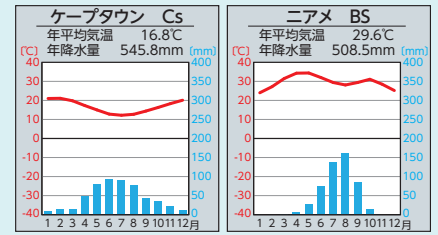
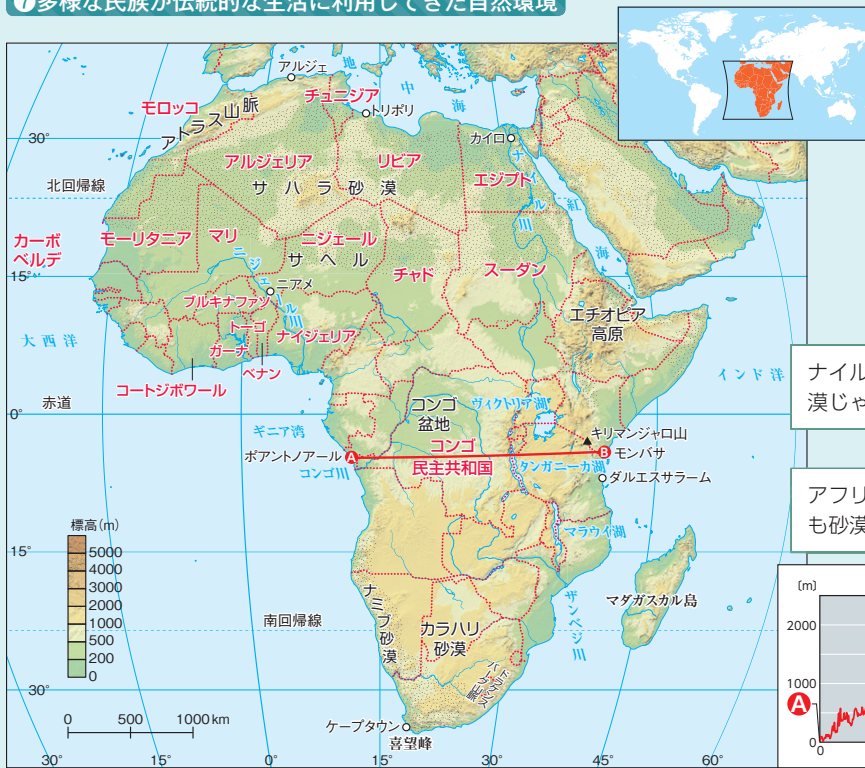
20世紀初頭には、アフリカ大陸や島々の大部分がイギリスやフランス、ポルトガルなどのヨーロッパ列強によって分割され、植民地支配が進められた。その境界線は民族の分布を無視して引かれたため、社会の分断を引き起こした。

社会の分断をこえて

第二次世界大戦後、アフリカの多くの国々が独立した。17か国が独立した1960年は「アフリカの年」と呼ばれる。しかし、植民地期の国境や植民地支配でゆがめられた社会のしくみが引き継がれた国も多く、それらは民族対立や地域紛争の原因となっている。また、分断支配に由来する独裁政権の成立や、旧宗主国による経済支配の継続(新植民地主義)など、問題を抱える国も少なくない。他方、分断された社会の融和への取り組みも進められ、鉱産資源や農作物の輸出などによって経済成長をとげる国々もあらわれている。

Try

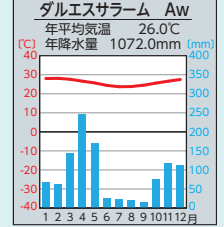
人為的な国境が残されている地域を見つけ出し、アフリカの共通点について考えてみよう。



ナイル川の源流は砂漠じゃないんだね



アフリカ大陸の南にも砂漠があるんだね



巻頭⑥を見ると、「赤道をはさんで南北で対称的な気候」というのが一目でわかるね



熱帯と乾燥帯で、生業や人々の暮らしは大きく異なりそうだね (⇒ p.115)

台地と大地溝帯

⇒巻末⑧⑨

アフリカ大陸の大部分は、地球内部の熱エネルギーによる大規模な変動を数億年以上にわたってほとんど受けていない安定陸塊である。侵食作用が長期間続いてきたため、台地状の平坦な地形が広がっている。また、大陸全体が上昇し続けているため、平均的な標高が高いのが特徴である。一方、大陸東部には、プレートの広がる境界に形成された大地溝帯が南北7000kmにわたり連なっている。大地溝帯には火山が多く、標高5895mのアフリカ最高峰キリマンジャロ山(1)などが分布する。大地溝帯には、タンガニーカ湖など、裂け目に水が溜まった湖が見られる。

南北で対称的な気候

⇒巻頭⑥⑦

アフリカの気候は、大陸中央部の赤道を挟み、南北で対称的である。赤道付近のコンゴ盆地では熱帯雨林が見られるが(⇒ p.34)、赤道から離れるにつれて降水量が少なくなり、アカシアの木がまばらに生育するサバナが広がる。また、大陸東部は赤道付近においても熱帯雨林は見られず、東西で異なる気候となっている。回帰線付近では、サハラ砂漠(2)やカラハリ砂漠が広がる。サハラ砂漠の南縁に位置するサヘルでは、降水量の変動が大きく、干ばつや飢饉がたびたび発生する。大陸の北端や南端は地中海性気候となり、南アフリカのケープタウン付近ではブドウの栽培やワインの製造が盛んである。

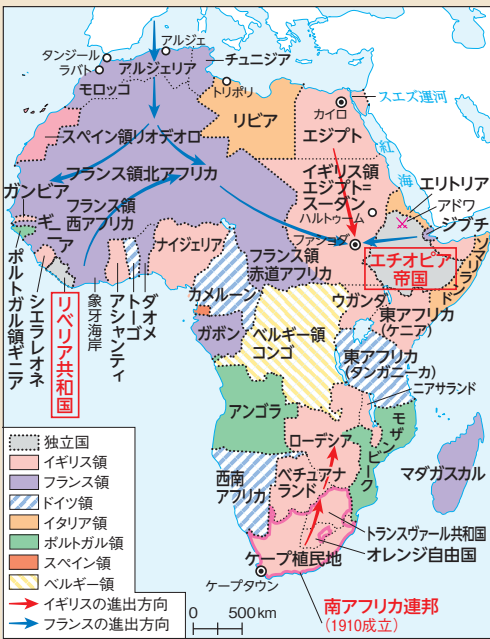


1キリマンジャロ山とアフリカゾウ ケニア。

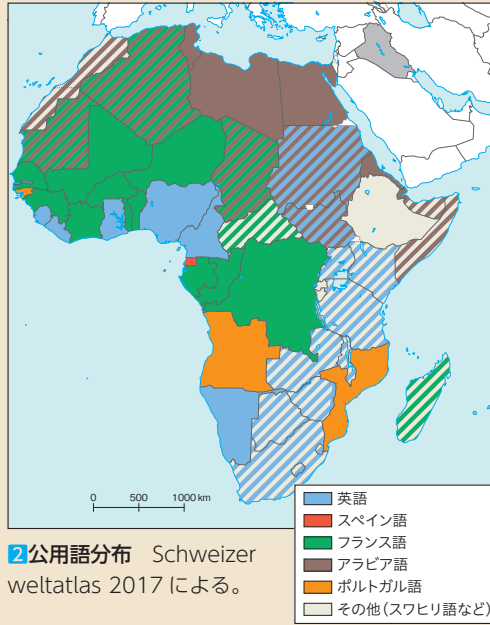


2サハラ砂漠に囲まれた集落 モーリタニア。

グループ4

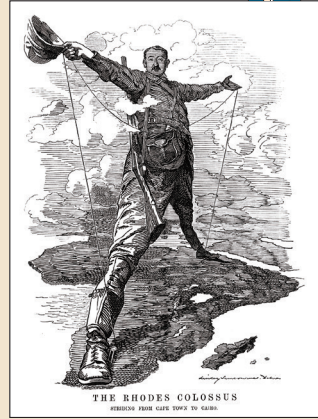


1ヨーロッパ諸国のアフリカ侵略 アフリカ大陸は、ほとんどがヨーロッパ諸国の領土となり、独立国としては、エチオピアとリベリアが残るだけとなった。



2公用語分布 Schweizer weltatlas 2017 による。

どの国を風刺した絵なんだろう？



2アフリカ縦断政策の風刺画

Check 図1と比較して、公用語の分布を説明してみよう

2 多民族社会の暮らしと生活文化

民族の文化と生業はどのように自然環境と相互にかかわるのだろうか。



1トーキングドラム 2005年。ガーナ北部。エチオピア以外の地域は、文字をもたない無文字社会であった。コミュニケーションの道具として太鼓の音で言葉の音調を表現した情報伝達システムが生み出された地域もある。

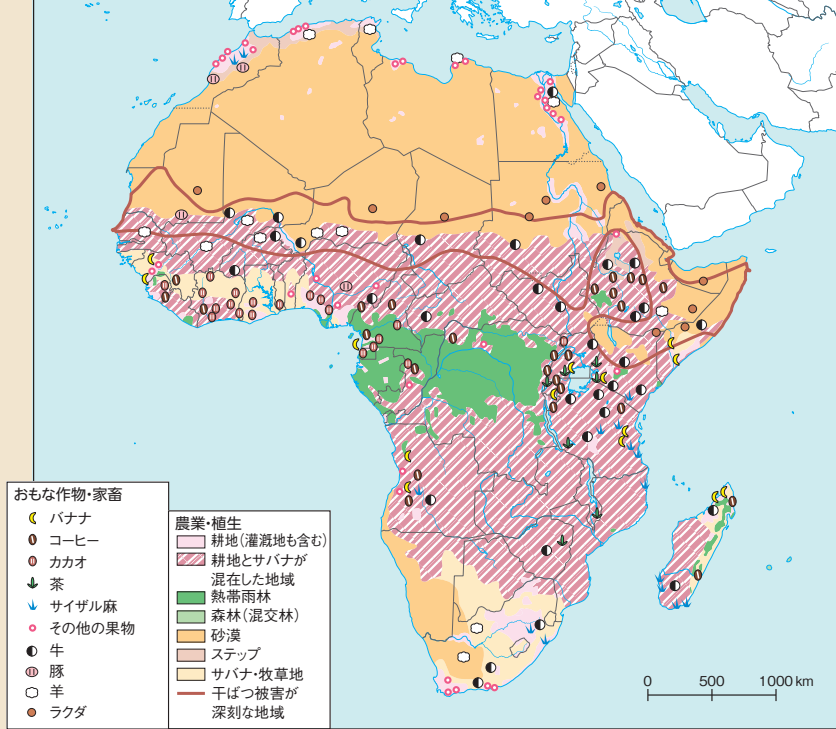
多様な民族と文化

アフリカには、生活様式や同族意識を共有する民族集団が数多く存在し、それぞれに独自の言語や宗教、踊りや音楽など、固有の文化をもっている。

アフリカには数千に及ぶ言語があり、個人が複数の言語を使用するのが一般的である。また、サハラ以南アフリカの宗教は、サハラ交易やインド洋交易を通じて西アフリカやインド洋沿岸地域で広まったイスラーム、ヨーロッパ人の布教活動によって広まったキリスト教が東アフリカ内陸部や南部アフリカを中心に浸透しているが、伝統宗教も各地で見られる。一方、インド洋に面する東アフリカ沿岸ではアラブ商人とのダウと呼ばれる帆船を用いた交易の過程でスワヒリ文化が生まれ、イスラームの規範を生活の基盤に据えた独自の文化圏が形成されている。また、民族をこえた婚姻関係や人の行き来も頻繁に見られ、文化や言語が広域で共通して見られる地域もある。

旧宗主国との文化的つながり

植民地支配(21)を経験したアフリカの多くの国では、独立後も旧宗主国とのつながりが強く、人の行き来が現在も盛んであり、食文化の浸透などが見られる。旧宗主国の言語を公用語に用いる国も多く、フランスの植民地が多い西アフリカではフランス語、イギリスの植民地が多い東部は英語が主に用いられている(2)。アフリカからヨーロッパへの移民も多く、ロンドンやパリなどにはアフリカ人のコミュニティが作られ、アフリカ各地の文化や、ヨーロッパの文化と混ざりあった新しい文化が生まれている(→p.120)。



3 農業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。



3 マダガスカルの市場 2015 年。



4 ラクダの牧畜のようす ケニア。

生業と自然環境

5 アフリカでは、狩猟や採集，農耕や牧畜，漁労など，地域の自然環境をたくみに利用した多様な生業が発達してきた。農耕を主に営む農耕民や牧畜を生業の中心におく牧畜民など，生業は民族の生活文化や同族意識と結び付くこともある。他方，アフリカでは一つの民族が複数の生業を営み，同じ民族でも地域や世帯によって主要な生業が異なることもある。

自然環境と生業との関係を概観すると，熱帯では焼畑農業が生まれ，熱帯雨林ではキャッサバ，ヤマイモ，バナナなどが作付けされる地域が多い。雨季と乾季が明瞭なサバナ地域では，モロコシなどの雑穀類，陸稻，マメ類などが栽培され，降水量が少なく植生が乏しい乾燥帯では，牛やヤギ，ラクダなどを飼育する牧畜が営まれる。また，野生植物の果実，食用昆虫，淡水魚などの多様な自然資源が日常の食生活のなかで利用されている。生産される農作物や畜産物の多くは自給に用いられるが，都市部での販売や観光業のための商品化が活発になり，生業や食文化に変化が生じている。

15 サハラ砂漠の南に広がるサヘル地域などでは，干ばつや洪水などの気象災害や地域紛争，農作物の国際価格の変動や都市への人口集中などが地域の生業活動に負の影響を与え，食料不足や飢餓の発生が生じることもある。そのため，持続可能な農業の開発や食料安全保障の課題克服などをめざした国際的な支援や援助が盛んに進められている。

Try 伝統的な生活文化が変化する理由について考えてみよう。

①スワヒリ

スワヒリとは「海岸」を意味するアラビア語のサーヒールに由来する。スワヒリ語とイスラームを基調とするスワヒリ文化は東アフリカ沿岸部で発達し，内陸部にも拡大してイスラーム化が進んだ。

クローズアップ⑧ かわる食文化

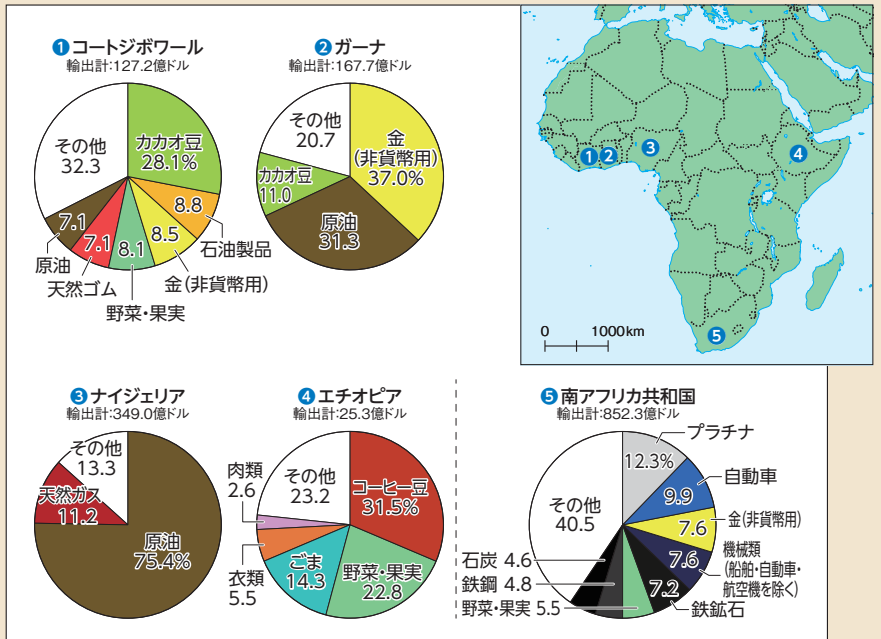
アフリカの代表的な主食は，東アフリカでウガリ，西アフリカでフフ，南部アフリカでシマなどと呼ばれる練りがゆである。原料は地域ごとに異なるが，トウモロコシやヒエなどを粉にし，お湯に入れてこねて作る。肉，野菜，魚などを煮込んだ副食を主食とともに食べるのが一般的で，多数の人々で共食することも多い。家畜のミルク，野生の動植物，食用昆虫なども食卓に並ぶ。近年では，流通網の拡大や中小都市の発展などにより，農村部の日常食に新たな食材が用いられる地域も増えている。市場やスーパーマーケットで販売されるアジア産の米を食べる地域が増え，固形キューブやケチャップのような調味料が使われることで，味付けもかわりつつある。



どうして輸出品が国によって違うんだろう？



1 コーヒー農園のよう
す エチオピア。収穫
(左) と乾燥 (下)。



1 各国の輸出品目 2020年(コートジボワールとガーナの2019年)。UN Comtrade などによる。

3 社会の分断と経済

植民地だった国の産業に旧宗主国との結び付きはどのように影響しているのだろうか。



つながる世界⑥ 身近なアフリカ

アフリカ大陸は日本から1万kmも離れているが、意外にも私たちの身近な場所にアフリカ産の商品が見られる。たとえば、輸入されるタコはモーリタニア、モロッコ、セネガル産の割合が多く、伊勢エビは南アフリカ、バナナ豆はマダガスカル、チョコレートに欠かせないカカオ豆はガーナ産のものが大部分を占める。また、自動車の排気ガスの浄化資材などとして使われるプラチナ(白金)や鋼材の生産過程に必要なマンガンの大部分が南アフリカから輸入されている。アフリカでは、乱獲による水産資源の減少が懸念されており、地域の海や湖沼の自然を守りながら持続的に活用する「ブルーエコノミー」という考え方の重要性が指摘されている。

植民地経済と社会の分断

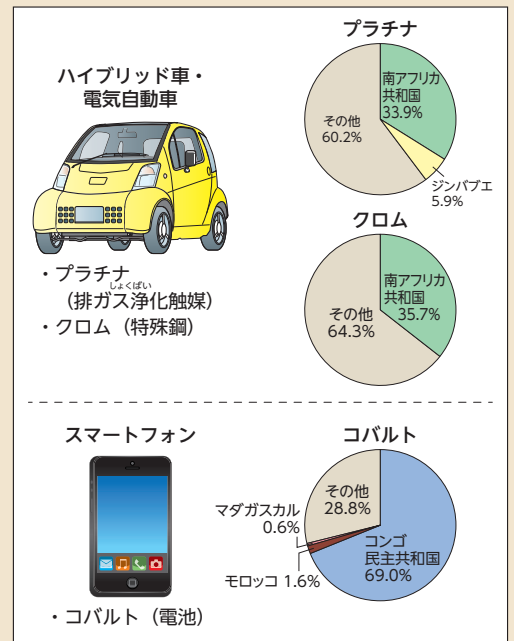
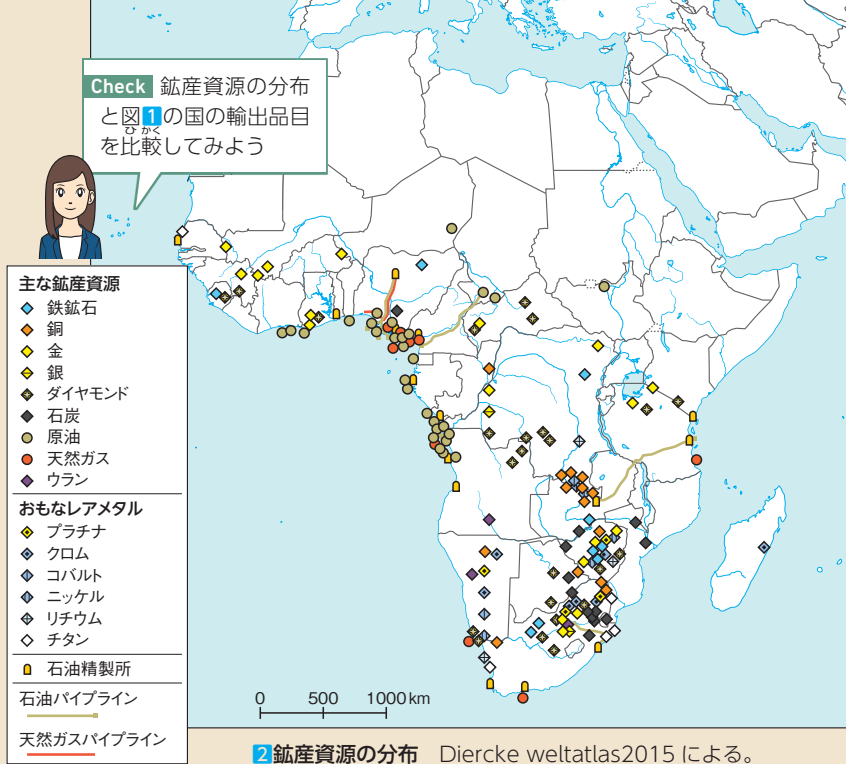
15世紀後半以降、アフリカの経済は奴隷貿易や植民地支配の影響を著しく受けた。宗主

国は、自国が必要とする農作物や鉱産物の生産地として植民地を支配しようとした。人種という考え方による社会的差別が、国の経済構造にも色濃く反映された。南アフリカでは、人種隔離政策(アパルトヘイト)により、黒人は鉱山採掘などの過酷な労働に低賃金で従事させられるなど、白人と黒人との間で産業や労働上の区別がおこなわれた。

19世紀末から宗主国によるプランテーション経営が盛んになり、ガーナやコートジボワールではカカオ、ケニアやタンザニアではコーヒー、茶、サイザル麻などの商品作物が導入された。そのため、ギニアのカカオ豆やエチオピアのコーヒー豆などの農作物、ナイジェリアの原油やザンビアの銅といった鉱産物など、特定の一次産品の輸出に国の経済が依存するモノカルチャー経済となった。

独立後の経済

独立後の多くのアフリカ諸国は、経済の低成長と貧困の悪循環に陥った。世界銀行などの国際機関による経済支援が多く、先進国や国際機関などへの借金である対外債務を依然として抱えている国も多い。また、ジンバブエなど、政治的な動乱や内戦の勃発によって、経済がマイナス成長に陥る国もある。価格変動の激しい一次産品に依存する経済は、国際価格に国の経済が左右されるため安定しない。



3 レアメタルの使いみちと主なアフリカの生産国 2020年。アメリカ地質調査所資料などによる。

経済発展と 社会の融和

独立を果たしたアフリカの多くの国々では、民主化のもとで社会的な差別を廃する動きが進んだが、経済の面では植民地期の構造を脱却することは困難を極めた。他方、植民地期の社会的差別を改善するため、積極的差別是正措置 (アフーマティブ・アクション) を導入する国もある。南アフリカでは、植民地期に差別を受けた人々を政府省庁や企業などの雇用で優遇する「黒人の経済力強化政策」が採択された。

21世紀に入ると、アンゴラ、チャド、赤道ギニアなど、驚異的な経済成長をとげるアフリカの国があらわれている。レアメタルなどの鉱産資源や農産物などの輸出が成長の原動力となり、資源価格の高騰が好調な経済を支えている。急速な人口増加を背景に消費が増大し、市場としての魅力が高まり、グローバル企業の進出や投資が拡大している。一方、経済が発展するなかでも、都市部での治安改善や経済格差の改善、多民族・多民族社会の実現などは依然として多くの国々で課題である。また、食料安全保障の確立や投資を目的として、外国の企業や民間投資家などが土地を取得し、地域の人々が住む場所を奪われる土地収奪 (ランドグラブ) も深刻な課題となっている。旧宗主国であるヨーロッパ諸国との関係は現在でも強いが、近年では貿易を通じた中国との結び付きが強くなり、中国政府や企業による資源開発や投資、インフラ整備などが進められている。



コラム⑨

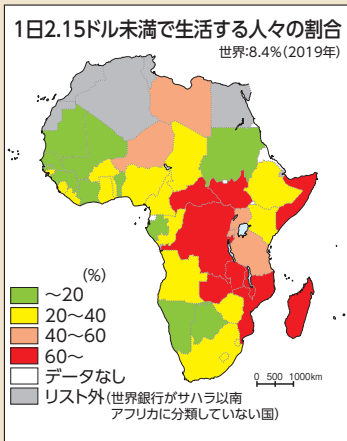
成長する南アフリカ共和国

南アフリカでは、1991年に非人道的なアパルトヘイトが廃止され、1994年には全人種参加の総選挙がおこなわれ、黒人政権が誕生した。プラチナやクロムなどのレアメタル、金、ダイヤモンドなどの鉱産資源の産出をもとに経済成長を続け、先進国の企業進出も多く、サハラ以南アフリカの経済を牽引する国となった (1)。経済成長が著しい南アフリカは、BRICSの一国としても注目されている (→ p.139)。近年では、鉱業から金融や保険へと経済の中心が移りかわり、ICT産業 (→ p.42) の発展もめざましい。2010年にはサッカーワールドカップが開催され、観光客数も増加している。一方、経済が発展するなかで、都市部での治安悪化や経済格差の改善、多民族社会の実現など、新たな課題が生じている。

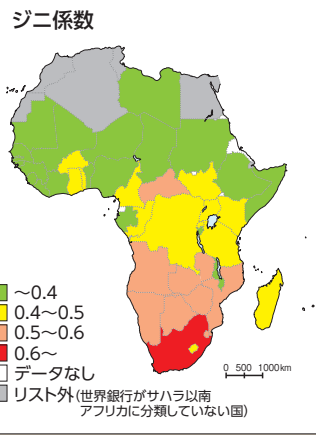
① 欧米諸国に流出していた人材の帰国や、都市部における労働者の所得増加による消費需要の高まりも、経済成長の背景となっている。

Try

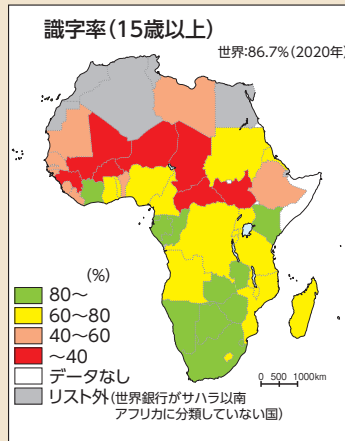
発展途上国における海外からの投資の拡大が人々の生活文化に及ぼす影響について考えてみよう。



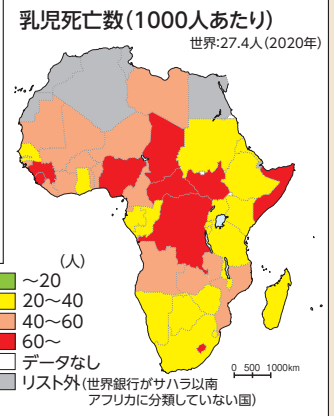
1 1日2.15ドル未満で生活する人々の割合
2008～19年。世界銀行資料による。



2 ジニ係数(所得格差)
2008～19年。数値が1に近づくほど不平等度が高くなる。世界銀行資料による。



3 識字率(15歳以上)
2010～20年。世界銀行資料による。



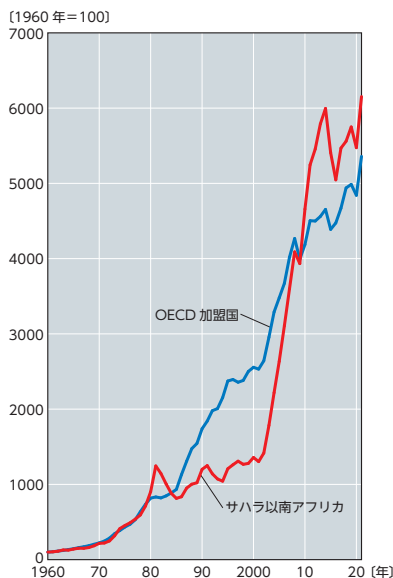
4 乳児死亡率(1000人あたり)
2020年。世界銀行資料による。

Check 世界平均と比べて数値の高い国が多いのはどうしてかな?



4 かわるアフリカと多文化共生

多文化共生をめざして、どのような取り組みがおこなわれているのだろうか。



5 国内総生産(GDP)の推移
1960年の数値を100として算出している。世界銀行資料による。

継続する課題

アフリカは、数世紀にわたる奴隷貿易や植民地支配、独立後の経済の低迷や貧困、紛争など、多くの困難や課題に直面してきた。状況が好転した地域も多いが、紛争や内戦、食料や水の不足、エイズやエボラ出血熱などの感染症の流行、都市部への人口集中とスラムの拡大など、依然として深刻な課題に直面している地域も見られる。経済成長が進むなかで拡大した格差の是正、分断された社会の融和や多民族の共存も取り組むべき課題である。

こうした課題に対する世界的な取り組みは精力的におこなわれており、2015年の国連サミットでは全世界の解決すべき目標を示した**持続可能な開発目標(SDGs)**が採択され、アフリカの諸課題に対してもさまざまな支援が進められている。

変化するアフリカ

アフリカの農村部では、自給のための農牧業を営む人々が多いが、定期市の開催や政府による集中的なインフラ投資などにより中小都市が発達し、外国資本のスーパーマーケットや小売店が進出している。ウガンダやザンビアなどでは、新たな商機を生かそうとする地域の起業家があらわれ、運送業やホテル経営など新たな経済活動に挑戦する人も見られる。一方、店舗で販売される食料や雑貨などが農村部でも急速に日常生活に浸透し、地域の食文化や生活様式を変化させている。

携帯電話の普及が国策としても急速に進められ、農村部でもイン



1 スーパーマーケットで買い物をするヒンバ族の女性 2010年。ナミビア。



3 アフリカ連合 (AU) の平和維持活動 2012年。ソマリアの首都モガディシュでパトロールをおこなう警察部隊。



2 モバイル決済サービス「M-PESA」 2013年。ケニア。M-PESAとは、送金や公共料金の支払い、給料の受け取りに至るまで、日常生活におけるお金のやり取りのほとんどを携帯電話だけでまかなえるサービスであり、ケニアを中心に広く普及している。口座から現金を引き出す場合は代理店 (写真) を利用する必要があるが、こうした代理店は街の至る所で見られ、小さな商店を兼ねていることが多い。写真は診療所を兼ねた少しユニークな代理店。

ターネットやSNSにアクセスできる環境が整備されている。都市部では携帯電話を介した電子マネーやタクシーの配車サービスなどの利用が進み、人々の暮らしに変化が生じている。

一方、観光業の発達も人々の生活に変化をもたらしている。野生動物や地域の文化を観光資源として活用するエコツーリズムなどが盛んなおこなわれ、ケニアなどのように観光業の発達が顕著な国が増加している。

また、国をこえた地域の統一も進んでいる。アフリカ諸国の連帯や諸課題の解決を目的として1963年に創設されたアフリカ統一機構(OAU)は、2002年にアフリカ連合(AU)へと改組し、紛争の予防や解決などの平和維持の分野に重要な役割を果たしている。

多文化共生をめざして

アフリカの歴史を見ると、多民族が共存し、多様な文化が育まれてきた。人々が頻繁に移動する流動性の高い社会のなかで、

一個人が複数の言葉を話し、民族や文化の異なる多様な人々とネットワークを作りながら生活を営んできた。一方、植民地支配や独立後も続く社会の分断により、民族間の対立や紛争が生じる地域もある。大規模な紛争や対立が生じたルワンダや南アフリカでは、紛争が終結した後に異なる集団に属する人々が対話を通じて和解を進める試みがおこなわれた。アフリカに暮らす人々は、長い歴史のなかで育んできた知恵や制度、文化を外来の思想と結び付け、多くの困難や課題を乗り越えようとしている。

Try 持続可能な開発を実現するために必要な支援について話しあって考えてみよう。



つながる世界⑦

日本の支援

日本では、政府や国際機関、非政府組織(NGO)、民間企業などの多様な団体や組織が、発展途上国を支援するための活動をおこなっている。政府が途上国におこなう資金や技術の協力は政府開発援助(ODA)と呼ばれ、その実施には国際協力機構(JICA)などが中心的な役割を果たしている(→p.158)。日本政府は、1993年からアフリカ開発会議(TICAD)を国際機関と協力して開催し、アフリカ諸国の自助努力(オーナーシップ)と国際社会の協力(パートナーシップ)をもとに、経済成長が比較的順調に進んだアジアの経験を共有する「アジア-アフリカ協力」を提唱している。



1 複数の言語が混在する雑貨店 セネガル。フランス語 (Rafraichissez vous!) とイギリス英語 (TELECENTRE) が確認できる。

どうしてフランス語を話す国が多いんだろう？

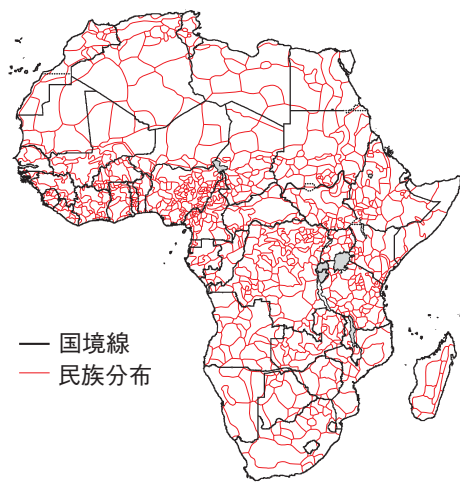


2 第16回フランス語圏サミット 2016年。マダガスカル。

世界の生活文化

民族と言語からみた生活文化

言語は多民族国家の成立にどのように関わるのだろうか。



— 国境線
— 民族分布

1 アフリカの国境と民族分布

多民族と国家

アフリカ大陸には多くの民族が居住する。しかし、ヨーロッパ諸国によるアフリカの分割

→ p.114

や植民地支配によって、民族の居住地とは必ずしも一致しないかたちで国境線が引かれたところも多い。そのため、一つの国家内にさまざまな民族が存在するだけでなく、国境をこえて分布する民族も見られる。宗主国であるヨーロッパも歴史的に多くの民族を抱え、近年では移民や難民が多く、さまざまな言語や宗教を信仰する人々が暮らしている。

→ p.98

ロシアおよびその前身であるソ連およびロシア帝国も多民族国家であった。本来の民族分布を分断して国境線が引かれた場合や民族強制移住などの政策が実施された場合などは、独立後に紛争や対立が生じることがある (ロシアのチェチェン紛争など)。

→ p.108

さまざまな人々を国民として教育するうえで、言語政策は重要である。アフリカでは旧宗主国であるヨーロッパの言語、とくに英語やフランス語などが公用語として設定され、長い間、学校教育の言語教育の場で優先されてきた。これらの言語は独立後もそのまま公用語として残り、各民族間のコミュニケーションの手段として利用されたが、同時に本来の民族言語を利用する若者の減少を招く要因ともなった。これは民族言語の多くが文字をもたない言語であり、公文書や書物として残らないということも要因の一つである。

20



アクティブ④

日本語の広がりについて考えてみよう



近年、日本語を学ぶ人が増加傾向にあります。右の資料から、「日本語学習者の多い地域」と「日本語を学ぶ主な理由」を読み取ってみましょう



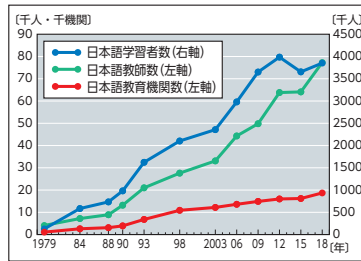
アジア地域が一番多いね



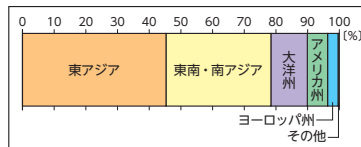
日本はアジア地域から来ている留学生や労働者が多いから、学業や仕事用かな？



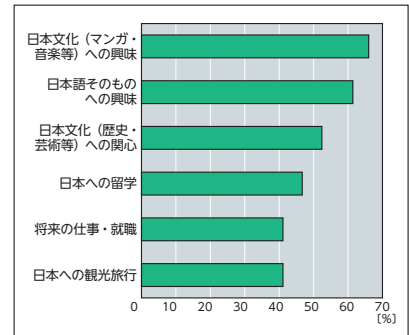
学業や仕事を理由に挙げている人は意外と少ないね。日本文化への興味関心が一番の理由みたい



▲海外における日本語教育の現状



▲日本語学習者の地域別割合 2018年。アジアの学習者がおよそ8割を占めている。



▲日本語学習の主な目的・理由 (全教育段階) 2018年度。

Try 同じ言語を使う人が増えることでどのようなメリットが生まれるだろうか。考え、話しあってみよう。

*上記図版はいずれも独立行政法人国際交流基金の資料による。

同様の状況はロシアでも見られ、シベリアの諸民族では、ロシア語で教育を受けた若者の多くは日常的な利用言語はロシア語であるケースがほとんどである。

5 使用言語の共通性と地域の結び付き

アフリカ諸国におけるヨーロッパ言語の公用語化は、民族や国家が異なる人々の使用言語

の共通性を生み出し、地域間の関係を結び付ける役割を果たしている。

たとえば、アフリカ諸国の若者はイギリスやフランスなどの大学に留学し、出稼ぎ場所としてヨーロッパを選ぶケースが多い。そしてこうした人々の移動が、直行便や航空便数の増加につながり、ますます地域間の利便性や結び付きが強まるという好循環を生んでいる。このように、かつてのヨーロッパの植民地支配によるアフリカ諸国の人々との共通言語化は、地域間でのゆるやかな共同体形成の背景となっている。

政治的な支配は終わりを告げたとはいえ、アフリカにとっては、宗主国であるヨーロッパの生活文化は現在も人々の生活文化に影響を及ぼし続けている。旧ソ連を構成した中央アジアやカフカス地域の人々もロシアの大都市に進出し、同様の状況が見られる。このような共通言語の存在は今後、国家や民族をこえて新しい地域間関係を生み出す要因となるかもしれない。



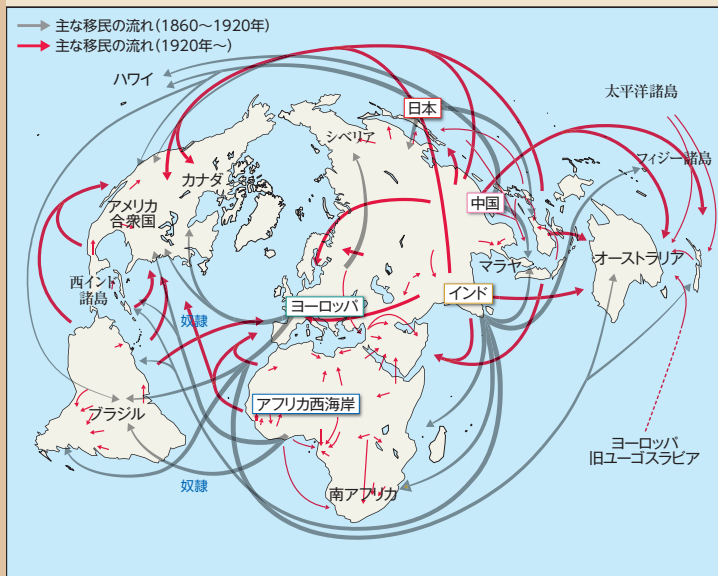
コラム⑩

インドと英語

インドは多民族・多言語国家である。インドで言語がいくつ使用されているのかを正確に把握することが難しい。圧倒的な多数派言語は存在しない多言語の状況下で、旧宗主国であるイギリスの言語、つまり英語が長らく公用語として使用されてきた。しかし、インド政府は1965年以降連邦公用語をヒンディー語に定めた。

その後、ヒンディー語を使用しない多くの地域から激しい反発があり、実際には英語はヒンディー語と同等の地位が保障され、インド国内での共通言語として生き続けている。近年では、インド政府も英語教育に力を入れている。これは、ICT産業においてインド人研究者の国際的な活躍がめざましく、それを支える言語としての英語が重要なためである。共通言語の存在は、インド国内における地域間関係を結び付けるだけでなく、国際的な労働者移動をもたらしているといえよう。

Try 異なる民族どうしが共生するために必要なことについて話しあって考えてみよう。



1 ニューヨーク (上) とサンフランシスコ (下) に到着した移民たち (19世紀後半)



1 移民の流れ 原書『地図とデータで見る移民の世界ハンドブック』などによる。

introduction

移民と多文化共生社会の形成

移民による多文化共生社会はどのように形成されたのだろうか。



なぜ移民が来ることに反対するのかな？



移民の歴史と多文化社会の形成

大航海時代以降は、人やモノの世界規模での移動が可能となり、各地の生活文化に大きな影響を与えた。16世紀から19世紀にかけて、ヨーロッパから世界各地に多くの移民が入植した。また、ヨーロッパ系住民に加えて、奴隷貿易によって多数のアフリカ系住民が、北アメリカとラテンアメリカに強制的に連れて来られた。第二次世界大戦以降は、北アメリカとオセアニアが多くの移民を受け入れている。アメリカ合衆国では、ラテンアメリカ諸国からの移民であるヒスパニックの人々の人口が多く、オーストラリアには、地理的に近い太平洋島嶼国のほか、経済発展の著しい東アジアや東南アジアから多くの人々が移り住んだ。こうした移民が大量に流入した国や地域には、移民とともに多様な生活文化も伝播し、先住民を含めた多民族・多文化の社会が形成されている。

生活文化の共存と対立

多民族・多文化の社会では、さまざまな生活文化が混在するため、価値観や生活習慣などの違いによる文化的な摩擦や衝突が生じている。たとえば、もともとその土地に暮らしていた先住民は、ヨーロッパからの移民が主流の社会が作られると、人種や生活文化の違いから差別され、抑圧されるようになった。先住民が暮らしてきた土地は奪われ、生産性の低い地域や居留地などへの移住を余儀なくされたり、ヨーロッパ系住民の社会への強制的な同化政策により、言語や生活習慣など独自の生活文化が



2 反移民デモのようす 2015年。ドイツ。ミュンヘン。



コラム⑩

アフリカの狩猟採集民

かつてサハラ以南のアフリカには、^{しゅりょう}狩猟採集を^{せいぎょう}生業とする人々が広範囲に存在した。しかし、農耕民族の拡大やヨーロッパ諸国による植民地支配などにより、現在では、^{さばく}狩猟採集民の多くは熱帯雨林の奥地や砂漠などで生活している。

カラハリ砂漠には狩猟採集民のサン（ブッシュマン）が暮らし、クリック音を用いた言語など独自の生活文化を受け継いできた。最近では、定住化政策や国立公園の設置などのため、自由に移動しながらおこなう狩猟採集が制約され、生活文化が変化しつつある。そのため、サンの人々のなかには先住民の伝統文化を守るため、自然の慣習的な利用を認めることなど、先住民の権利にかかわる政治的な運動をおこなう人々もあらわれている。



▲ 狩猟に使う弓矢を準備するサンの人々
2017年。ナミビア。



失われたりした。自分たちの生活文化が奪われることに不満を抱いた先住民が、ヨーロッパ系住民と争いになることがしばしば見られた。

北アメリカやオセアニアの先進国では、第二次世界大戦以降にヨーロッパ以外からの移民が増加し、出身地域ごとのコミュニティが都市域に形成されるなど、**エスニシティ**（民族性）の多様化が進んだ。そのため、異なる価値観や生活習慣をもつ移民が流入した地域では、住民の社会不安が増大したり、移民への誤解や差別が生じたりしている。また、低賃金の外国人労働者の増加による雇用機会の減少や公的機関による移民への優遇政策などへの不満から、移民・外国人の受け入れ制限や非合法移民の排斥運動がおこなわれる場合も見られる。

移民とともに形成された生活文化

現代社会では、人、モノ、情報が驚くほど急速に移動するようになり、私たちの暮らしは便利になった。一方で、異なる生活習慣や価値観をもった人々と接触する機会が増え、生活をともにするうえでの誤解や衝突が起きている。とくに、大航海時代以降にはヨーロッパから世界各地に移民が流入し、先住民や異なる地域をルーツにもつ人々との間で対立が生じた。その後、人々は生活文化の違いによる対立を克服しながら、それぞれの地域で特徴のある多文化社会を形成してきた。こうした移民とともに形成された生活文化を題材にして、異文化理解の意味を考えながら、生活文化の異なる人々がともに暮らす多文化共生について学んでいこう。

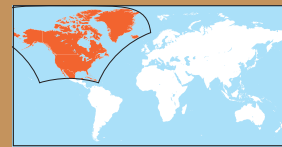
Try 移民の生活文化に対する誤解や差別が生じる理由を考えてみよう。

グループ5



下のテーマから一つ選んで学習を進めてみよう。

テーマ① 移民国家の形成と生活文化（北アメリカ）



→ p.94 ~

テーマ② 移民による多文化社会の形成と変容（ラテンアメリカ）



→ p.106 ~

テーマ③ 先住民と移民による多文化社会の発展（オセアニア）



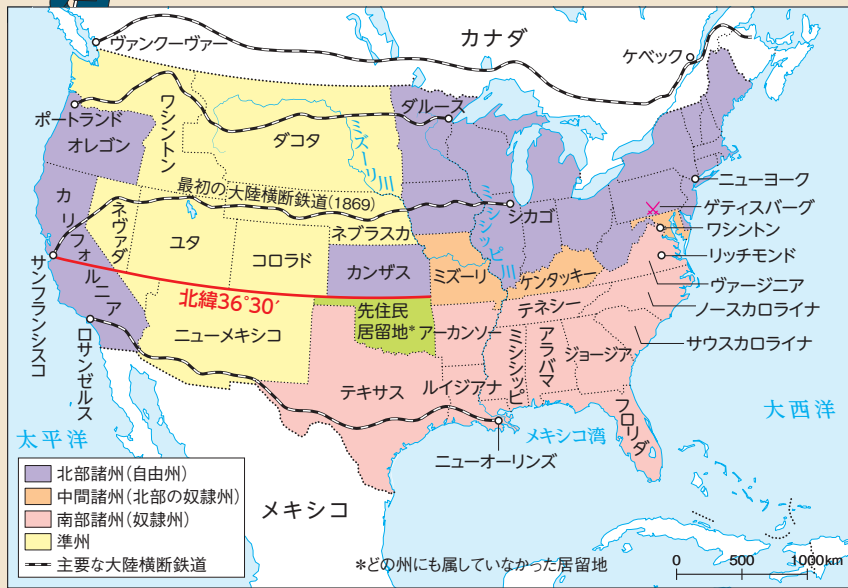
→ p.112 ~

※どのテーマを選んでも生活文化の歴史的背景を学習できるように、各テーマの冒頭では「歴史につながる内容」を扱っています。

この絵は何をあらわしているんだろう？



1 マニフェスト＝デスティニー（明白な運命）
西部開拓は神から与えられた「明白な運命」であるとして象徴的に描かれた。電信線をもった進歩の女神のほか、鉄道や馬車などが描かれており、文明化をとまなう開拓が押し進められた。1890年には、フロンティアの消滅が宣言された。



1 南北戦争と大陸横断鉄道（19世紀なかば）

1 移民国家が形成された歴史的背景

移民国家はどのように形成されたのだろうか。



コロンブスの「発見」と植民地社会

ヨーロッパ人が入植する以前の北アメリカでは、アジアから移動してきた先住民が広範囲に分散して居住し、狩猟を中心としてつ農耕もおこなっていた。1492年にコロンブスが西インド諸島に到達すると、ヨーロッパ人が探検するようになり、17世紀に入ると入植がはじまった。

最初に入植したヨーロッパ人はフランス人であり、現在のカナダの大西洋沿岸やケベック州に入植地を建設した。少し遅れてイギリス人が現在のアメリカ合衆国の大西洋沿岸に入植し、のちの独立13州に発展する植民地が形成された。太平洋沿岸にはスペインの拠点建設された。

北アメリカの発展には河川が重要な役割を果たした。フランス人は先住民から学んだカヌーを利用してセントローレンス川をさかのぼり、五大湖を経てミシシッピ川を下ってメキシコ湾まで達した。イギリスの植民地の拡大はアパラチア山脈に西進を阻まれていたが、1825年にエリー運

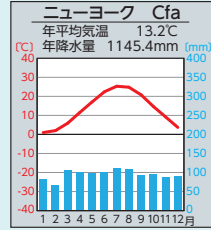
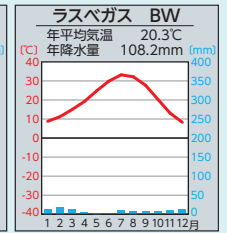
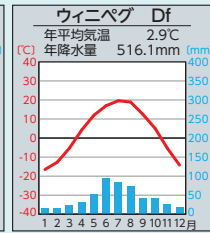
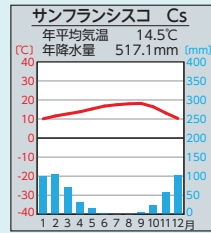
河が開通すると、東部と五大湖周辺の往来が活発になった。

大陸横断国家の成立

北アメリカではヨーロッパの戦争と連動してイギリスとフランスが争っていたが、18世紀なかばにイギリスが支配を確立した。しかし、13植民地はイギリスの支配に抵抗しはじめ、1775年にはじまる独立革命を経てアメリカ合衆国が成立した。その後、アメリカ合衆国は西へ領土を広げ、19世紀なかばまでに大西洋から太平洋まで広がる大陸横断国家となった。その過程では先住民の抑圧が進んだ。イギリスの植民地として残った地域も、1867年に自治植民地カナダを形成し、20世紀初頭までにほぼ現在の領域となった。

アメリカ合衆国では西部への領土の拡大にともない、奴隷制の西部への拡大が大きな争点となり、奴隷制を維持したい南部と反奴隷制の立場をとる北部の対立は深刻になった。北部の人々に支持された大統領が誕生すると南部諸州が反発し、南北戦争が勃発した。戦争が終結すると、勝利した北部では工業化が進み、ニューヨークやシカゴなどの大都市では東・南ヨーロッパからの移民が増加して多様な言語や宗教に基づく生活をはじめた。一方、敗北した南部は経済が停滞し、アフリカ系の人々は根強い人種差別のもとでの生活が続いた。南北戦争後には西部開拓がさらに進み、開拓者たちは厳しい自然環境に適応した暮らしを営んだ。

Try 移民の多い国で見られる人種・民族への差別や偏見について調べてまとめてみよう。



Check 東西方向での気候の違いを図から読み取って説明してみよう



東から西へ開拓していく過程で、険しいロッキー山脈は大きな壁になっていそうだね。実際に開拓されたのは、他の地域と比べて遅かったんじゃないかな (→ p.126)

西経 100°より東側は平原が広がっていて河川が多いね。巻頭⑥を見ると、温暖で雨も多そう。これらの自然環境は、開拓だけでなく、農業のあり方や工業の発達にも影響していそうだね (→ p.128,130)



南北に走る山脈と中央の平原

→巻末⑧⑨

北アメリカでは、東にアパラチア山脈、西にロッキー山脈(1)がそれぞれ南北に走り、中央に平原が広がっている。アパラチア山脈は安定陸塊の山地で、高いところでは標高2000m級の山々が連なっている。一方、ロッキー山脈は変動帯に位置し、急峻な地形で標高4000mをこえる山岳が見られる。ロッキー山脈の西側にも山脈が南北に走っており、太平洋との間に平地は少ない。中央部は平原地帯であり、西に向かってゆるやかに標高が高くなる。また、ミシシッピ川が多くの支流を集めて南流している。ハドソン湾周辺は安定陸塊であるカナダ楕状地が広がり、氷河湖が多数存在する。

湿潤の東部と乾燥の西部

→巻頭⑥⑦

北アメリカの気候は、西経100度付近を境に、東部では降水量が比較的多く、西部には年降水量が500mmを下回る乾燥地域が広がるという特徴がある。南北の違いも大きく、温帯を中心としつつ、フロリダ半島南部の熱帯や大陸西部の乾燥帯から北極圏付近の寒帯まで、さまざまな気候が見られる(2)。中央部の平原地帯では竜巻が起りやすいほか、メキシコ湾岸から大西洋沿岸南部はハリケーン(熱帯低気圧)が通過して(→ p.177)、大きな被害が生じることがある。カナダは偏西風の影響が強く、冬季に南寄りに蛇行すると南部の人口密集地域で大雪になりやすい。



1 ロッキー山脈



2 オレンジの収穫 カリフォルニア州。地中海性気候を生かして栽培されている。

主な移民(■:20万人)

- 北・西ヨーロッパ
- 南ヨーロッパ
- 東ヨーロッパ
- アジア
- カナダ
- 中南米
- サハラ以南アフリカ

先住民族の居住地

フロンティアの開拓

- 1800
- 1830
- 1860
- 1880
- 1880年~

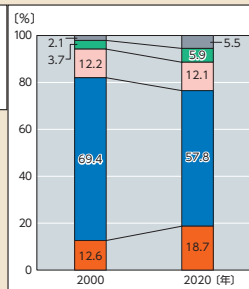


英語以外の言語も使われているんだね



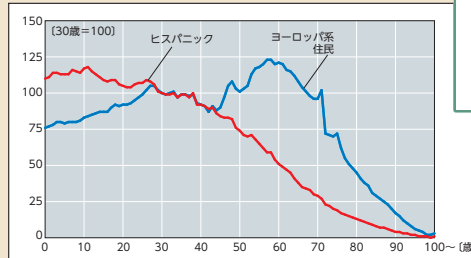
1 多言語で表記された投票所を示す看板 2016年。カリフォルニア州口サンゼルス。

- 先住民など
- アジア系
- アフリカ系
- ヨーロッパ系
- ヒスパニック

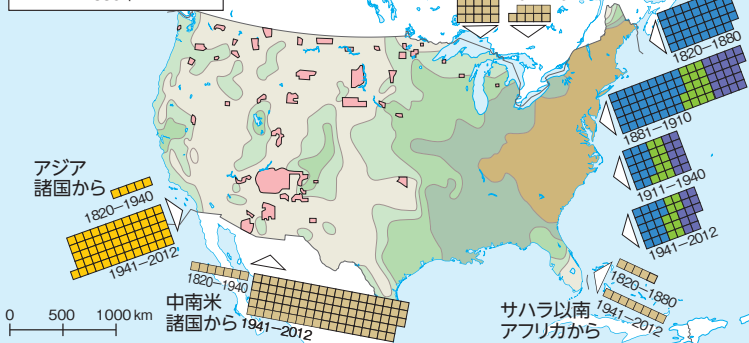


2 人種・民族構成の変化 アメリカ合衆国国勢調査局資料による。

3 ヒスパニックとヨーロッパ系住民の年齢構成 2018年。30歳人口を100として算出している。アメリカ合衆国国勢調査局資料による。



Check 今後流入する移民の影響を除くと、アメリカ合衆国の人種・民族構成はどのように変化するだろうか、図から読み取ってみよう



1 アメリカ合衆国の移民の歴史 Diercke Weltatlas 2015 による。

2 移民国家の発展と人々の生活

世界を代表する移民国家とその社会はどのように形作られたのだろうか。



1 WASP

白人 (W) かつアングロサクソン系 (AS) でキリスト教のプロテスタント宗派 (P) を信仰する者をさす、それぞれの頭文字を合わせた表現。長らくアメリカ合衆国の主流派であった。

2 ヒスパニック

主にラテンアメリカ出身のスペイン語を話す人々はヒスパニックと呼ばれてきたが、最近ではラティーノという表現が好まれるようになりつつある。ほぼ同じ意味で用いられるが、後者はルーツであるラテンアメリカへの愛着が強調される傾向にある。

3 公民権運動

南部諸州を中心に奴隷制度廃止後も続いたアフリカ系住民への差別に反対する運動で、「私には夢がある」という演説で有名なキング牧師の活躍などにより、1964年、連邦議会における公民権法の制定をもたらした。

移民国家としての発展

ヨーロッパ人の到来以前のアメりカ大陸には先住民(ネイティブアメリカン)が暮らしていたが、17世紀以降ヨーロッパ人の入植が進んだ。また、南部の州には綿花プランテーションの労働力としてアフリカから連れてこられた人々が早くから存在した。19世紀なかばには中西部の開拓が進み、イギリスに加えドイツや北ヨーロッパからの人々が入植し、それらの地域の文化がもち込まれた。

19世紀初頭から大西洋岸や五大湖沿岸を中心に産業革命が進展し、19世紀末になると工業化がさらに進行した東部や中西部の都市で多くの労働力が必要とされた。その労働力を担ったのは南・東ヨーロッパから大量に流入した移民であった。彼らは、言語や宗教といった点でアメリカ合衆国の主流派であったWASPと異なっており、アメリカ合衆国の多民族化が進んだ。また、西海岸の州には多くの中国人や日本人が移住し、大都市では中国人街や日本人街が形成された。

最近では、メキシコとの国境に近い州を中心に、ヒスパニックと呼ばれるラテンアメリカからの人々が増加し、スペイン語が広くに用いられている。ヒスパニックの人々の多くは農作業やファストフード店員などの低賃金の労働に従事し、アメリカ社会を支えている。アメリカ合衆国の高齢化の進行が比較的ゆるやかなのは、若年層が多く、出生率も高いヒスパニックの人々の増加によるところが大きい。



カナダの社会と文化

カナダは、アメリカ合衆国の独立後も北アメリカに残ったイギリス植民地を中心に形成された連邦制の国家である。国土面積はロシアに次ぐ世界第2位という大陸規模の国家であり、移動手段を航空機と自動車に大きく依存するなど、アメリカ合衆国との類似点も多い。一方で、カナダは現在もイギリス国王を元首とする立憲君主国であり、英語に加えてフランス語も公用語とするなど、社会のしくみは大きく異なる。

現在のカナダの領域は18世紀なかばにイギリスが支配を確立するに至り、イギリス系住民とフランス系住民が共存してきた。しかし、少数派であるフランス系住民の立場は弱く、1960年代以降、フランス系住民が集中する東部のケベック州では分離・独立運動が激しくなった。その後、僅差でカナダからの分離・独立を否決した1995年の州民投票を経て、近年では落ち着きを取り戻しつつある。

カナダは1960年代に移民政策を改め、1971年に世界にさきがけて多文化主義の導入を宣言して以来、さまざまな国・地域からの移民や難民を積極的に受け入れてきた。イギリスの性格を現在も継承しつつ、1965年に現在の国旗、1980年に二言語の歌詞をもつ現在の国歌が制定され、それらはカナダ人のアイデンティティのよりどころとなっている。ヨーロッパ人の入植以前から暮らしていた先住民への政策も変化しつつあり、1999年にイヌイットの人々が中心となるヌナヴト準州が創設された。最近では先住民の歴史の見直しが進められ、先住民とのさらなる和解が模索されている。



▲ケベック州の分離・独立運動 1995年。ケベックの旗にあるユリの紋章は、もともとフランス王家のもの。

多様性と課題

かつて移民はアメリカ合衆国に定着するにつれてもち込んだ言語や文化を失う傾向にあった。しかし、1960年代の**公民権運動**を経て、現代では互いの文化を尊重する社会に変化し、民族のサラダボウルと呼ばれるようになった。また、すでに失われた移民の生活文化への理解や関心も高まり、それらは各地の移民博物館で展示されている。一方、アフリカ系住民や移民への偏見は今なお根強く残っており、痛ましい事件が絶えない。人種差別や偏見は、アメリカ社会が抱える大きな課題となっている。

アメリカの豊かな生活とその広がり

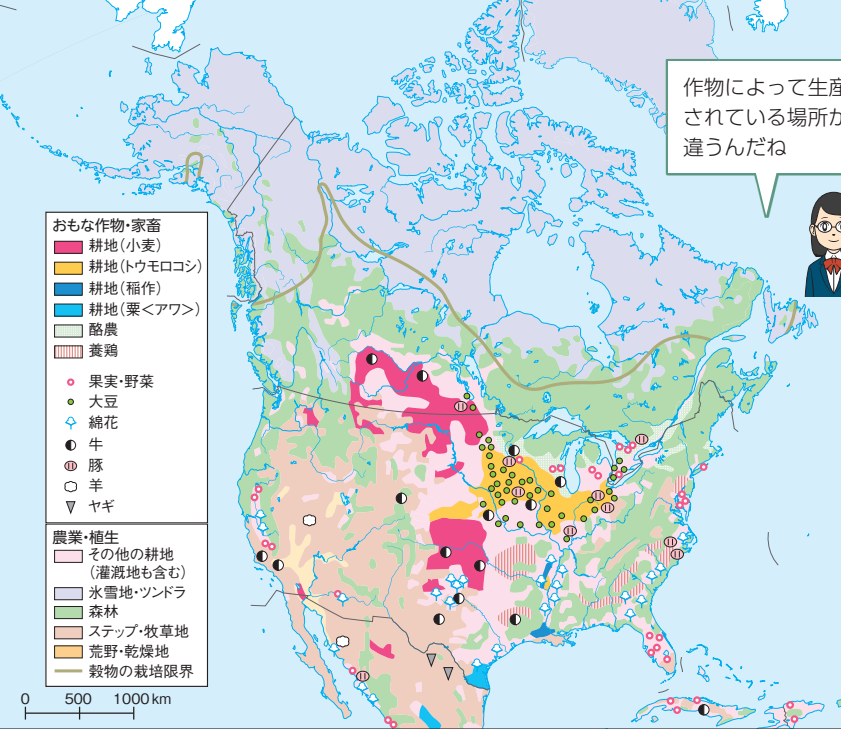
第一次世界大戦後のアメリカ合衆国では、企業活動を円滑にする政策が導入され、経済的に繁栄した。流れ作業による大量生産がはじめていた自動車などの新しい耐久消費財の普及により、アメリカ合衆国は**大量生産・大量消費**の時代を迎えた。自動車の普及により、郊外に住宅を求める人が増え、自動車の利用を前提としたショッピングセンターが出現した。また、ラジオが普及し、娯楽も多様化して映画やプロスポーツ観戦が楽しめるようになった。第二次世界大戦を契機にアメリカ軍が世界各地に駐留すると、アメリカの豊かさは世界中の人々のあこがれとなり、世界各地の人々の生活に変容をもたらした。

①近年では、アフリカ系の大統領やアジア系の副大統領が誕生するなど、これまで不利な境遇におかれてきた集団からアメリカ社会の指導的地位に就く者があらわれるようになった。一方で、多様性の尊重は人種・民族にとどまらず、同性婚や多様なジェンダー・アイデンティティ（性自認）への配慮といった、性的少数者に対する理解や対応も進みつつある。



②コーラの広告 大量に生産された商品を消費に結び付けるうえで、こうした広告が大きな役割を果たした。

Try 言語や宗教の違いに着目して、移民への差別や偏見をなくす取り組みについて調べてまとめてみよう。



作物によって生産されている場所が違うんだね



1 トウモロコシを収穫する移民労働者 カリフォルニア州。

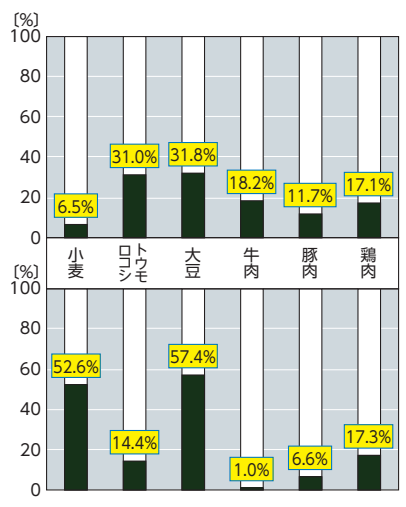


2 大規模なフィードロットで肥育される肉牛 テキサス州。

1 農業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。

3 移民に支えられる農業とアグリビジネスの発展

移民はどのように農業を支えているのだろうか。



2 アメリカ合衆国における主要な農作物の生産量が世界全体に占める割合(上)と生産量が輸出に占める割合(下)の割合 2020年。FAO STATによる。

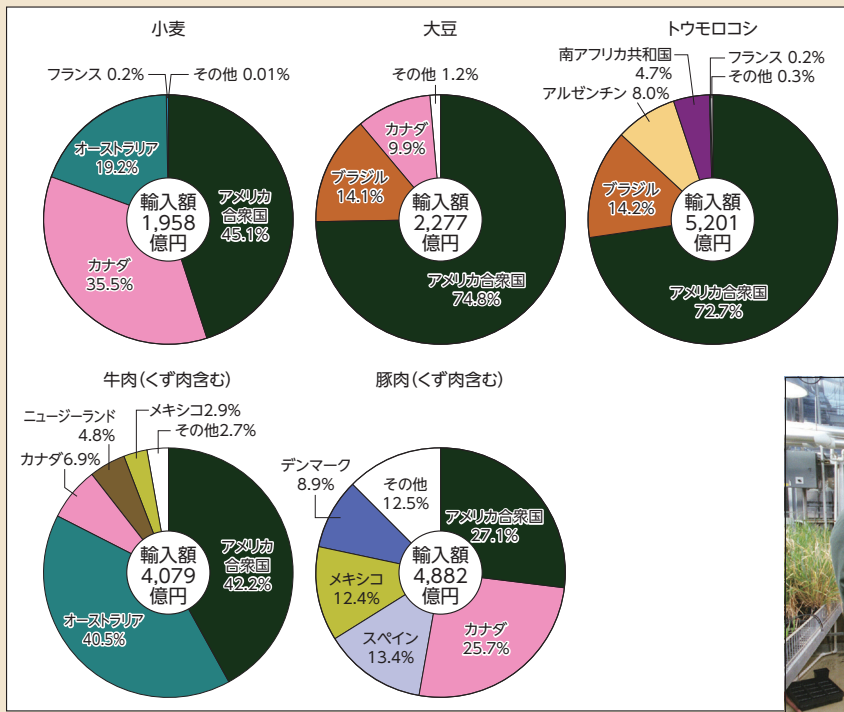
家族農場から 企業的農業へ

アメリカ合衆国は湿潤な東部と乾燥した西部に区分することができ、降水量に恵まれた東部では先住民(ネイティブアメリカン)によってトウモロコシやマメ、カボチャが栽培されていた。ヨーロッパ人が到来すると、東部では混合農業が導入され、入植した人々はそれにトウモロコシを組み込んだ農業を営み、生活を支えた。

アメリカ合衆国では西ヨーロッパの伝統を受け継ぎ、家族を農業経営の単位とする独立した農場が中心であった。西部への開拓が進むと、地域ごとに環境に適応した農業形態が発達した(適地適作)。しかし、機械化や大規模化が進み、少数の企業的農家が広大な農地を耕作するようになり、西部を中心に家族農場は次第に衰退していった。その結果、特定の作物栽培への専門化が進むとともに、低賃金労働者の雇用が見られるようになり、果実のように手作業が不可欠な作物の収穫期にはヒスパニックなどの労働力に頼ることが多くなっていった。

西部における 灌漑農業の発展

降水量の少ない西部における農業には灌漑が不可欠であり、センターピボット方式による大規模な農場が広がる。中央平原からプレーリーにかけてのコーンベルトと呼ばれる混合農業地帯で営まれてきた肉牛の肥育はグレートプレーンズにその中心が移り、フィードロットと呼ばれる企業的農場でおこなわれ、立地する食肉工場の労働力の多くも移民が担っている。



3 日本の主な輸入品目における国・地域別の割合 2021年。農林水産省資料による。

3 温室内で研究・栽培される遺伝子組み換え小麦 2000年。ノースカロライナ州。



アグリビジネス企業の台頭

農業の工業化にともない、現代のアメリカ合衆国ではアグリビジネス（農業関連産業）が

盛んである。アグリビジネス企業は、農産物の流通や加工、多収量品種の開発、肥料や農薬、農機具の供給など幅広い事業を手がけており、近年では大豆の遺伝子組み換え作物の開発が注目されている。

アグリビジネス企業のなかでも、穀物メジャーと呼ばれる巨大穀物商社は、貯蔵施設や輸送設備を保有して穀物の流通を支配し、影響力が世界に及んでいる。価格変動を予測するための情報収集能力も高く、たとえば、穀物の価格は生産地の天候や収穫状況に大きく左右されるため、穀物メジャーは人工衛星などを用いて世界中の天候状況を調査している。穀物メジャーの一部は食肉産業を含む多角的な食品関連事業を営み、海外にも積極的に投資する多国籍アグリビジネス企業に成長した。

農業の抱える課題

アメリカ合衆国では、各地で多様な自然環境に適した作物を栽培してきた（適地適作）。しかし、農業の工業化にともなって、土地利用の単純化や農薬と化学肥料への依存、さらには土壌の流出が懸念されるようになった。また、灌漑に依存する地域では、地下水の枯渇が懸念され、水資源の確保などの課題を抱えている。地下水が枯渇しなくても、水をくみ上げるための費用がかかるため、作物の販売価格がそれを上回ることが経営存続の重要な要素となっている。

クローズアップ⑩ 食の安全性と意識の変化

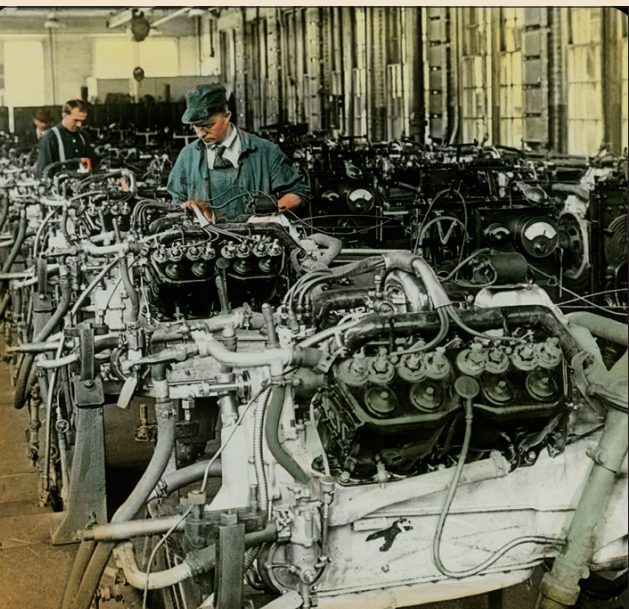
近年、バイオ技術の発達によって遺伝子組み換え作物の開発が進んでいる。日本やヨーロッパ諸国などではその安全性について慎重な見方が強いのに対して、アメリカ合衆国では盛んに栽培され、加工食品に用いられている。

しかし、スーパーマーケットで販売される農作物や食品の質への不信感を背景に、アメリカ合衆国においても大都市を中心として人々の健康志向や食の安全への関心が高まりつつある。それを反映して、近郊の農家が新鮮な野菜や果実などを提供し、旬の作物を購入できるファーマーズマーケットが各地で盛況であり、その集客力は都市の中心市街地の活性化にも一役買っている。

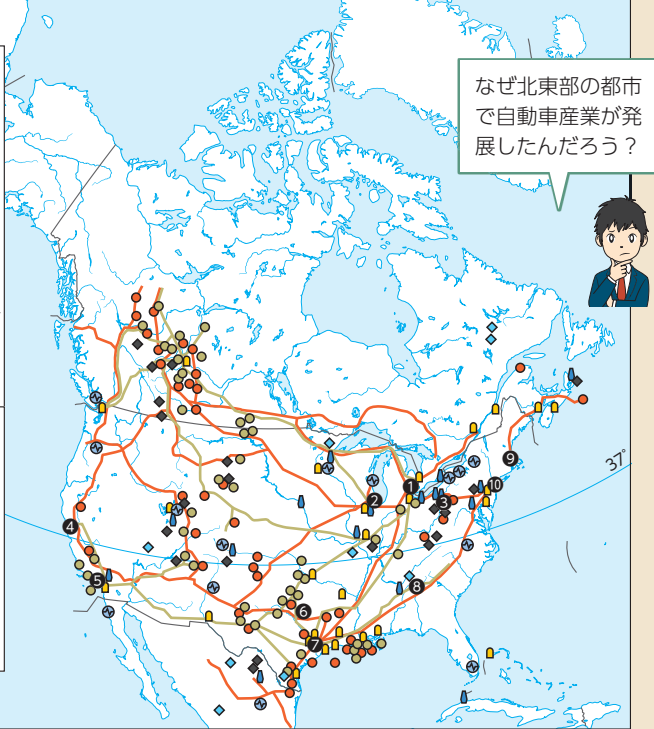
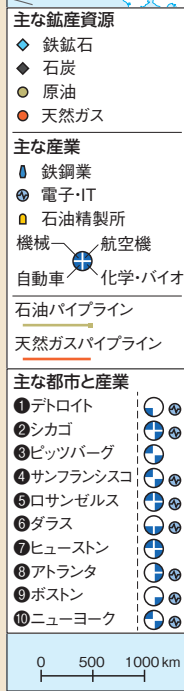


▲ 地域の人々でにぎわうファーマーズマーケット バージニア州。

Try 移民に低賃金労働者が多い理由について考えてみよう。



1 自動車のエンジンをテストする専門家
1915年。ミシガン州。デトロイト工場。



1 鉱工業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。

4 移民が支えた工業と情報通信技術産業の発展

情報通信技術産業の発展にともない、どのように生活は変化したのだろうか。



立地条件を生かした工業の発展

アメリカ合衆国では19世紀から20世紀前半にかけて北東部や五大湖沿岸地域で急激な工業化が進行した。北東部を流れる河川に存在する滝や急流は水車や水力発電の動力源となり、その動力を利用して繊維工場などが立地した。そうした工場における労働力を担ったのは主に移民であった。

五大湖沿岸地域では、周辺で産出される石炭と鉄鉱石が水運によって結び付いて鉄鋼業が発展した。また、デトロイトは大量生産方式を採用した自動車企業の拠点として繁栄した。

立地要因の変化と南部の発展

南部は南北戦争以後、遅れた地域とみなされてきた。しかし、使用するエネルギーにかかる費用が安く済むうえに、多くの労働力を必要とする産業にとっては低賃金の労働力が得られることは魅力的であった。また、南部ではメキシコ湾で産出される石油や天然ガスを利用した工業が発展した。1970年代に入ると工業誘致策が実って南部の工業化が進み、北緯37度以南に位置する地域はサンベルトと呼ばれるようになった。最近では自動車産業の進出が顕著であり、日系の企業も工場を開設している。

一方、五大湖沿岸地域は工場の撤退が続いてラストベルトと呼ばれるようになり、衰退の著しい地域というイメージで語られてきた。近年では先端技術産業などの新しい産業が発展し、一時期の衰退した状況を脱しつつあるピッツバーグなどの都市も見られる。

コラム12

天然ガスの動向

天然ガスは発熱量が高いわりにCO₂発生量が少ないため、有望なエネルギーとして世界的にも需要が増えている。アメリカでは、技術革新によってシェールガス（非在来型天然ガス）の生産が2008年ごろから急増した。天然ガスの価格が大幅に下落するとともに、世界のエネルギー市場に大きな影響をもたらす「シェール革命」が起こり、天然ガスの消費は世界的に増加した。

しかし、シェールガスは地下深くの頁岩層を水圧破砕して採掘するため、環境などへの悪影響も指摘されている。



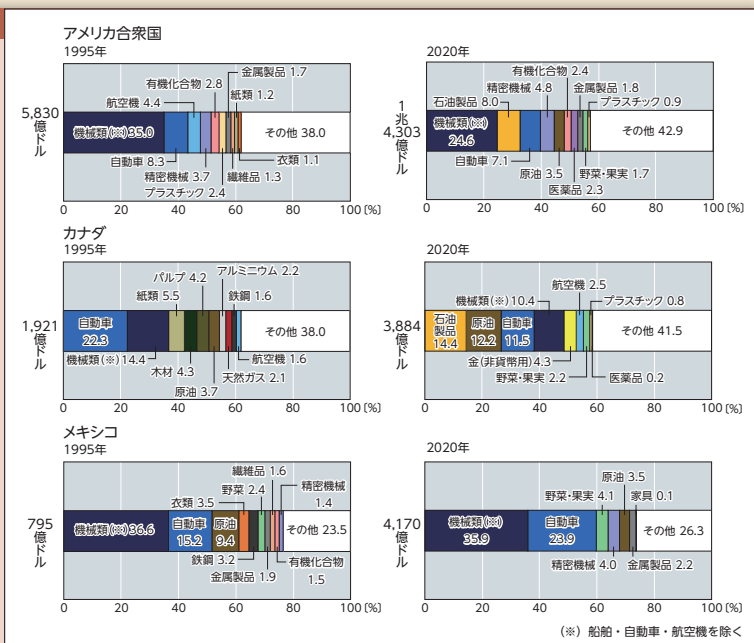
コラム⑬

北米自由貿易協定 (NAFTA)

北アメリカでは、1980年代以降貿易の自由化が進められてきた。とくに、1994年にアメリカ合衆国、カナダ、メキシコが結んだ北米自由貿易協定 (NAFTA) によって経済統合が進み、これらの3か国で流通する商品には、英語、スペイン語、フランス語の3言語で説明が記載されるようになった。また、比較的賃金水準の低いメキシコへの製造業の移転が見られるようになり、メキシコの工業化を促進した。

しかし、近年になってアメリカ合衆国が NAFTA の見直しを求め、2018年に締結されたアメリカ・メキシコ・カナダ協定 (USMCA) では自動車部品の生産地の規制が強められるなど、3か国間の自由貿易のあり方が変化し、日本企業も対応を迫られている。

▶ USMCA 加盟国の輸出品目
UN Comtrade などによる。



ICTの発達と世界への広がり

アメリカ合衆国は世界経済の中心であり、つねに移民をひきつけてきた。そして、移民は農業や工業、さらには都市の生活を支える労働力となってきた。最近では南アジア系の移民が活躍する情報通信技術 (ICT) 産業の発展が著しく、優れた人材を輩出してきた大学が立地するシリコンヴァレーや東部のボストンは研究開発の拠点となっている。

情報通信技術産業は、冷戦時代にアメリカ合衆国で研究・開発されたインターネットが民間に開放されてから大きく発展し、近年はスマートフォンなどの普及がますます人々の生活を変容させつつある。たとえば、インターネットによる通信販売が浸透した結果、アメリカ合衆国の大都市では百貨店やファッションブランドの店舗が減少傾向にあり、実店舗のショールーム化が進んでいる。一方、実店舗はその場でほしいもの入手できることが強みであり、インターネットで事前に商品注文して店舗で受け取るサービスの提供など、インターネット店舗と実店舗の融合もはじまっている。また、人工知能 (AI) の発達によって人々の生活が大きくかわることが予想される。アメリカ合衆国からはじまったこうした動きは世界の生活文化を変容させつつある。

一方、近年では GAF A と呼ばれるアメリカ合衆国の情報通信技術産業の巨大企業による個人情報の独占やその管理、売り上げに対する課税方法などをめぐって、世界各国で厳しい目も向けられている。



② 初代「iPhone」を買い求める人々の行列
2007年。ミシガン州。

① GAF A

Google, Apple, Facebook, Amazon の頭文字をとった表現。それぞれ、検索エンジン、パソコンやスマートフォン、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)、インターネットショッピングの最大手企業であり、アメリカ合衆国を拠点に世界中で利用され、莫大な利益をあげている。

Try 情報通信技術産業による人々の暮らしの変化について考えてみよう。



Check 文明はどのような場所に発達したのだろうか？右ページの地勢図と比較して読み取ってみよう

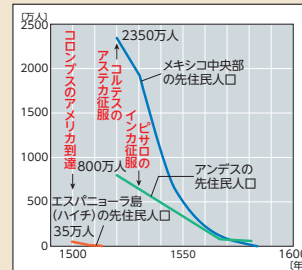


1 マチュピチュ遺跡 ペルー南部。アンデス山頂部に残る、15世紀なかごろのインカ帝国の高地遺跡。通路や水路がめぐらされた住居跡、神殿、大広間がある。周囲の段々畑ではトウモロコシなどが栽培された。



どうしてヨーロッパ人はラテンアメリカを侵略したのかな？

2 鉱山で働かされる先住民 必要な労働力は先住民の強制労働や、アフリカから連れてきた奴隷によってまかなわれた。



2 先住民人口の推移 スペインの過酷な支配に加え、もち込まれた疫病が大流行したことで、先住民の人口は激減した。

1 ラテンアメリカの古代文明とヨーロッパ人による征服 Diercke Weltatlas 2015 などによる。

1 先住民と移民がおりなす生活文化の歴史的背景

先住民と移民による多民族・多文化社会はどのように形成されてきたのだろうか。



古代文明の成立

ラテンアメリカには、先住民(インディオ)によって、アジアやヨーロッパとは異なる特徴をもった都市文明が紀元前より築かれていた。それらは、ユカタン半島やメキシコ高原のメソアメリカ文明と、アンデス高地を中心としたアンデス文明とに大別される。

これらの文明では、高度な灌漑技術を用いた農業がおこなわれ、トウモロコシやジャガイモを主食とした農耕文化が発展した。製鉄技術はなく、金や銀の鑄造技術が発達していた。すぐれた石材加工や石造建築もこれらの文明の特徴であり、マヤ文明のチチェン・イツァ遺跡やインカ帝国のマチュピチュ遺跡などは世界遺産となっている。

スペインによる侵略と文明の滅亡

ラテンアメリカに成立した先住民の文明は、大航海時代にコロンブスが「新大陸」に到達して以降、スペイン人の侵略により滅亡した。テノチティラン(現在のメキシコシティ)を中心

に、メキシコ高原に勢力を広げたアステカ王国は、コルテスによって1521年に征服された。また、クスコを首都として、中央アンデスを支配したインカ帝国は、ピサロによって1533年に滅ぼされた。

スペイン人たちは征服した国々から金銀を略奪し、トウモロコシ、ジャガイモ、トマトなどの農作物をヨーロッパに伝えた。一方で、インフルエンザや天然痘などの伝染病をもたらし、免疫をもたない先住民の人口は激減した。

植民地支配と新たな生活文化

ラテンアメリカの大半はスペインとポルトガルの植民地となった。メキシコやペルーでは、スペインからの移民やその子孫により、先住民を労働力とした銀の採掘や大規模農場(アシエンダ)の開発がおこなわれた。また、カリブ海の島嶼やブラジル大西洋岸ではサトウキビ栽培が盛んにおこなわれ、労働力不足を補うためにアフリカから多くの人々を連行し、奴隷として働かせた。

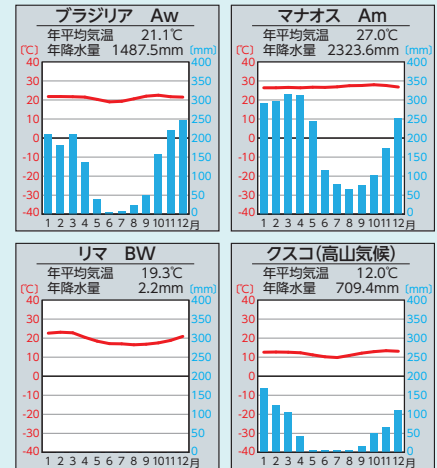
先住民は農耕文化などに伝統的な暮らしを残しつつも、移民がもち込んだ社会システムや生活文化を受け入れた。他方、移民やその子孫たちは、先住民の影響を受けて自分たちの生活文化を変容させてきた。先住民と移民の生活文化が相互にかかわりあってきたことで、独自の生活文化をもつ多民族・多文化社会が形成された。

Try ヨーロッパに伝わった農作物により影響を受けた食文化について調べてみよう。

⑨先住民と移民による独自の生活文化を支えた自然環境



Check マナオスと比較して、高山に位置するクスコの気候の特徴を説明してみよう



古代文明が栄えた場所は山がちな地形が多いね

とりわけアンデス山脈は険しいから、人の行き来は大変そうだね。他の地域と比べると民族の構成に特徴がありそうだし (⇒ p.134)、伝統的な暮らしが残っていそうだね (⇒ p.136)



西の大山脈と東の安定陸塊

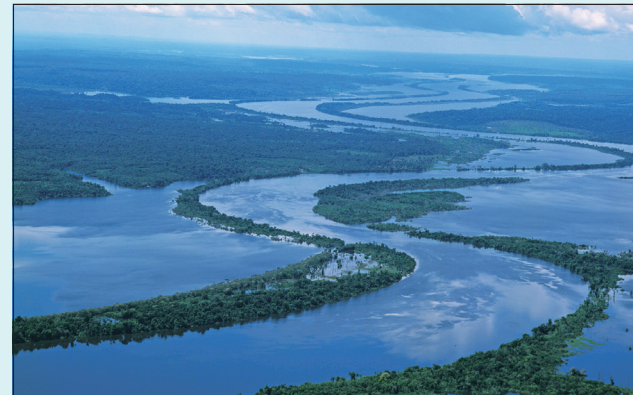
→巻末⑧⑨

中央アメリカから南アメリカ大陸西部にかけては変動帯に位置しており、地震や火山活動が多い。アンデス山脈は南北 7000km 以上にも及ぶ大山脈で、アンデス文明の中心であった標高 3000 ~ 4000m のアンデス高地は高山気候に属し、現在でもクスコやラパスなどの都市に多くの人々が暮らす (⇒ p.29)。南アメリカ大陸東部は安定陸塊のブラジル高原やギアナ高地であり、アンデス山脈と安定陸塊の間には、アマゾン盆地やオリノコ川流域の低地が広がる。

広大な熱帯雨林と周辺の気候

→巻頭⑥⑦

赤道直下のアマゾン盆地は高温多湿な熱帯雨林気候や熱帯モンスーン気候で、多種多様な生物を含んだ世界最大の熱帯雨林 (1) が見られる。その南北に隣接する地域はサバナ気候となり、オリノコ川流域の低地には熱帯草原のリアノが、ブラジル高原には低木林と草原が入り混じるセラードが広がる。ブラジル南部からアルゼンチンにかけての大西洋岸は温暖湿潤気候であり、ラプラタ川の河口に近い地域を中心にパンパと呼ばれる肥沃な温帯草原が見られる (2)。ペルーからチリ北部にかけて、アンデス山脈西側の海岸域は沖合を流れる寒流のペルー (フンボルト) 海流の影響を受けて形成された砂漠 (⇒ p.36) が広がる。



1 熱帯雨林のなかを流れるアマゾン川 ブラジル。



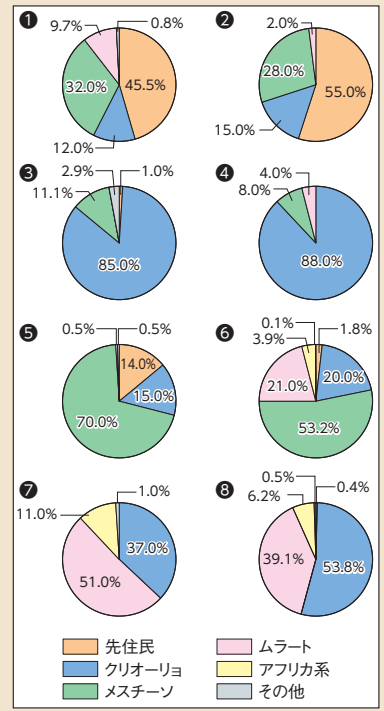
2 パンパでおこなわれる牛の放牧 アルゼンチン。



1 ラテンアメリカの独立と旧宗主国



2 ラテンアメリカ諸国の人種・民族構成と主な言語
Schweizer weltatlas 2017 などによる。



2 独自のラテン系文化の形成

ラテンアメリカの生活文化はどのように形成されたのだろうか。



ヨーロッパの影響を受けた文化

16世紀になって、メキシコやカリブ海の島々を含む中央アメリカと南アメリカのほとんどの地域はスペインやポルトガルの植民地となった。古代文明の中心地であったメキシコ高原・アンデス高地や、貿易の拠点となった南アメリカ大陸の大西洋岸には都市が建設され、ヨーロッパから多くの人々が移住した。

移住したヨーロッパ人とともに、植民地には言語や宗教などの新しい文化が流入した。スペインの植民地であった国々では、現在もスペイン語が公用語とされており、同じようにポルトガルの植民地であったブラジルではポルトガル語が公用語となっている。カリブ海の島々では英語を主な言語とする国もあり、ヨーロッパ系の言語とそのほかの言語が混成したクレオール言語を用いる人々もいる。

先住民へのキリスト教の布教も進められ、自然崇拝や祖先崇拝を基盤とした土着の宗教は失われた。現在では、ほとんどの地域でキリスト教（カトリック）が信仰されている。アンデス高地などでは独自のカトリック信仰も展開し、褐色の肌の聖母や先住民の山岳信仰とキリスト教文化が重なった祭祀が見られる地域もある。こうしたラテン系のスペインやポルトガルの人々がもち込んだ言語や宗教などによって、メキシコ以南の地域は文化の共通性が高く、ラテンアメリカと呼ばれている。



1 ブラジルで最初におこなわれたミサ ブラジルの先住民にキリスト教がはじめて伝えられたころのようす。



歴史への旅⑩

日系人がつなぐブラジルと日本

1920年代から30年代に、多くの日本人がラテンアメリカに移住した。とくにブラジルへの移住者が多く、はじめての日本人移民がブラジルに到着した1908年から第二次世界大戦までの間に約19万人の日本人が海を渡った。現在、ブラジルには約190万人とも言われる日系人が暮らしている。

初期の日本人移民は、労働力不足となっていたコーヒー農場での契約労働者(コロノ)として働いた。その後、ブラジル各地に建設された入植地で、野菜や果樹の集約的な生産をはじめたり、アマゾンではジュート(黄麻)やコショウの商品化に成功したりするなど、ブラジル農業の近代化に大きく貢献した。また、日系人社会の拡大とともに、日系2世や3世を中心としてブラジル社会へ融合し、現在では経済をはじめとして多方面で日系人の活躍が見られる。

日本では1990年に「出入国管理及び難民認定法」が改正されると、出稼ぎのために来日する日系ブラジル人が急増した。彼らは、主に輸送機械を中心とした製造業や食品加工業などに従事し、1990年代以降の日本における人手不足を補ってきた。最近では、日本各地で地域社会との文化交流も進み、ブラジルと日本とのつながりを深化させている。

Try ブラジルに根付いた日本文化について調べてみよう



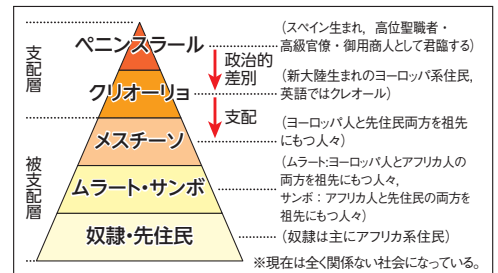
▲世界最大の日本人街のリベルダーヂ ブラジル。サンパウロ。

多様な人種・民族と融合が進んだ文化

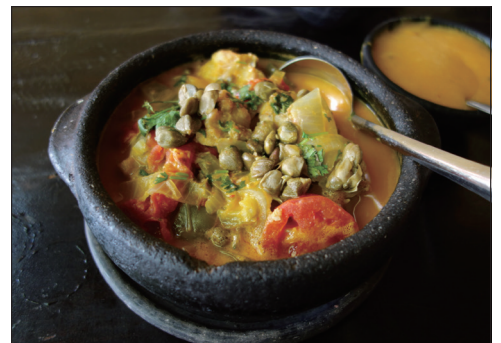
ラテンアメリカでは多民族・多文化の社会が形成されている。住民の人種・民族構成は地域によって異なっており、植民地時代以前の先住民人口が多く移民の

少なかったペルーやボリビアでは現在でも先住民の割合が高く、先住民人口が少なかったアルゼンチンやウルグアイではヨーロッパ系住民の割合が高い。また、メキシコやコロンビアでは、先住民とヨーロッパ人の両方を祖先にもつ人々であるメスチーソが多数を占めており、植民地時代にアフリカから多くの奴隷が連れて来られたカリブ海諸国やブラジルでは、アフリカ人とヨーロッパ人の両方を祖先にもつ人々であるムラートの割合が高い。奴隷制が廃止された19世紀以降は、労働力不足を補うため、イタリアやドイツなどのヨーロッパの国に加えて、日本からも多くの人々が移住した。このようにラテンアメリカでは人種・民族の構成がとても多様である。

先住民やヨーロッパ、アフリカなどの文化や伝統が融合して、独自のラテン系文化が形成されているのもラテンアメリカの特徴である。最も有名な祭りであるリオデジャネイロのカーニバルは、カトリックの宗教行事である謝肉祭に、アフリカを起源とするサンバが加わって、熱狂的な歌と踊りが繰り広げられる。食文化にも同様に融合したものが見られ、ブラジル北東部ではアフリカの食文化の影響を受けた魚介料理が郷土料理として親しまれている。



③旧スペイン領における植民地時代の社会階層



②ムケッカパイアーナ ブラジル。魚介類をココナッツミルクで煮込んだ料理で、地域によってさまざまなアレンジが加えられる。2014年撮影。

Try ラテンアメリカで多様な人種・民族の融合が進んだ理由について考えてみよう。



1大豆の収穫 2012年。ブラジル北西部。マトグロッソ州。

ブラジルではどんな農作物が作られているのかな？



1農業分布 Diercke Weltatlas 2015による。

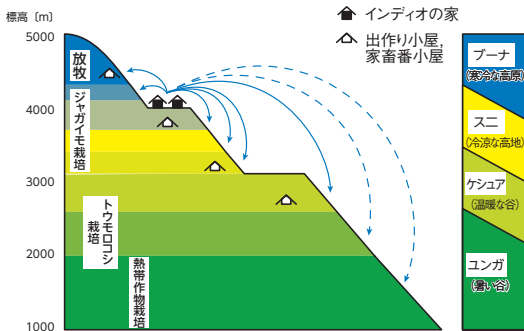
3 移民がもたらした大規模な農業

移民によりどのような農業が発展してきたのだろうか。



1 バイオエタノール

植物に含まれる糖やデンプンから作られるアルコール燃料で、再生可能エネルギーの一つ。ブラジルではサトウキビを原料に大量に生産されており、自動車の燃料として使われる。



2アンデス高地の標高差を利用した農牧業の展開 NHK ブックス『インカの末裔たち』などを参考に作成。

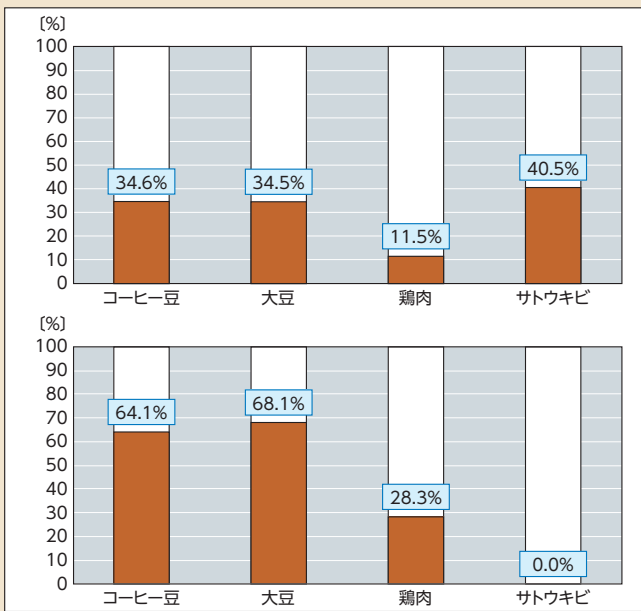
アンデスに残る先住民の農耕文化

アンデスの中央部では、先住民による標高差を利用した農耕文化が残っている。熱帯気候となる標高の低い場所では、バナナやコーヒーなどが栽培される。標高が高くなり気温が下がると、温帯気候に適したトウモロコシや冷涼な気候に強いジャガイモが栽培される。農作物の栽培限界をこえる標高4000m以上の地域では、リャマやアルパカなどの家畜が放牧されている。アンデスに暮らす人々は標高差のある斜面を往來しながら多種多様な農作物を収穫して、自給自足に近い生活をしてきた。

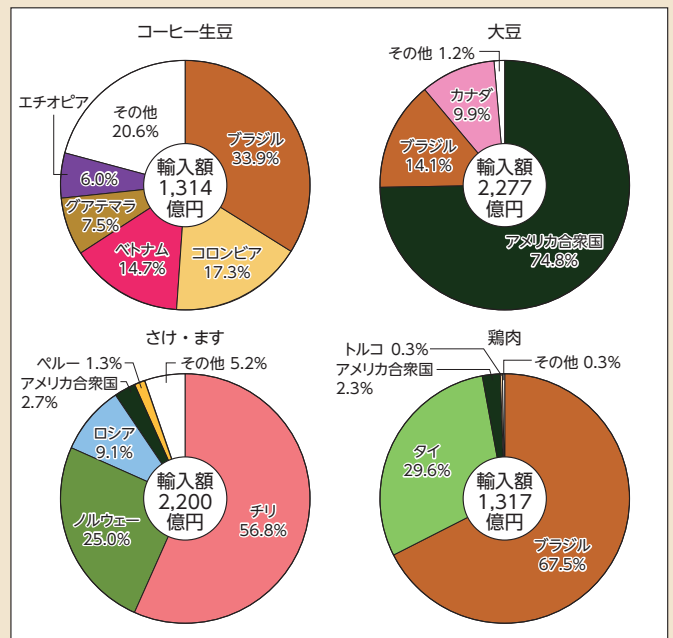
大土地所有制と大規模な農業

植民地時代には移民により大土地所有制(アシエンダ)がヨーロッパからもち込まれ、ラテンアメリカでは輸出用の商品作物を栽培する大規模な農業が展開した。中央アメリカやカリブ海の島々では、バナナやサトウキビなどがプランテーションで栽培されている。コロンビアでは、アンデス山脈の斜面でコーヒーが生産され、アルゼンチンでは、肥沃な温帯草原のパンパで小麦栽培や肉牛飼育が大規模におこなわれている。

近年は、農業の多角化が進み、メキシコではアボカドやトマトなどの果樹や生鮮野菜が、コロンビアではカーネーションなどの切り花が、アメリカ合衆国などへの輸出用として生産されている。また、チリやアルゼンチンでは、スペインの植民地時代にはじまったワイン生産が発展し、世界中に輸出されている。



3 ブラジルにおける主要な農作物の生産量が世界全体に占める割合 (上) と生産量に占める輸出量 (下) の割合 2020年。FAO STAT による。



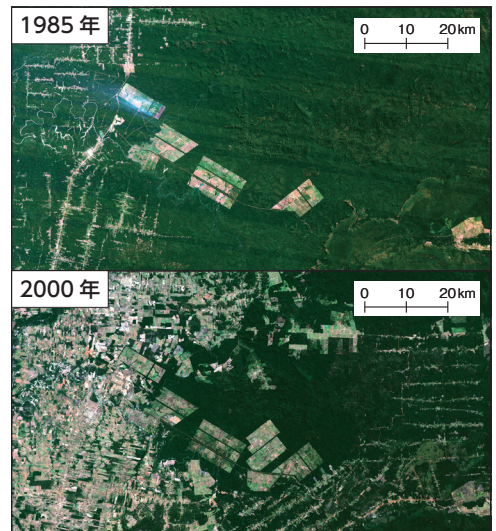
4 日本の主な輸入品目における国・地域別の割合 2021年。農林水産省資料による。

ブラジルにおける農業の発展

ブラジルでは、農業は重要な産業であり、総輸出額に占める農産物の割合は30%をこえる。産業としてのブラジルの農業は、植民地時代の移民による北東部でのサトウキビのプランテーションからはじまる。サトウキビは大西洋沿岸の都市で砂糖に精製され、ヨーロッパへ輸出された。ブラジルの代表的な農産物であるコーヒーは、19世紀にブラジル高原の南東部を中心に、日系移民などの労働力に頼りながら生産が拡大し、現在ブラジルは世界最大のコーヒーの生産国・輸出国となっている。

1970年代以降は、「不毛の土地」とされていた内陸部のセラードで農地開発が進み、穀物メジャーなどの支援を受けて、世界でも屈指の大豆生産国となった。最近では、飲料加工用のオレンジ生産や、飼料用穀物が比較的安価で国内調達できる利点を生かした鶏肉生産が増加している。また、バイオエタノールの原料として利用されるようになったサトウキビも、その生産を拡大させている。

ブラジルでは、こうしたアグリビジネスが急速に進展する一方で、さまざまな課題が生じている。大豆生産のための農地開発は、2000年代にアマゾンの熱帯雨林へと拡大し、森林破壊を加速させた。また、企業的な農業経営のもとで機械化が進み、多数の労働者が仕事を失った。そうした人々は都市に流入し、ファベラと呼ばれるスラムが拡大して、居住環境や治安の悪化などの都市問題が深刻化した。



2 熱帯雨林の開発 ブラジル北西部。マトグロッソ州。15年の間に大規模な開発がおこなわれたことがわかる。

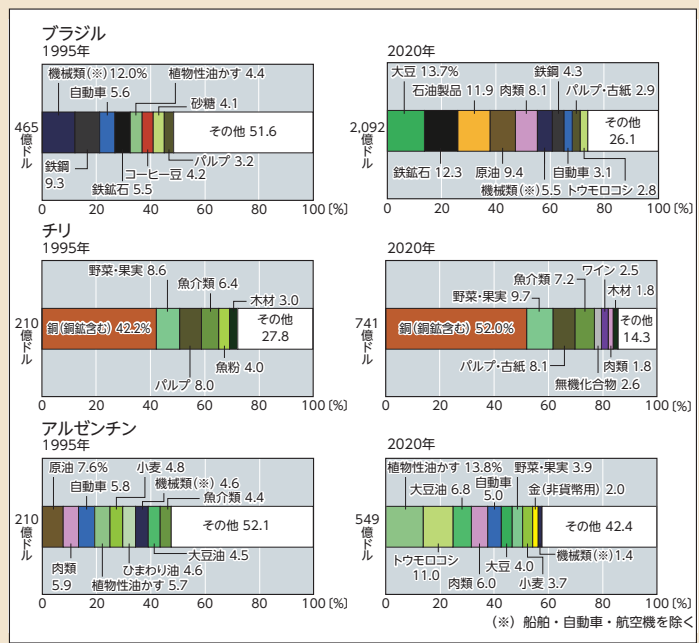


3 リオデジャネイロの街並みとファベラ 2008年。

Try 大規模な農業による人々の生活文化への影響について考えてみよう。



1 鉱工業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。

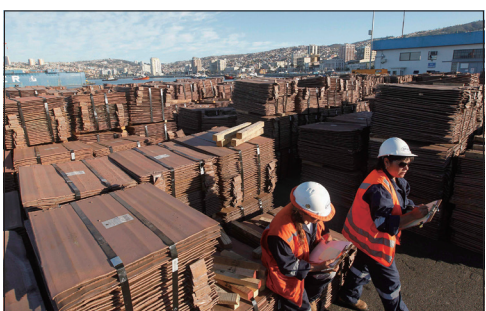


2 主な国の輸出品目 UN Comtrade などによる。

4 移民が興した鉱工業とその発展

移民が基盤を築いた鉱工業はどのように発展したのだろうか。

① 非鉄金属を高い密度で含む**鉱床**は、主にマグマの活動に関連した熱水の作用により形成される。そのため、中生代以降、現在までに形成された**変動帯**では、非鉄金属である銅、銀、すず、亜鉛などが多く産出される。

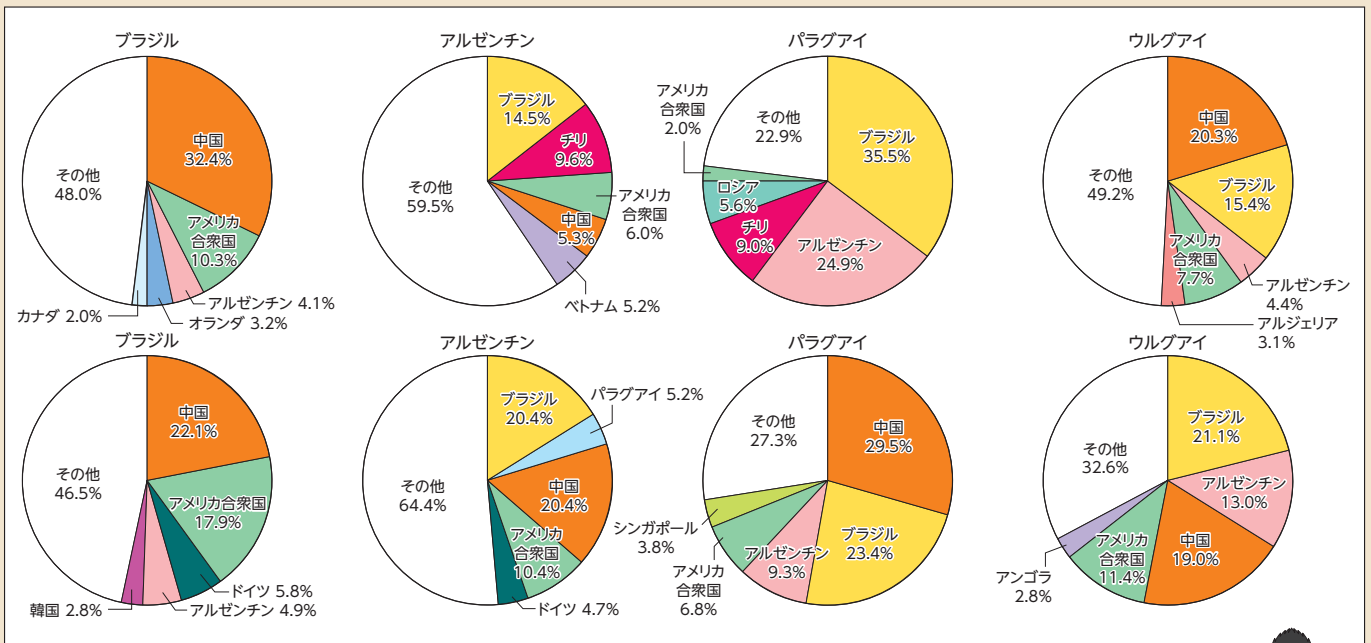


1 アジアに向けて輸出される銅 チリ。バルパライソ港。

移民が開発をはじめた鉱産資源 植民地時代の移民とその子孫により、ラテンアメリカでは鉱産資源の大規模な開発がはじめられた。変動帯のメキシコ高原やアンデス山脈では銀、銅、すずなどの非鉄金属が豊富で、メキシコ、ペルー、チリは世界的な産出国である。メキシコ湾沿いやベネズエラは埋蔵量の多い産油地帯であり、コロンビアやエクアドルでも原油が生産されている。安定陸塊のブラジル高原では鉄鉱石の生産量が多く、ブラジルは世界的な輸出国である。

鉱産資源は、農作物とともに主要な輸出品としてラテンアメリカの国々の経済を支えてきた。しかし、特定の一次産品による**モノカルチャー経済**は、国際価格の変動などに影響されやすい。そのため、20世紀には、国内産業を保護して育成する**輸入代替型**の工業化が多くの国で進められた。

移民が基盤を築いた近代工業 ブラジルでは、イタリアやドイツなどからの移民によって、1930年代に近代工業の基盤が確立され、1960年代後半から積極的に外国資本を受け入れたことで、重工業が発達した。ブラジル南東部の鉱産資源が豊富な地域に鉄鋼業や金属工業が集積し、サンパウロ周辺では欧米企業による自動車産業が発展した。内陸部の開発も進み、マナオスの自由貿易地区には、機械工業を中心とした多数の外国企業が進出している。2000年代には、自動車や航空機などの工業製品が重要な輸出品となり、コーヒー



3 MERCOSUR 正式加盟国における主要な輸出相手国 (上) と輸入相手国 (下) 2020年。ジェトロ資料などによる。

Check 各国における最大の輸出入相手国を図から読み取り、その共通点を説明してみよう



に依存したモノカルチャー経済から脱却した。ブラジルはラテンアメリカ最大の工業国へと成長し、新興国 **BRICS** の一か国となっている。

経済発展の影響と統合に向けた動き

工業化の進展により、ラテンアメリカの国々の経済は成長した。その一方で、所得格差が

5 拡大し、都市部を中心に貧困に苦しむ人々が増加した。また、1980年代には返済できないほどの外国からの債務が累積して経済が停滞し、急激に物価が上昇するなど、人々の生活は深刻な影響を受けた。こうした背景から、メキシコなどのラテンアメリカの国々では、より良い生活を求めてアメリカ合衆国に向かう移民が急増した。

10 その後、ラテンアメリカの国々は輸入代替型の工業化から国内市場の開放や自由貿易へと政策を転換させていった。1990年代以降には、国際的な貿易の自由化や経済のグローバル化が進展したことで、再び輸出に依存した経済成長が見られるようになった。メキシコでは、アメリカ合衆国向けに自動車や電気製品を生産して輸出する工業が発展

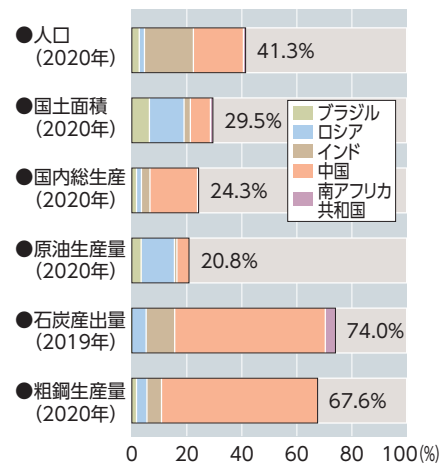
15 している。また、世界的な需要の増大を背景に、ラテンアメリカの多くの国で一次産品である農作物や鉱産資源の輸出が拡大している。

ラテンアメリカでは経済統合の動きも見られ、1995年に南米南部共同市場 (MERCOSUR) を発足させた。2018年には、メキシコ、ペルー、チリが CPTPP に署名し、他の地域との経済的な結び付きを

20 強めている。

Try 所得格差や貧困を解決するために必要な取り組みについて話しあって考えてみよう。

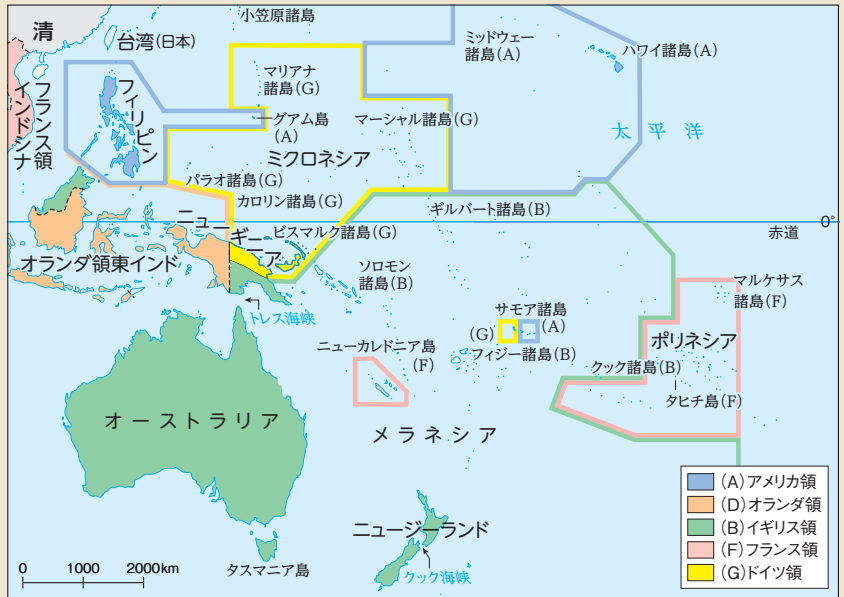
② マナオスの自由貿易地区はアマゾン地域の開発を目的に1967年に制定され、工業製品への税を減免することで多くの工場を誘致し、ブラジルの輸入代替工業化をけん引した。電気機械や輸送機械を製造する日系企業も多数進出しており、関税が優遇される利点を生かして、国外から安価に仕入れた部品を組み立て、ブラジル国内向けに販売している。消費地までの高い輸送費などの課題はあるものの、マナオスの自由貿易地区はアマゾン地域の経済発展に重要な役割を果たしている。



4 世界に占める BRICS の割合 世界銀行資料などによる。



1 アボリジニの岩絵 アボリジニの岩絵は人や動物、船などを題材に、線描や点描するものが多く、近年のアボリジナルアートに影響を与えている。



アボリジニの人たちはどんな暮らしをしていたのかな？



1 欧米諸国による太平洋地域の分割 (19世紀末)

1 先住民の暮らしと移民による国家建設の歴史

なぜ移民を多く受け入れる国があるのだろうか。



先住民の暮らしとヨーロッパ人の探検 ヨーロッパ人の到来以前のオーストラリアでは、数万年前からアボリジニと呼ばれる先住民が暮らしていた。アボリジニは、地域により言語や社会組織などが異なっていたが、狩猟採集に依存し、世界の起源を描いた神話に基づく儀礼を中心とする生活を営んでいた。

16世紀初頭にヨーロッパで太平洋の存在が明らかになると、多くのヨーロッパ人がオーストラリアとオセアニアの島々を探検しはじめた。16世紀にその中心を担ったのはスペイン人やポルトガル人であり、17世紀にはオランダ人が、さらに18世紀になるとイギリス人やフランス人が進出した。これらの探検家の名前は、トレス海峡やタスマニア島、クック海峡のように地名となっているものも多い。

ニュージーランドとオセアニアの島々 ニュージーランドでは、14世紀までにポリネシア系のマオリが移住していた。18世紀末になるとヨーロッパ人が寄港するよう

になり、1840年にマオリとワイタンギ条約を結んだイギリスの支配下に入った。それ以降、ニュージーランドはイギリスとの結び付きが強かったが、近年ではオーストラリアと同様にアジア太平洋地域との関係を深めている。

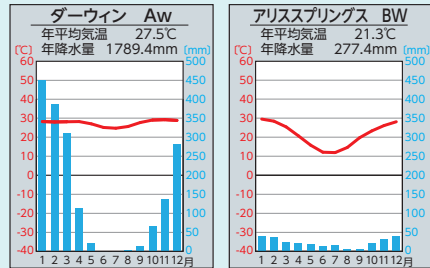
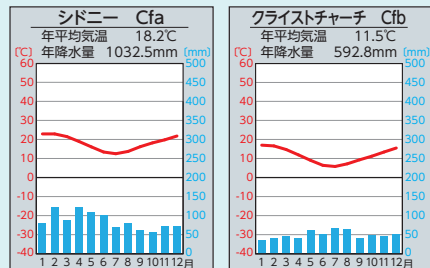
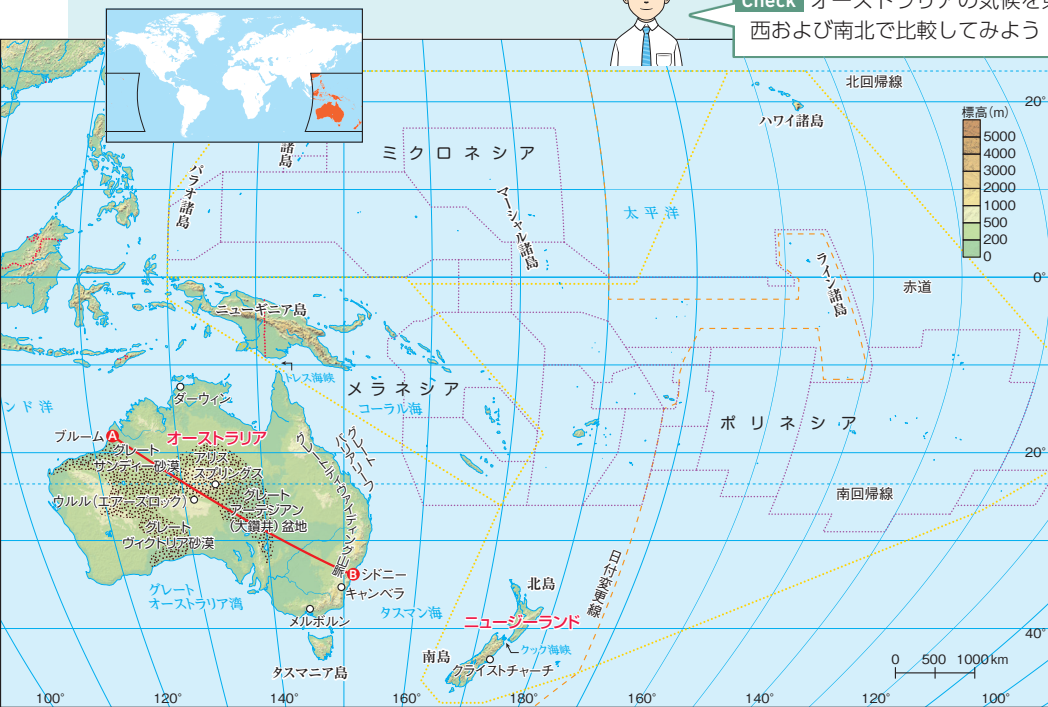
オセアニアの島々は、経度180度と赤道をおおよその境界として、ポリネシア、メラネシア、ミクロネシアの3地域に区分される。20世紀後半になって多くの国々が独立を達成した。

オーストラリアの発展 オーストラリアでは、1788年にイギリスがシドニーを拠点に入植をはじめた。当初は流刑植民地として開発が進められたが、19世紀なかばのゴールドラッシュを経て人口が急増した。入植の過程で各地に形成された植民地は1901年に自治植民地のオーストラリア連邦を形成し、シドニーとメルボルンの間に位置するキャンベラが首都となった。

地下資源を豊富に産出するオーストラリアは、第二次世界大戦後になるとその開発のために外国からの資金と労働力を必要とした。その過程で白人中心の国家建設をめざす**白豪主義**から**多文化主義**に転換し、近年ではアジア太平洋地域の一員としての性格を強めている。そこで、イギリス的な生活文化を基調としつつ、夏にクリスマスを迎えるなど南半球ならではの環境に適応した暮らしが営まれている。

Try さまざまな国や地域を対象に、移民を送り出す理由と受け入れる理由について考えてみよう。

Check オーストラリアの気候を東西および南北で比較してみよう



巻頭⑥を見ると、オーストラリアの大半は乾燥地域だね。オーストラリアは農業国というイメージがあるけど、気候だけ見ると農地の開発などは難しそうだ…

イギリス人が最初に入植したシドニーがある沿岸部は温帯の気候になっているね。このあたりを中心に開発が進められたのかな (⇒ p.144)



1 乾燥地を進む大陸縦断列車 オーストラリア。アリスプリングス。

乾燥した大地のオーストラリア

⇒巻頭⑥⑦, 巻末⑧⑨

低平で乾燥したオーストラリア大陸は、全土が安定陸塊で地質は古い。東部を南北に走るグレートディヴィディング山脈の西側には乾燥するグレートアーテジアン盆地が広がり、掘り抜き井戸によって得られる地下水を利用した牧羊が見られる。一方、東側は比較的降水量に恵まれ、大都市が立地する。残りの国土の大半は乾燥または半乾燥地域で大きな砂漠 (⇒ p.36) もある (1)。北部は熱帯気候であり、北東部のコーラル海には世界最大のサンゴ礁が広がる。また、動植物の固有種が多く、それらを保全するために大陸外からの来訪者のもち込み荷物には厳しい検査が課されている。

太平洋の広い範囲に広がる島嶼部

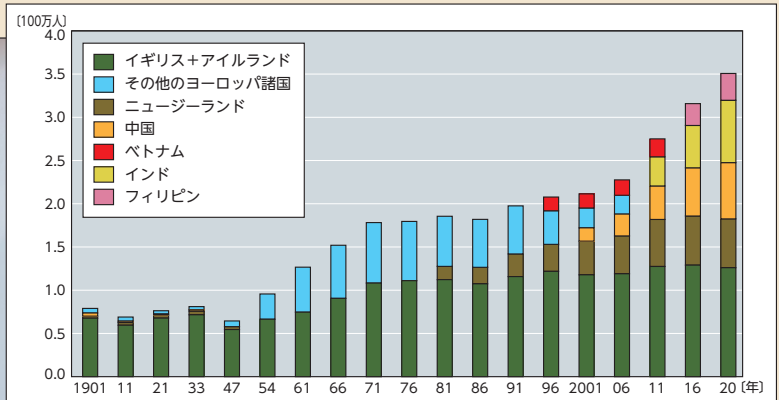
⇒巻頭⑥⑦, 巻末⑧⑨

ニューージーランドは変動帯に位置し、起伏に富んだ地形となっており、地震も多い。北島には火山が多く、地熱発電もおこなわれている。また、北島は温暖で適度な降水量がある。一方、北島より緯度の高い南島では氷河やフィヨルドが見られる (2)。気候は冷涼であり、北島よりも山がちで、山脈の西側には非常に降水量の多い地域もある。太平洋の広い範囲に広がるオセアニアの島々の多くは亜熱帯高圧帯と赤道低圧帯の間に分布し、偏東風(貿易風)が卓越する。これらの島々では、地球温暖化にともなう海面の上昇による影響が危惧されている (⇒ p.166)。



2 フォックス氷河 ニューージーランド南島。

時代によってオーストラリアに来る移民の出身国は違うんだね



1 多民族が行き交う街
2015年。オーストラリア。メルボルン。移民局・国境保護局前。

| 1996年 | | | | 2020年 | | | |
|-------|-------------|-----------|-------|-------|-------------|-----------|-------|
| 順位 | 国名 | 人口(1000人) | 割合(%) | 順位 | 国名 | 人口(1000人) | 割合(%) |
| 1 | イギリス&アイルランド | 1,218 | 6.7 | 1 | イギリス&アイルランド | 1,260 | 4.9 |
| 2 | ニュージーランド | 312 | 1.7 | 2 | インド | 721 | 2.8 |
| 3 | イタリア | 250 | 1.4 | 3 | 中国 | 651 | 2.5 |
| 4 | ベトナム | 159 | 0.9 | 4 | ニュージーランド | 565 | 2.2 |
| 5 | ギリシア | 138 | 0.8 | 5 | フィリピン | 310 | 1.2 |
| 6 | ドイツ | 122 | 0.7 | 6 | ベトナム | 270 | 1.1 |
| 7 | 中国 | 119 | 0.7 | 7 | 南アフリカ | 200 | 0.8 |
| 8 | フィリピン | 105 | 0.6 | 8 | イタリア | 178 | 0.7 |
| 9 | オランダ | 96 | 0.5 | 9 | マレーシア | 177 | 0.7 |
| 10 | マレーシア | 83 | 0.5 | 10 | スリランカ | 147 | 0.6 |
| 11 | インド | 80 | 0.4 | | | | |

1 移民数の推移(出身国別) オーストラリア内務省資料による。

なぜ中国やインドからの移民が増えているんだろう？



2 移民出身国の変遷(上位10か国) オーストラリア内務省資料による。

2 先住民と移民による多文化社会

移民と先住民による多文化社会はどのように形成されてきたのだろうか。



1 アボリジニと、トレス海峡(→p.141)の島々に居住してきた先住民は、19世紀後半のヨーロッパ人の進出と真珠産業の発展以降、1960年代まで法的に差別されてきたが、近年では自治が認められている。



2 アボリジニの学校における授業のようす オーストラリア中部。

多文化社会の形成

オーストラリアでは数万年前から先住民であるアボリジニが居住し、狩猟採集を中心とする暮らしが営まれていた。しかし、18世紀末にイギリス人の入植が始まると、イギリスの制度を基盤とする社会が形成され、また、白人以外の移民が厳しく制限されるようになった(白豪主義)。

第二次世界大戦後になると、イタリアやギリシア、さらには戦争によって多くの難民が発生した東ヨーロッパなどの非英語圏のヨーロッパ諸国からの移民を受け入れる方針に転換した。この時期には移民に英語の試験が義務付けられるなど同化主義的政策が続いていたが、こうした移民の増加はその後の多民族・多文化の社会への発展の基盤となった。

1970年代に入り白豪主義にかかわる政策が徐々に廃止されると、距離の近い東南アジアからの移民が増加した。また、オーストラリアはベトナム戦争とそれに続く混乱で発生したインドシナ難民も積極的に受け入れてきた。最近では中国からの移民が急増し、大都市郊外に中国系住民の集住地域が形成されつつある。

現代のオーストラリアでは、移民の文化に開放的で寛容な多文化主義的政策の下で言語教育の充実がはかられるとともに、アボリジニの文化の保全にも力が入れられており、アボリジニの言語による教育などがおこなわれている。



クローズアップ⑮

オーストラリアとカナダ

オーストラリアとカナダは、ともにイギリスの定住植民地として発展した歴史があり、共通点が多い。たとえば、現在に至るまで両国ともイギリス国王を元首とする政治体制を維持しており、イギリス連邦の主要構成国でもある。また、かつての差別的な移民政策から転換して、多文化主義を世界に先がけて導入したという点も共通している。ともに移民や難民を積極的に受け入れており、大都市には移民街が発達して世界のさまざまな地域の食を提供するレストランが軒を連ねている。

一方で、人々の生活文化には違いが見られる。孤立した立地と降水量の少なさを特徴とするオーストラリアでは、水を節約する意識がとくに強い。英語はつづりと発音の関係に独自色が見られる。大都市では、第二次世界大戦後に流入した南ヨーロッパからの移民がもたらしたコーヒー文化が根付いており、世界的に人気のあるアメリカ合衆国の有名コーヒーチェーンは苦戦を強いられている。

カナダの生活文化は、同じく英語を主要言語とする隣の超大国アメリカ合衆国と共通する点が多い。飲食店から大規模小売店までアメリカ合衆国発のさまざまなチェーン店が進出し、英語はアメリカの影響が見られる。文化の独自性を維持するために、カナダの放送局はカナダで製作された番組を一定の割合で放映することが義務付けられている。

Try オーストラリアとカナダの共通点と異なる点を表にまとめてみよう



▲中華街 オーストラリア。メルボルン。

観光・人の移動

オーストラリアには観光資源が多く、シドニー、メルボルン、パースといった大都市に加え、北東部のコーラル海に広がる世界最大のサンゴ礁（グレートバリアリーフ）や、国土のほぼ中央に位置するウルル（エアーズロック）などは世界中から観光客が訪れる場所となっている。また、オーストラリア大陸を東西に走る大陸横断鉄道も人気があり、コアラやカンガルーといった珍しい動物も貴重な観光資源となっている。

観光は経済発展をもたらす一方で、観光対象となった自然環境への負の影響が危惧された。そこで、たとえばダイビングが盛んなグレートバリアリーフでは環境保全のために海域が区分され、海域ごとに管理のルールが定められている。また、アボリジニの聖地も観光の対象とされてきたが、文化の保全との両立が課題となっており、人気の観光地であったウルルの登山が禁止された。

オーストラリアは日本とのつながりが深く、第二次世界大戦以前には北部における真珠貝採取に日本人が貢献した歴史がある。現代ではいくつかの都市と飛行機の直行便で結ばれており、多くの日本人観光客が訪れている。また、語学研修の留学先としても人気が高い。日本とオーストラリアはワーキングホリデーの協定を結んでおり、両国の若者が働きながら相手国の文化や生活を体験できる制度が整えられている。



③聖地ウルル(上)と登山禁止を示す看板(下) オーストラリア。アリススプリングス。

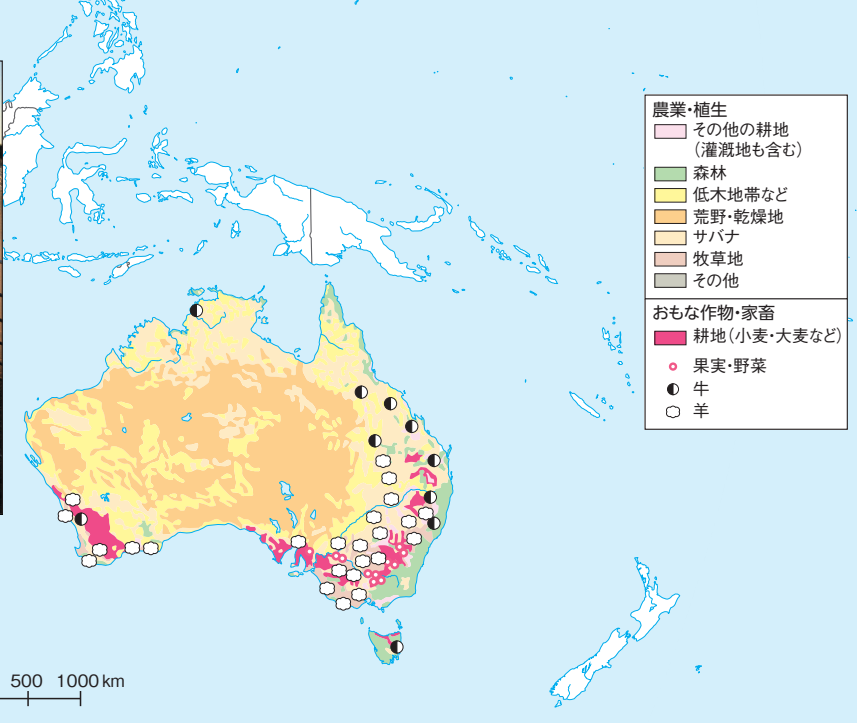
②ワーキングホリデー制度

通常の海外旅行とは異なり、現地で語学の勉強をしながら働いたり、働きながら旅行をしたりすることが可能となる制度。2021年4月現在、日本は26の国・地域と協定を結んでいる。

Try 生活文化の異なる移民が増加することで生じる課題について考えてみよう。



1 牧羊のようす オーストラリア。ニューサウスウェールズ州。



1 オーストラリアの農業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。



どうして内陸では農業がおこなわれていないのかな？

3 多文化社会における生産活動と経済統合

移民と先住民により発展した社会ではどのような生産活動が見られるのだろうか。



国際競争力の高い農業

主にイギリスから入植した移民によって開発されたオーストラリアでは、農林水産業の就業人口は全体の3%に満たないものの、農産物の輸出は盛んである。なかでも、肉類や羊毛は重要な輸出品であり、降水量の少ない内陸部で牛や羊の**放牧**がおこなわれている。オーストラリア産の牛肉はオージービーフとして知られ、世界有数の輸出国である。かつては乾燥地域における牧草地での粗放的な放牧が中心であったが、近年では肉牛の多くが企業的な大規模**フィードロット**で穀物によって肥育されている。穀物を飼料とするため、フィードロットは穀物の生産が可能な東部沿岸地域に立地する傾向にある。

農業生産額に占める羊毛の割合は第二次世界大戦後に急激に低下したものの、現在でもオーストラリアは世界有数の羊毛の生産国であり、羊毛の輸出量は世界一である。小麦の生産と輸出も盛んであり、十分な降水量が得られる地域で集約的な牧羊と組み合わせて栽培されている。一方、**湿潤な**東部の沿岸地域に立地する大都市近郊では、野菜や果樹の栽培と**酪農**がおこなわれている。

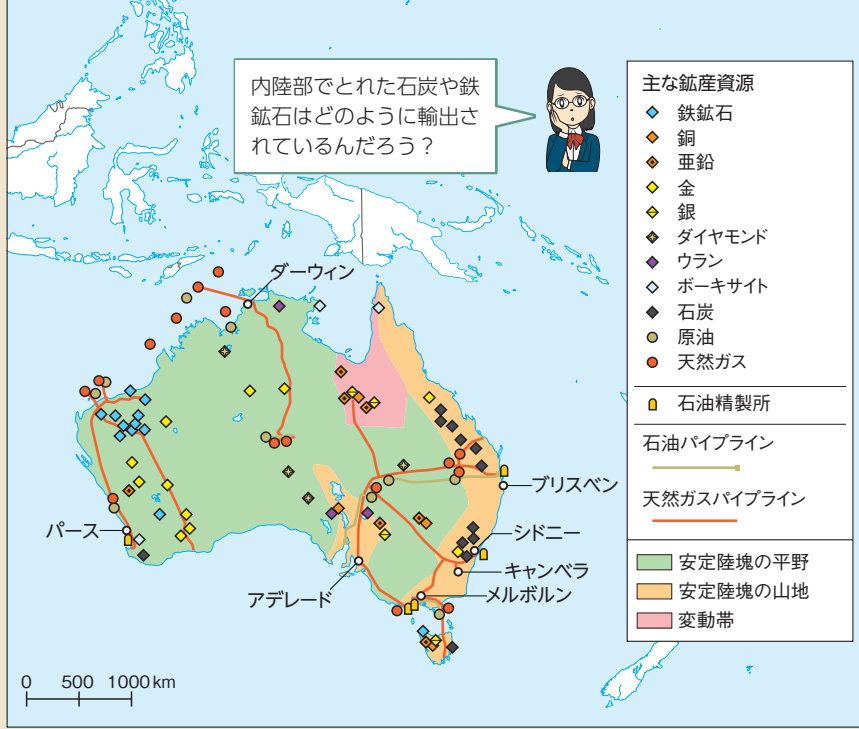
オーストラリアは水資源に**乏しい**ため、水を効率的に利用した稲作がおこなわれてきた。米は、米食を好むアジア系移民の増加や日本食ブームに加え、健康志向の高まりや小麦アレルギー対策として注目され、近年では輸出だけでなく、国内での消費量も増加している。



2 日本食を扱う店 2014年。オーストラリア。シドニー。昼食用に寿司を買求める人々。



3 露天掘り 西オーストラリア州。レオノーラ。重要な輸出品である鉄鉱石は、主に西部の内陸部において露天掘りで産出されており、沿岸の港まで鉄道で運ばれて外国へ輸出されている。ボーキサイトは北東部を中心に産出され、アルミナに精錬されて輸出されることが多い。



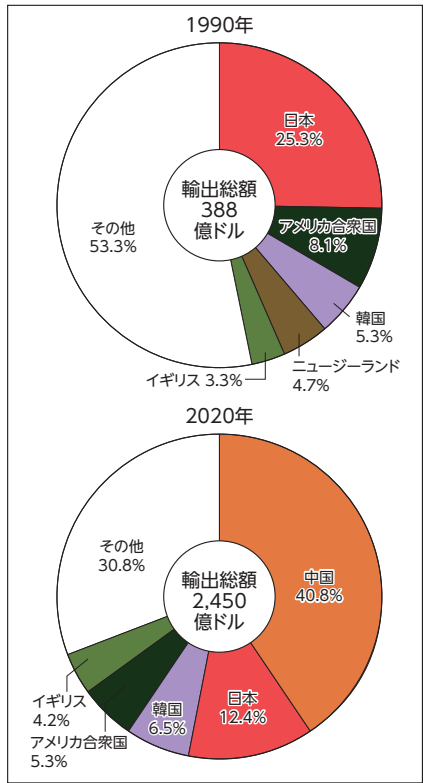
2 オーストラリアの鉱工業分布 Diercke Weltatlas 2015 による。

豊富な資源と貿易・経済統合

オーストラリアはさまざまな鉱産資源に恵まれているが、国内の市場が限られ、その多くは輸出されている。なかでも、鉄鉱石とボーキサイトは世界最大の産出国であるとともに、世界有数の輸出国でもある。石炭も世界有数の産出・輸出国であり、金、銀、銅、亜鉛、ダイヤモンド、ウラン、天然ガスなども多く産出している。先住民の文化遺産が分布する地域では、かつては資源の採掘が優先されてきたが、近年では資源企業に先住民の文化尊重や良好な関係の構築が期待されている。

イギリスの自治植民地から発展したオーストラリアは当初、イギリスとの経済的結び付きが強かった。しかし、第二次世界大戦後は、羊毛の輸出を契機に日本との経済関係が強化され、1950年代に鉄鉱石やボーキサイトが発見されると、それらの輸出相手国として日本が重要な存在となった。そして、イギリスが EC に加盟した 1973 年以降、オーストラリアはアジア太平洋諸国との結び付きをさらに強めた。これには、東南アジアと西太平洋地域の政治的な安定がオーストラリアにとって重要であると認識されたことがその背景にある。

1989年にはオーストラリアが中心となって**アジア太平洋経済協力会議 (APEC)** が設立され、貿易・投資の自由化や技術移転などの地域協力が進められている。また、2018年には**CPTPP** が発効し、さらなる自由貿易の推進が期待されている。

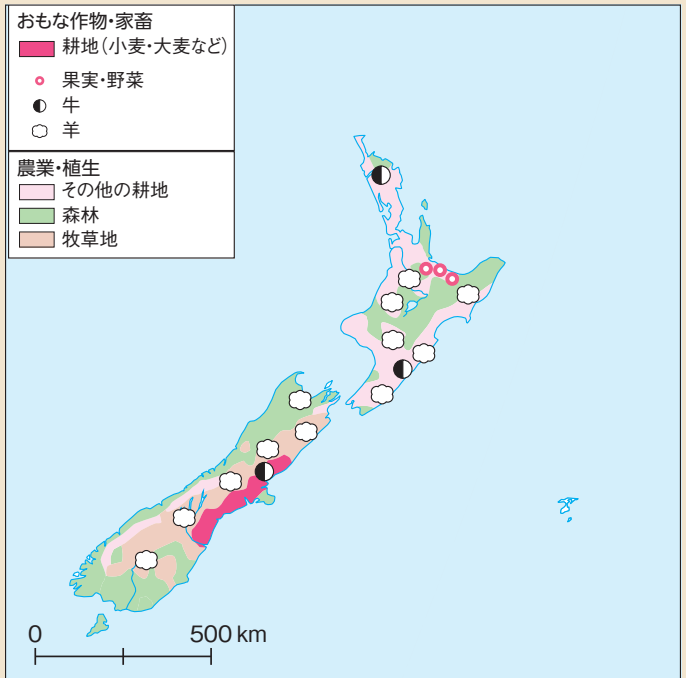


3 オーストラリアの輸出相手国の変化 UN Comtrade による。

Try アジアとの結びつきを強めたことによる人々の暮らしの変化について考えてみよう。



1 さくじゅう 搾乳のようす ニュージーランド北島。



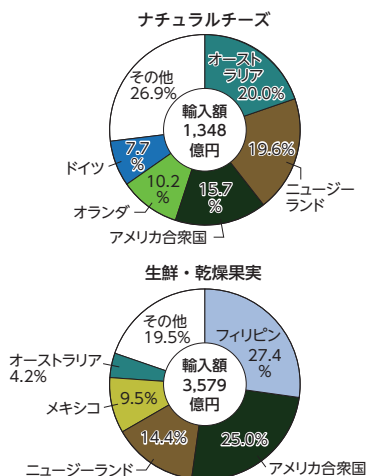
1 ニュージーランドの農業分布
 Diercke Weltatlas 2015による。

4 移民による島嶼の生活文化の変化

移民により、島嶼に暮らす先住民の生活文化はどのように変化したのだろうか。



日本はニュージーランドから何を輸入しているのかな？



2 日本の主な輸入品目における国・地域別の割合 2021年。農林水産省資料による。

ニュージーランドの産業と文化

ニュージーランドは北島と南島を中心とする島々からなる島嶼国である。主要な産業は酪農であり、南島に比べ人口が多く、比較的起伏がゆるやかで気候も温暖な北島でとくに盛んである。なかでもバター生産量は世界有数の規模である。羊の飼育頭数は以前と比べて大きく減少したものの、依然として牧羊は冷涼な南島を中心に盛んであり、羊毛はオーストラリアに次ぐ規模の輸出国である。都市周辺では、1970年代以降の都市化の進行にともない、果樹栽培が盛んになり、りんご、なし、桃、ブドウに加え、キウイフルーツなどが栽培されている。これらの果実は、肉類やチーズと並んで、日本のニュージーランドからの輸入品のなかで重要な地位を占めている。

ニュージーランドは、先住民マオリの文化に基づいてポリネシアに区分される。1840年にイギリスの植民地とされ、イギリスの制度を基盤とする社会が形成されたが、現在ではマオリ語が英語と並ぶ公用語となるなど、マオリの人々の復権が進められている。

オセアニアの島々の経済と生活

オセアニアの島々では19世紀まで伝統的な生活が見られたが、ヨーロッパ人の到来によって急激に変化した。ヨーロッパ諸国による植民地化が最後に進んだ地域であり、脱植民地化も最も遅かったが、現在では大部分の地域が独立を達成した。これらの国々は主要国と地理的に隔絶しており、



歴史への旅⑫

ニューカレドニアの社会と文化

「天国にいちばん近い島」として日本人に親しまれているニューカレドニアは、東京から南南東に約7000km、南回帰線の少し北に位置する島々からなる地域であり、四国ほどの面積に20万人ほどの人々が暮らしている。1980年代以降、メラネシア系先住民による独立運動の激化を背景に徐々に権限移譲がなされ、フランスの支配下にとどまりながらも、近年では高度な自治が認められている。

ニューカレドニアは、1774年にイギリス人探検家ジェームズ・クックに「発見」され、スコットランドの古称にちなんで命名されたものの、イギリスが領有するには至らなかった。1853年になってフランス領となり、1864年にレアメタルの一つであるニッケルが発見されるとニューカレドニアの開発は急速に進んだ。採掘のための労働力は域外に求められ、日本からも5千人をこえる人々が鉱山労働者としてニューカレドニアに渡った。その結果、現代のニューカレドニアはメラネシア系先住民のほか、植民者として移住したヨーロッパ人の子孫や日本人と同様に鉱山労働者として渡ったアジア系の人々が暮らし、多数派となる集団が存在しない多文化社会となっている。南東端に位置し、ヨーロッパ系住民が多く居住する中心都市にはヨーロッパ風の街並みが広がっているのに対し、非都市地域ではメラネシアの暮らしが息づいている。



Try オセアニアの島国を一つ取り上げて、日本との結び付きについて調べてみよう



▲船積みまつニッケル ニューカレドニア。ヌメア港。近年はアジアへの輸出量が増加している。

国土が狭小なこともあって経済的基盤が脆弱で、支援を必要としている国も多い。多くの国は地域の大国であるオーストラリアとの関係が深く、最近では経済的支援を背景に港湾開発をはじめとする中国の進出が著しい。

- 5 一方、ニューカレドニアやフランス領ポリネシアのタヒチなどには世界各地から観光客が訪れており、観光業が重要な産業となっている。また、欧米的な生活様式の普及にともない、タロイモやヤムイモを中心とした伝統的な食生活が高カロリーの食事に変化したことによる肥満が大きな問題となっている地域も見られる。

→p.148

- 10 **日本とのかかわり** 治安のよいニュージーランドは日本人に人気の観光地であり、かつ人気の留学先でもある。

ワーキングホリデーの協定も結んでおり、日本にとって身近な国の一つである。また、2018年に発効したCPTPPの主要国でもあり、経済関係もますます強まりつつある。

- 15 オセアニアの島々のうち、ミクロネシアの島々はかつて南洋群島として日本の統治下に置かれ、第二次世界大戦ではオセアニアの多くの島が激戦地となった。近年では、国際協力機構(JICA)を中心にさまざまな分野で支援が進められており、廃棄物管理の支援や気象観測の人材育成などが取り組まれている。また、太平洋・島サミットの開催
- 20 などにより日本とオセアニア島嶼国との関係強化がはかられている。

Try 移民社会において先住民が直面する課題を調べ、その解決策について話しあって考えてみよう。

①マオリの復権

ワイタング条約(→p.140)ではマオリの伝統的権利が保障されていたにもかかわらず、ニュージーランドでは学校におけるマオリ語使用の禁止など、マオリに対する同化政策が進められた。1970年代に入るとマオリの復権運動が盛んになるとともに、伝統文化の復興にも力が注がれた。高度な木造彫刻やハカと呼ばれる勇壮な踊りは世界的に広く知られており、互いの鼻を触れ合わせるあいさつは外交の場にも取り入れられている。



②マオリのハカダンス 身体を楽器にみたくて踊る、マオリの勇壮な伝統舞踊。ラグビーのニュージーランド代表が試合前に踊ることでも有名となった。



1 世界コスプレサミットのようす 2014年。愛知県名古屋市の繁華街をパレードする世界22か国の代表コスプレイヤーたち。



2 世界規模で展開するハンバーガーチェーン店 2019年。カタール。ドーハ。販売される商品には、現地の食事に関する習慣や規範に配慮したものも見られる。



Check 3枚の写真から読み取れることを挙げてみよう



3 さまざまな言語で出版されている「ドラえもん」 2006年。京都市。

世界の生活文化

グローバル化による生活文化の変化

グローバル化により人々の生活文化はどのように変化してきたのだろうか。



グローバル化と生活文化

国際的な経済活動が盛んな現代では、モノや人がさらに活発に地域間を往来するようになった。また、情報通信技術（ICT）の発展により、インターネットやソーシャルメディアが普及して、世界中の情報が容易に共有できるようになった。こうしたグローバル化の進展は異なる生活文化と接する機会を増やし、人々の生活文化を変化させている。世界各地の生活文化が似たようなものになる（画一化）だけでなく、同じ場所にさまざまな文化が見られたり、新しい文化が作られたりしている（多様化）。

生活文化の画一化と多様化

20世紀後半以降、アジアやアフリカなどの地域へ欧米の文化が流入した。これらの地域では、欧米文化が新しい文化として受け入れられ、人々の生活文化は大きく変化した。

たとえば食文化では、動物の肉や乳製品などを食材として用いる料理が多くなり、地元で生産される穀物や野菜を使った伝統的な食事が減少した。新しい食文化への変化は、食事のマナーといった食習慣への価値観も変容させた。高カロリー・高タンパク質の食事へ急激に変化した地域では、肥満率が上昇するなど健康への影響が心配されている。人々の衣服も変化しており、地域の自然環境に適した伝統衣装を着る機会は少なくなり、Tシャツやジーンズなどの洋服が世界中に普及した。グローバル化の進展とともに、地域に固有の生活文化は外か



4 日本から進出した店が見られる市街地 2016年。台湾。台北（タイペイ）市。



アクティブ⑤

外国人労働者との共生について考えてみよう



日本の外国人労働者が増加傾向にあります。右の資料を踏まえながら「共生のあり方」について、話しあってみましょう



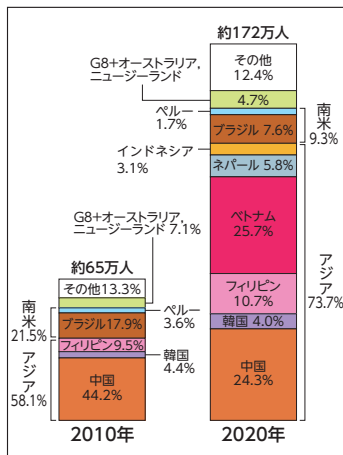
アジア諸国の労働者が多いね



アジア諸国は文化的に似ている部分も多いけど、日常生活に関するあり方や考え方がいろいろ違って難しいね



地域で生活上の課題を共有したり議論したりする機会を設定できれば良いけど…全員が納得する解決案をまとめるのは大変そうだね



▲日本における外国人労働者の変化 (国籍別) 法務省資料による。

日常生活

- 案内板や標識が日本語で道がわからない
- 幼稚園や小学校の手続きが難しく手伝いが必要(役所のサポートはあるが手伝ってはくれない)
- 回覧板の意味がわからない
- 偏見のためコミュニティに参加できない など

生活習慣の違いによる衝突

- ごみ捨てのルールが難しい
- 騒音問題 など

Try

生活文化の異なる人と共生していくためには、どのような取り組みが必要だろうか。考え、話しあってみよう。

らもち込まれたものに置きかえられ、生活文化は画一化しつつある。

一方で、異なる文化がその特徴を保ったまま地域のなかで共存する生活文化の多様化も見られる。たとえば、先進国の大都市では、フランス料理や中華料理など世界各国の料理店が展開したり、教会やモスクといった移民のための新たな宗教施設が立地したりするなど、多様な生活文化が混在している。また、地域の食習慣に配慮したファストフード店や日本の若者文化として定着したハロウィンの仮装行列など、新しく入ってきた文化が地域性にに応じて変容して受け入れられるようも見られる。こうした、異文化と地域の文化が混ざりあった文化の融合によっても、多様な生活文化が形づくられている。

異文化理解と多文化共生

グローバル化により人々の生活文化が多様化する一方、異なる生活文化との間で誤解や衝突も起きている。生活文化の違いによる人々の対立を解消するため、カナダやオーストラリアをはじめとした移民を多く受け入れている国々では多文化主義の政策が進められている。これは、地域に暮らす人々が、基本的な価値観を共有したうえで異文化理解を深め、自分たちの生活文化を大切にしながら共存することをめざすものである。最近では、互いの生活文化を尊重するだけでなく、民族や文化にかかわらずすべての人々が地域社会の一員として公平かつ公正に統合され、ともに生活する多文化共生の社会を実現することが望まれている。

Try

異文化を理解し、多文化共生の社会を実現するために必要なことを話しあって考えてみよう。



つながる世界⑧

世界へ発信される日本の文化

地域の外からの文化の流入により、文化の違いに対する人々の意識が高まり、地域に固有の文化が見直されている。世界文化遺産のような有形の文化財とともに、フラメンコ(スペイン)や雅楽(日本)など世界各地にある伝統的な芸能、祭礼、習慣、工芸などが無形文化遺産として積極的に保全されるようになった。

日本固有の伝統文化も再評価され、観光資源として活用されたり、文化の独自性が魅力として世界に発信されたりしている。たとえば日本独自の食文化である和食は、健康的で低カロリーなものとして海外へ発信されている。岩手県の伝統工芸品である南部鉄器は、ヨーロッパや中国などで高い人気を誇る世界的なブランドとなった。

▼ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」 2013年。

